

平成 30 年度 市民意識調査結果報告書

平成 30 年 12 月



目 次

1 調査の概要	1
2 調査結果	2
(1) 回答者属性	2
問 1 性別	2
問 2 年齢	2
問 3 居住地区	2
(2) 住みごちや愛着等について	3
問 4 東近江市の住みごちは	3
問 5 東近江市への愛着	5
問 6 東近江市を自慢できるか	7
問 7 「鈴鹿 10 座」の認知度	9
問 8 東近江市を訪れた友人・知人の観光案内先	11
問 9 友人・知人を案内する観光地	13
問 10 近江鉄道八日市駅周辺の訪問頻度	15
問 11 中心市街地（八日市駅周辺）が活性化するために必要なこと	17
(3) 健康や福祉について	19
問 12 かかりつけ医の有無	19
問 13 医療体制への満足度	21
問 14 健康づくりのために取り組んでいること	23
問 15 朝食を食べているか	29
問 16 運動の実施率	31
問 17 心配ごとや悩みの相談相手の有無	33
問 18 東近江市民の障害者に対する理解	35
問 19 障害者に対する理解に向けて今後特に力を入れるべきこと	37
(4) 環境や暮らしについて	39
問 20 市の自然環境保全の取組への満足度	39
問 21 自然環境との関わりの実感度	41
問 22 低炭素・資源循環型の取組の実践	43
問 23 ごみと資源の分別の実施	47
問 24 市内産木材の活用	49
問 25 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方への共感度	53
問 26 消費生活センターの認知度	55
問 27 市民生活相談室の認知度	57
問 28 市内の公共交通への満足度	59
問 29 JR琵琶湖線の利用頻度	61
問 30 近江鉄道について	67

問 31	近江鉄道の利用頻度	69
問 32	近江鉄道を利用する場合の希望	73
問 33	災害への備え	75
(5)	教育関連の取組について	77
問 34	通学路の安全確保について	77
問 35	人権が尊重されるまちになっているか	79
問 36	人権に関する講座等への参加	81
問 37	オレンジリボンの認知度	83
問 38	児童虐待の通報先	85
問 39	音楽・美術等や文学・歴史等の活動への参加	87
問 40	青少年健全育成の取組について	89
(6)	都市整備について	93
問 41	市内の都市基盤整備に対する満足度	93
(7)	購買状況等について	101
問 42	食品や日用雑貨、衣料品等の購入先	101
問 43	お米の主な購入先	106
問 44	野菜等を購入する際の基準	108
問 45	市内産野菜と他産地産野菜の選択	110
問 46	市内の農産物直売所の利用状況	112
問 47	飲料水に使う水	114
(8)	協働のまちづくりについて	116
問 48	協働のまちづくりができていますか	116
問 49	まちづくり協議会の活動の認知度	118
問 50	地域での住民同士の助け合いができていますか	120
問 51	地域活動又はNPOやボランティア等の活動への参加状況	122
問 52	協働のまちづくりを進めるために必要なこと	128
(9)	広報等の情報について	130
問 53	「広報ひがしおうみ」を読んでいるか	130
問 54	「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度	136
問 55	市の情報（お知らせ）の取得方法	144
問 56	「東近江市議会だより」を読んでいるか	146
(10)	市役所のサービスに関して	148
問 57	市役所職員の対応の印象	148
(11)	まちづくりに対する意見等について	150
問 58	まちづくりに対する意見や提案（自由記述）	150
3	総括	153
4	調査票	156

1 調査の概要

(1)調査の目的

東近江市では、平成28年度策定した「第2次東近江市総合計画」に基づき、「うるおいとにぎわいのまち東近江市」を目指してまちづくりを進めています。住みよいまちを実現するために、市民の意識や生活スタイルなど、まちづくりに関する意見を聞くことを目的に、市民意識調査を実施しました。

(2)調査対象

平成30年8月1日現在、東近江市在住の満18歳以上の市民3,052人を対象としました。
(住民基本台帳から無作為抽出)

(3)調査期間

平成30年8月21日から平成30年9月7日まで

(4)調査方法

郵送による配布・回収、無記名

(5)回収状況

調査票の配布数3,052件に対し、宛先不明として返送されてきた調査票が16件あり、到達した配布数は3,036件でした。回収した調査票数1,311件に対し、白紙で無効の調査票数はなく、有効回収調査票数は1,311件、回収率は43.2%でした。

配 布			回 収			到達配布数に対する回収率
配布数	不到達数	到達配布数	回収調査票数	無効調査票数	有効回収調査票数	
3,052	16	3,036	1,311	0	1,311	43.2%

(6)調査結果の表示方法

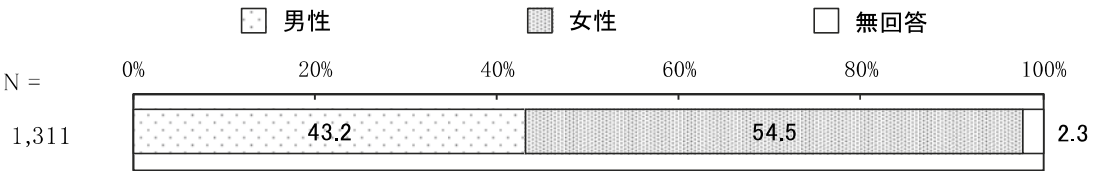
- ・ 回答は、各設問の有効回答数（N）を母数とした百分率（%）で示しています。また、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答の設問については、回答者が全体（N=1,311）に対してどのくらいの比率であるかという表記になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・ 調査結果を図表で表示していますが、グラフ以外の表（複数選択の設問）は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く。）
なお、選択数を限定している設問は、選択数の分だけ次に多くあげられているものも薄く網かけしています。
- ・ 指定の回答数以上の回答や分岐設問等での誤った回答などは、すべて「無回答」として集計しています。
- ・ 性別や年代別、居住地区別の集計の場合、無回答を排除しているため、その有効回答数の合計と全体の有効回答数が合致しないことがあります。

2 調査結果

(1) 回答者属性

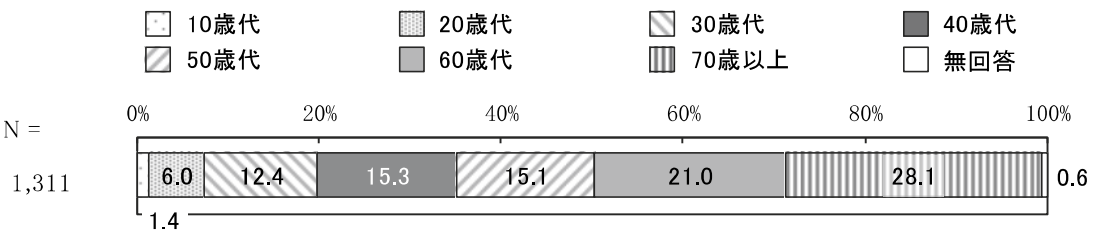
問 1 性別

- 「男性」が 43.2%、「女性」が 54.5%で、男女比は約 4 対 5 となっています。



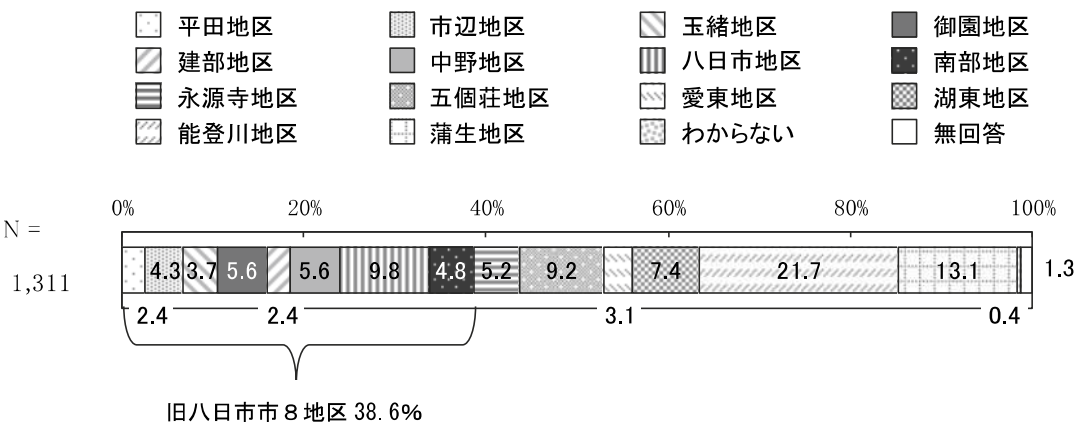
問 2 年齢

- 年齢については、「70 歳以上」が 28.1%と最も多く、次いで「60 歳代」が 21.0%、「40 歳代」が 15.3%、「50 歳代」が 15.1%の順となっています。
- 60 歳以上が 49.1%とほぼ半数を占めています。



問 3 居住地区

- 居住地区については、「能登川地区」が 21.7%と最も多く、次いで「蒲生地区」が 13.1%、「八日市地区」が 9.8%、「五個荘地区」が 9.2%となっています。
- また、旧八日市市の 8 地区を合計すると、38.6%となっています。

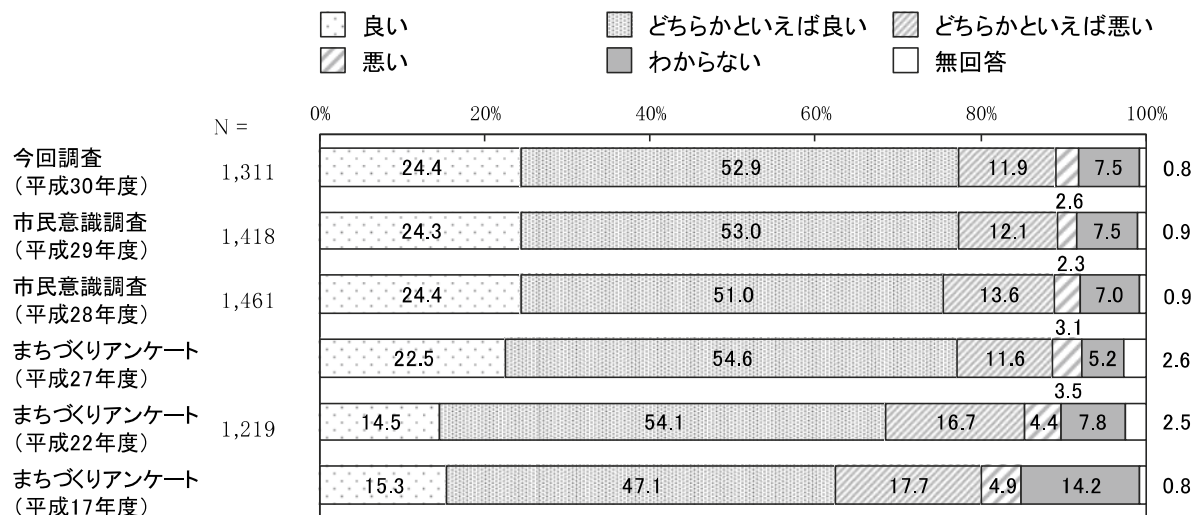


(2) 住みごこちや愛着等について

問 4 あなたは、東近江市の住みごこちをどう思いますか。《○1つ》

8割近くが住みごこちが良い

- ・ 東近江市の住みごこちについては、「良い」が24.4%、「どちらかといえば良い」が52.9%で、これらを合わせると77.3%となり、8割近くの人が住みごこちが良いと感じています。一方、「どちらかといえば悪い」と「悪い」を合わせると14.5%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、住みごこちが良い（「良い」と「どちらかといえば良い」の合計）の割合は増加、住みごこちが悪い（「どちらかといえば悪い」と「悪い」の合計）の割合は減少しており、評価はあがっています。
- ・ 年代別では、住みごこちが良い（前述）の割合が、10歳代で9割、20歳代で8割を超えています。
- ・ 居住地区別では、住みごこちが良い（前述）の割合が、南部地区、御園地区で高く、蒲生地区、平田地区、八日市地区で低くなっています。



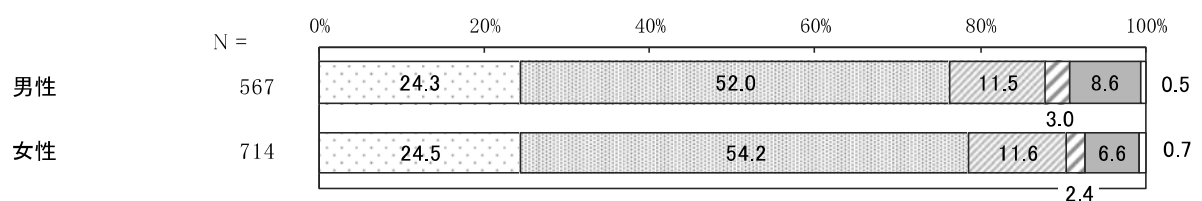
単位：％

	良い	悪い	差
①今回調査(平成30年度)	77.3	14.5	62.8
②市民意識調査(平成29年度)	77.3	14.4	62.9
③市民意識調査(平成28年度)	75.4	16.7	58.7
④まちづくりアンケート(平成27年度)	77.1	15.1	62.0
⑤まちづくりアンケート(平成22年度)	68.6	21.1	47.5
⑥まちづくりアンケート(平成17年度)	62.4	22.6	39.8
①－⑥	14.9	-8.1	23.0

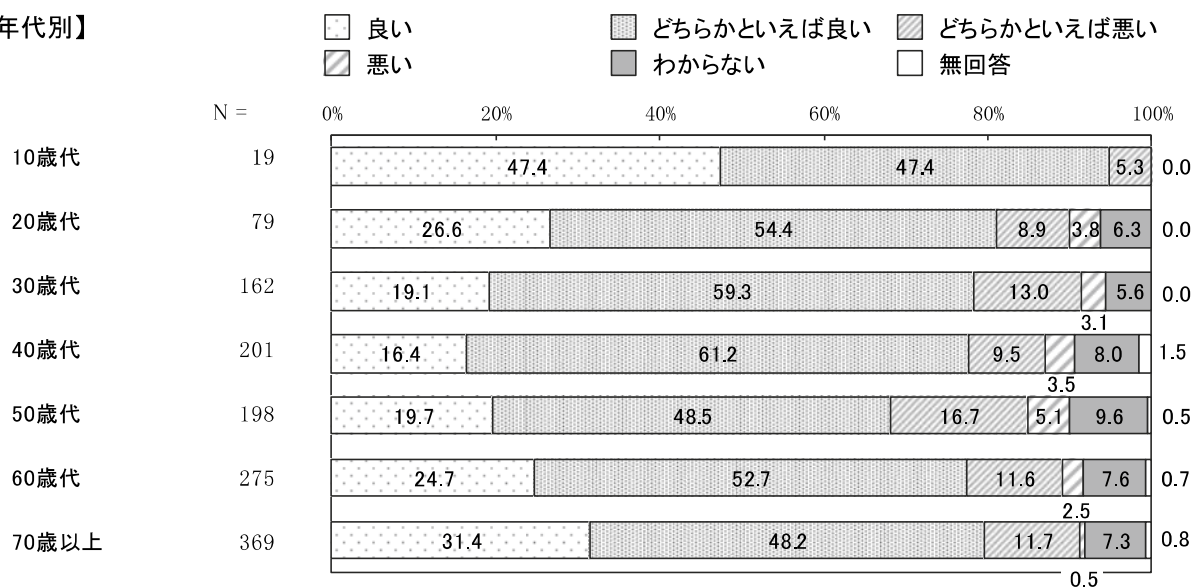
* 良い:「良い」と「どちらかといえば良い」の合計

* 悪い:「どちらかといえば悪い」と「悪い」の合計

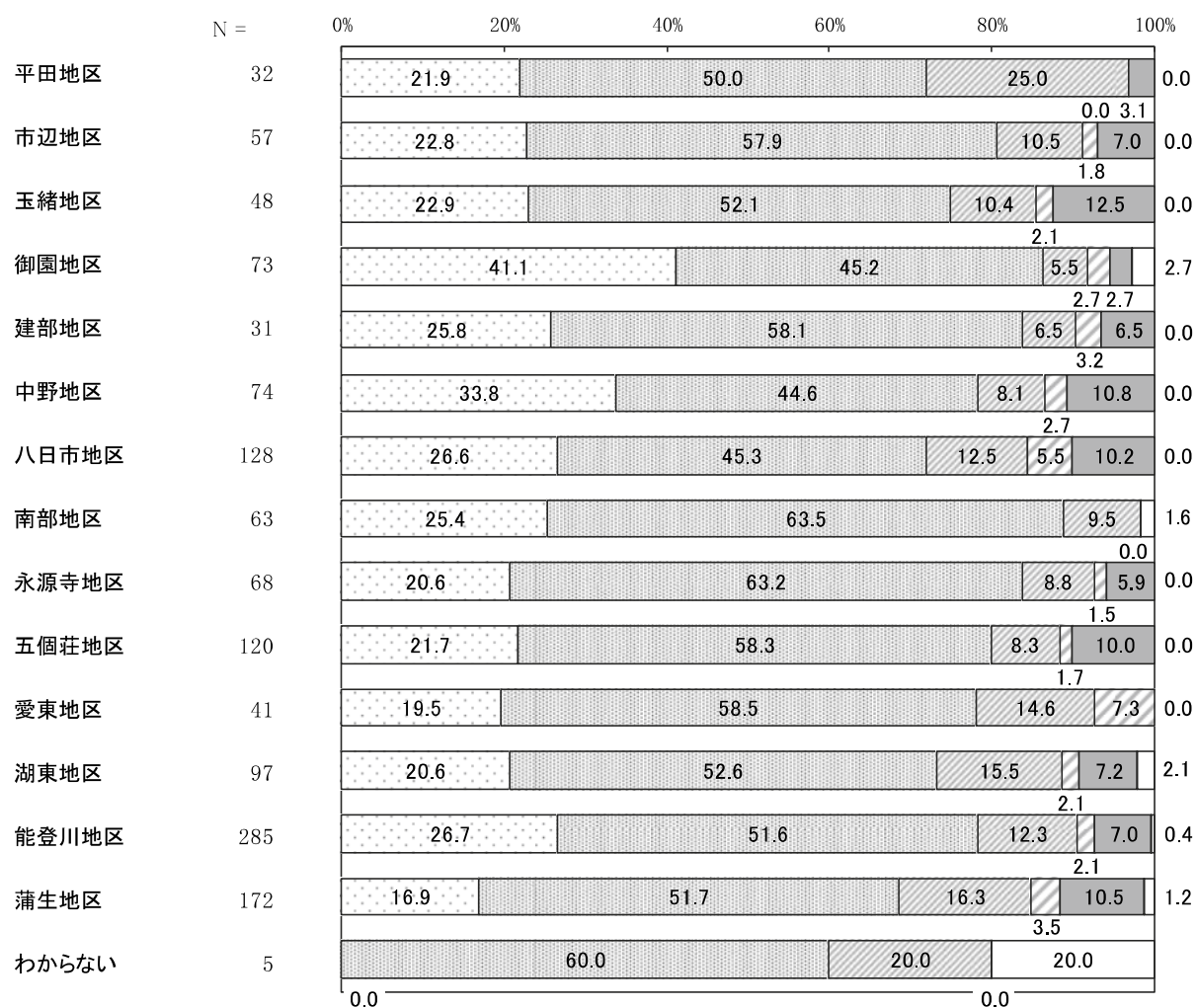
【性別】



【年代別】



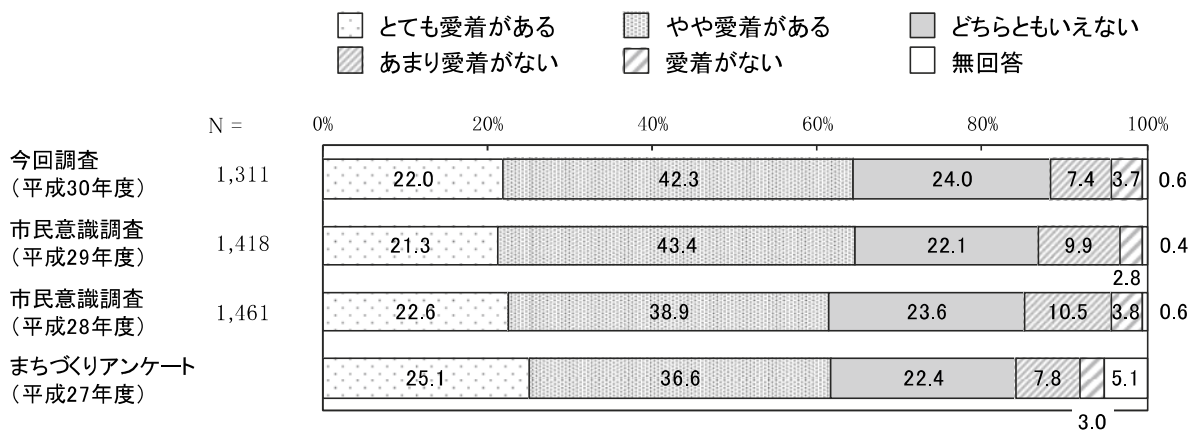
【居住地区別】



問5 あなたは、東近江市に対して愛着がありますか。《○1つ》

6割が東近江市に対して愛着がある

- ・ 東近江市に対する愛着については、「とても愛着がある」が22.0%、「やや愛着がある」が42.3%で、これらを合わせると64.3%となり、6割の人が東近江市に何らかの愛着があると回答しています。一方、「あまり愛着がない」と「愛着がない」を合わせると11.1%となっています。また、「どちらともいえない」とする人も24.0%と2割います。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、愛着がある（「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計）の割合が増加する一方、愛着がない（「あまり愛着がない」と「愛着がない」の合計）は平成28年度以降年々減少しています。
- ・ 年代別では、愛着がある（前述）の割合は、50歳代で50.5%と最も低く、50歳以上は年齢があるほど高くなる傾向がみられます。
- ・ 居住地区別では、愛着がある（前述）の割合が、永源寺地区、建部地区、愛東地区で高く、蒲生地区、八日市地区、市辺地区で低くなっています。



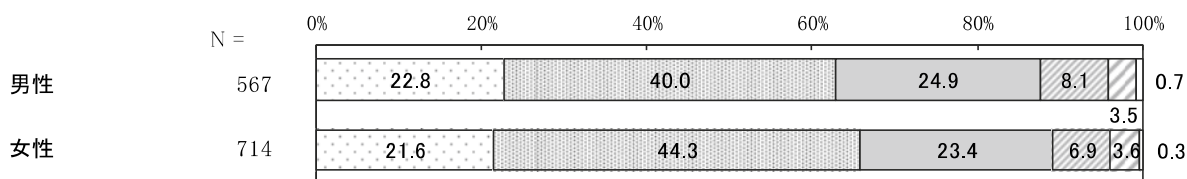
単位：％

	愛着がある	愛着がない	差
①今回調査(平成30年度)	64.3	11.1	53.2
②市民意識調査(平成29年度)	64.7	12.7	52.0
③市民意識調査(平成28年度)	61.5	14.3	47.2
④まちづくりアンケート(平成27年度)	61.7	10.8	50.9
①－④	2.6	0.3	2.3

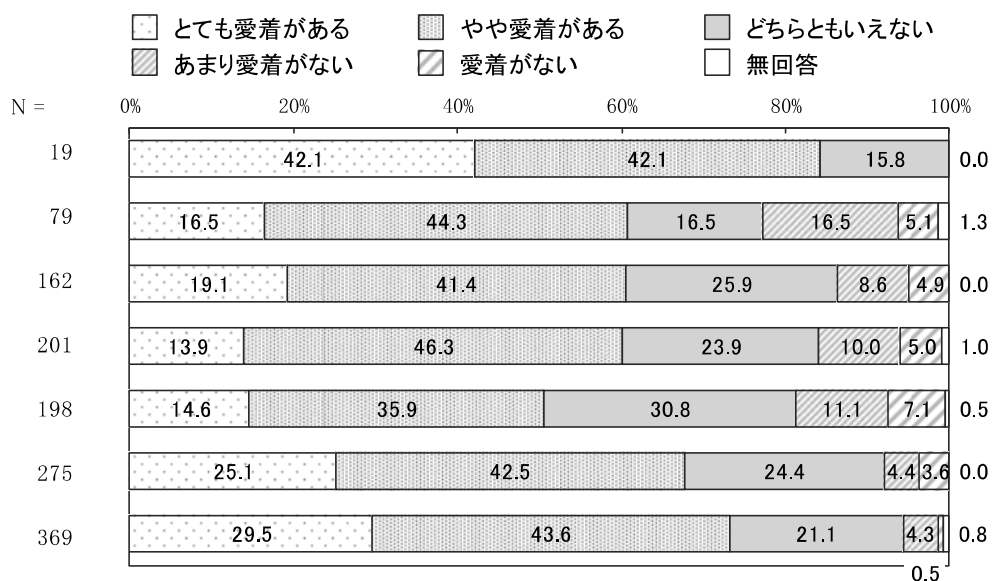
* 愛着がある:「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計

* 愛着がない:「あまり愛着がない」と「愛着がない」の合計

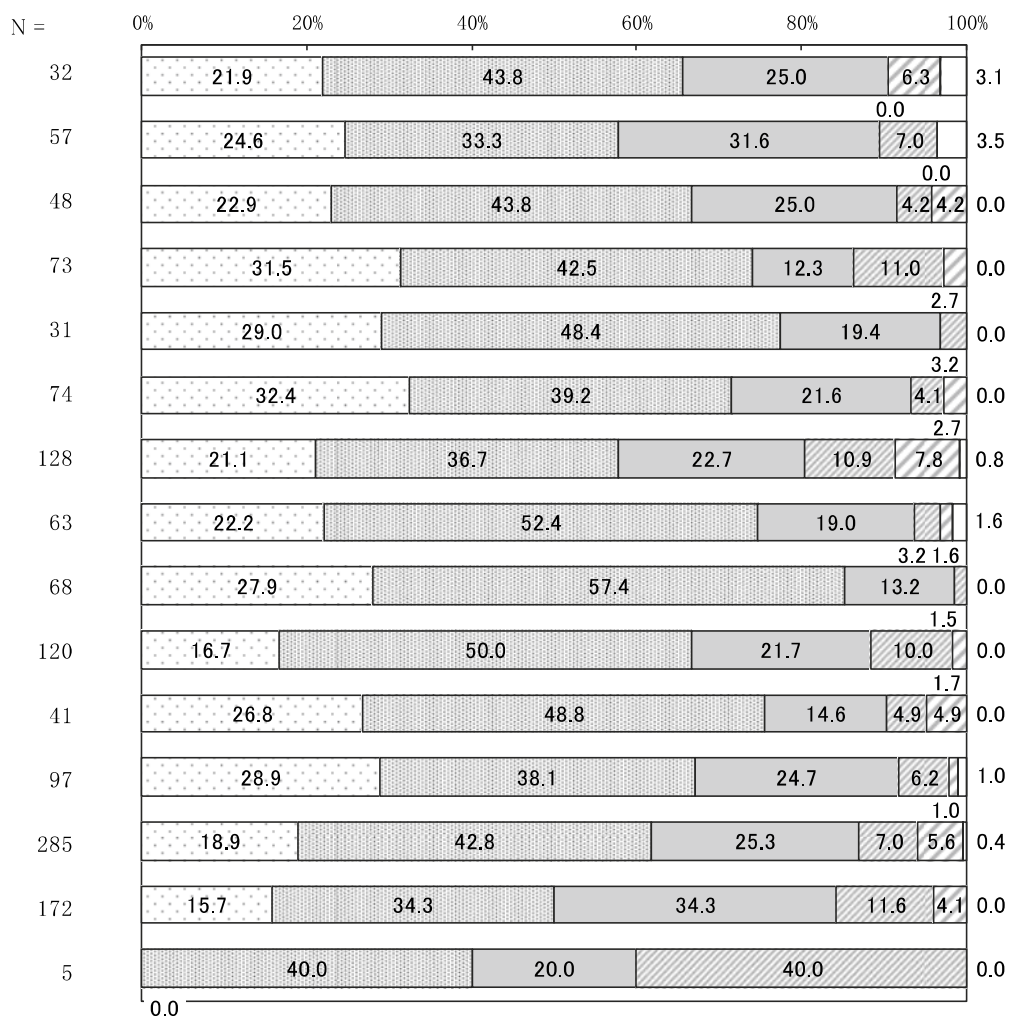
【性別】



【年代別】



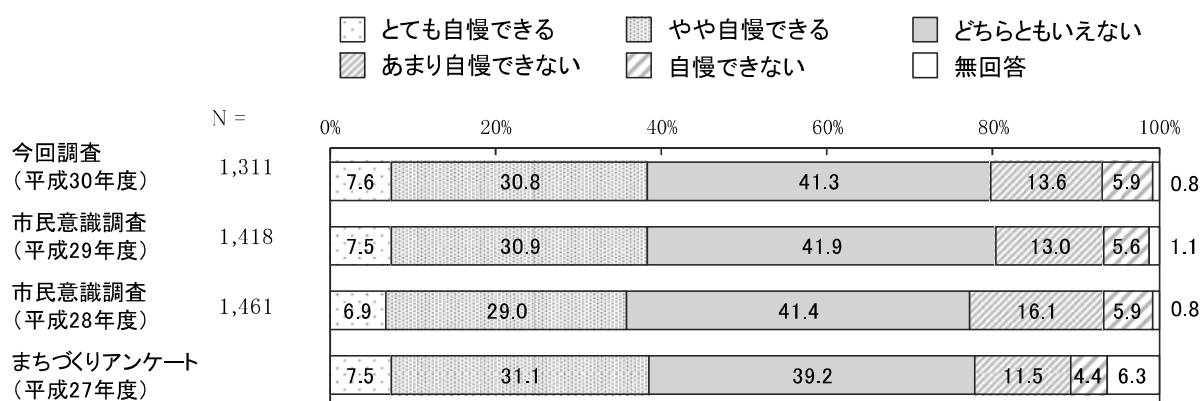
【居住地区別】



問6 あなたは、東近江市を自慢できますか。《○1つ》

4割近くが自慢できる、4割が「どちらともいえない」

- ・ 東近江市を自慢できるかについては、「どちらともいえない」が41.3%と最も多くなっています。また、「とても自慢できる」が7.6%、「やや自慢できる」が30.8%で、これらを合わせると38.4%となり、4割近くの人が何らか自慢できるとしています。一方、「あまり自慢できない」と「自慢できない」を合わせると19.5%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、自慢できる（「とても自慢できる」と「やや自慢できる」の合計）の割合は平成28年度の調査を除いてほぼ同じですが、自慢できない（「あまり自慢できない」と「自慢できない」の合計）の割合は変動があるものの平成28年度以降減少しています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では40歳以上で年齢があがるほど、自慢できる（前述）の割合が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、自慢できる（前述）の割合が、永源寺地区、中野地区、愛東地区で高く、蒲生地区で低くなっています。

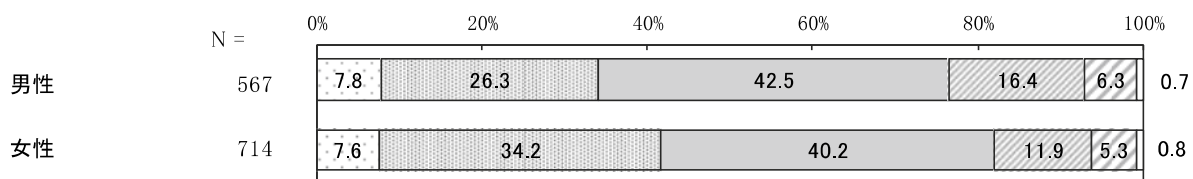


	自慢できる	自慢できない	差
①今回調査(平成30年度)	38.4	19.5	18.9
②市民意識調査(平成29年度)	38.4	18.6	19.8
③市民意識調査(平成28年度)	35.9	22.0	13.9
④まちづくりアンケート(平成27年度)	38.6	15.9	22.7
①－④	-0.2	3.6	-3.8

* 自慢できる:「とても自慢できる」と「やや自慢できる」の合計

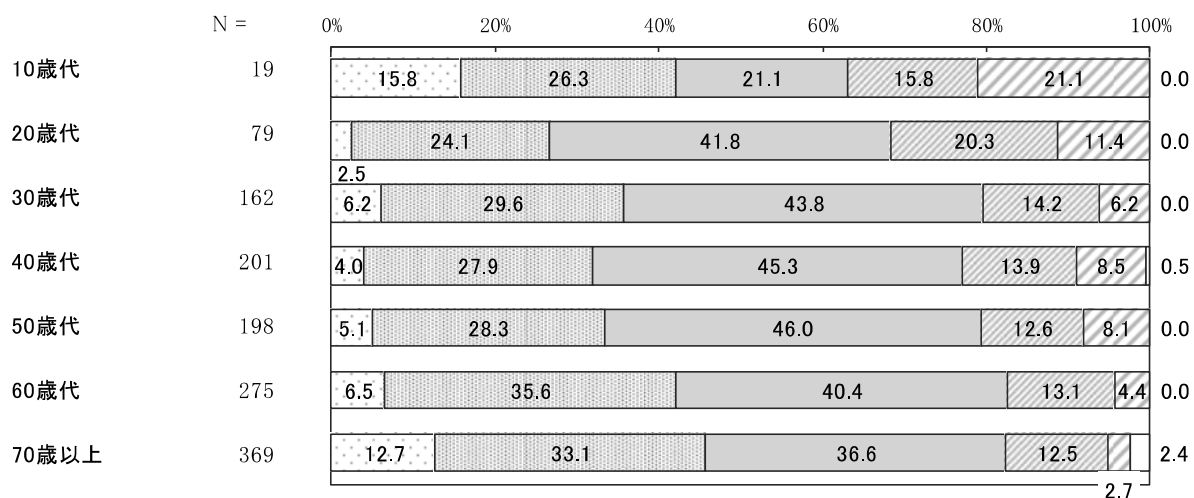
* 自慢できない:「あまり自慢できない」と「自慢できない」の合計

【性別】

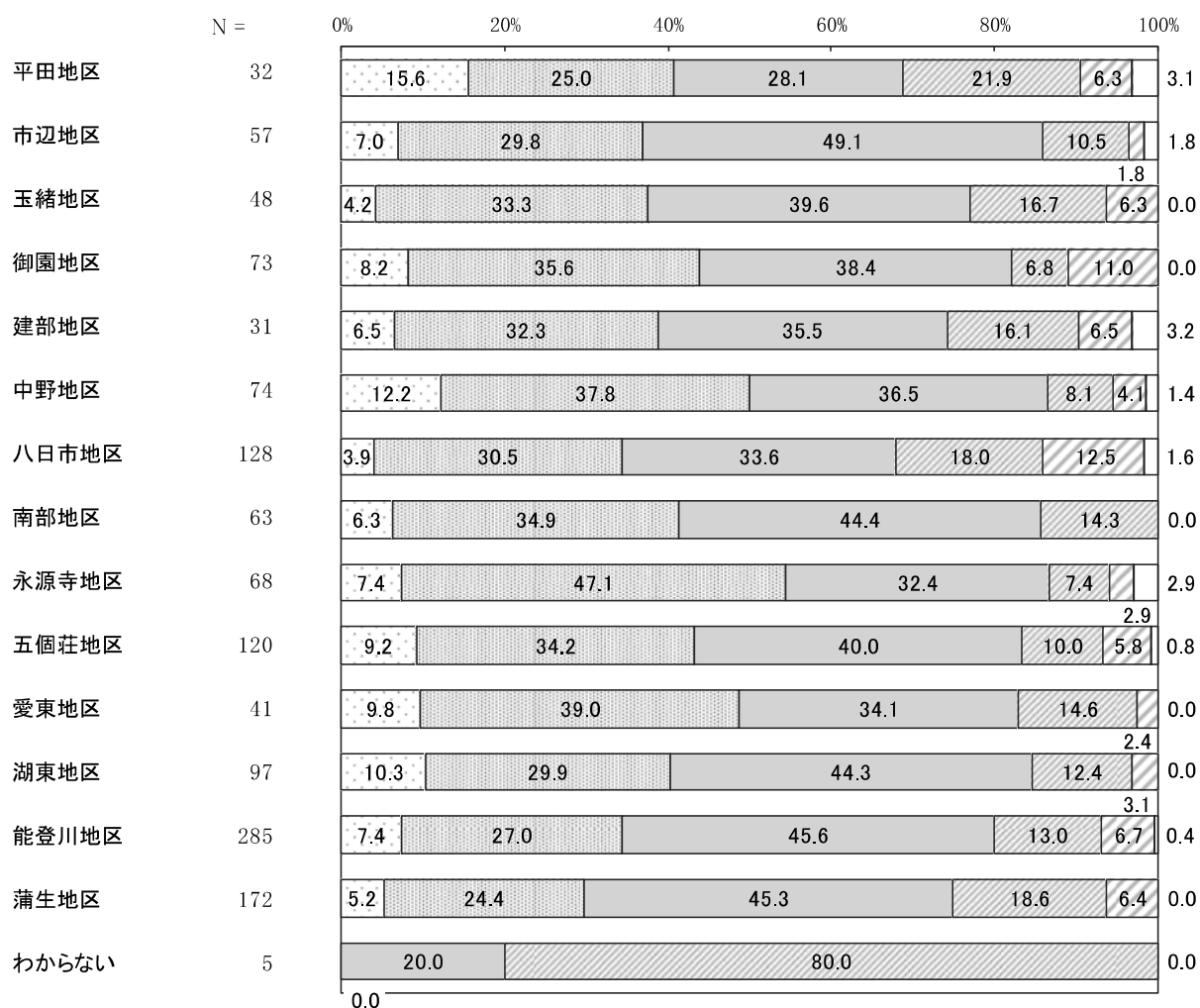


【年代別】

とても自慢できる
 やや自慢できる
 どちらともいえない
 あまり自慢できない
 自慢できない
 無回答



【居住地区別】

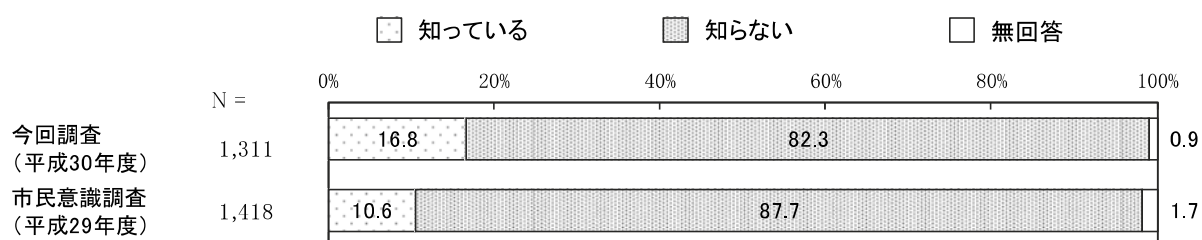


問7 東近江市では、平成27年度に鈴鹿の山峰から「鈴鹿10座」を認定し、鈴鹿山脈の素晴らしさと存在意義を広く周知するとともに、東近江市の知名度アップにもつなげていきたいと考えています。

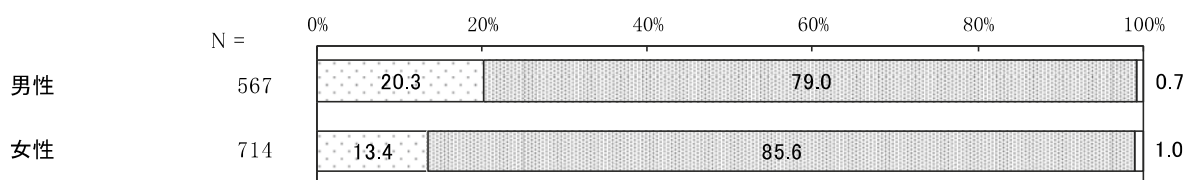
あなたは、「鈴鹿10座」を知っていますか。《○1つ》

8割が「知らない」が、認知度は向上

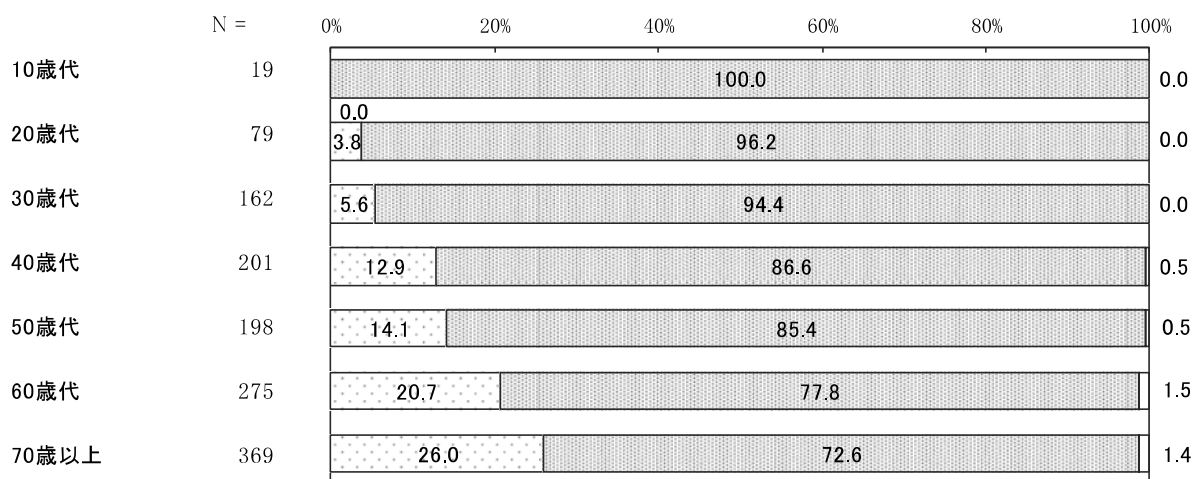
- ・ 「鈴鹿10座」については、「知らない」が82.3%と8割を占めています。一方、「知っている」は16.8%で、認知度は2割近くとなっています。
- ・ 平成29年度の調査と比較すると、認知度が1割から2割近くへと向上しています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では年齢があがるほど、居住地区別では永源寺地区、愛東地区、建部地区、南部地区で、「鈴鹿10座」の認知度が高くなっています。



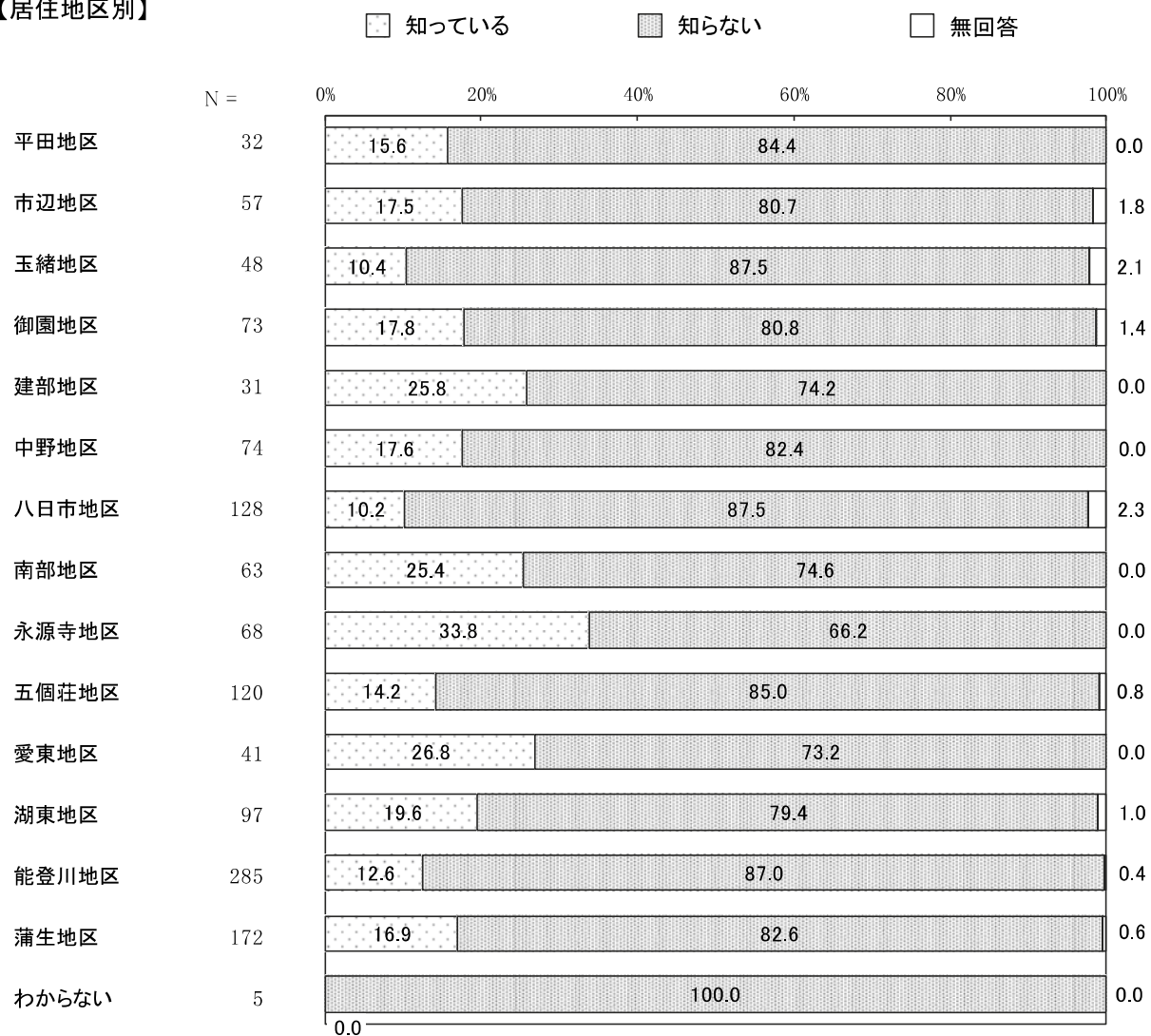
【性別】



【年代別】



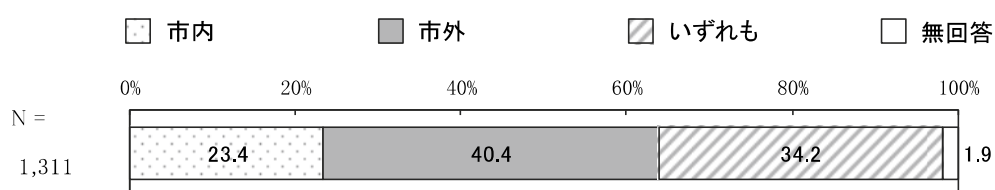
【居住地区別】



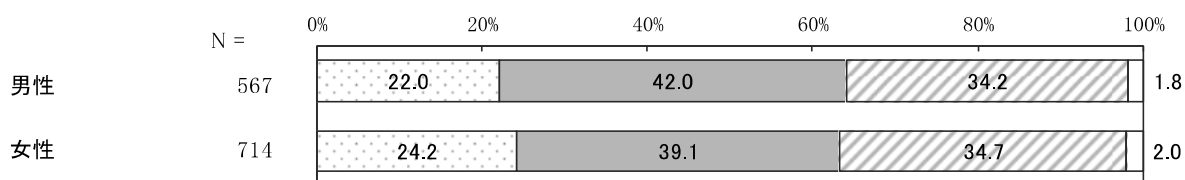
問 8 あなたは、東近江市に訪れた友人・知人を観光案内する場合に、どちらを案内しますか。
《○1つ》

4割が市外を案内、「いずれも」が3割

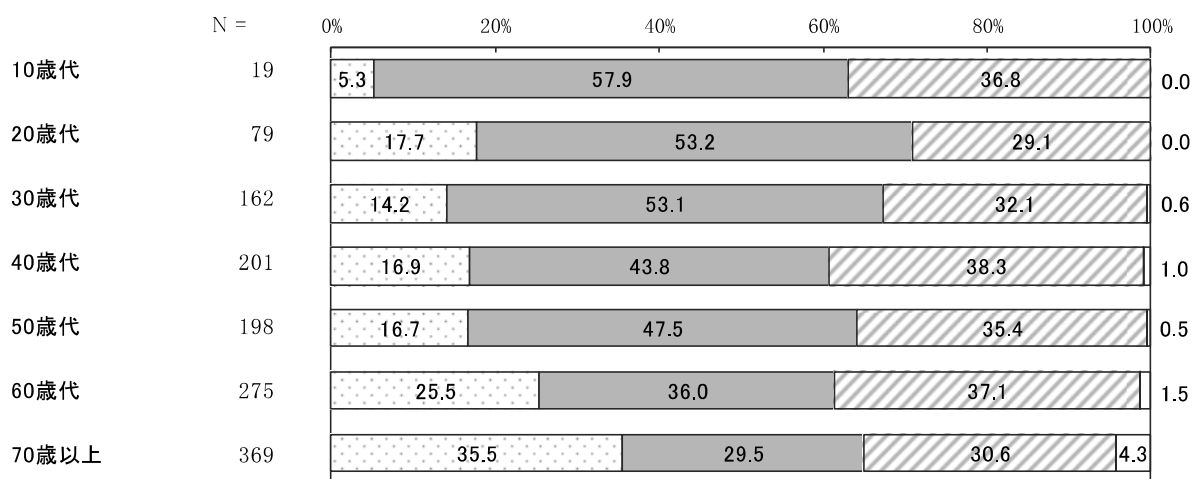
- ・ 東近江市を訪れた友人・知人の観光案内先としては、「市外」が40.4%と最も多く、次いで「いずれも」が34.2%と続き、「市内」は23.4%となっています。
- ・ 年代別では、70歳以上は「市内」が、50歳代までは「市外」が、60歳代は「いずれも」が最も多くなっています。また、40歳代までは年齢が若いほど「市外」の割合が、50歳以上は年齢があがるほど「市内」の割合が高くなる傾向を示しています。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区、愛東地区は「市内」が、能登川地区、蒲生地区、八日市地区、平田地区、市辺地区は「市外」が、玉緒地区、中野地区、御園地区、五個荘地区、湖東地区は「いずれも」が、南部地区、建部地区は「市外」と「いずれも」の両方が最も多くなっています。特に、能登川地区、蒲生地区で「市外」の割合が高くなっています。



【性 別】



【年代別】



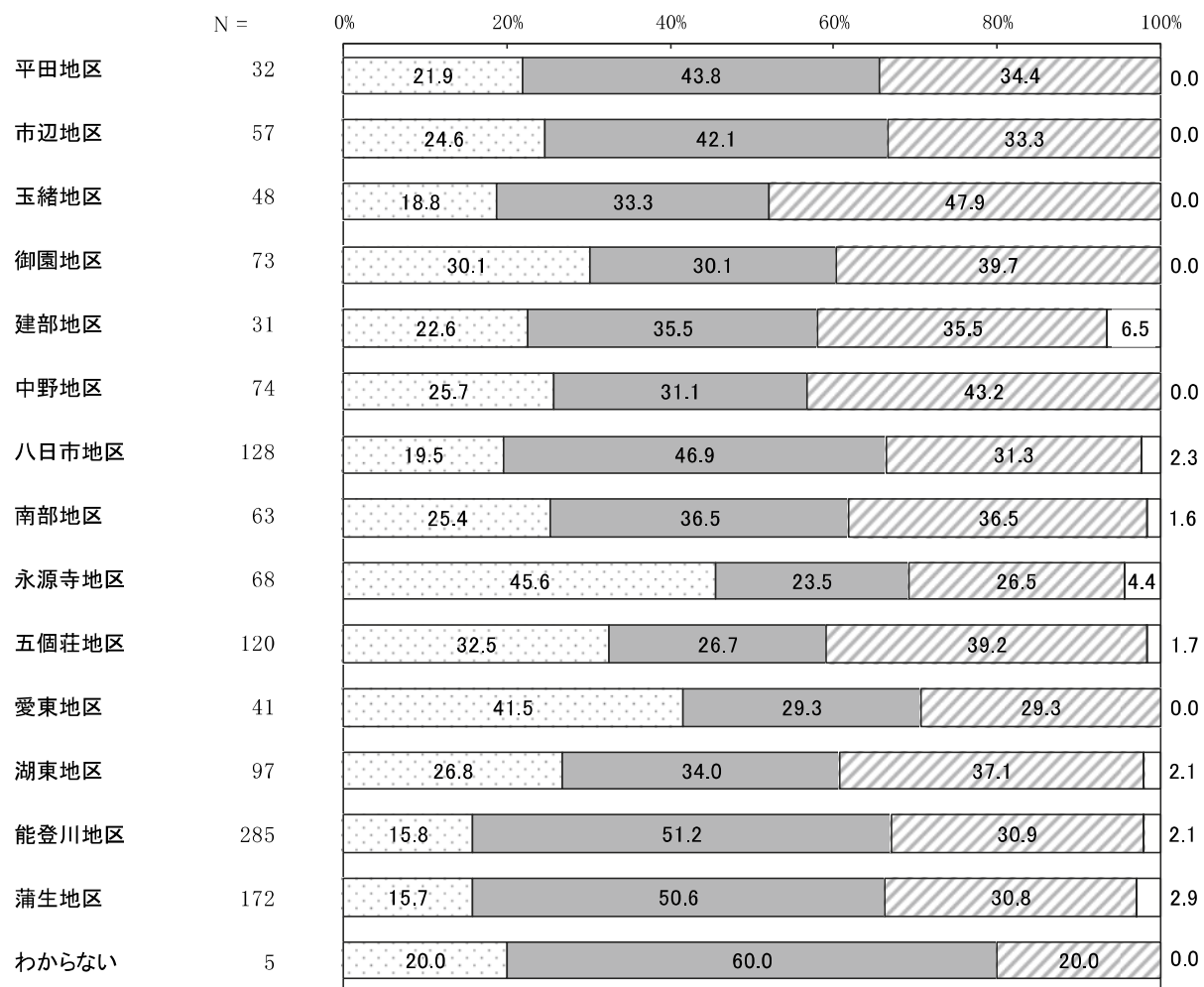
【居住地区別】

■ 市内

■ 市外

■ いずれも

□ 無回答

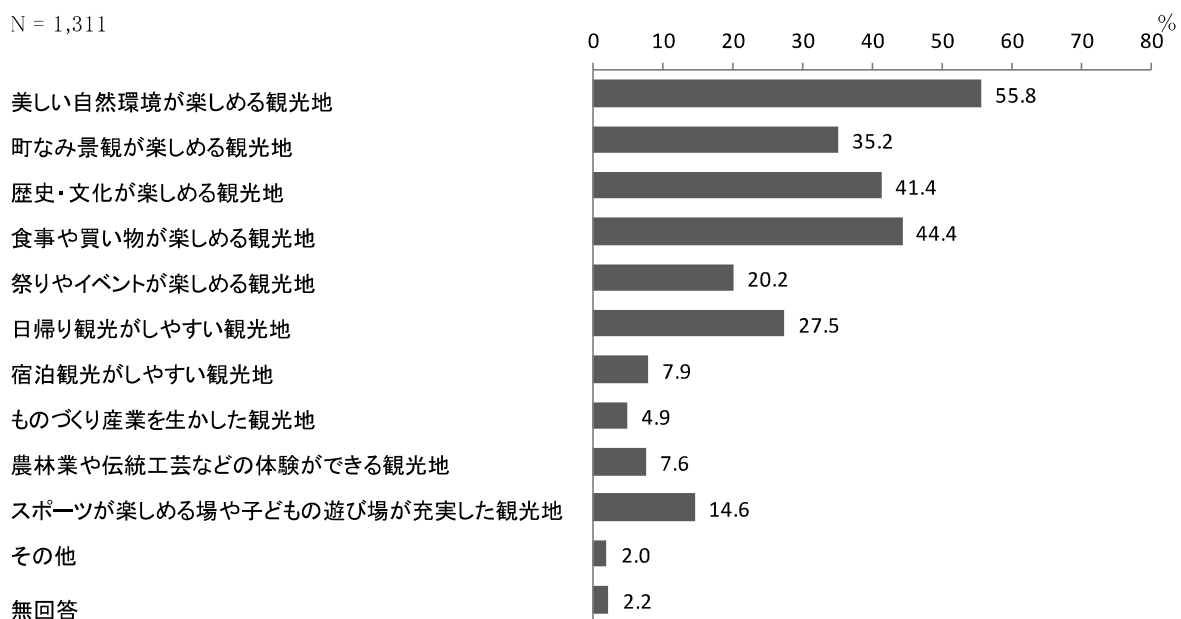


問9 あなたは、友人・知人を観光案内する場合に、どのような観光地を案内しますか。《あてはまるものすべてに○》

6割近くが「美しい自然環境が楽しめる観光地」

- ・ 友人・知人を案内する観光地としては、「美しい自然環境が楽しめる観光地」が55.8%と最も多くあげられています。次いで、「食事や買い物が楽しめる観光地」が44.4%、「歴史・文化が楽しめる観光地」が41.4%、「町なみ景観が楽しめる観光地」が35.2%と続きます。
- ・ 性別では、「美しい自然環境が楽しめる観光地」が最も多いのは共通していますが、特に男性は女性より「歴史・文化が楽しめる観光地」が、女性は男性より「食事や買い物が楽しめる観光地」や「日帰り観光がしやすい観光地」が多くあげられています。
- ・ 年代別では、40歳代までは「食事や買い物が楽しめる観光地」が、50歳以上は「美しい自然環境が楽しめる観光地」が最も多くあげられています。そのほか50歳以上で「歴史・文化が楽しめる観光地」、20～30歳代で「祭りやイベントが楽しめる観光地」、30歳代で「スポーツが楽しめる場や子どもの遊び場が充実した観光地」がほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、玉緒地区、八日市地区で「食事や買い物が楽しめる観光地」が、五個荘地区では「歴史・文化が楽しめる観光地」が、ほかの地区では「美しい自然環境が楽しめる観光地」が最も多くあげられています。

N = 1,311



【性 別】

単位: %

区 分	有効回答数（件）	美しい自然環境が楽しめる観光地	町なみ景観が楽しめる観光地	歴史・文化が楽しめる観光地	食事や買い物を楽しめる観光地	祭りやイベントが楽しめる観光地	日帰り観光がしやすい観光地	宿泊観光がしやすい観光地	ものづくり産業を生かした観光地	農林業や伝統工芸などの体験ができる観光地	子どもが遊び場が充実した観光地	スポーツが楽しめる場所	その他	無回答
男性	567	52.9	32.1	46.0	39.2	18.9	24.0	8.3	4.8	7.9	13.4	2.1	1.8	
女性	714	58.4	37.4	38.2	49.2	21.1	30.1	7.6	5.0	7.1	16.0	1.8	2.5	

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数（件）	美しい自然環境が楽しめる観光地	町なみ景観が楽しめる観光地	歴史・文化が楽しめる観光地	食事や買い物を楽しめる観光地	祭りやイベントが楽しめる観光地	日帰り観光がしやすい観光地	宿泊観光がしやすい観光地	ものづくり産業を生かした観光地	農林業や伝統工芸などの体験ができる観光地	子どもが遊び場が充実した観光地	スポーツが楽しめる場所	その他	無回答
10歳代	19	21.1	21.1	15.8	84.2	26.3	5.3	10.5	0.0	10.5	5.3	0.0	0.0	0.0
20歳代	79	48.1	26.6	21.5	57.0	32.9	20.3	5.1	0.0	2.5	16.5	1.3	1.3	1.3
30歳代	162	46.3	30.9	28.4	63.0	30.2	32.7	8.0	1.2	6.2	31.5	1.2	0.6	0.6
40歳代	201	48.3	35.8	34.8	63.7	18.9	25.9	7.0	3.5	7.5	18.9	3.0	2.0	2.0
50歳代	198	56.1	41.9	42.4	51.5	20.7	31.3	9.6	4.5	5.1	12.6	1.5	1.0	1.0
60歳代	275	65.5	37.8	49.8	34.2	19.3	23.6	6.9	6.2	6.9	9.1	1.8	2.2	2.2
70歳以上	369	60.2	33.9	49.6	24.4	13.3	29.8	8.4	7.9	10.8	10.0	2.4	3.8	3.8

【居住地区別】

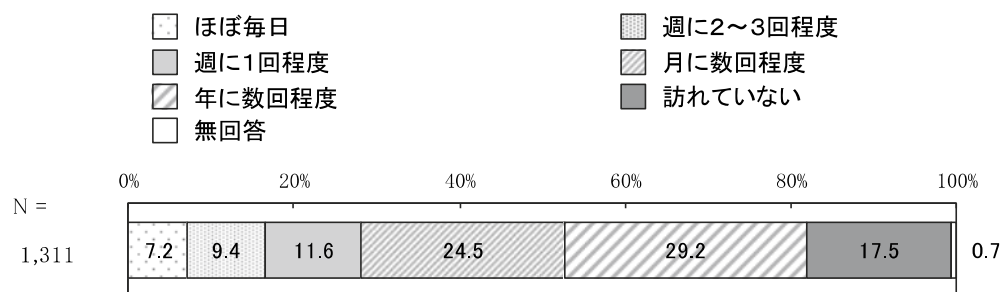
単位: %

区 分	有効回答数（件）	美しい自然環境が楽しめる観光地	町なみ景観が楽しめる観光地	歴史・文化が楽しめる観光地	食事や買い物を楽しめる観光地	祭りやイベントが楽しめる観光地	日帰り観光がしやすい観光地	宿泊観光がしやすい観光地	ものづくり産業を生かした観光地	農林業や伝統工芸などの体験ができる観光地	子どもが遊び場が充実した観光地	その他	無回答
平田地区	32	59.4	40.6	50.0	46.9	25.0	31.3	6.3	6.3	15.6	15.6	3.1	3.1
市辺地区	57	64.9	31.6	45.6	45.6	14.0	28.1	7.0	3.5	7.0	15.8	0.0	1.8
玉緒地区	48	43.8	33.3	41.7	56.3	22.9	35.4	6.3	0.0	6.3	12.5	0.0	0.0
御園地区	73	63.0	38.4	41.1	35.6	23.3	27.4	6.8	4.1	11.0	11.0	4.1	1.4
建部地区	31	74.2	9.7	35.5	41.9	22.6	16.1	12.9	6.5	3.2	9.7	0.0	3.2
中野地区	74	63.5	44.6	48.6	39.2	16.2	29.7	6.8	10.8	8.1	18.9	2.7	1.4
八日市地区	128	40.6	32.0	35.9	46.1	20.3	21.9	10.9	0.8	3.1	9.4	3.9	3.9
南部地区	63	57.1	34.9	42.9	47.6	17.5	34.9	7.9	6.3	6.3	25.4	1.6	3.2
永源寺地区	68	69.1	23.5	32.4	35.3	11.8	19.1	5.9	8.8	10.3	11.8	1.5	4.4
五個荘地区	120	46.7	52.5	55.0	35.0	20.8	25.0	5.8	3.3	8.3	13.3	0.8	2.5
愛東地区	41	63.4	34.1	41.5	43.9	24.4	29.3	2.4	4.9	4.9	7.3	2.4	0.0
湖東地区	97	57.7	24.7	34.0	45.4	28.9	23.7	7.2	7.2	6.2	19.6	2.1	2.1
能登川地区	285	57.2	38.6	40.4	45.3	21.4	30.5	9.8	5.6	8.1	16.5	2.5	1.8
蒲生地区	172	52.9	31.4	37.8	51.2	17.4	29.1	7.6	3.5	8.1	14.0	0.0	1.7
わからない	5	40.0	20.0	40.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0

問 10 あなたは、この 1 年間で近江鉄道八日市駅周辺（市役所周辺を含む。）にどの程度訪れましたか。《○ 1 つ》

週 1 回以上訪れる人が 3 割近く、月に数回または年に数回訪れる人は半数

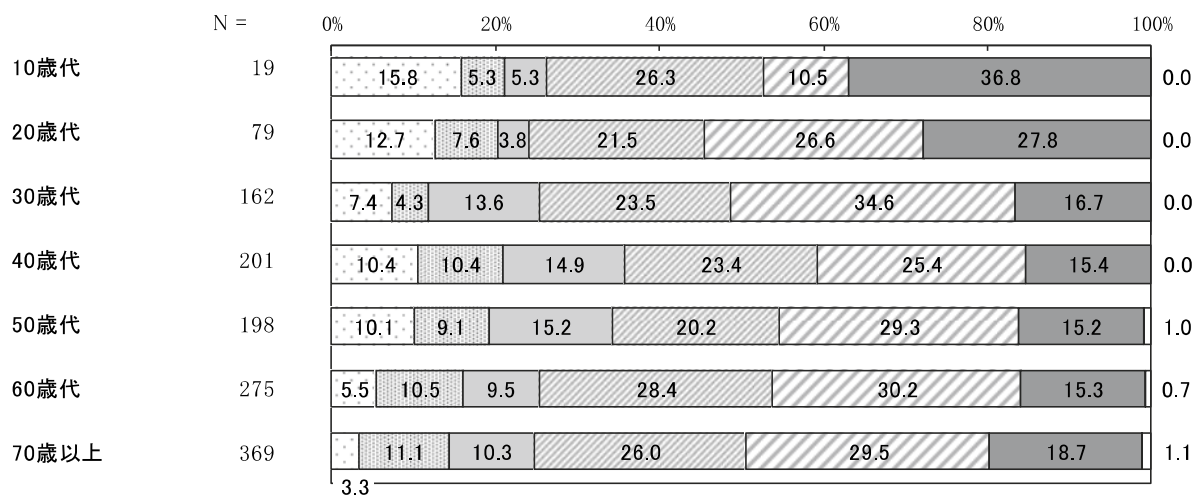
- ・ この 1 年間で近江鉄道八日市駅周辺に訪れた頻度は、週に 1 回以上訪れる人が 28.2% と 3 割近くとなっています。また、「月に数回程度」と「年に数回程度」を合わせると 53.7% となり、半数を超えています。
- ・ 性別では、女性は男性より「訪れていない」の割合がやや高いものの、全体的に来訪頻度が高くなっています。
- ・ 年代別では、40～50 歳代が最も来訪頻度が高くなっています。10～20 歳代は、「訪れていない」人が多い一方で、「ほぼ毎日」訪れている人の割合もほかの年代と比べ高くなっています。
- ・ 居住地区別では、週 1 回以上訪れる人が、建部地区、八日市地区、中野地区の順で多く、能登川地区、平田地区、蒲生地区の順で少なくなっています。



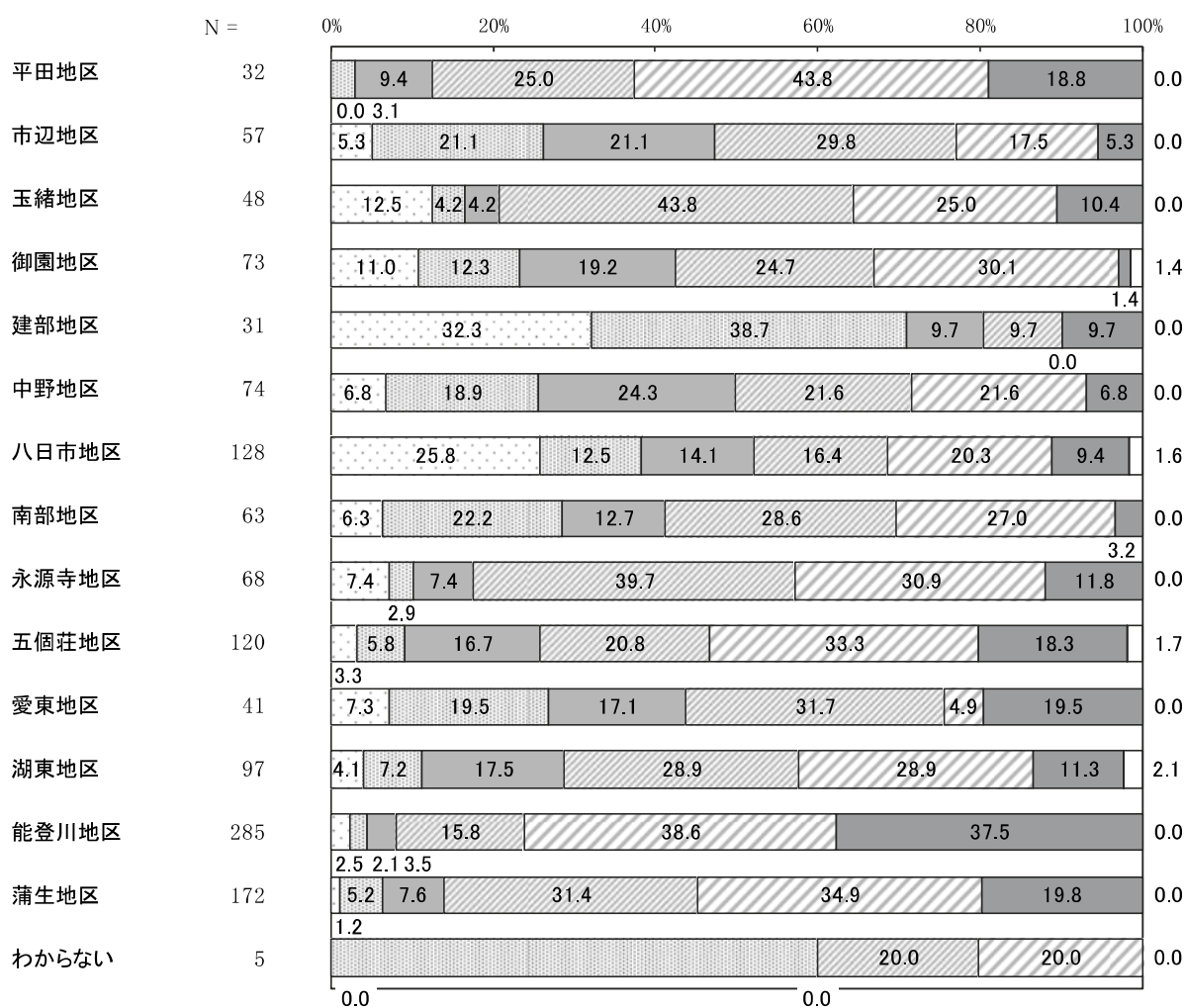
【性 別】



【年代別】



【居住地区別】

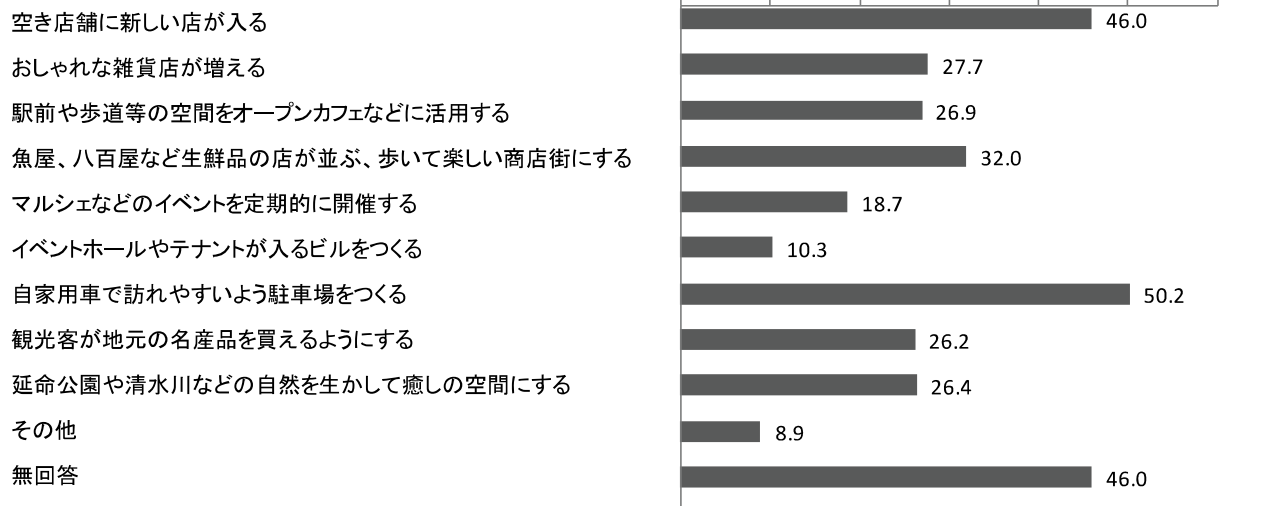


問 11 あなたは、八日市駅周辺の中心市街地が活性化するには、どのようなお店や施設、イベントなどの開催が必要だと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

駐車場の整備、空き店舗の解消が上位

- ・ 八日市駅周辺の中心市街地が活性化するために必要なことは、「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が50.2%と最も多く、次いで「空き店舗に新しい店が入る」が46.0%、「魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする」が32.0%と続きます。
- ・ 性別では、男女ともに最も多いのは駐車場の整備ですが、女性は男性より「おしゃれな雑貨店が増える」や「マルシェなどのイベントを定期的開催する」などが多くあげられています。
- ・ 年代別では、10歳代は「おしゃれな雑貨店が増える」が、20歳代と50歳代は「空き店舗に新しい店が入る」が、ほかの年代は「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が最も多くなっています。
- ・ 居住地区別では、中野地区、愛東地区、建部地区、八日市地区、御園地区、湖東地区は「空き店舗に新しい店が入る」が、ほかの地区は「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が最も多くなっています。

N = 1,311



【性 別】

単位: %

単位：%

区 分	有効回答数（件）	空き店舗に新しい店が入る	おしゃれな雑貨店が増える	駅前や歩道等の空間をオーブンカフェなどに活用する	楽しい商店街にする品屋、八百屋など生鮮の店が並ぶ、歩いて	魚屋、八百屋などのイベントを定期的に開催する	マルシェなどのイベントが入るビルをつくる	自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる	観光客が地元の名産品を買えるようにする	の自然を生かして癒しの空間にする	延命公園や清水川などの	その他	無回答
男性	567	42.9	19.9	26.1	30.7	13.9	12.2	47.1	29.5	23.5	10.1	3.0	
女性	714	49.0	34.6	28.0	32.8	22.8	8.8	53.2	23.8	29.4	7.7	2.7	

【年代別】

単位: %

単位：%

無回答	その他	延命公園や清水川などの自然を生かして癒しの空間にする	観光客が地元の名産品を買えるようにする	自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる	イベントホールやテナントが入るビルをつくる	マルシェなどのイベントを定期的に開催する	魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする	駅前や歩道等の空間を有効にする	おしゃれな雑貨店が増える	空き店舗に新しい店が入る	有効回答数（件）	区分
0.0	5.3	21.1	0.0	21.1	15.8	5.3	5.3	47.4	52.6	15.8	19	10歳代
0.0	11.4	19.0	16.5	34.2	17.7	25.3	20.3	39.2	34.2	44.3	79	20歳代
1.2	11.1	24.7	18.5	51.9	13.0	38.3	27.2	27.8	41.4	48.1	162	30歳代
1.0	10.9	24.4	19.9	53.2	10.9	26.9	23.9	37.8	32.3	48.8	201	40歳代
2.0	9.6	26.3	28.3	48.5	8.1	22.2	27.8	27.3	30.8	55.1	198	50歳代
3.6	9.5	29.8	26.2	53.5	8.7	16.7	34.9	25.8	26.9	48.0	275	60歳代
5.7	5.7	27.6	35.2	50.4	9.2	4.6	42.0	17.9	15.4	39.0	369	70歳以上

【居住地区別】

単位: %

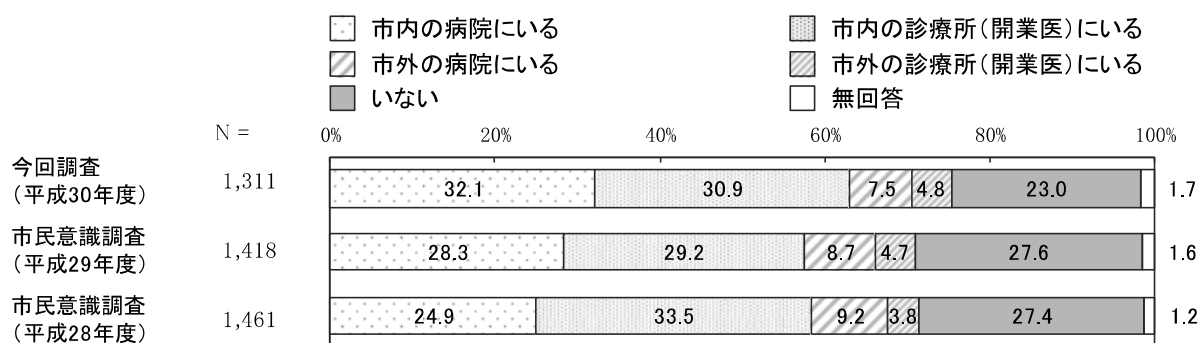
区 分	有効回答数（件）	入る 空き店舗に新しい店が	おし ゃれな雑貨店が増	活用する 駅前や歩道等の空間を	楽しい商店街にする	品屋、八百屋など生鮮	魚屋、八百屋など生鮮	マルシェなどのイベントを定期的に開催する	イベントが入るホールやテナ	よう駐車場をつくる	観光客が地元の名産品	の自然を生きかして癒し	延命公園や清水川など	その他	無回答
平田地区	32	50.0	34.4	15.6	50.0	25.0	18.8	62.5	50.0	34.4	6.3	0.0			
市辺地区	57	50.9	33.3	28.1	33.3	19.3	10.5	57.9	21.1	24.6	7.0	3.5			
玉緒地区	48	35.4	18.8	35.4	27.1	20.8	10.4	56.3	37.5	22.9	10.4	2.1			
御園地区	73	53.4	26.0	28.8	41.1	19.2	15.1	46.6	37.0	27.4	5.5	2.7			
建部地区	31	58.1	22.6	19.4	25.8	22.6	19.4	41.9	35.5	32.3	6.5	0.0			
中野地区	74	64.9	29.7	35.1	40.5	14.9	10.8	50.0	29.7	44.6	9.5	0.0			
八日市地区	128	53.9	32.0	34.4	32.8	21.1	10.2	37.5	19.5	32.0	9.4	0.0			
南部地区	63	44.4	25.4	23.8	41.3	19.0	11.1	49.2	27.0	46.0	4.8	0.0			
永源寺地区	68	41.2	27.9	26.5	25.0	17.6	5.9	60.3	20.6	22.1	4.4	2.9			
五個荘地区	120	40.0	28.3	25.0	36.7	20.8	12.5	57.5	19.2	26.7	8.3	2.5			
愛東地区	41	58.5	41.5	26.8	19.5	14.6	2.4	53.7	26.8	22.0	12.2	0.0			
湖東地区	97	45.4	27.8	25.8	32.0	14.4	7.2	44.3	29.9	19.6	8.2	3.1			
能登川地区	285	39.6	27.4	23.9	27.0	19.6	9.1	43.9	21.1	22.1	13.0	6.0			
蒲生地区	172	41.9	23.3	26.2	31.4	16.3	11.0	58.1	30.2	19.2	4.7	5.2			
わからない	5	20.0	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	60.0	20.0	0.0	60.0	0.0			

(3) 健康や福祉について

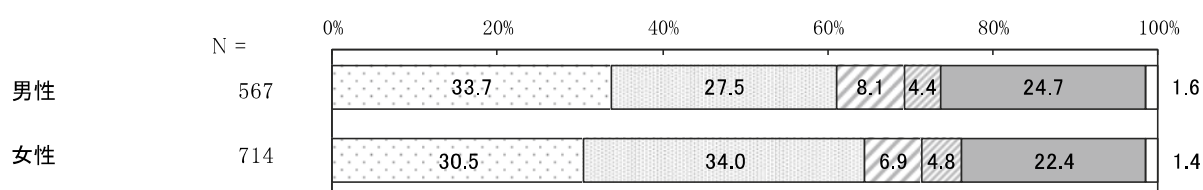
問 12 あなたには、日常的な診療や健康の管理をしてくれるお医者さん（かかりつけ医）はいいますか。《○1つ》

6割が市内の病院や診療所にかかりつけ医がいる

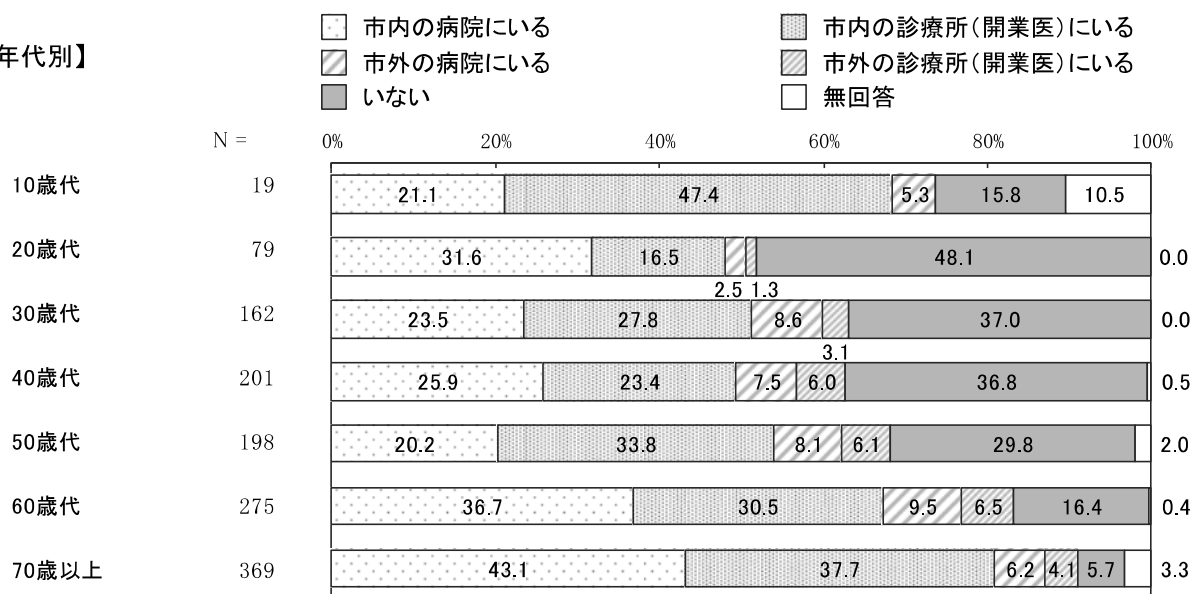
- ・ かかりつけ医がいるかどうかについては、「市内の病院にいる」が32.1%と最も多く、次の「市内の診療所（開業医）にいる」の30.9%と合わせると、63.0%が市内にいると回答しています。一方、「いない」と回答した人も23.0%と2割います。
- ・ 過去の調査と比較すると、「市内の病院にいる」の割合は年々増加しており、かかりつけ医がない人の割合は変動があるものの減少しています。
- ・ 年代別では、20歳以上で年齢があがるほどかかりつけ医がいる人が多くなる傾向がみられますが、20歳代は半数近く、30～40歳代は4割近くがかかりつけ医が「いない」と回答しています。
- ・ 居住地区別では、五個荘地区でかかりつけ医がいない人が多くみられ、平田地区、蒲生地区でかかりつけ医が市外にいる人が2割とほかの地区より多くなっています。



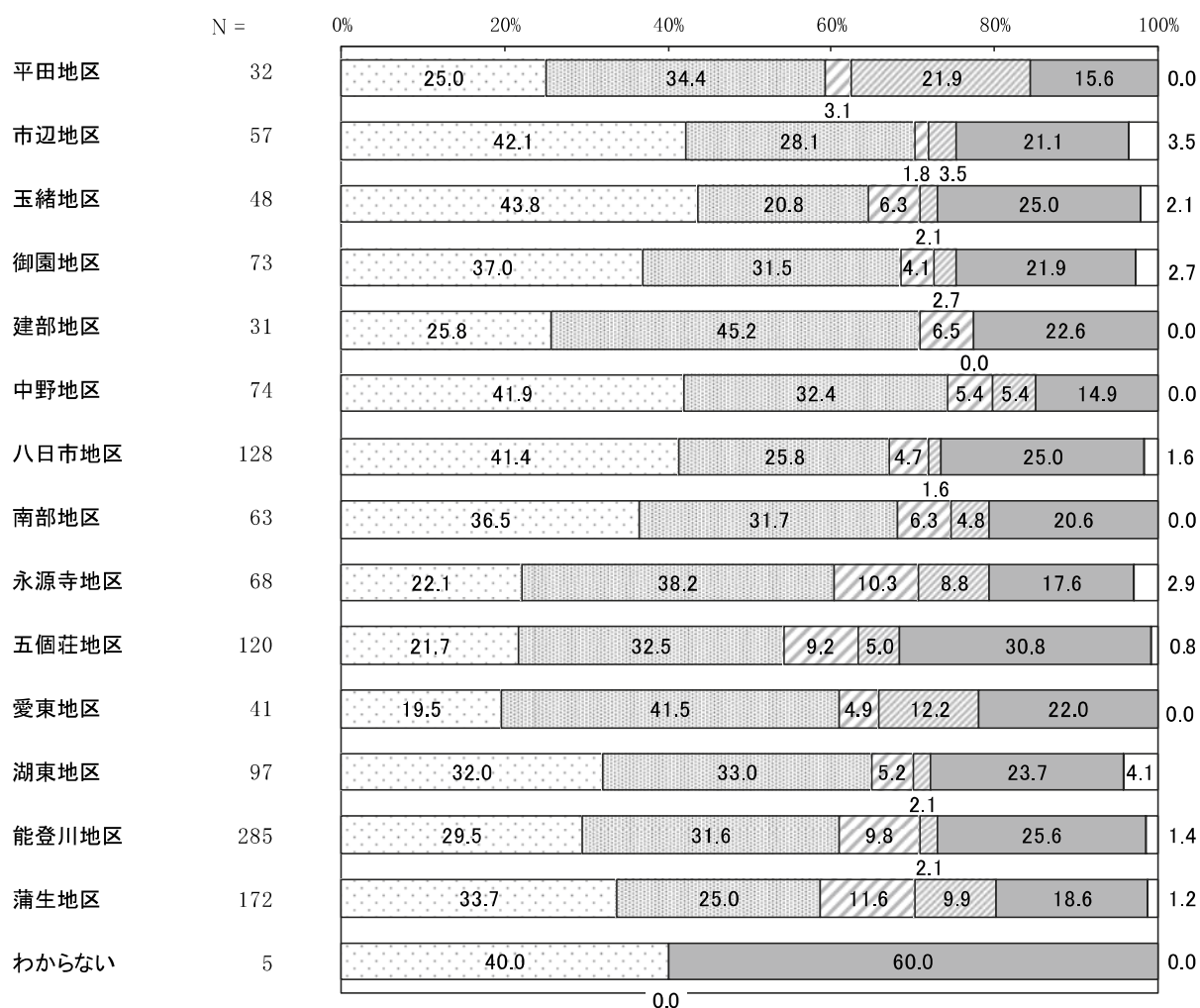
【性 別】



【年代別】



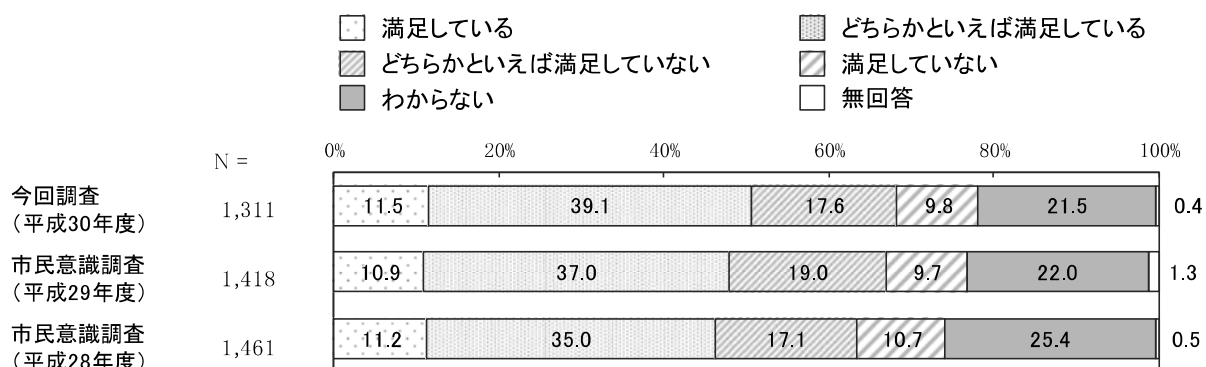
【居住地区別】



問 13 あなたは、病院や救急時の医療体制に満足していますか。《○1つ》

半数が満足、3割近くは満足していない

- ・ 病院や緊急時の医療体制についての満足度については、「満足している」が 11.5%、「どちらかといえば満足している」が 39.1%で、これらを合わせると 50.6%となり、半数の人が満足していると回答しています。一方、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」を合わせると 27.4%で、3割近くとなっています。また、「わからない」と回答した人も 21.5%と2割います。
- ・ 年代別では、30～50 歳代で不満（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」）の割合が高く、30 歳代は満足（「満足している」と「どちらかといえば満足している」）の割合より高くなっています。一方、30 歳以上で年齢があがるほど満足（前述）の割合が高くなり、70 歳以上は7割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、南部地区、市辺地区、湖東地区で満足（前述）の割合が高く、蒲生地区、能登川地区で不満（前述）の割合がほかの地区より高くなっています。



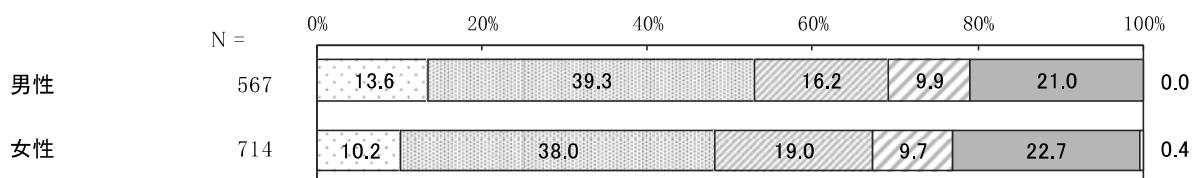
単位：％

	満足	不満	差
①今回調査(平成 30 年度)	50.6	27.4	23.2
②市民意識調査(平成 29 年度)	47.9	28.7	19.2
③市民意識調査(平成 28 年度)	46.2	27.8	18.4
①－③	4.4	-0.4	4.8

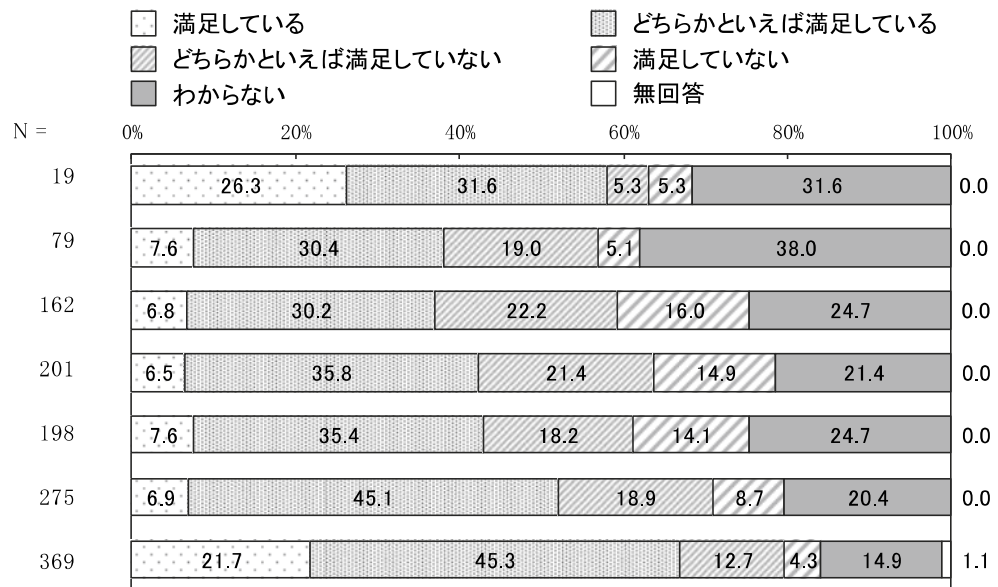
* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

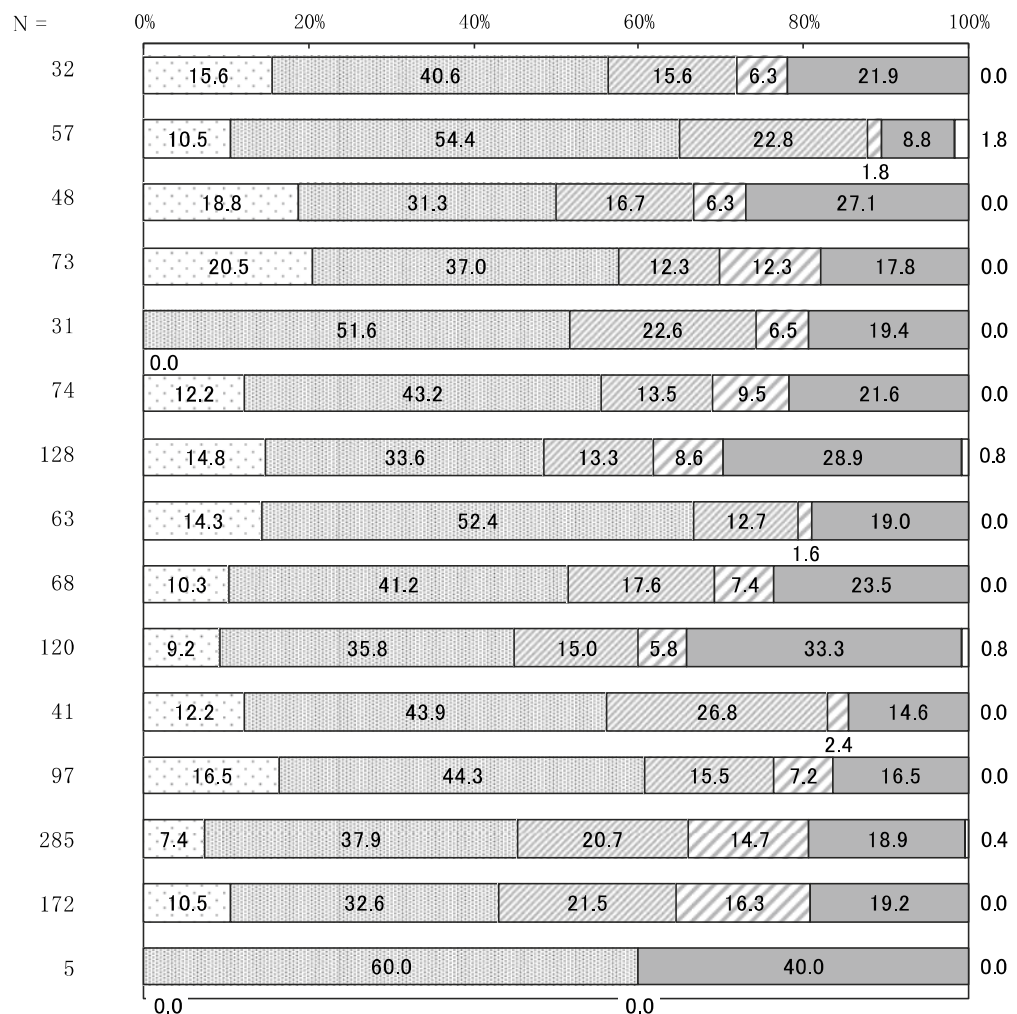
【性 別】



【年代別】



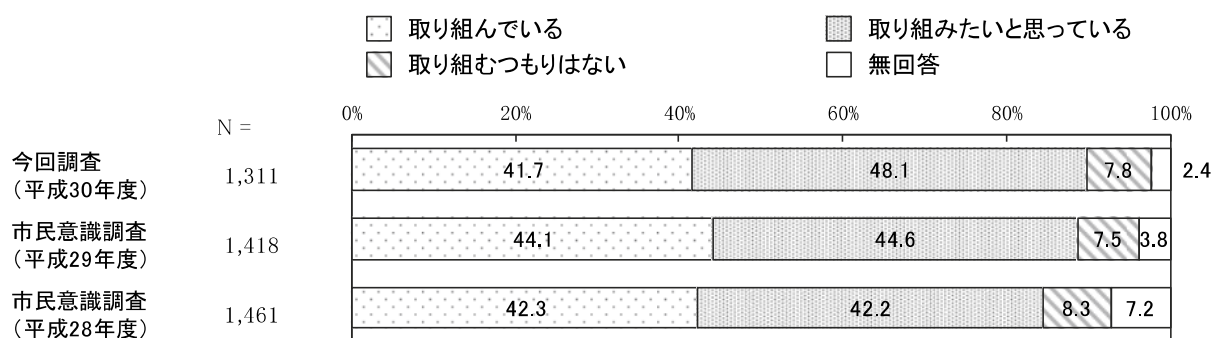
【居住地区別】



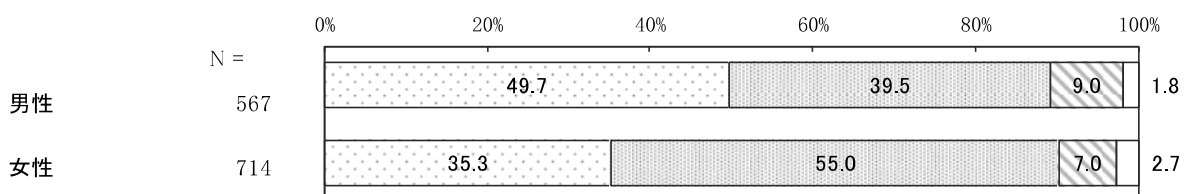
問 14 あなたは、自分の健康づくりのために何か取り組んでいますか。《○1つ》

4割が健康づくりを実践、取り組みたいを合わせると9割近くに

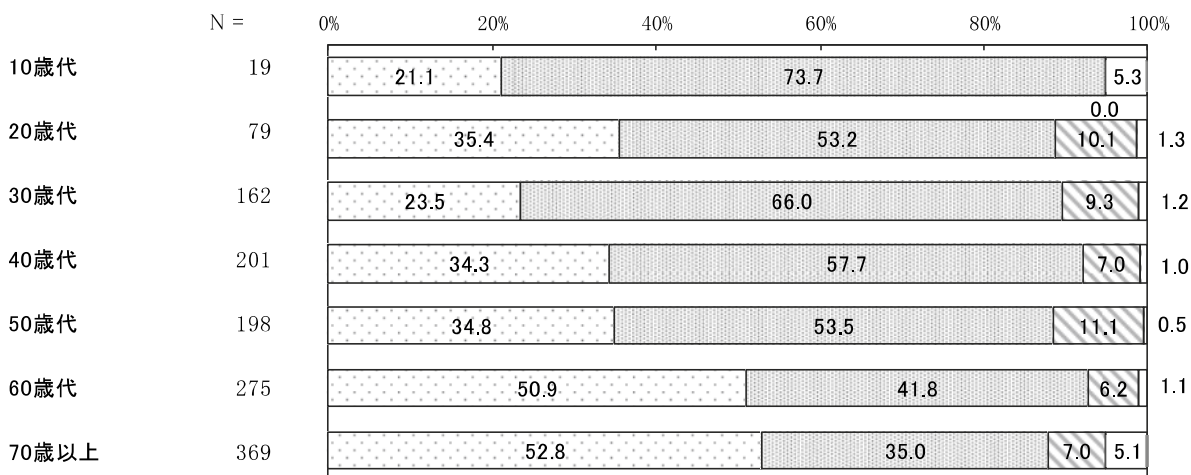
- ・ 自分の健康づくりのために何か取り組んでいるかについては、「取り組みたいと思っている」が48.1%と最も多く、次の「取り組んでいる」の41.7%を合わせると89.8%となり、9割近くの人が関心を持っていることが分かります。
- ・ 過去の調査と比較すると、自分の健康づくりのために何か「取り組んでいる」又は「取り組みたいと思っている」と回答した人の割合は年々増加しています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では60歳以上で、居住地区別では蒲生地区、中野地区、玉緒地区、市辺地区で、自分の健康づくりのために何か「取り組んでいる」人が多くみられます。



【性 別】

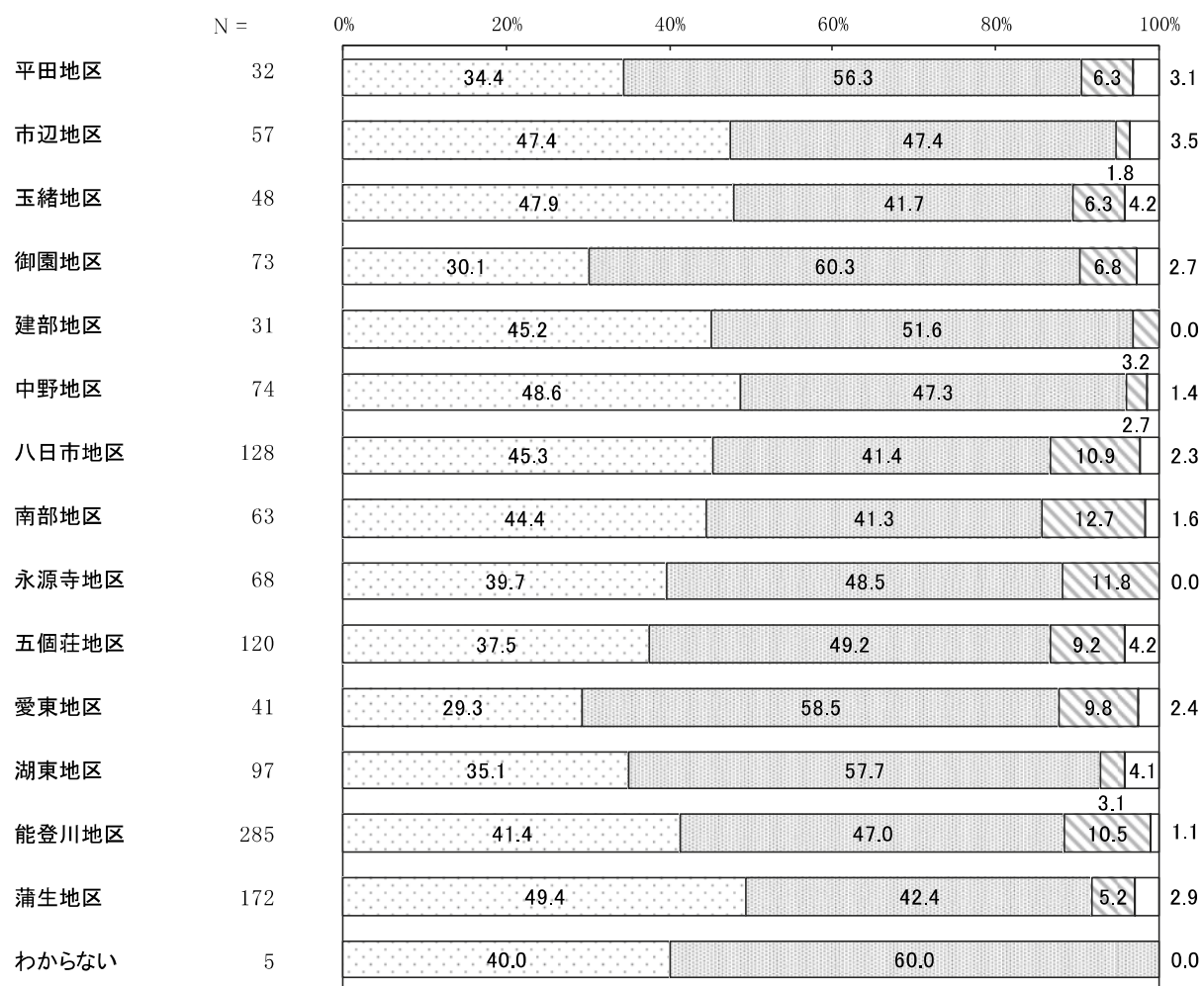


【年代別】



【居住地区別】

☐ 取り組んでいる ☐ 取り組みたいと思っている
☐ 取り組むつもりはない ☐ 無回答

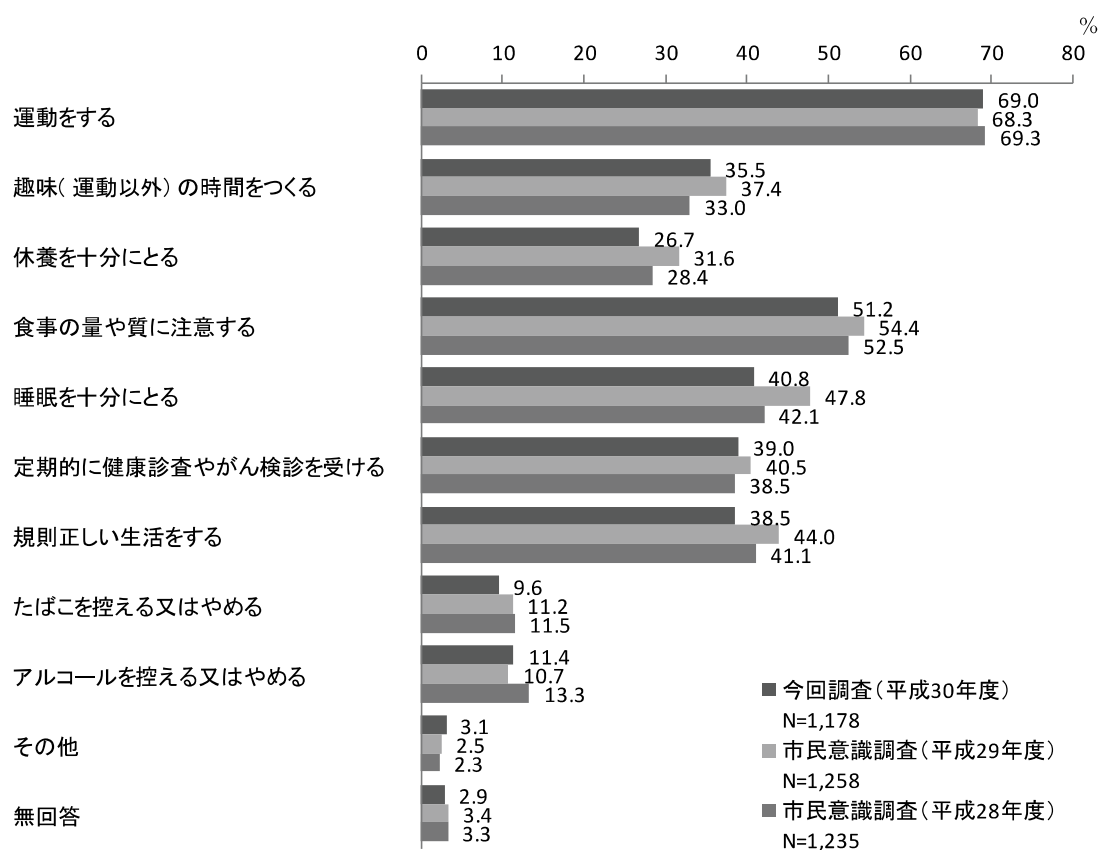


問 14-1 問 14 で「1. 取り組んでいる」「2. 取り組みたいと思っている」とお答えの方におたずねします。

具体的にどのような取組をしていますか、又は取り組みたいと思っていますか。《あてはまるものすべてに○》

「運動をする」、「食事の量や質に注意する」、「睡眠を十分にとる」が上位

- ・ 実際に取り組んでいる（取り組みたい）こととしては、「運動をする」が 69.0%と最も多く、次いで「食事の量や質に注意する」が 51.2%、「睡眠を十分にとる」が 40.8%、「定期的に健康診査やがん検診を受ける」が 39.0%、「規則正しい生活をする」が 38.5%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、「趣味（運動以外）の時間をつくる」、「定期的に健康診査やがん検診を受ける」を除いて、全体的に割合が減少しています。
- ・ 性別では、男女ともに「運動をする」が最も多くなっていますが、女性が「規則正しい生活をする」、「定期的に健康診査やがん検診を受ける」、「食事の量や質に注意する」などをあげる人が男性より多く、男性は禁煙や禁酒などが女性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、すべての年齢で「運動をする」が最も多くなっていますが、特に 20～30 歳代で 8 割前後みられます。そのほか、10～20 歳代の若い世代で「趣味（運動以外）の時間をつくる」や「定期的に健康診査やがん検診を受ける」をあげる人がほかの年代より少なくなっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区のみ「食事の量や質に注意する」が最も多くあげられています。



【性 別】

単位: %

区 分	有効回答数（件）	運動をする	趣味（運動以外） の時間をつくる	休養を十分にとる	食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	たばこを控える又はやめる	アルコールを控える又はやめる	その他	無回答
男性	506	72.5	35.4	25.9	46.2	37.9	33.4	31.6	15.0	17.0	3.8	3.8
女性	645	66.8	35.7	27.6	55.3	43.3	43.1	44.0	4.7	6.5	2.5	2.3

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数（件）	運動をする	趣味（運動以外） の時間をつくる	休養を十分にとる	食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	たばこを控える又はやめる	アルコールを控える又はやめる	その他	無回答
10歳代	18	72.2	16.7	16.7	44.4	44.4	5.6	50.0	0.0	0.0	0.0	5.6
20歳代	70	80.0	21.4	27.1	45.7	37.1	17.1	30.0	7.1	12.9	2.9	1.4
30歳代	145	76.6	34.5	26.9	51.0	44.1	33.1	37.9	9.0	10.3	1.4	1.4
40歳代	185	68.6	33.5	27.0	45.9	40.5	35.1	29.7	8.1	13.0	1.6	2.2
50歳代	175	72.0	33.7	29.7	50.3	41.7	41.1	34.3	9.1	9.7	2.9	2.9
60歳代	255	68.6	44.7	23.1	52.2	35.7	40.0	38.8	9.0	11.0	3.5	2.0
70歳以上	324	62.3	34.9	28.4	55.2	43.5	48.5	46.6	12.0	12.3	4.6	4.9

【居住地区別】

単位: %

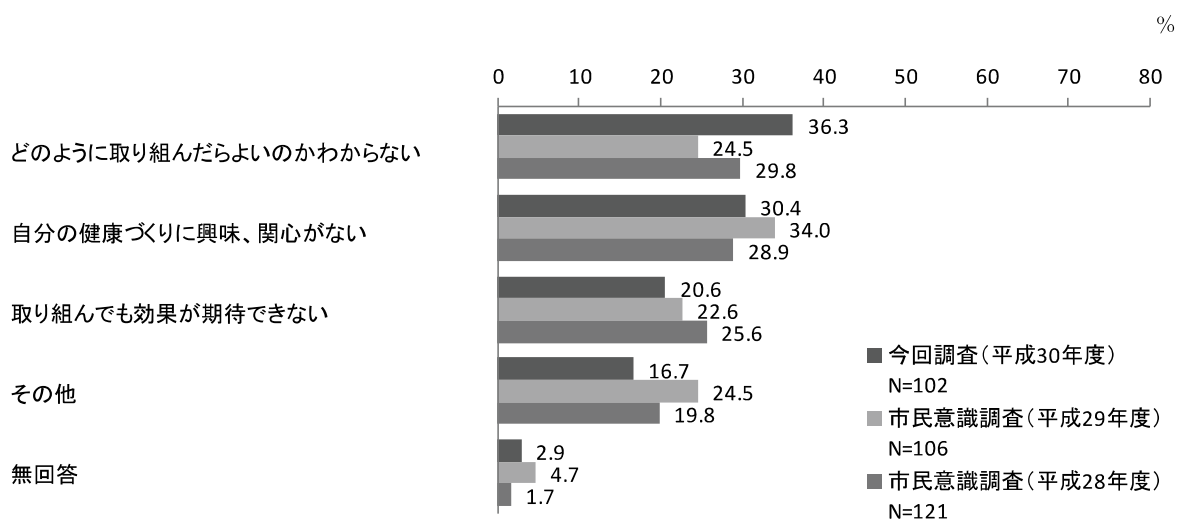
区 分	有効回答数（件）	運動をする	趣味（運動以外） の時間をつくる	休養を十分にとる	食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	たばこを控える又はやめる	アルコールを控える又はやめる	その他	無回答
平田地区	29	58.6	41.4	34.5	69.0	41.4	51.7	55.2	3.4	6.9	3.4	3.4
市辺地区	54	61.1	31.5	22.2	48.1	27.8	50.0	31.5	3.7	1.9	1.9	7.4
玉緒地区	43	69.8	37.2	34.9	51.2	37.2	41.9	44.2	11.6	11.6	4.7	4.7
御園地区	66	66.7	28.8	19.7	43.9	40.9	42.4	33.3	12.1	9.1	1.5	0.0
建部地区	30	66.7	36.7	40.0	53.3	60.0	40.0	53.3	6.7	13.3	6.7	0.0
中野地区	71	70.4	36.6	29.6	62.0	46.5	46.5	43.7	15.5	19.7	5.6	4.2
八日市地区	111	71.2	34.2	24.3	54.1	36.9	32.4	28.8	9.0	9.9	4.5	1.8
南部地区	54	63.0	44.4	18.5	48.1	42.6	40.7	35.2	9.3	13.0	3.7	0.0
永源寺地区	60	58.3	26.7	20.0	45.0	41.7	30.0	21.7	8.3	8.3	3.3	10.0
五個荘地区	104	70.2	37.5	19.2	51.9	38.5	35.6	46.2	9.6	9.6	2.9	2.9
愛東地区	36	63.9	50.0	38.9	55.6	50.0	27.8	55.6	8.3	13.9	0.0	0.0
湖東地区	90	68.9	35.6	27.8	46.7	45.6	46.7	42.2	8.9	10.0	4.4	1.1
能登川地区	252	72.2	36.1	29.8	50.0	40.5	35.7	38.1	8.7	12.3	3.2	3.2
蒲生地区	158	72.8	31.6	27.8	51.9	39.9	41.8	39.2	11.4	14.6	0.6	1.9
わからない	5	80.0	40.0	0.0	60.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 14-2 問 14 で「3. 取り組むつもりはない」とお答えの方におたずねします。

その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

取り組むつもりがない理由は、「どのように取り組んだらよいかわからない」が第1位

- ・ 自分の健康づくりに取り組むつもりはない人の理由としては、「どのように取り組んだらよいかわからない」が 36.3%と最も多く、次いで「自分の健康づくりに興味、関心がない」が 30.4%、「取り組んでも効果が期待できない」が 20.6%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの「どのように取り組んだらよいかわからない」の割合が増加し、「取り組んでも効果が期待できない」の割合は年々減少しています。
- ・ 性別では、男性は「自分の健康づくりに興味、関心がない」を理由にあげる人が女性より多くなっています。
- ・ 年代別では、60 歳代までは「どのように取り組んだらよいかわからない」が、70 歳以上は「取り組んでも効果が期待できない」が最も多くあげられています。また、20 歳代は「自分の健康づくりに興味、関心がない」、50 歳代は「取り組んでも効果が期待できない」も同様に最も多くあげられています。



【性別】

単位: %

区 分	有効回答数(件)	不知道怎么开始	对自己的健康没有兴趣、关心	即使参加也看不到效果	その他	無回答
男性	51	37.3	35.3	21.6	15.7	0.0
女性	50	36.0	26.0	18.0	18.0	6.0

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	どのような のかわかり 組んだ	味、自分の 健康づく りに興	取り組ん でも効果 が期	その他	無 回 答
10歳代	-	-	-	-	-	-
20歳代	8	62.5	62.5	0.0	0.0	0.0
30歳代	15	53.3	40.0	6.7	6.7	0.0
40歳代	14	35.7	28.6	21.4	14.3	7.1
50歳代	22	27.3	22.7	27.3	18.2	4.5
60歳代	17	35.3	29.4	11.8	17.6	5.9
70歳以上	26	26.9	23.1	34.6	26.9	0.0

【居住地区別】

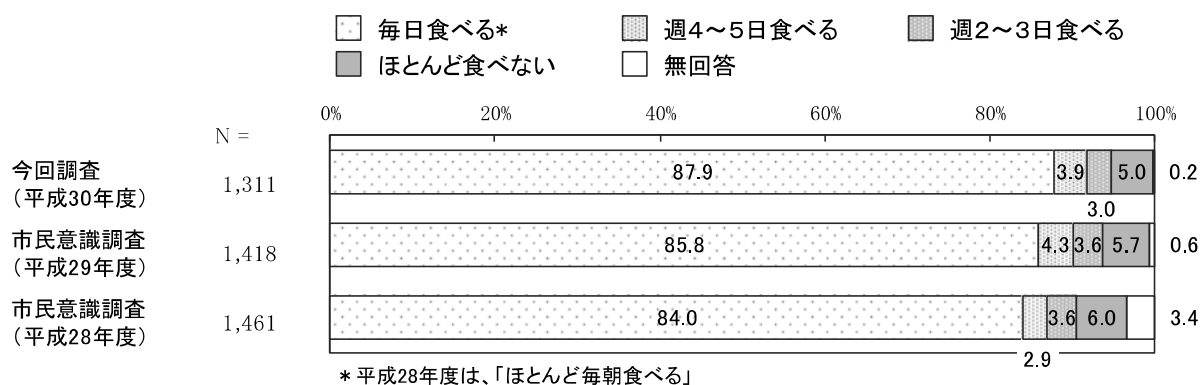
単位: %

区 分	有効回答数 (件)	どのような のかわかり 組んだ	味、自分の 健康づく りに興	取り組ん でも効果 が期	その他	無 回 答
平田地区	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
市辺地区	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
玉緒地区	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
御園地区	5	20.0	20.0	80.0	0.0	0.0
建部地区	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中野地区	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
八日市地区	14	50.0	35.7	14.3	7.1	0.0
南部地区	8	50.0	12.5	25.0	37.5	12.5
永源寺地区	8	25.0	50.0	25.0	12.5	0.0
五個荘地区	11	18.2	18.2	27.3	27.3	9.1
愛東地区	4	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0
湖東地区	3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0
能登川地区	30	36.7	30.0	16.7	13.3	3.3
蒲生地区	9	33.3	55.6	22.2	0.0	0.0
わからない	-	-	-	-	-	-

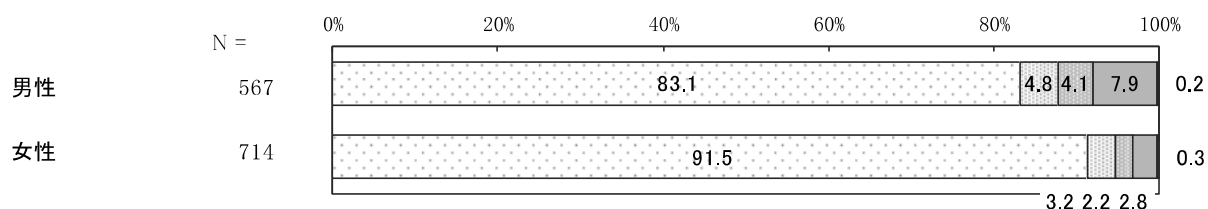
問 15 あなたは、朝食を食べていますか。《○1つ》

9割近くが朝食は「毎日食べる」

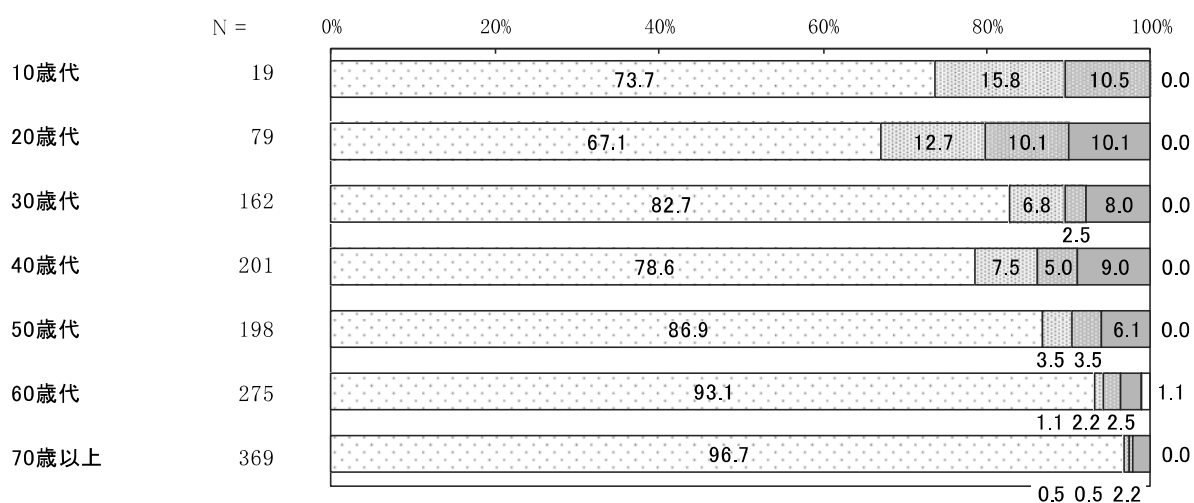
- ・ 朝食を食べているかについては、「毎日食べる」と回答した人が87.9%と、9割近くになっています。次いで、「ほとんど食べない」が5.0%、「週4～5日食べる」が3.9%、「週2～3日食べる」が3.0%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、朝食を毎日食べる人が年々増加しています。
- ・ 性別では女性が、年代別では60歳以上で、居住地区別では愛東地区、平田地区、南部地区、市辺地区、蒲生地区、御園地区で、9割を超える人が朝食を毎日食べています。



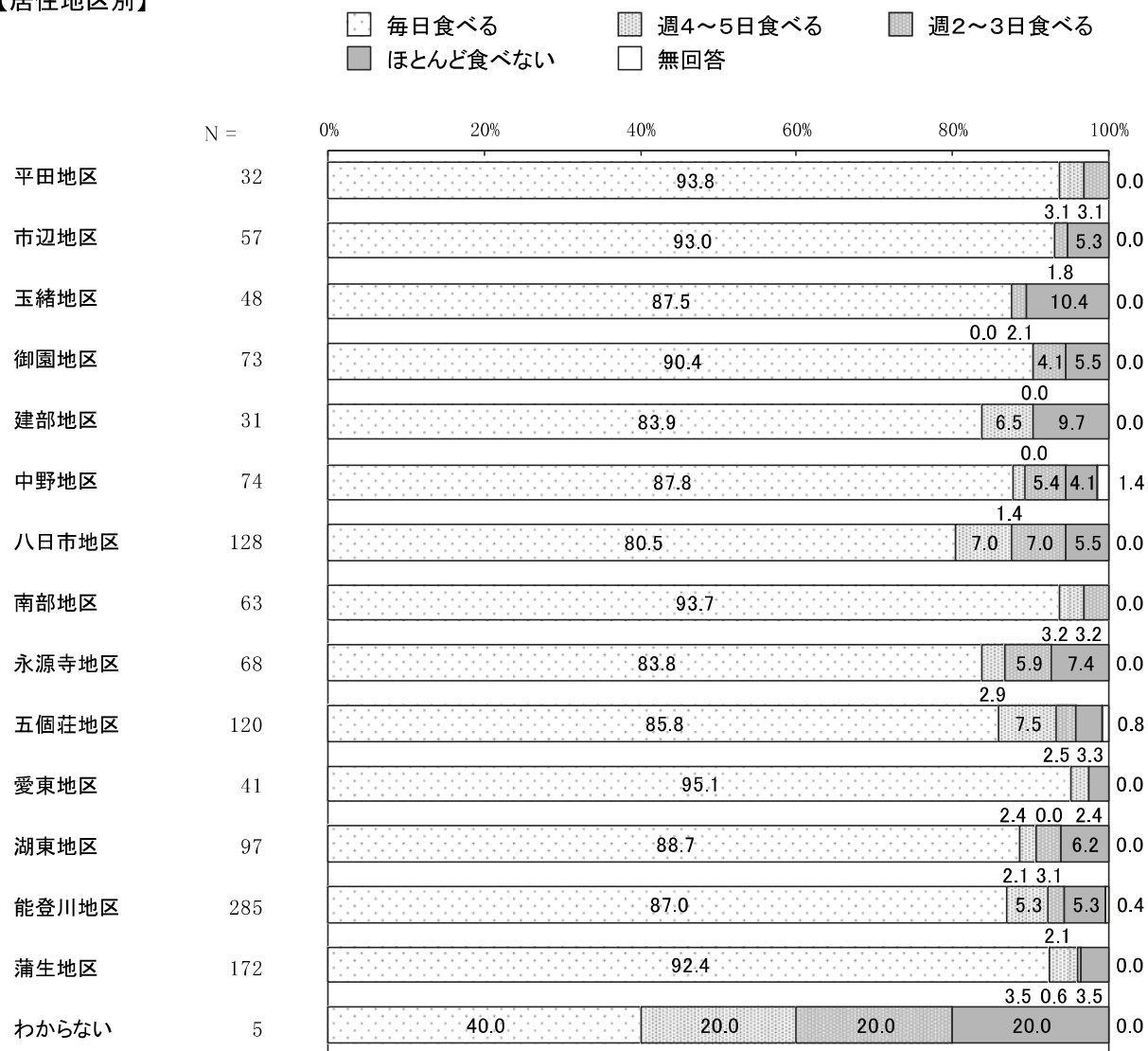
【性別】



【年代別】



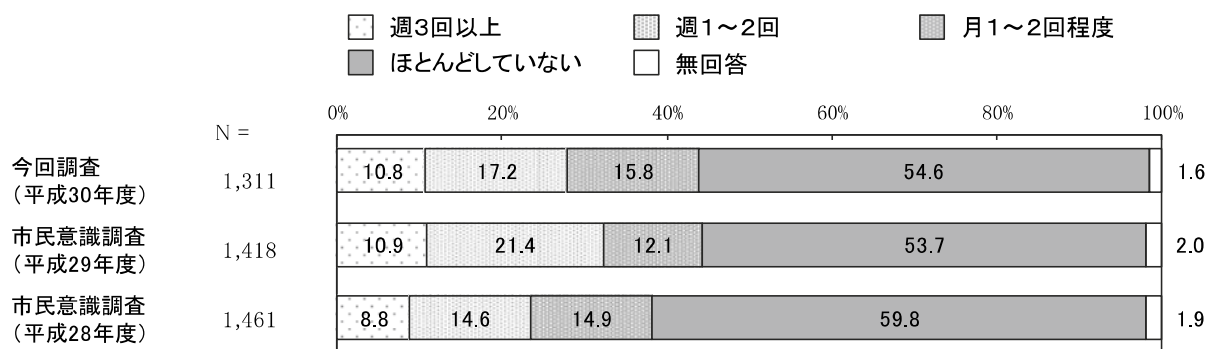
【居住地区別】



問 16 あなたは、スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っていますか。《○1つ》

3割近くが週1回以上運動をしている、半数が「ほとんどしていない」

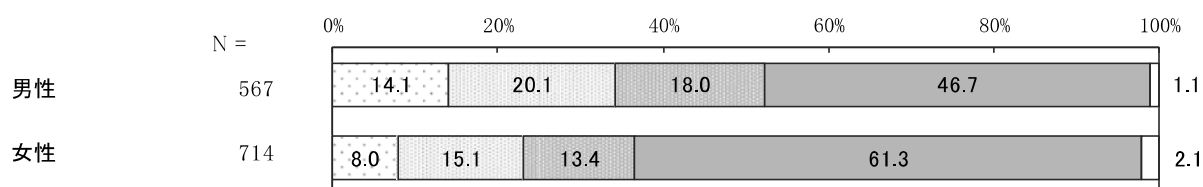
- ・ スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っているかについては、「ほとんどしていない」が54.6%と最も多く、半数を占めています。次いで、「週1～2回」が17.2%、「月1～2回程度」が15.8%、「週3回以上」が10.8%と続きます。週1回以上運動をしている人は28.0%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの「ほとんどしていない」の割合は減少し、週1回以上運動をしている人の割合は増加しています。
- ・ 週1回以上運動をしている人の割合は、性別では女性より男性で、年代別では60歳以上で、居住地区別では建部地区、玉緒地区で高くなっています。
- ・ 一方、スポーツやレクリエーション等の運動をほとんどしていない人は、性別では女性が6割、年代別では30～50歳代で、居住地区別では愛東地区で7割近くみられます。



単位：％

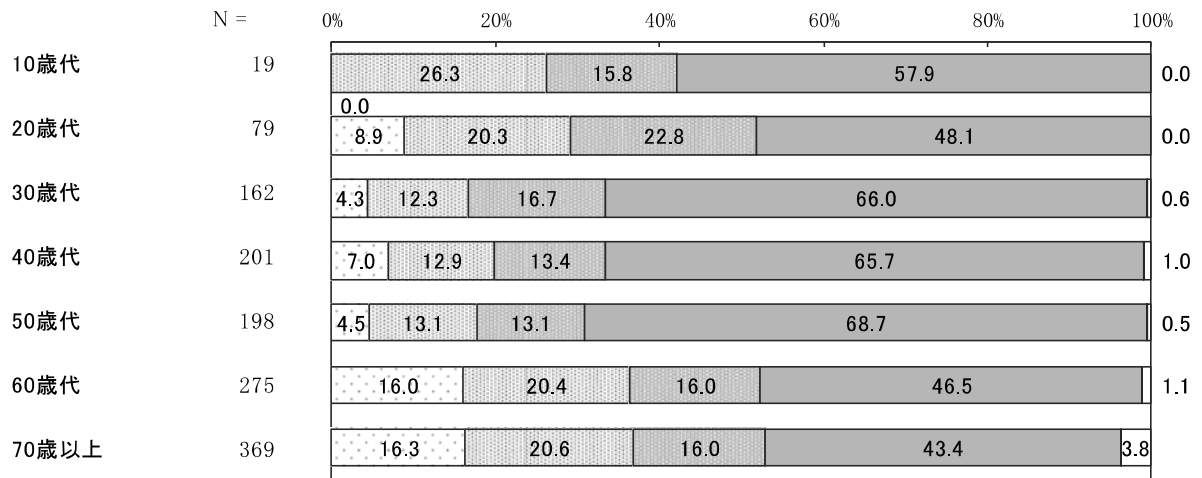
	週1回以上 運動をしている	ほとんど していない
①今回調査(平成30年度)	28.0	54.6
②市民意識調査(平成29年度)	32.3	53.7
③市民意識調査(平成28年度)	23.4	59.8
①－③	4.6	-5.2

【性別】

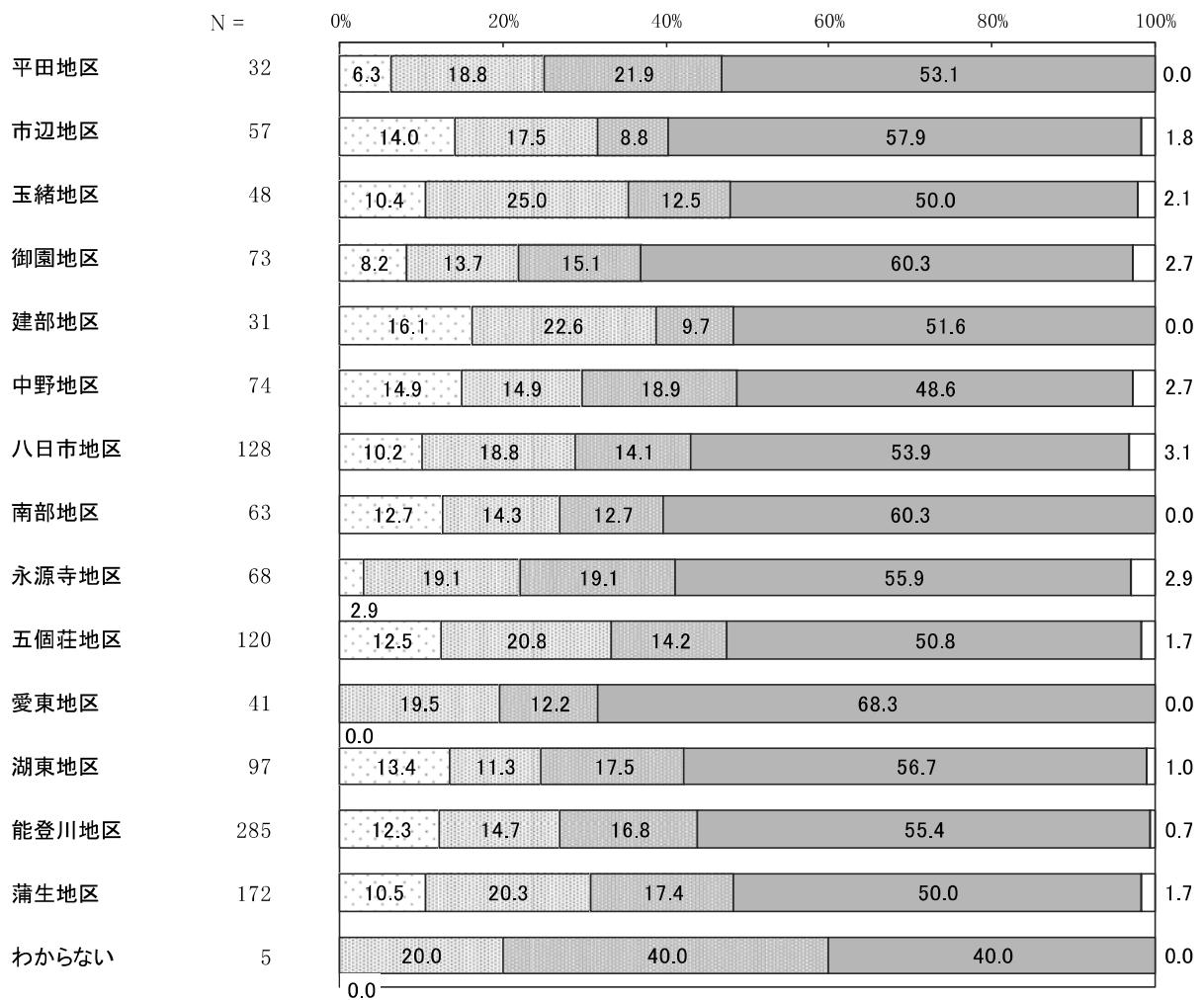


【年代別】

週3回以上
 週1～2回
 月1～2回程度
 ほとんどしていない
 無回答



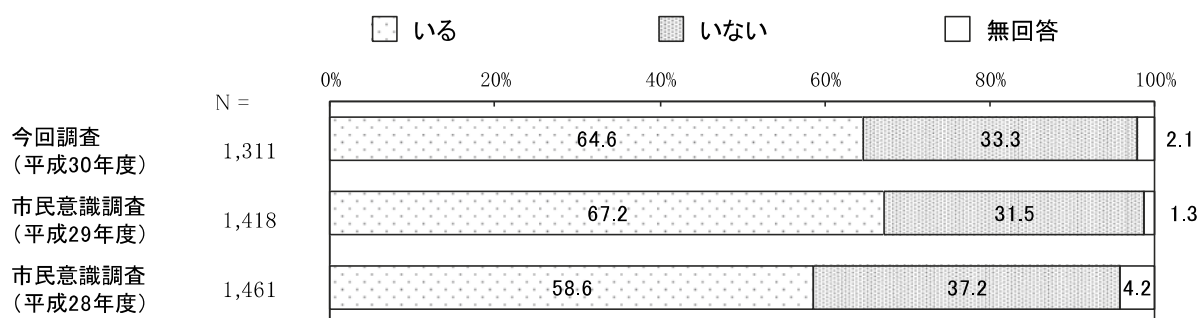
【居住地区別】



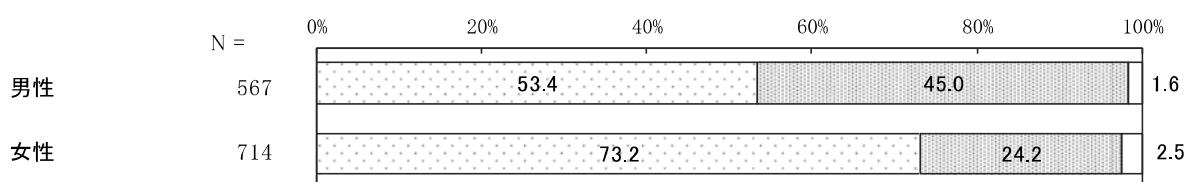
問 17 あなたは、身近な地域で日ごろの心配ごとや悩みを話したり相談したりする人がいますか。《○1つ》

6割が悩み等を相談できる人が「いる」

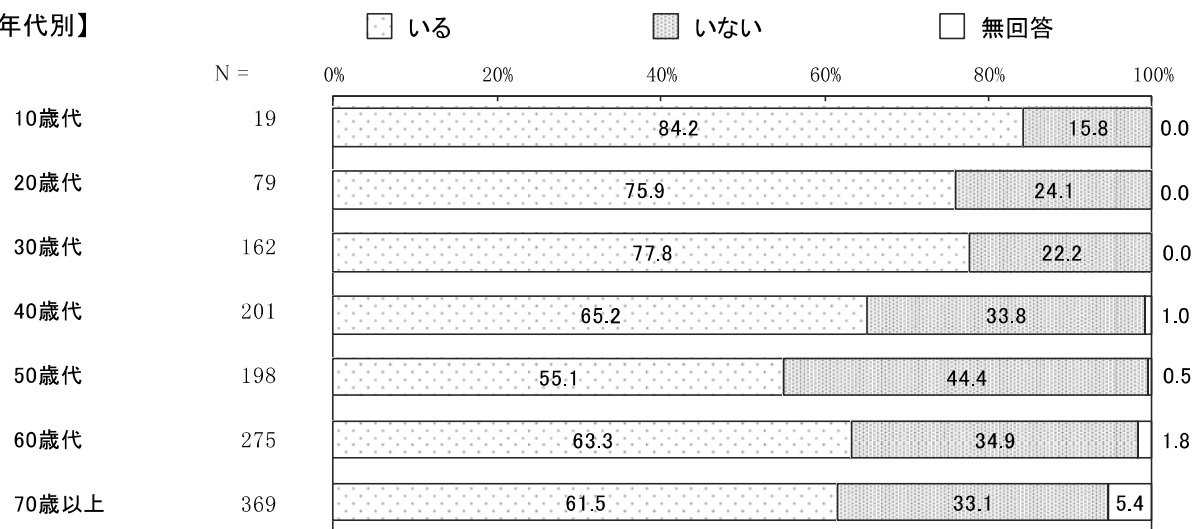
- ・ 身近な地域で日ごろの心配ごとや悩みを話したり相談したりする人がいるかどうかについては、「いる」と回答した人は64.6%、「いない」と回答した人は33.3%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、日ごろの心配ごとや悩みを話したり相談したりする人がいる人の割合は増加しています。
- ・ 性別では、女性は7割が悩み等を相談できる人がいるのに対し、男性は半数近くが「いない」と回答しています。
- ・ 年代別では、10～30歳代は8割前後が悩み等を相談できる人がいるのに対し、50歳代は4割が「いない」と回答しています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、南部地区で7割が悩み等を相談できる人がいるのに対し、特に平田地区で半数近くが「いない」と回答しています。



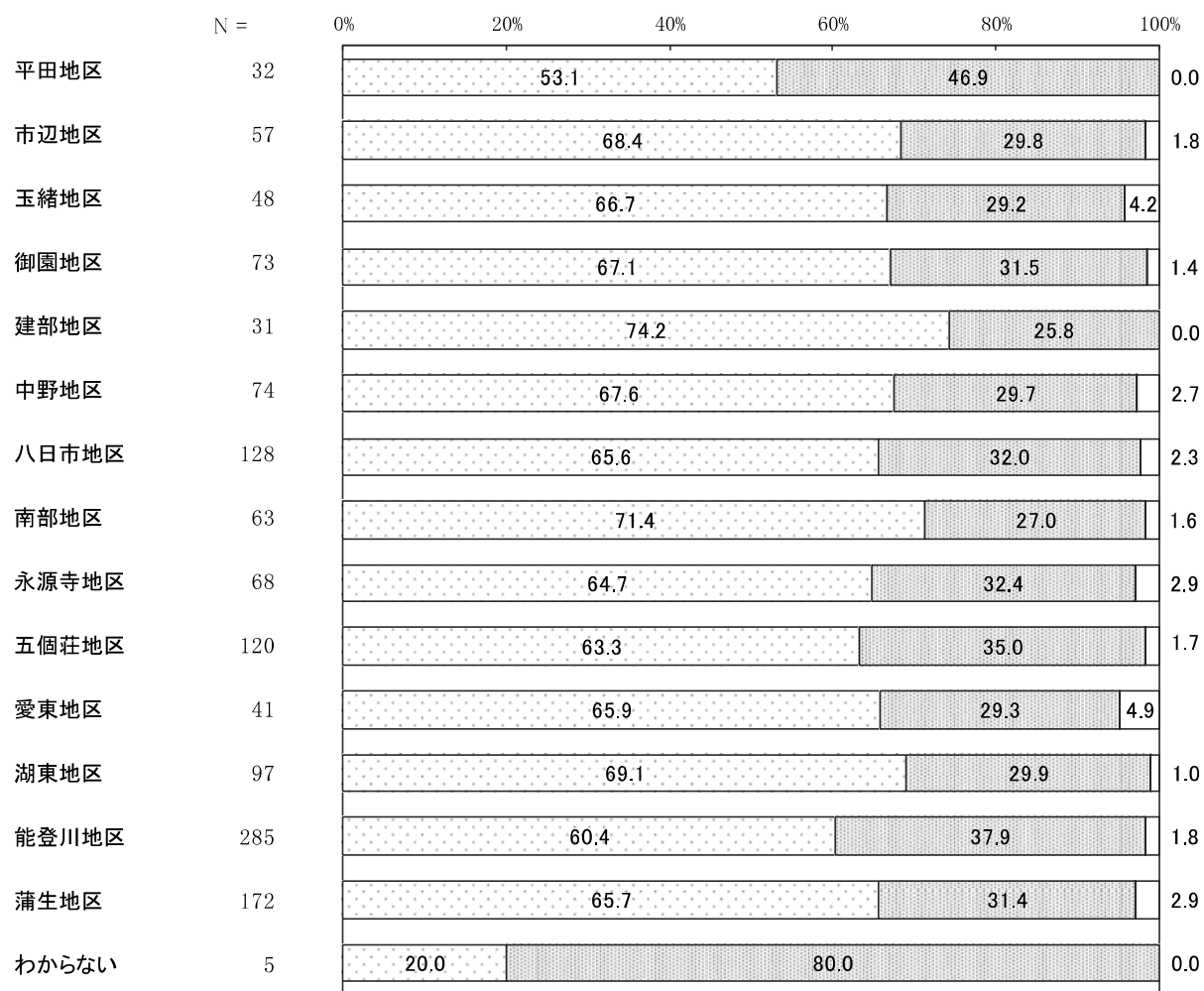
【性 別】



【年代別】



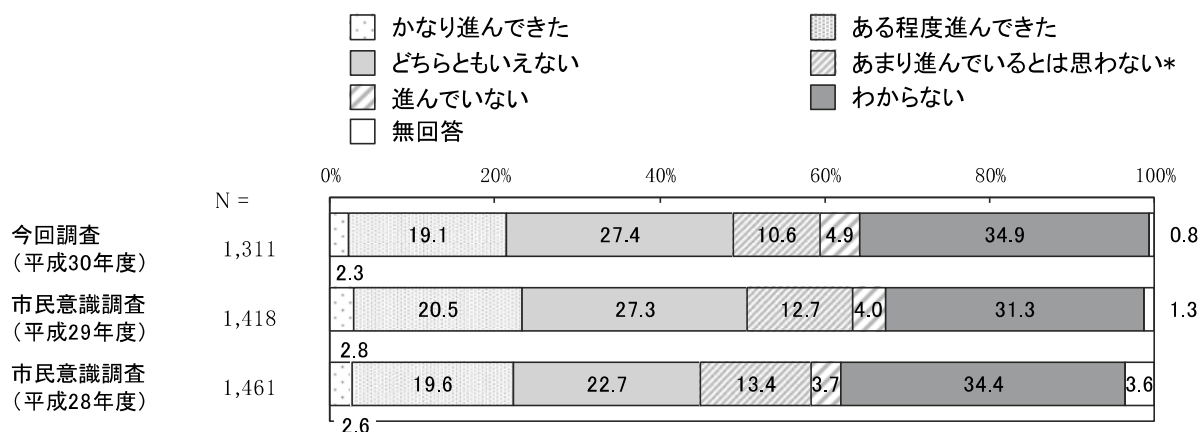
【居住地区別】



問 18 あなたは、東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思いますか。《○1つ》

理解が進んでいないと思う人が減少

- ・ 東近江市民の障害者に対する理解が進んできたと思うかについては、「かなり進んできた」が2.3%、「ある程度進んできた」が19.1%で、これらを合わせると21.4%となり、2割の人が「ある程度進んできた」と回答しています。一方、「あまり進んでいるとは思わない」と「進んでいない」を合わせると15.5%となっています。なお、「わからない」と回答した人が34.9%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、理解が進んでいないと思う人（「あまり進んでいるとは思わない」と「進んでいない」の合計）が減少しています。
- ・ 年代別では70歳以上で、居住地区別では平田地区、市辺地区で、障害者に対する理解が進んできたと思う人（前述）が多くみられます。
- ・ 一方、年代別では30～50歳代で、居住地区別では建部地区、能登川地区では、障害者に対する理解が進んできたと思う人（前述）より進んでいないと思う人（「あまり進んでいるとは思わない」と「進んでいない」の合計）が多くみられます。



*平成28年度は「あまり進んできているとは思えない」

単位：％

	進んでいる	進んでいない	差
①今回調査(平成30年度)	21.4	15.5	5.9
②市民意識調査(平成29年度)	23.3	16.7	6.6
③市民意識調査(平成28年度)	22.2	17.1	5.1
①－③	-0.8	-1.6	0.8

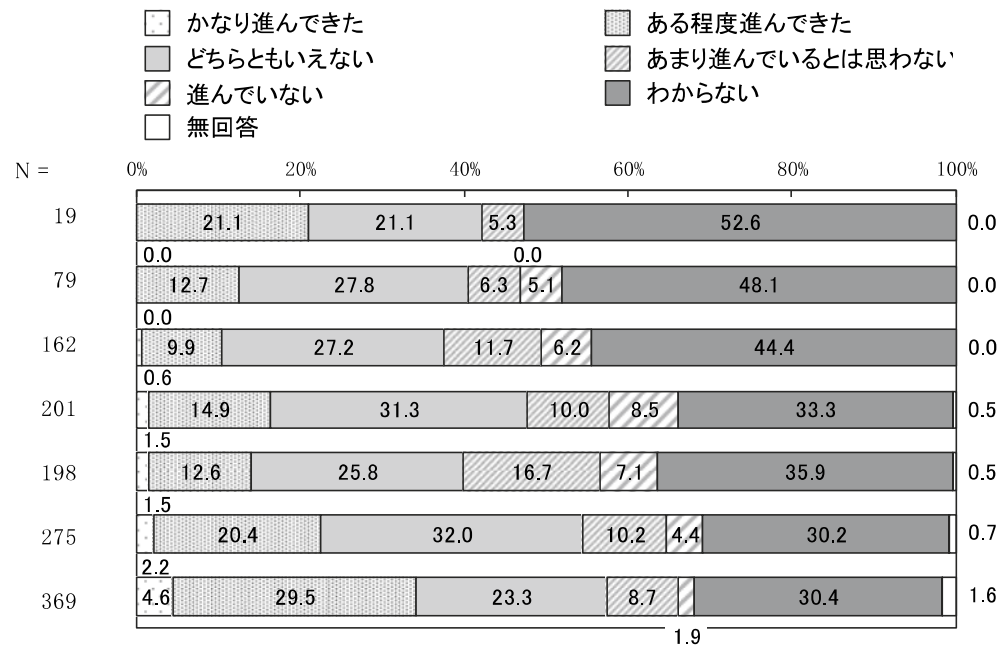
* 進んでいる:「かなり進んできた」と「ある程度進んできた」の合計

* 進んでいない:「あまり進んでいるとは思わない」と「進んでいない」の合計

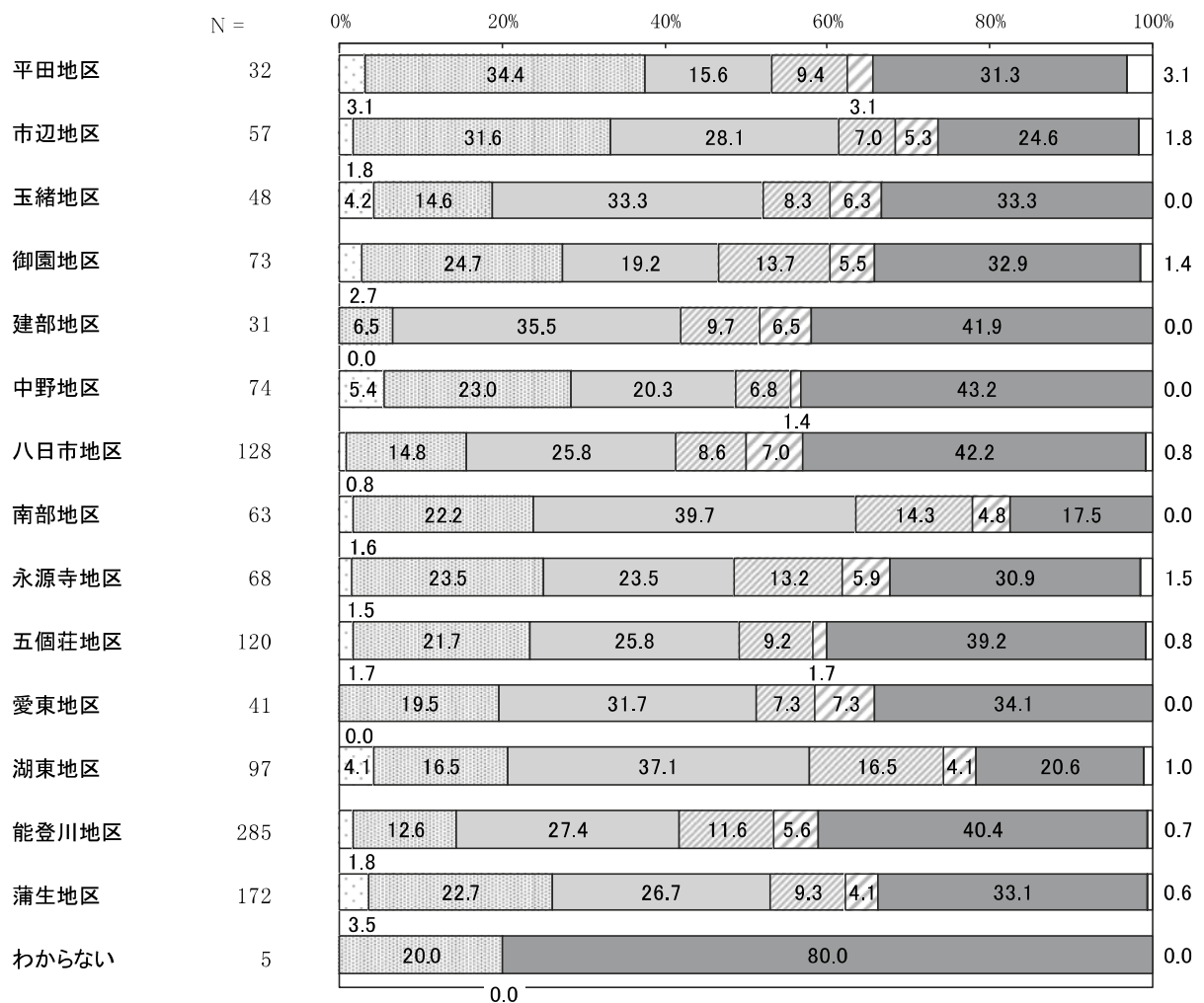
【性 別】



【年代別】



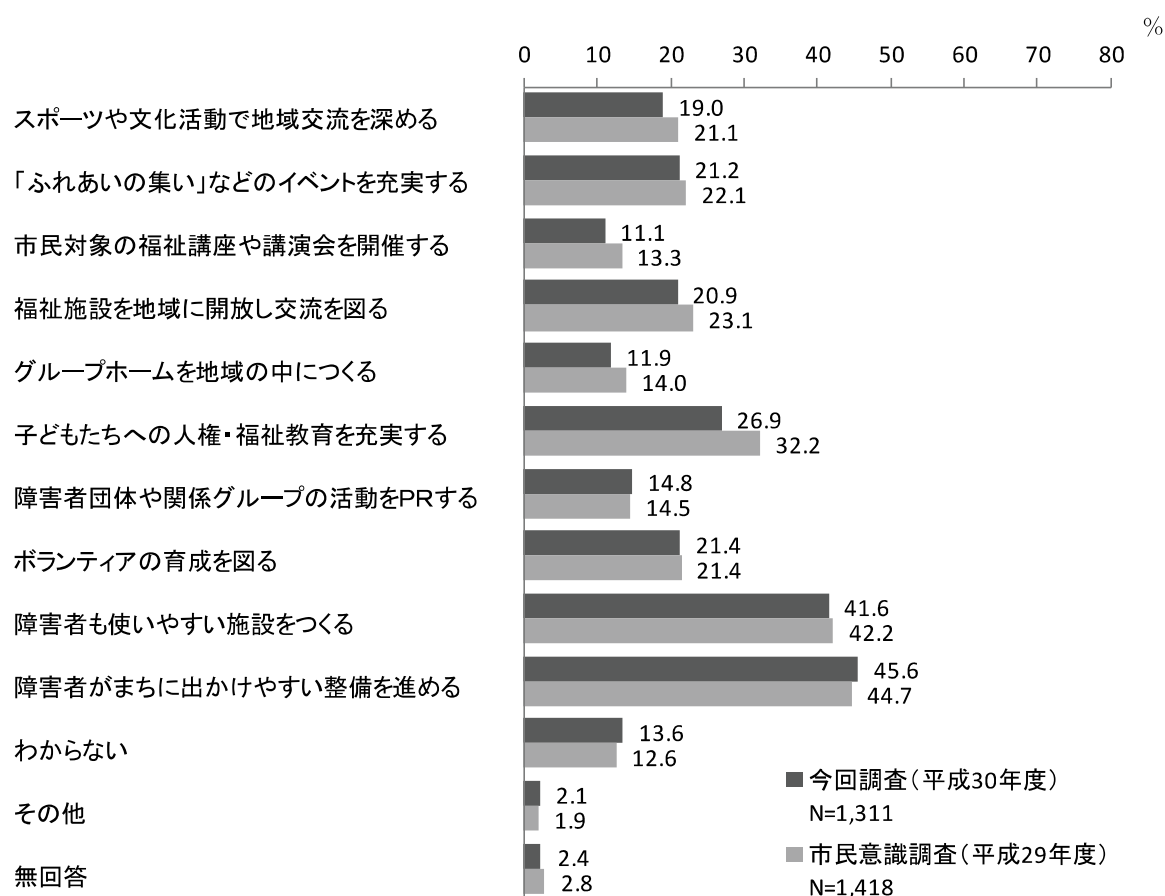
【居住地区別】



問 19 あなたは、障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

特に力を入れるべき取組は、バリアフリーのまちづくりや施設整備

- ・ 障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきかについては、「障害者がまちに出かけやすい整備を進める」が45.6%と最も多く、次いで「障害者も使いやすい施設をつくる」が41.6%と、バリアフリーやユニバーサルデザインのまちづくりや施設整備をあげる人が多くなっています。
- ・ そのほか、「子どもたちへの人権・福祉教育を充実する」が26.9%、「ボランティアの育成を図る」が21.4%、「ふれあいの集い」などのイベントを充実する」が21.2%、「福祉施設を地域に開放し交流を図る」が20.9%など、教育、交流等を通じたノーマライゼーションの実現をあげる人も多くみられます。
- ・ 年代別では、10～30 歳代の若い世代では「障害者も使いやすい施設をつくる」が、40 歳以上では「障害者がまちに出かけやすい整備を進める」が最も多くあげられています。また、特に 30 歳代で「子どもたちへの人権・福祉教育を充実する」がほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、御園地区、湖東地区、建部地区、南部地区、八日市地区では「障害者も使いやすい施設をつくる」が、ほかの地区では「障害者がまちに出かけやすい整備を進める」が最も多くあげられています。



【性 別】

単位: %

区 分	有効回答数（件）	スポーツや文化交流を深める	「ふれあいの集い」などのイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちに出かけやすい整備を進める	わからない	その他	無回答
男性	567	20.6	20.8	11.3	22.0	9.2	25.9	16.8	21.2	40.0	42.7	14.1	2.1	1.6
女性	714	17.9	22.0	10.8	19.6	13.6	28.2	13.2	21.7	42.7	47.6	13.4	2.0	2.8

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数（件）	スポーツや文化交流を深める	「ふれあいの集い」などのイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちに出かけやすい整備を進める	わからない	その他	無回答
10歳代	19	21.1	21.1	5.3	10.5	15.8	31.6	10.5	15.8	36.8	26.3	21.1	0.0	0.0
20歳代	79	17.7	6.3	5.1	13.9	6.3	27.8	13.9	16.5	45.6	43.0	16.5	0.0	2.5
30歳代	162	23.5	21.6	8.0	13.6	6.2	38.9	11.1	17.3	48.8	46.9	12.3	1.9	1.2
40歳代	201	17.4	15.4	6.5	17.9	11.9	31.8	12.4	20.4	45.8	52.7	12.4	2.5	0.5
50歳代	198	13.1	22.2	14.6	18.7	14.1	27.3	16.2	24.2	43.9	51.5	11.6	3.5	0.5
60歳代	275	21.5	22.5	11.3	26.2	13.8	20.4	15.6	25.5	37.5	46.5	12.7	3.6	1.5
70歳以上	369	19.8	26.0	14.6	25.2	12.7	23.3	16.5	20.6	37.1	39.3	14.9	0.8	5.7

【居住地区別】

単位: %

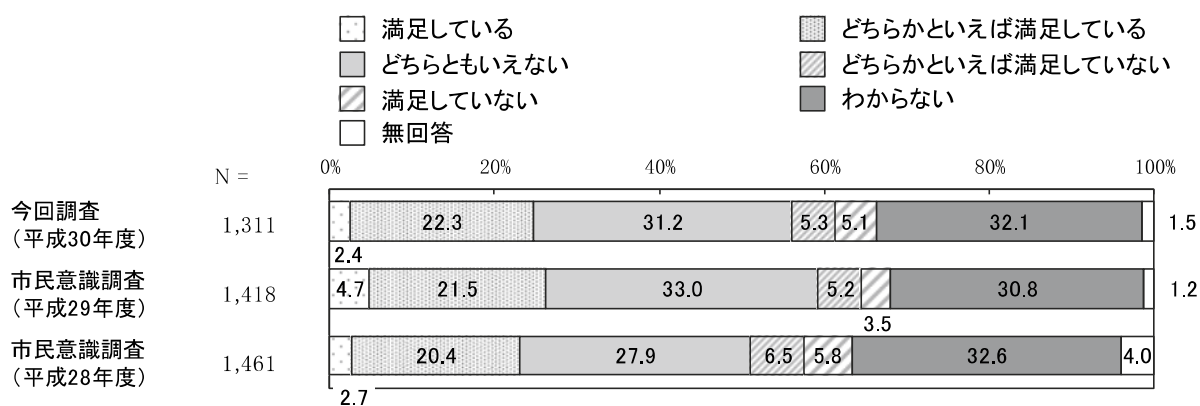
区 分	有効回答数（件）	スポーツや文化交流を深める	「ふれあいの集い」などのイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちに出かけやすい整備を進める	わからない	その他	無回答
平田地区	32	37.5	37.5	9.4	34.4	18.8	18.8	15.6	25.0	50.0	53.1	6.3	0.0	3.1
市辺地区	57	15.8	24.6	19.3	24.6	12.3	24.6	14.0	31.6	45.6	49.1	5.3	0.0	5.3
玉緒地区	48	12.5	12.5	10.4	14.6	8.3	27.1	18.8	12.5	41.7	56.3	8.3	0.0	2.1
御園地区	73	12.3	21.9	12.3	20.5	15.1	19.2	20.5	23.3	46.6	42.5	13.7	4.1	5.5
建部地区	31	12.9	9.7	9.7	25.8	9.7	12.9	19.4	19.4	45.2	45.2	22.6	0.0	0.0
中野地区	74	21.6	17.6	14.9	24.3	12.2	25.7	17.6	18.9	47.3	48.6	21.6	5.4	0.0
八日市地区	128	21.1	21.9	11.7	16.4	10.2	25.0	15.6	18.0	39.8	36.7	8.6	2.3	2.3
南部地区	63	17.5	25.4	15.9	23.8	14.3	33.3	17.5	15.9	44.4	34.9	15.9	1.6	0.0
永源寺地区	68	19.1	16.2	14.7	22.1	14.7	23.5	10.3	22.1	35.3	47.1	14.7	0.0	1.5
五個荘地区	120	23.3	18.3	10.8	20.0	14.2	34.2	15.0	25.8	35.0	43.3	15.0	2.5	3.3
愛東地区	41	17.1	39.0	9.8	19.5	12.2	14.6	14.6	24.4	41.5	46.3	12.2	0.0	2.4
湖東地区	97	18.6	25.8	10.3	17.5	11.3	25.8	20.6	23.7	46.4	44.3	8.2	1.0	3.1
能登川地区	285	19.6	17.9	7.4	18.6	11.2	32.6	11.2	19.6	41.1	50.2	16.8	2.5	2.1
蒲生地区	172	16.3	25.0	9.9	24.4	9.3	25.0	11.6	18.0	37.8	44.8	12.8	2.9	2.3
わからない	5	20.0	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(4) 環境や暮らしについて

問 20 あなたは、東近江市の自然環境保全の取組について満足していますか。《○ 1 つ》

2割が満足、6割が「どちらともいえない」又は「わからない」

- ・ 東近江市の自然環境保全の取組についての満足度は、「わからない」が 32.1%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 31.2%、これらを合わせると 63.3%となっています。
- ・ 「満足している」が 2.4%、「どちらかといえば満足している」が 22.3%、これらを合わせると 24.7%となり、2割の人が満足しています。一方、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」を合わせると 10.4%で、1割程度となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、満足（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合は増加し、不満（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合は減少しています。
- ・ 性別では、女性より男性で、不満（前述）の割合が高いものの「わからない」の割合は低く、男性の方が自然環境保全への関心が高いことがうかがえます。
- ・ 年代別では、50 歳代で満足（前述）の割合が低くなっています。また、50 歳以上で年齢があがるほど「わからない」の割合が減少する一方で、満足（前述）の割合も不満（前述）の割合も増加しており、関心が高くなる傾向がみられます。
- ・ 居住地区別では、中野地区、愛東地区で、自然環境保全の取組について満足（前述）している人の割合が高くなっています。



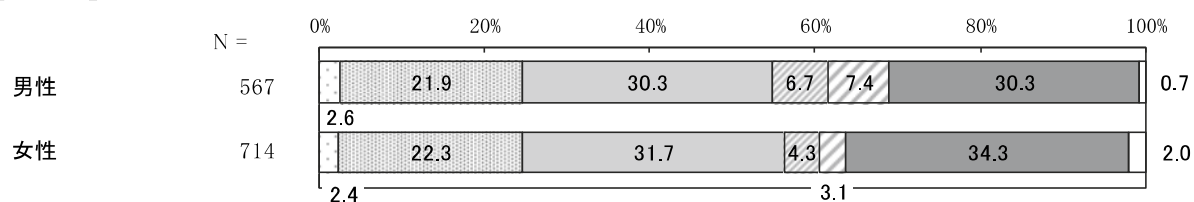
単位：％

	満足	不満	差
①今回調査(平成 30 年度)	24.7	10.4	14.3
②市民意識調査(平成 29 年度)	26.2	8.7	17.5
③市民意識調査(平成 28 年度)	23.1	12.3	10.8
①－③	1.6	-1.9	3.5

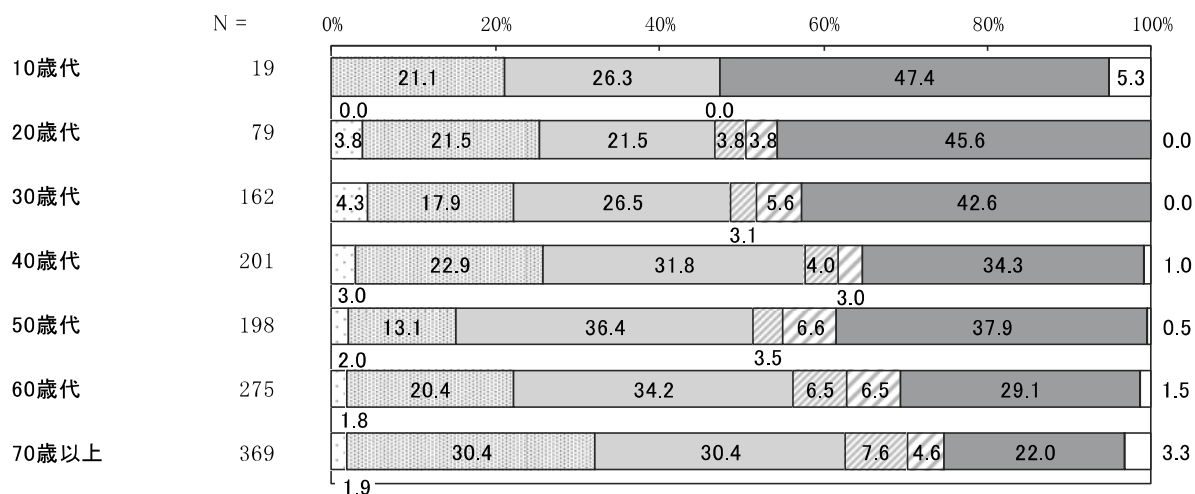
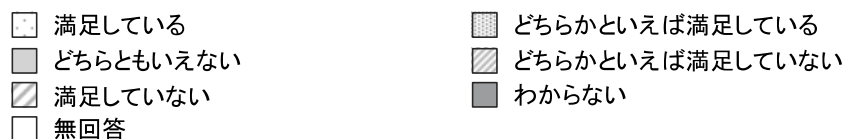
* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

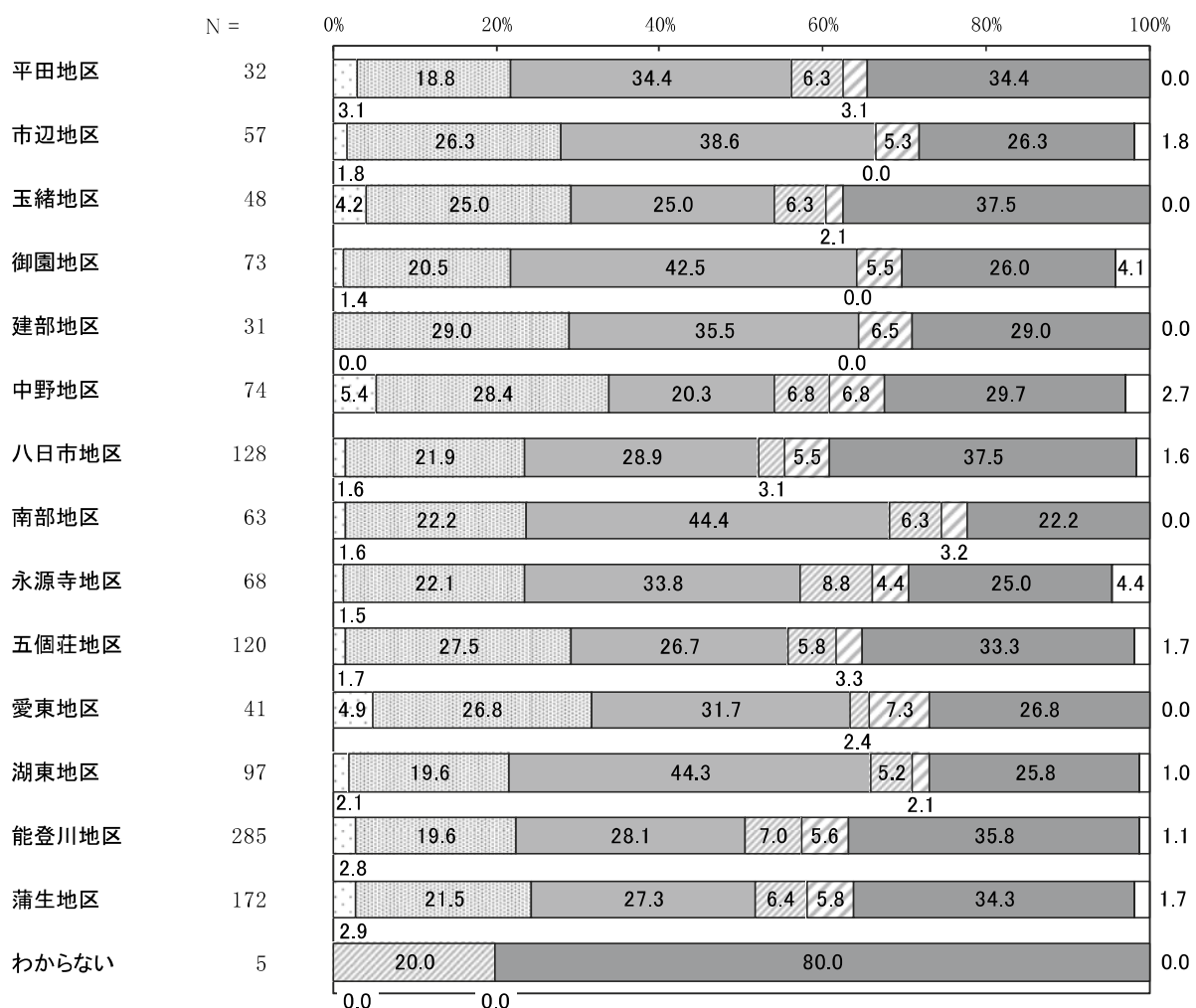
【性 別】



【年代別】



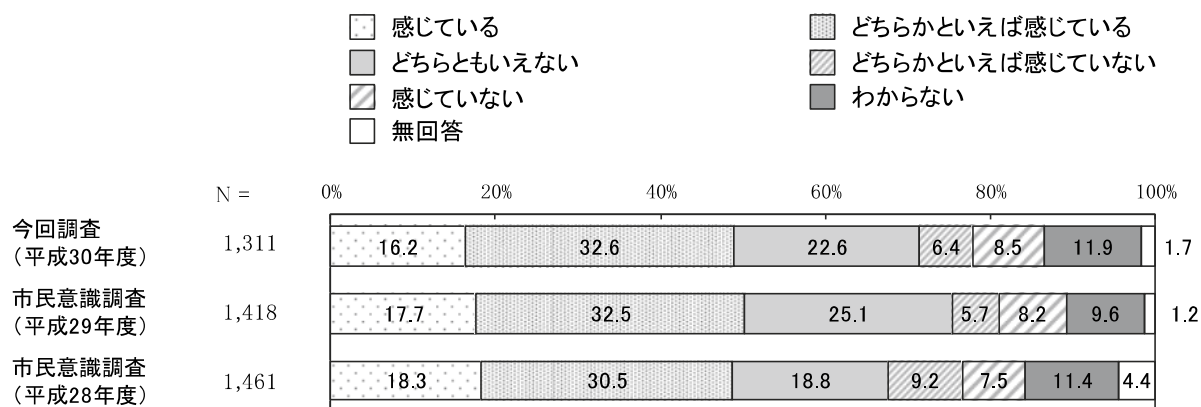
【居住地区別】



問 21 あなたは、暮らしや仕事等日々の営みの中で自然環境との関わりを感じていますか。《○
1つ》

半数近くが自然環境との関わりを感じている

- ・ 日々の営みの中で自然環境との関わりを感じているかについては、「感じている」が 16.2%、「どちらかといえば感じている」が 32.6%で、これらを合わせると 48.8%となり、半数近くの人が自然環境との関わりを感じています。一方、「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」を合わせると 14.9%となっています。また、「どちらともえいない」が 22.6%、「わからない」が 11.9%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、自然環境との関わりを感じていない人（「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」の合計）の割合は減少しています。
- ・ 年代別では年齢があがるほど、居住地区別では永源寺地区、平田地区、愛東地区で、自然環境との関わりを感じている人（前述）が多くみられます。



単位：％

	感じている	感じていない	差
①今回調査(平成 30 年度)	48.8	14.9	33.9
②市民意識調査(平成 29 年度)	50.2	13.9	36.3
③市民意識調査(平成 28 年度)	48.8	16.7	32.1
①－③	0.0	-1.8	1.8

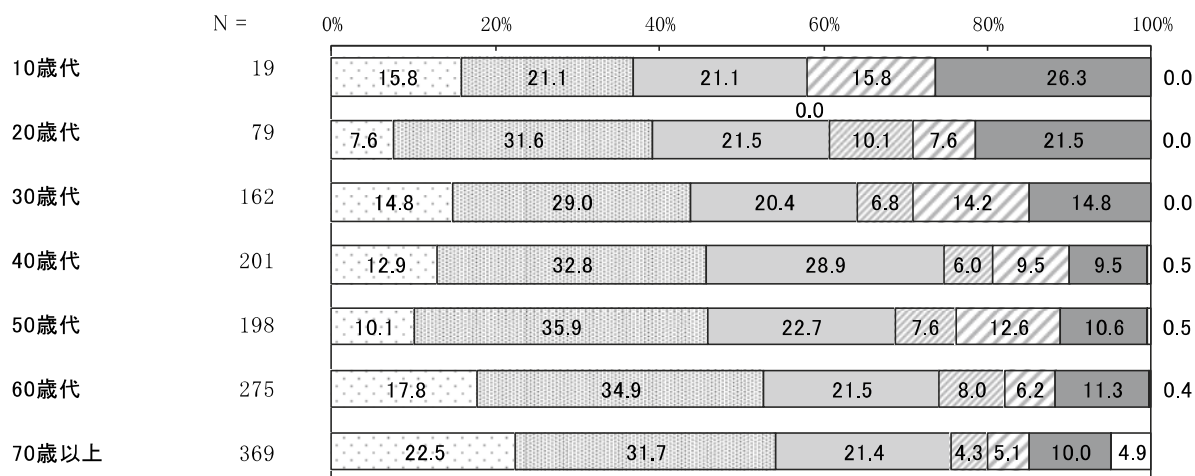
* 感じている:「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計

* 感じていない:「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」の合計

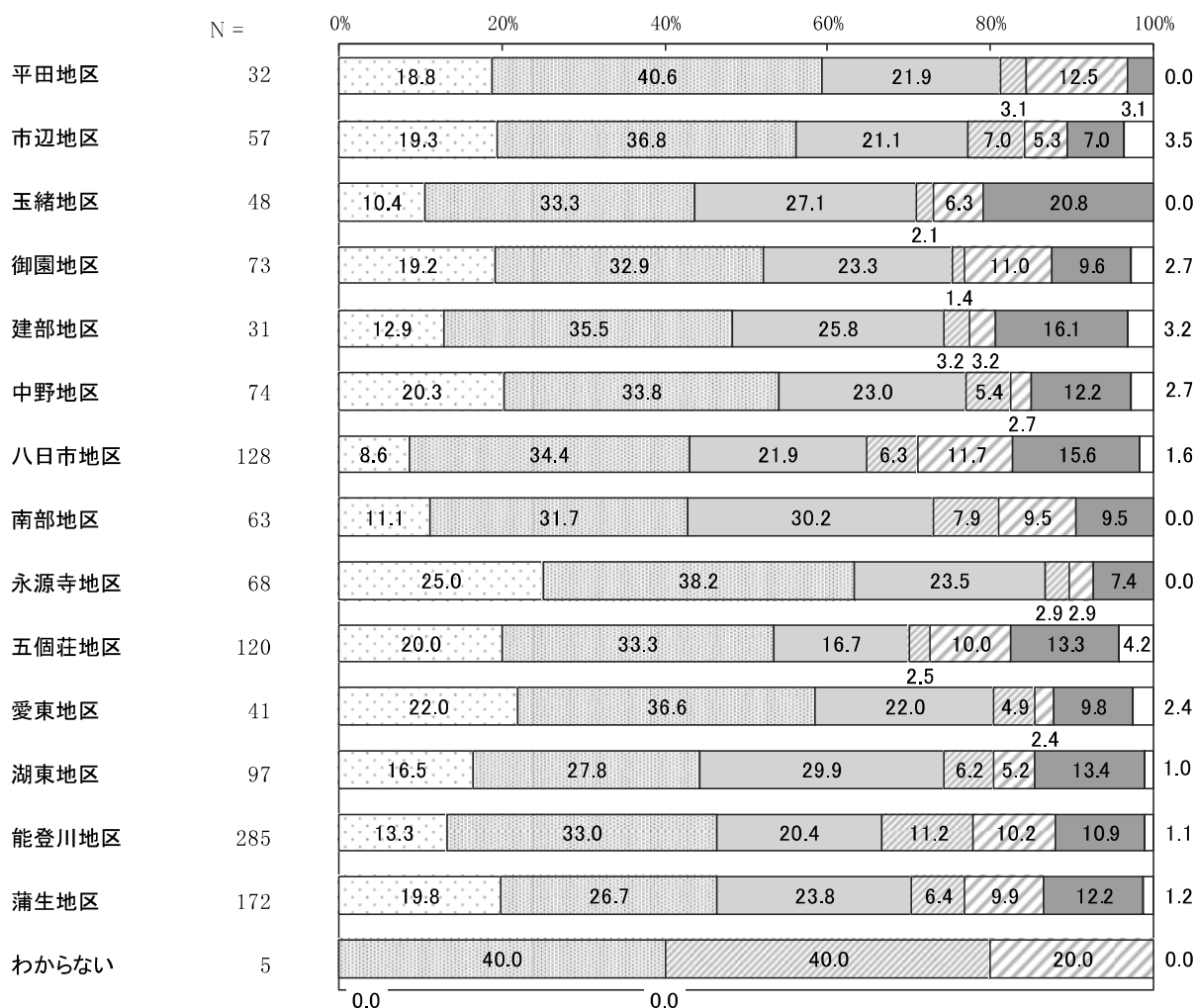
【性 別】



【年代別】



【居住地区別】

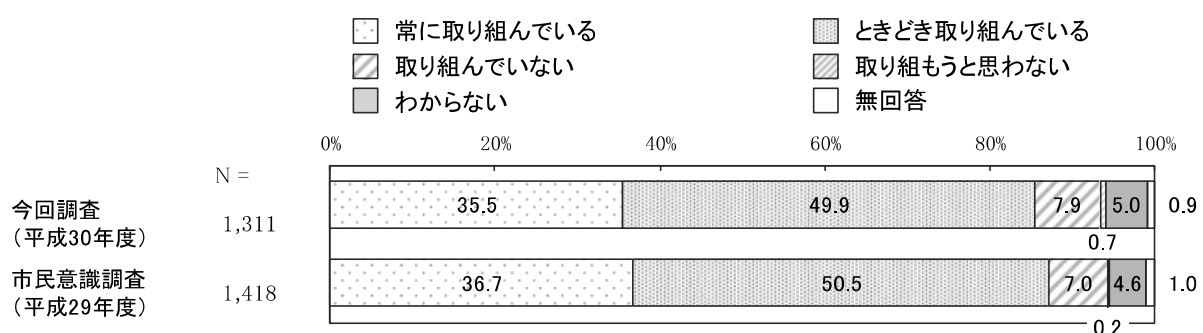


問 22 あなたは、次の低炭素・資源循環型の取組を行っていますか。

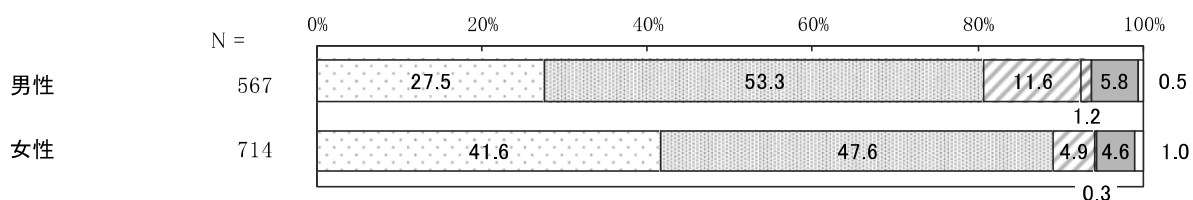
①あなたは、環境にやさしい取組を行っていますか。(使用していない電気の消灯、マイバツクの持参、省エネ機器の選択、自転車や公共交通機関の利用等)《○1つ》

9割近くが環境にやさしい取組を行っている

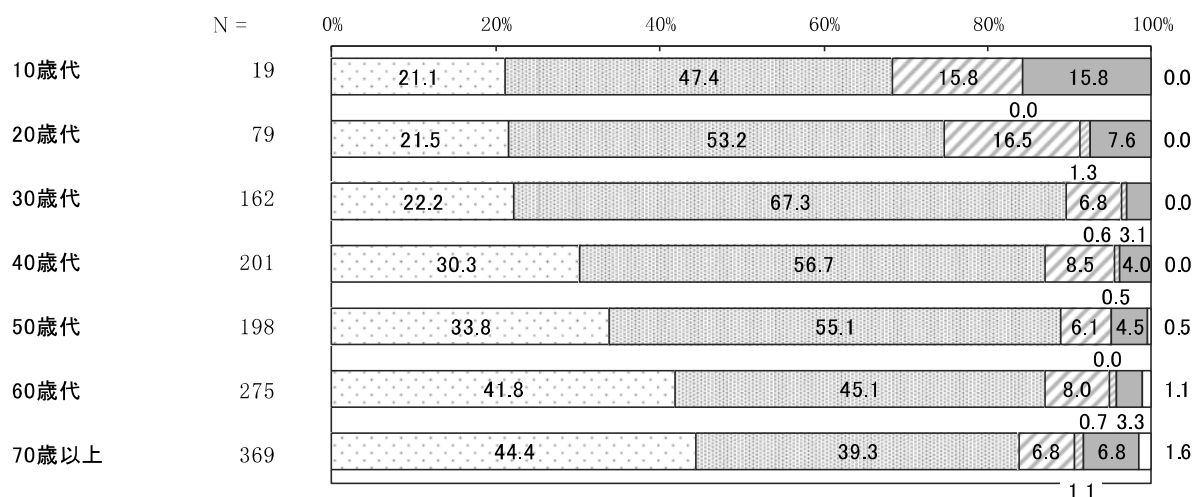
- ・ 環境にやさしい取組の実施状況については、「常に取り組んでいる」が35.5%、「ときどき取り組んでいる」が49.9%で、これらを合わせると85.4%となり、9割近くの人に取り組んでいると回答しています。一方、「取り組んでいない」は7.9%、「取り組もうと思わない」は0.7%とわずかでした。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では年齢があがるほど、居住地区別では平田地区、南部地区で、環境にやさしい取組を「常に取り組んでいる」人が多くみられます。



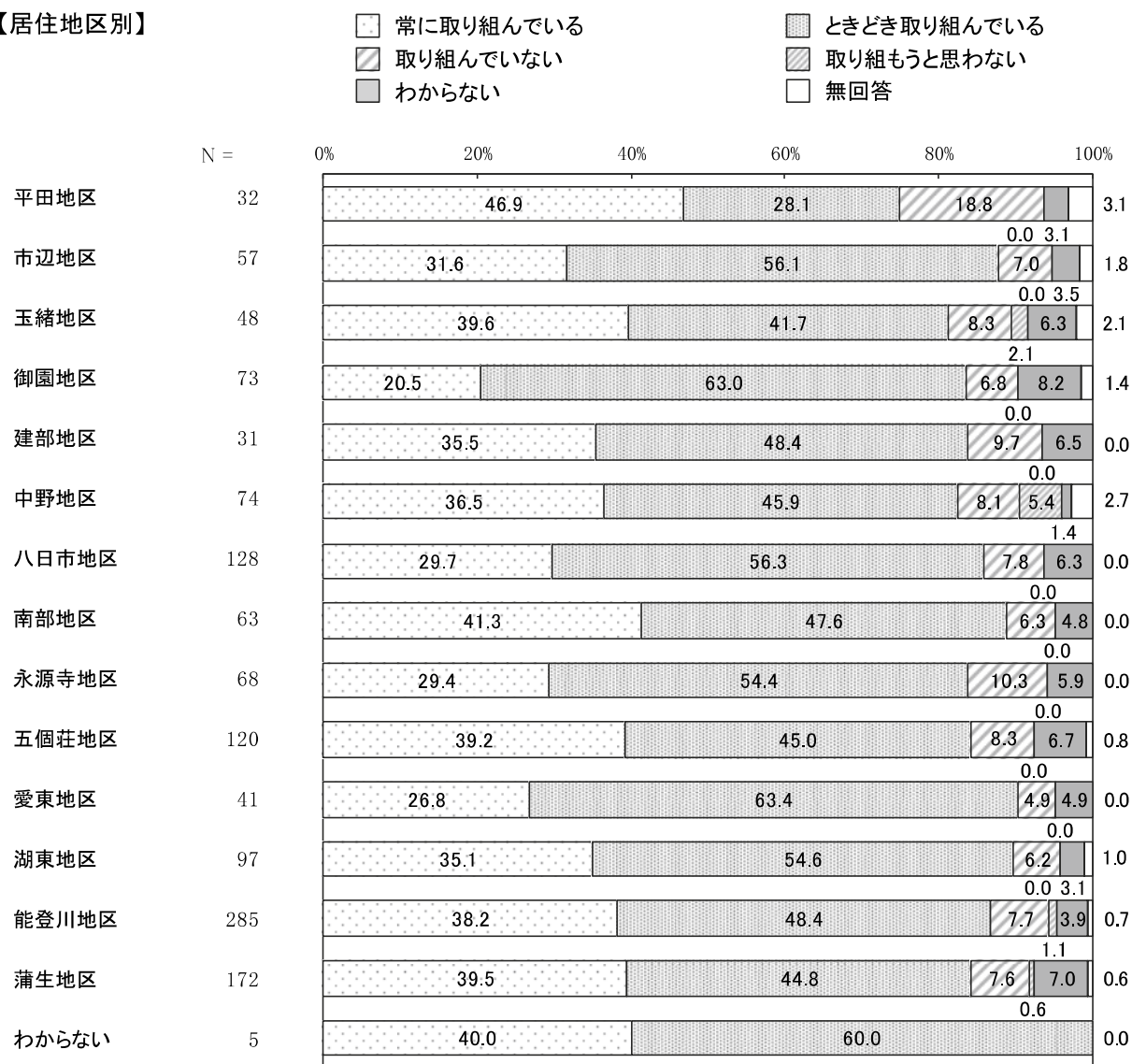
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



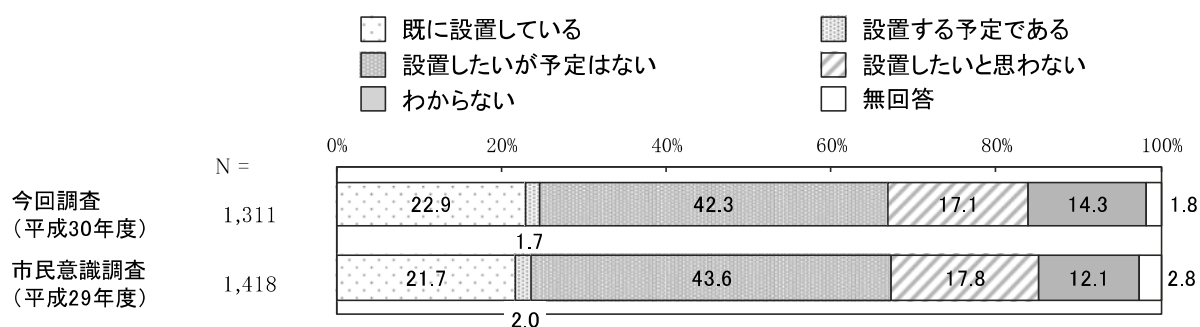
問 22 あなたは、次の低炭素・資源循環型の取組を行っていますか。

②あなたは、自宅に再生可能エネルギー・省エネ設備を設置していますか。(太陽光発電や雨水貯留施設、太陽熱温水器、エネファーム、蓄電システムの設置等)《○1つ》

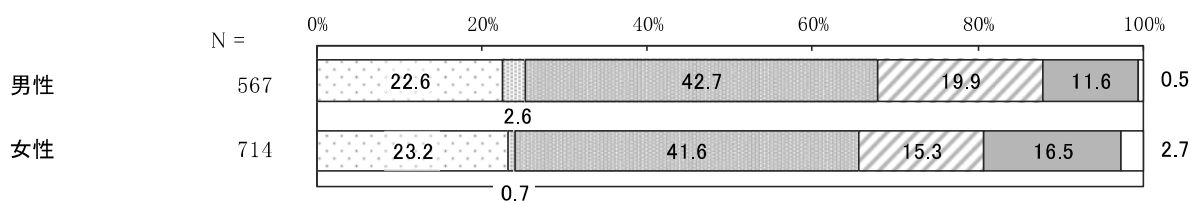
※エネファーム…家庭においてガス等を使って発電し、発電時の排熱を給湯等に利用するシステム

2割が設置（予定含む。）、設置したいも含めると7割近く

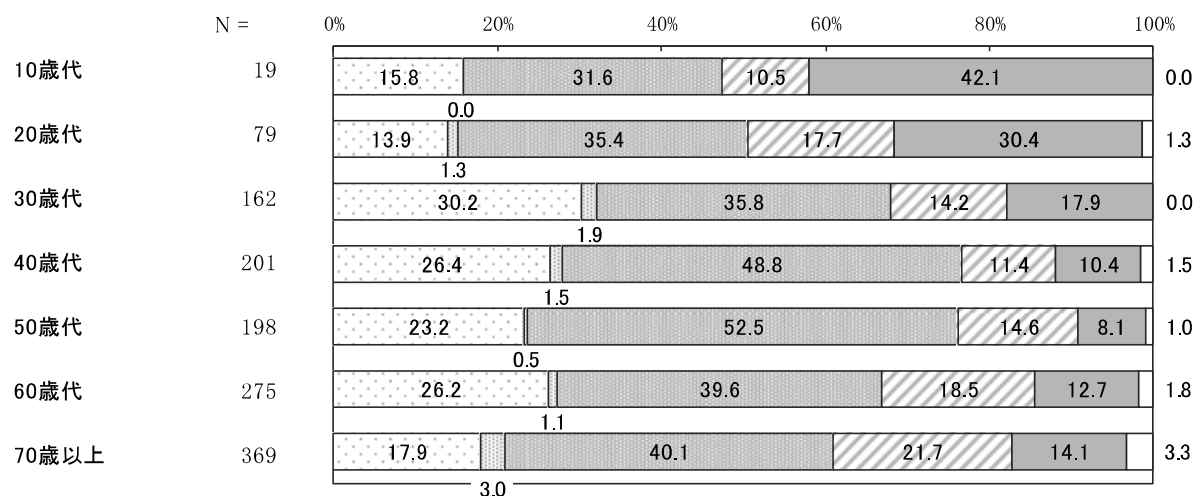
- ・ 自宅に再生可能エネルギー・省エネ設備を設置しているかについては、「既に設置している」が22.9%、「設置する予定である」が1.7%で、これらを合わせると24.6%となり、2割の人が設置しています（予定含む。）。また、「設置したいが予定はない」は42.3%で、これも合わせると66.9%と7割近くになります。一方、「設置したいと思わない」は17.1%となっています。
- ・ 年代別では30歳代で、居住地区別では愛東地区、市辺地区で「既に設置している」人が3割前後みられます。また、予定も含めると、年代別では40～50歳代で8割近く、居住地区別では市辺地区で8割近く、五個荘地区、蒲生地区、建部地区でも7割となっています。



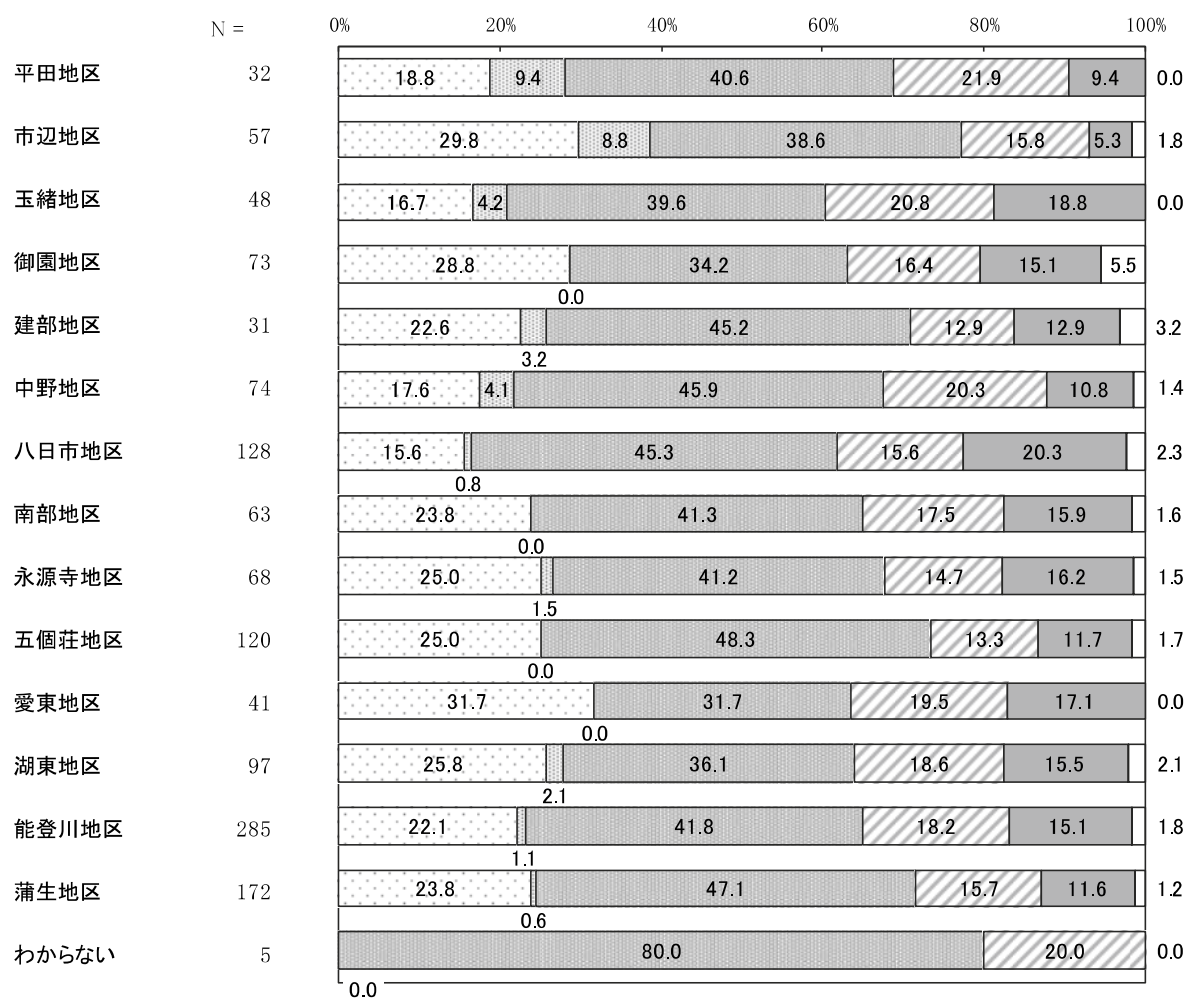
【性 別】



【年代別】



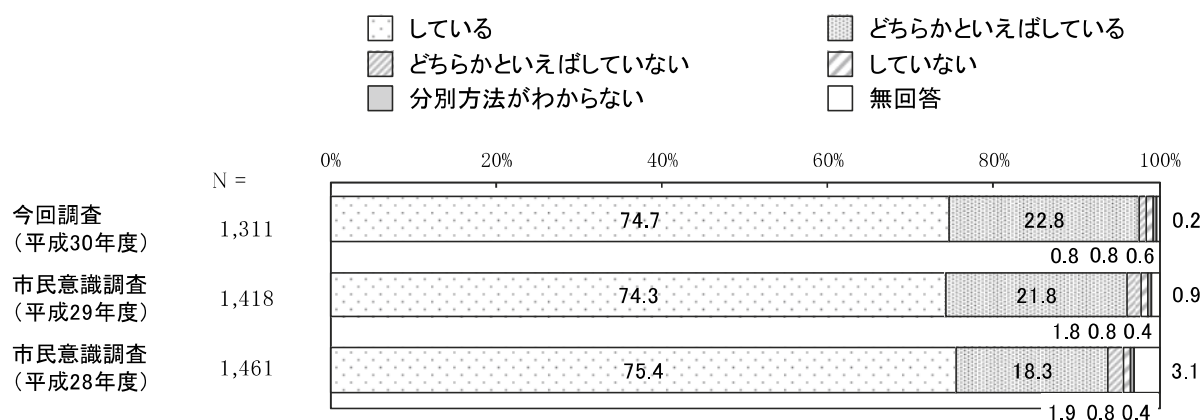
【居住地区別】



問 23 あなたは、ごみと資源の分別をしていますか。《○1つ》

ほとんどの人がごみと資源の分別をしている

- ・ ごみと資源の分別をしているかについては、「している」が 74.7%と最も多く、次の「どちらかといえばしている」の 22.8%と合わせると 97.5%となり、ほとんどの人が分別をしています。一方、「どちらかといえばしていない」と「していない」を合わせても、わずか 1.6%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、ごみと資源の分別をしている人（「している」と「どちらかといえばしている」の合計）の割合は、年々増加しています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では年齢が上がるほど（20～30 歳代はほぼ同じ割合）、居住地区別では愛東地区、平田地区、玉緒地区で、ごみと資源の分別を「している」人が多くみられます。



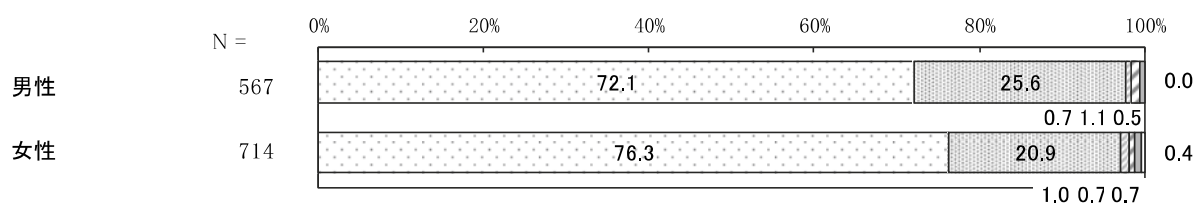
単位：％

	している	していない	差
①今回調査(平成 30 年度)	97.5	1.6	95.9
②市民意識調査(平成 29 年度)	96.1	2.6	93.5
③市民意識調査(平成 28 年度)	93.7	2.7	91.0
①－③	3.8	-1.1	4.9

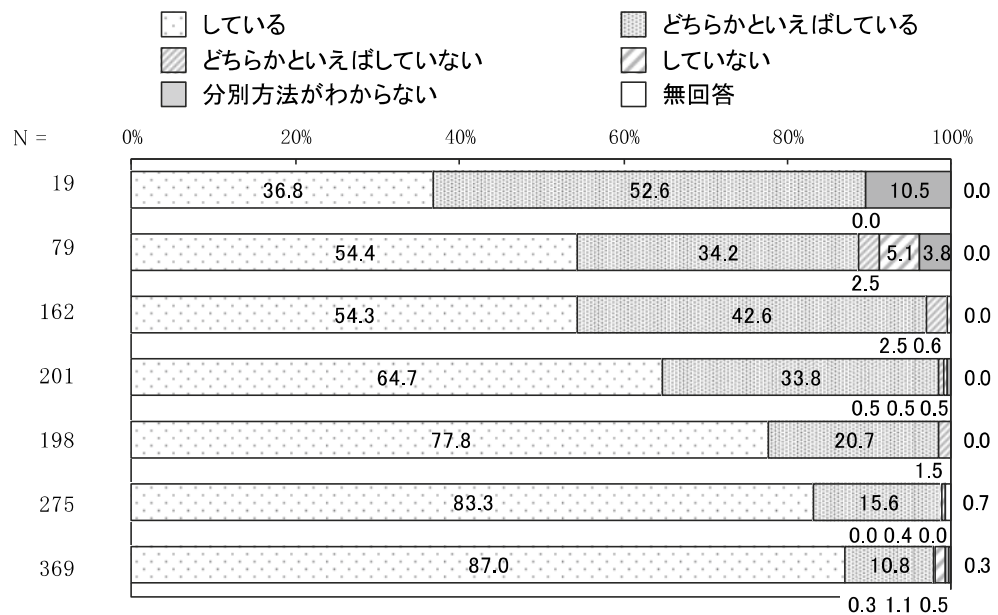
*している:「している」と「どちらかといえばしている」の合計

*していない:「どちらかといえばしていない」と「していない」の合計

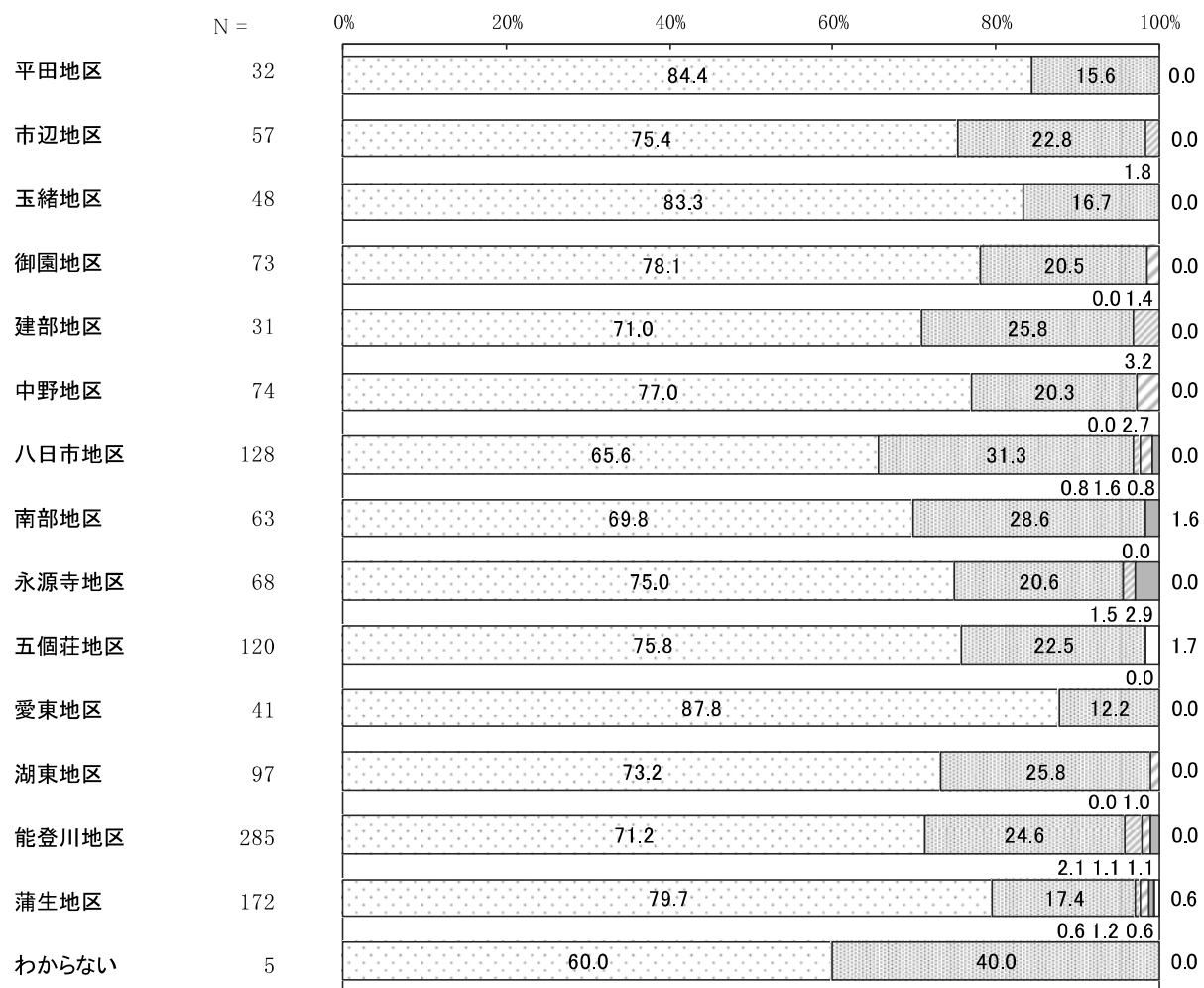
【性 別】



【年代別】



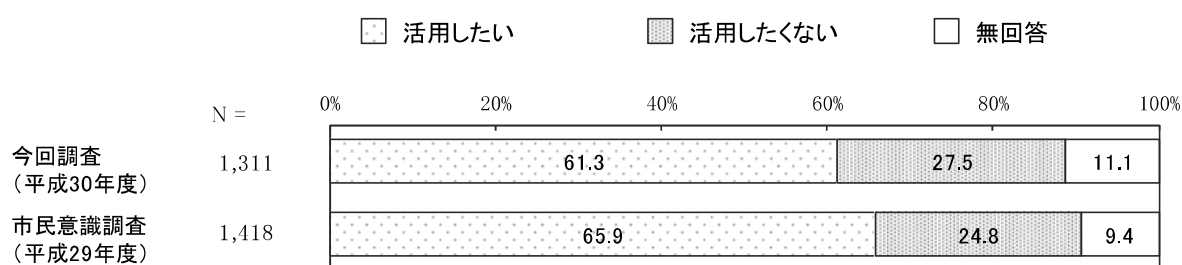
【居住地区別】



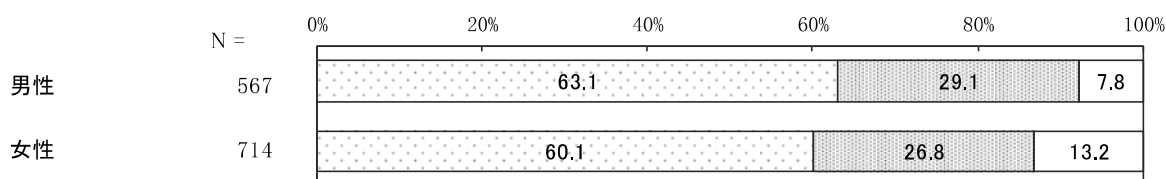
問 24 市内の土地の約 5 6 %が森林であり、鈴鹿山系の山間部では木材の生産が行われています。あなたは、住宅等の新築・改築時に市内産木材を活用したいと思いますか。《○1つ》

6割が市内産木材を「活用したい」

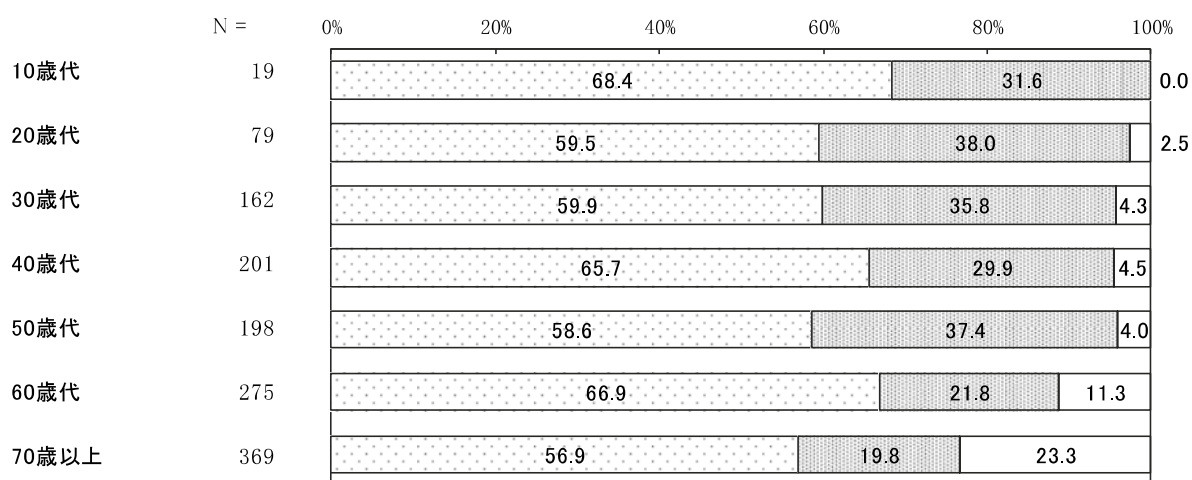
- ・ 住宅等の新築・改築時に市内産木材を活用したいと思うかについては、「活用したい」が 61.3%で、「活用したくない」が 27.5%となっています。
- ・ 平成 29 年度の調査と比較すると、活用したい人の割合が減少しています。
- ・ 年代別では 10 歳代、40 歳代、60 歳代で 7 割近く、居住地区別では玉緒地区で 8 割近くと、住宅等の新築・改築時に市内産木材の活用意向が強くなっています。



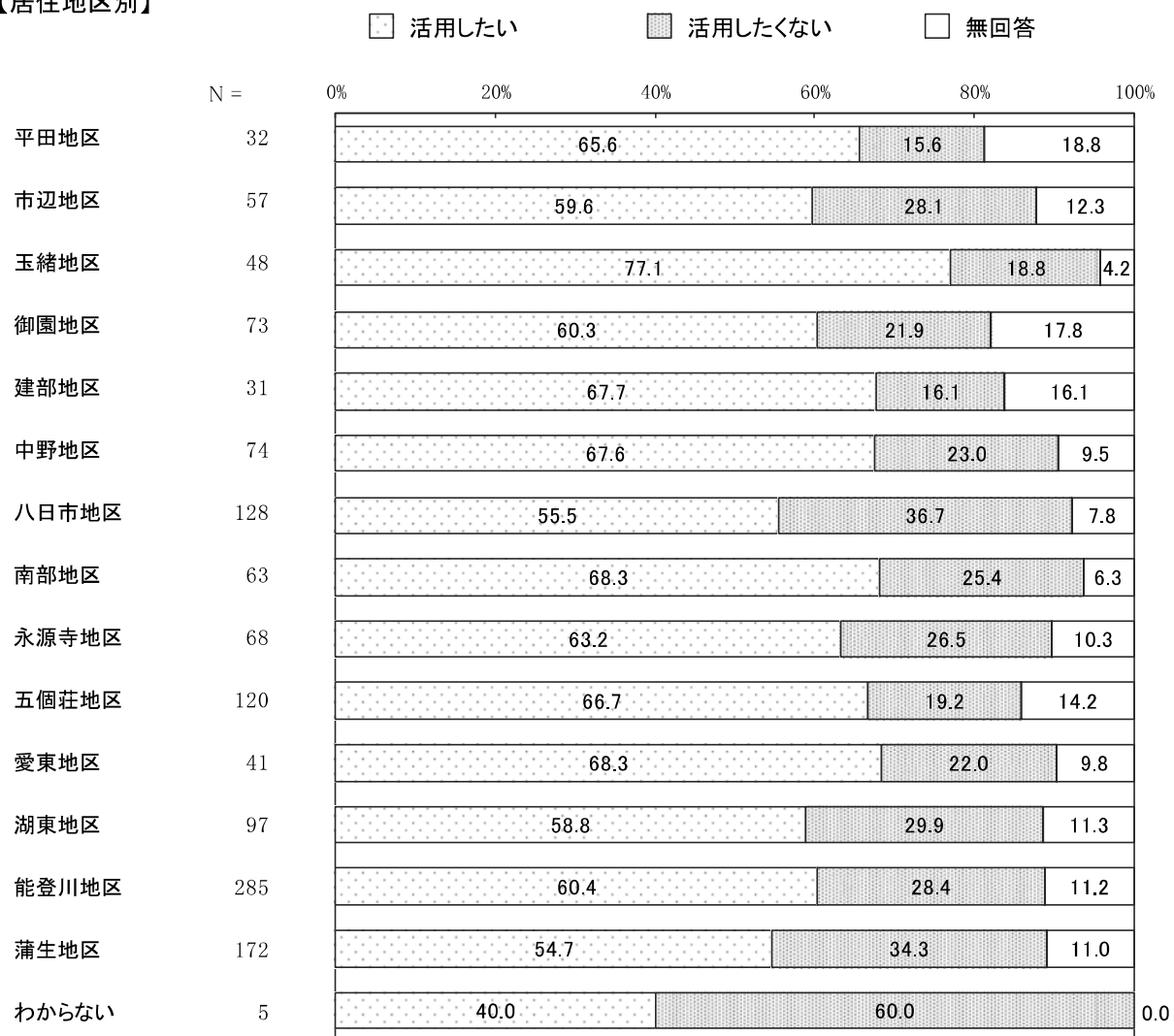
【性 別】



【年代別】



【居住地区別】

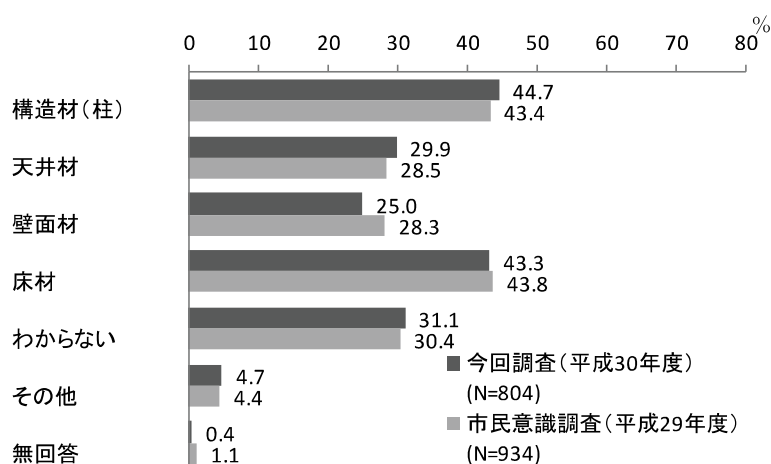


問 24-1 問 24 で「1. 活用したい」とお答えの方におたずねします。

具体的に住宅等のどの部分で活用したいですか。《あてはまるものすべてに○》

4 割が「構造材（柱）」や「床材」

- ・ 住宅等のどの部分で活用したいかについては、「構造材（柱）」が 44.7%、「床材」が 43.3%と、多くあげられています。また、「わからない」と回答した人も 31.1%と 3 割います。
- ・ 性別では、男性は「構造材（柱）」、女性は「構造材（柱）」と「床材」への活用を希望する人が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、10 歳代と 40 歳代は「床材」、30 歳代と 50 歳以上は「構造材（柱）」への活用を希望する人が、20 歳代は「わからない」が最も多くなっています。
- ・ 居住地区別では、八日市地区で「床材」と「構造材（柱）」の両方、五個荘地区、南部地区、平田地区、能登川地区、玉緒地区で「床材」、ほかの地区で「構造材（柱）」への活用を希望する人が最も多くなっています。なお、玉緒地区では「わからない」も同様に最も多くあげられています。



【性 別】

区 分	有効回答数(件)	単位: %						
		構造材(柱)	天井材	壁面材	床材	わからない	その他	無回答
男性	358	48.3	31.3	30.2	46.1	27.1	5.9	0.3
女性	429	41.3	28.4	20.7	41.3	35.2	3.3	0.5

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	構造材 (柱)	天井材	壁面材	床材	わからない	その他	無回答
10歳代	13	30.8	30.8	53.8	61.5	15.4	0.0	0.0
20歳代	47	23.4	12.8	14.9	36.2	48.9	2.1	0.0
30歳代	97	47.4	21.6	19.6	40.2	36.1	3.1	0.0
40歳代	132	35.6	25.0	20.5	40.9	39.4	4.5	0.0
50歳代	116	45.7	28.4	28.4	38.8	32.8	4.3	0.9
60歳代	184	50.0	35.9	29.9	44.0	27.2	6.5	0.5
70歳以上	210	49.5	35.7	24.8	47.6	23.3	5.2	0.5

【居住地区別】

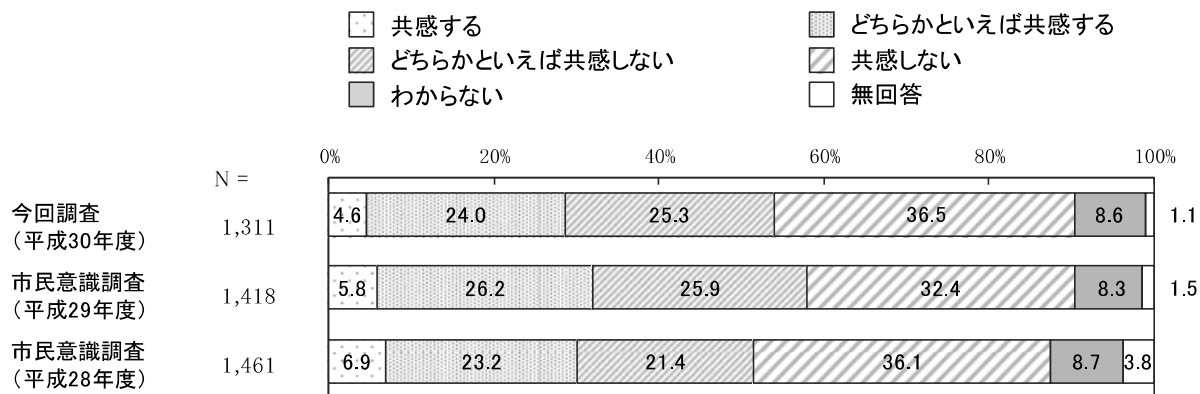
単位: %

区 分	有効回答数 (件)	構造材 (柱)	天井材	壁面材	床材	わからない	その他	無回答
平田地区	21	38.1	38.1	28.6	47.6	28.6	4.8	0.0
市辺地区	34	64.7	38.2	17.6	47.1	17.6	2.9	0.0
玉緒地区	37	32.4	27.0	27.0	37.8	37.8	5.4	0.0
御園地区	44	38.6	31.8	15.9	36.4	36.4	4.5	0.0
建部地区	21	47.6	28.6	14.3	23.8	38.1	0.0	0.0
中野地区	50	54.0	36.0	28.0	50.0	26.0	8.0	0.0
八日市地区	71	40.8	26.8	26.8	40.8	33.8	2.8	0.0
南部地区	43	44.2	30.2	25.6	51.2	23.3	7.0	2.3
永源寺地区	43	53.5	25.6	23.3	39.5	27.9	2.3	2.3
五個荘地区	80	42.5	32.5	25.0	52.5	25.0	2.5	0.0
愛東地区	28	50.0	35.7	35.7	39.3	39.3	3.6	0.0
湖東地区	57	45.6	19.3	17.5	36.8	33.3	10.5	0.0
能登川地区	172	41.3	26.2	25.6	44.2	31.4	6.4	0.6
蒲生地区	94	44.7	36.2	30.9	43.6	35.1	2.1	0.0
わからない	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

問 25 あなたは、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。《○1つ》

6割が「男は仕事、女は家事・育児」という考え方に共感しない

- ・ 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、「どちらかといえば共感しない」が 25.3%、「共感しない」が 36.5%で、これらを合わせると 61.8%となり、6割が共感しないと回答しています。一方、「共感する」と「どちらかといえば共感する」を合わせると 28.6%となり、3割近くとなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、共感しない人（「どちらかといえば共感しない」と「共感しない」の合計）の割合は年々増加しています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では特に 10～30 歳代の若い世代で、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方に共感しない人（前述）が多くみられます。
- ・ 居住地区別では、南部地区、玉緒地区、愛東地区で共感しない人（前述）が、市辺地区で共感する人（「共感する」と「どちらかといえば共感する」の合計）が、ほかの地区より多くみられます。



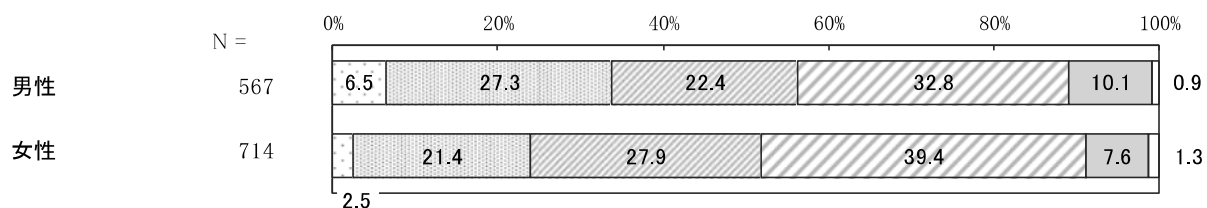
単位：％

	共感する	共感しない	差
①今回調査(平成 30 年度)	28.6	61.8	-33.2
②市民意識調査(平成 29 年度)	32.0	58.3	-26.3
③市民意識調査(平成 28 年度)	30.1	57.5	-27.4
①－③	-1.5	4.3	-5.8

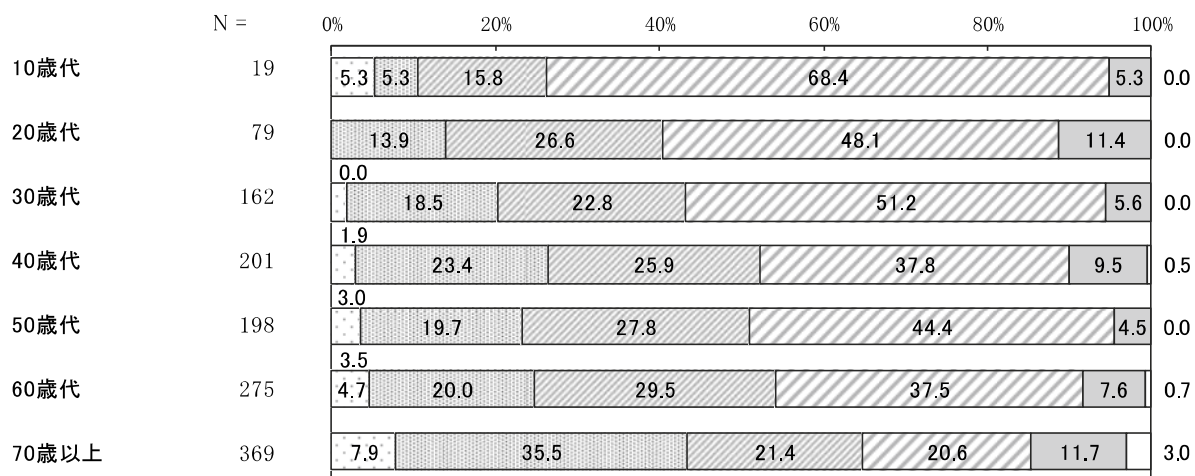
* 共感する:「共感する」と「どちらかといえば共感する」の合計

* 共感しない:「どちらかといえば共感しない」と「共感しない」の合計

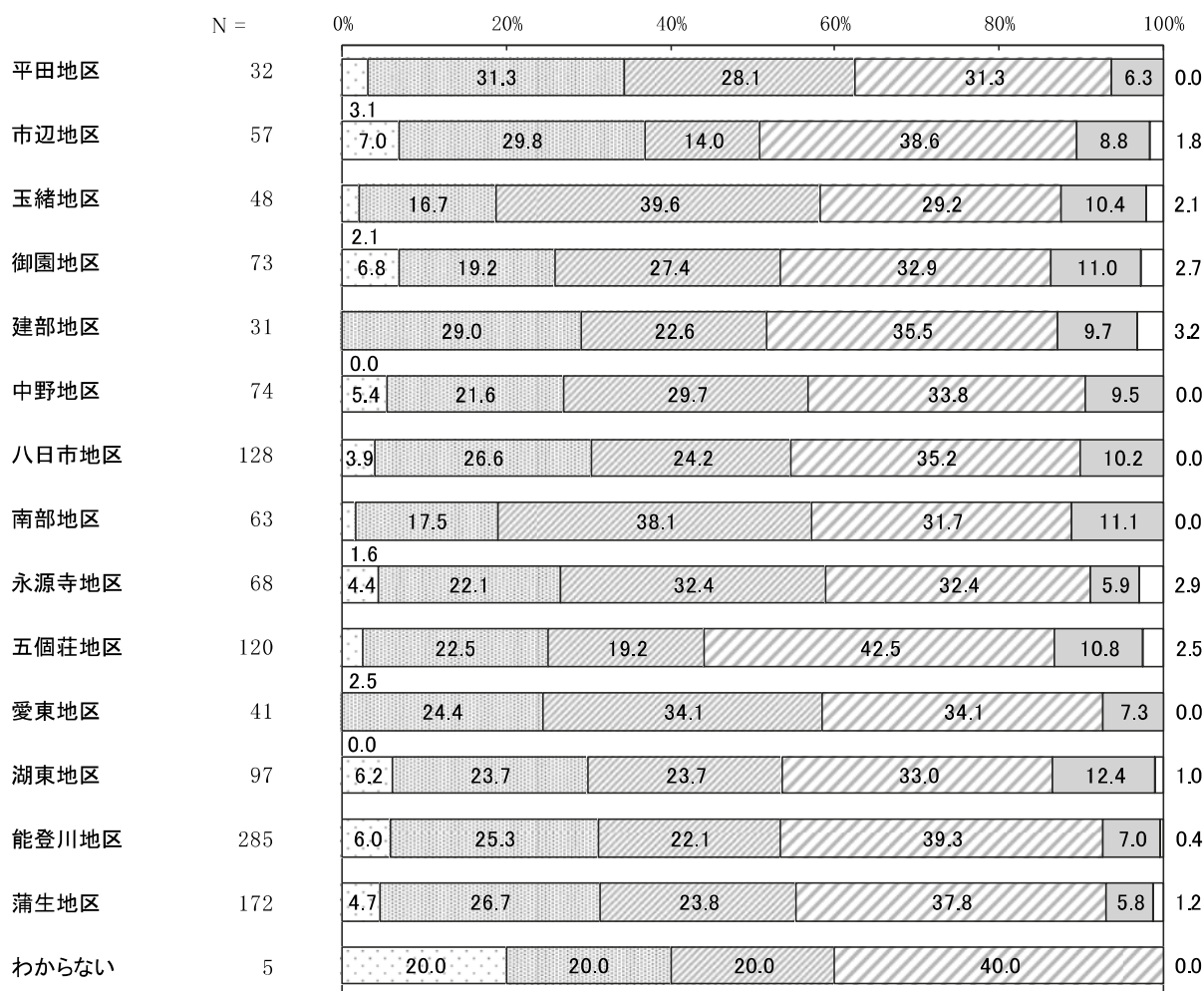
【性 別】



【年代別】



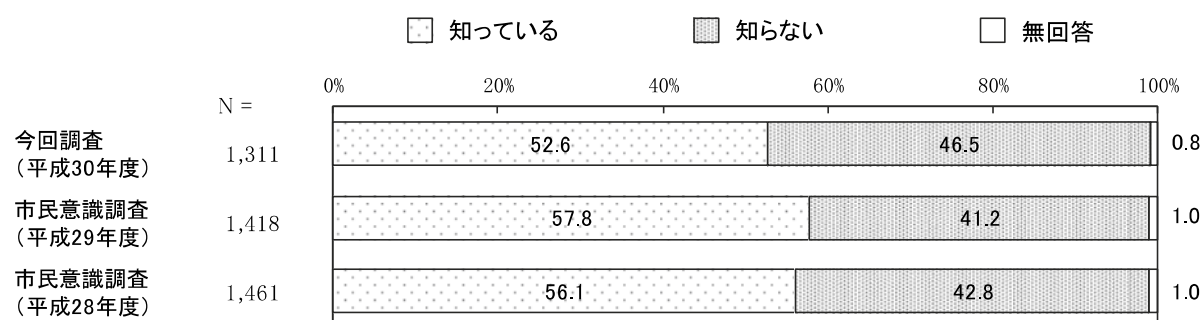
【居住地区別】



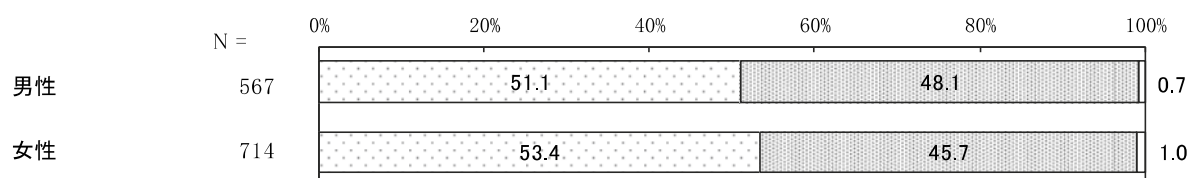
問 26 あなたは、消費者トラブルに巻きこまれた時や、多重債務に陥った時の相談窓口として、市役所内に消費生活センターがあることを知っていますか。《○1つ》

半数が「知っている」、認知度は52.6%

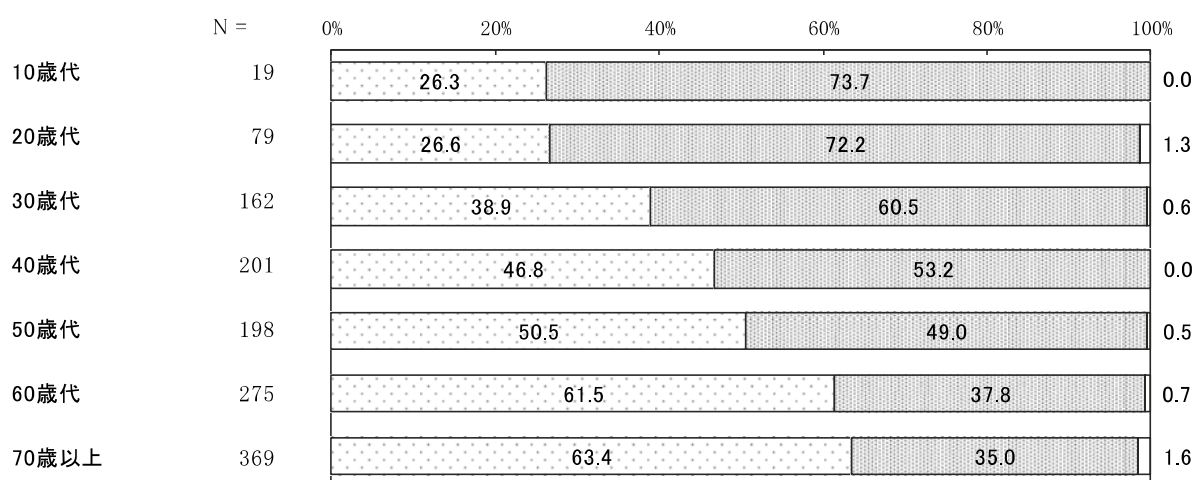
- ・ 市役所内に消費生活センターがあることを知っているかについては、「知っている」が52.6%、「知らない」が46.5%と、半数の人が知っています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、認知度は低下しています。
- ・ 年代別では、若い世代の認知度は低く、年齢があがるほど認知度が高くなる傾向がみられます。
- ・ 居住地区別では、市辺地区、御園地区で認知度が6割と高く、建部地区で「知らない」人が6割となっています。



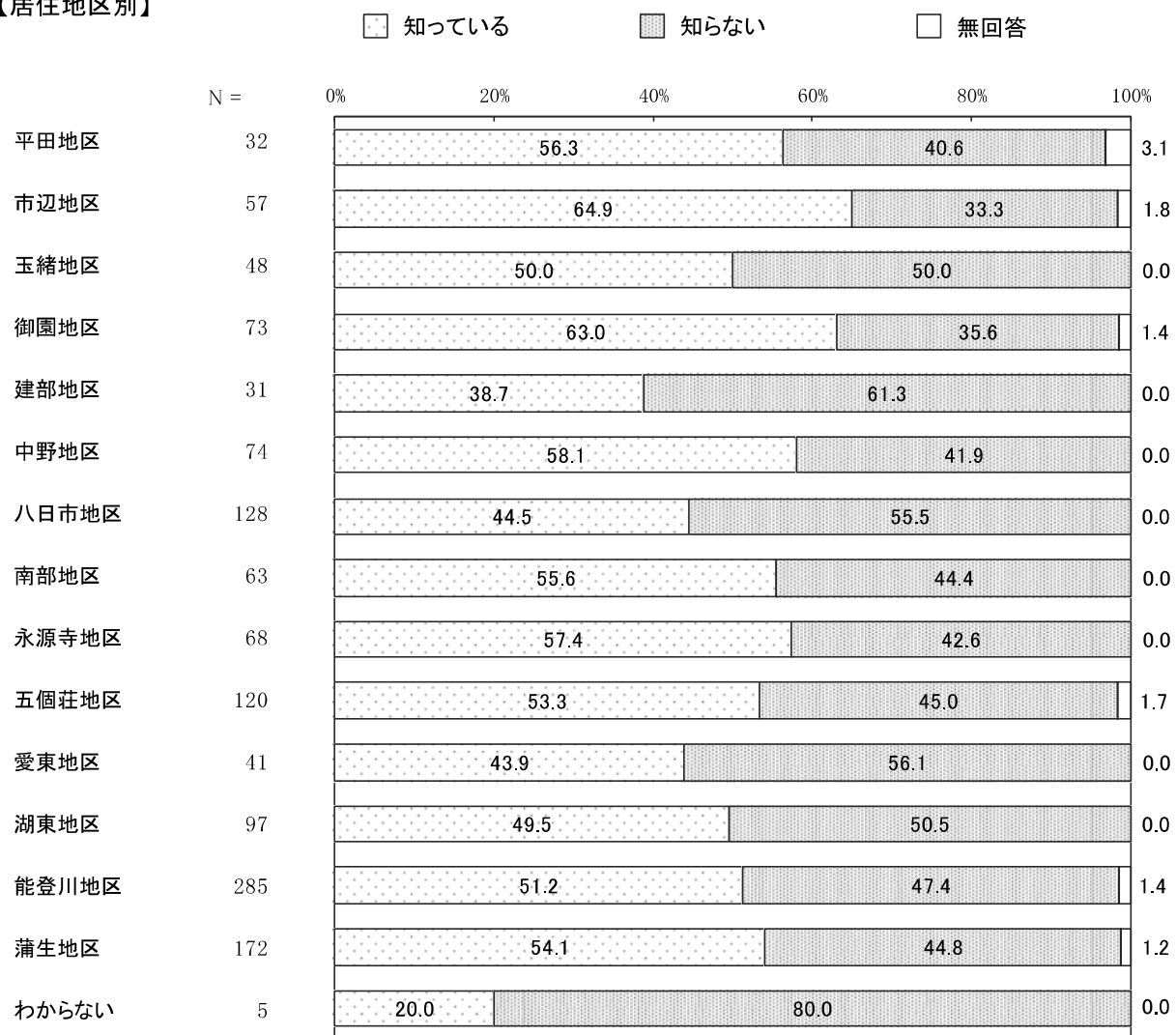
【性 別】



【年代別】



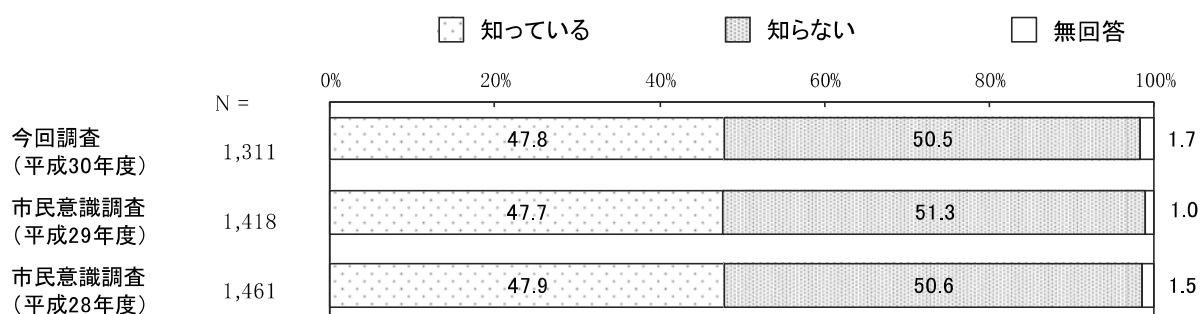
【居住地区別】



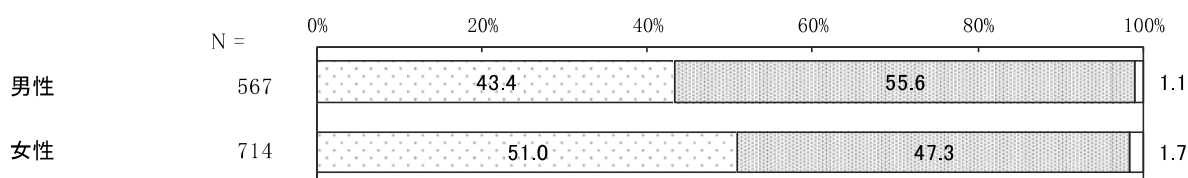
問 27 あなたは、市役所内の市民生活相談室で、暮らしの困りごとに関して法律相談や登記相談等を受けられることを知っていますか。《○1つ》

半数が「知らない」

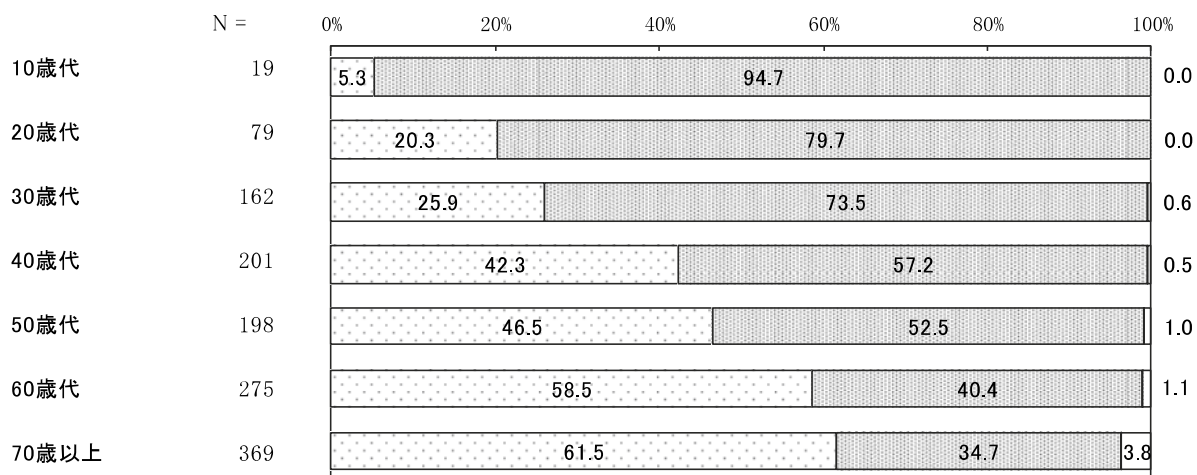
- ・ 市役所内の市民生活相談室で法律相談や登記相談等を受けられることについては、「知っている」が47.8%、「知らない」が50.5%と、知らない人が多くなっています。
- ・ 性別では、女性の認知度が男性より高くなっています。
- ・ 年代別では、若い世代の認知度は低く、年齢があがるほど認知度が高くなる傾向がみられます。
- ・ 居住地区別では、市辺地区で認知度が6割と高く、玉緒地区、建部地区で4割前後と低くなっています。



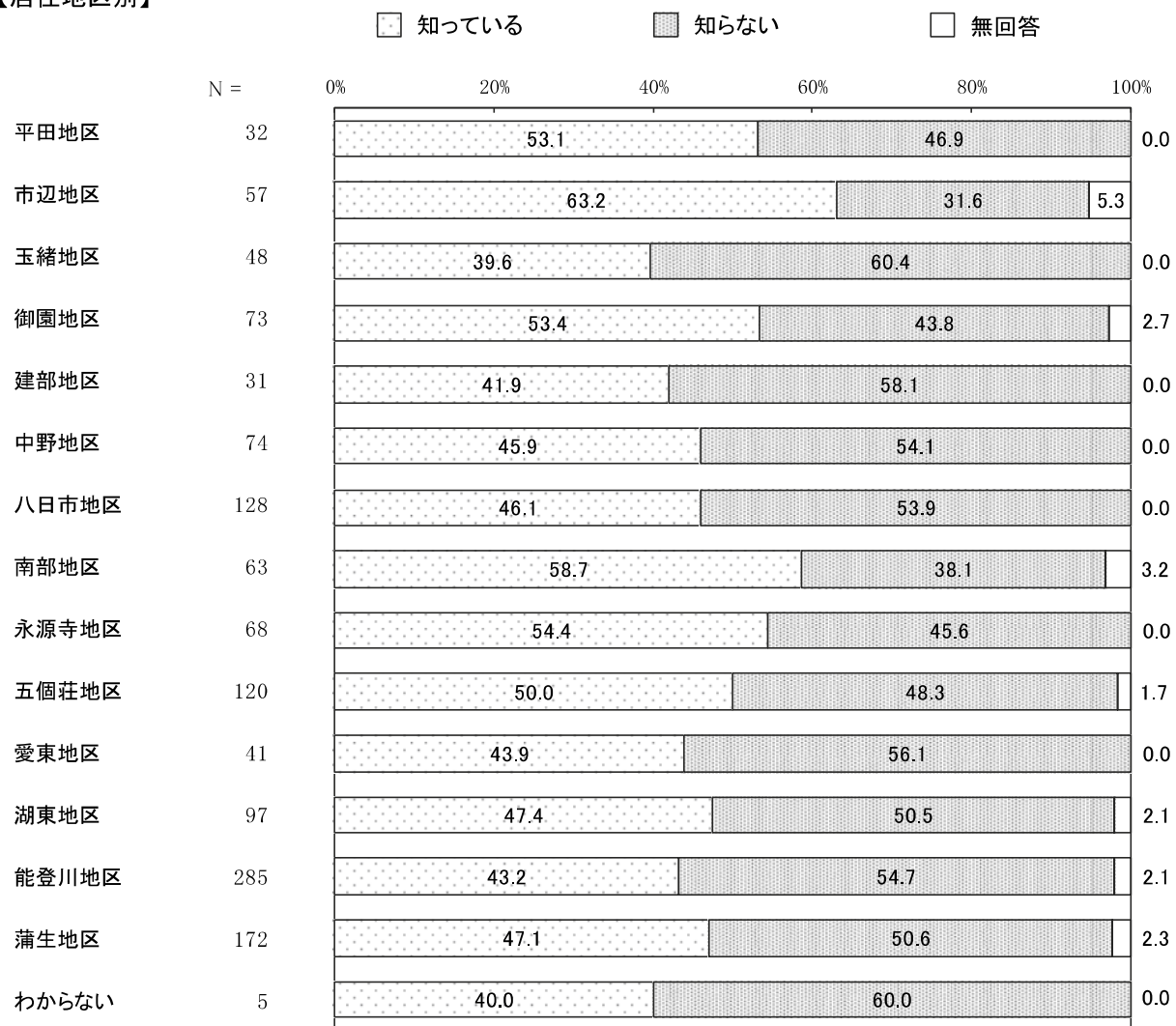
【性 別】



【年代別】



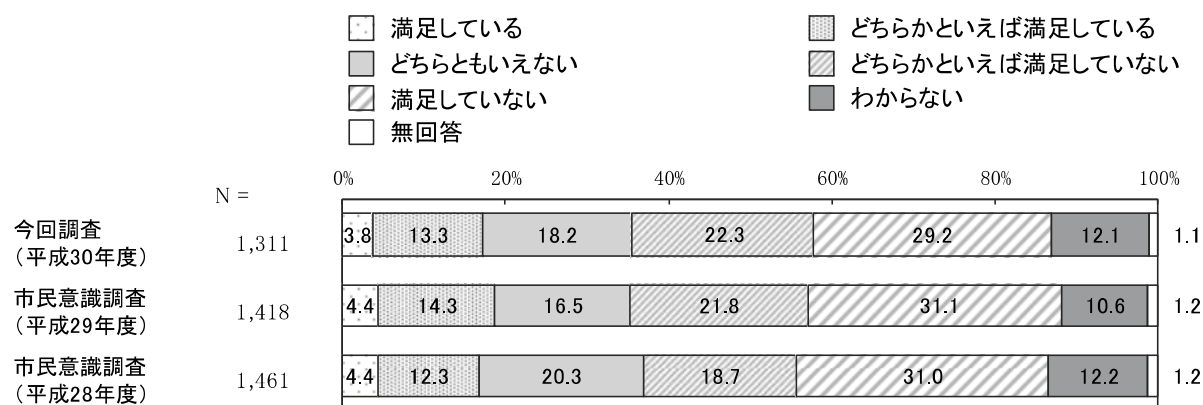
【居住地区別】



問 28 あなたは、市内の鉄道やバス等の公共交通に対して満足していますか。《○ 1 つ》

半数が満足していない

- ・ 公共交通に対する満足度については、「満足していない」が 29.2%、「どちらかといえば満足していない」が 22.3%で、これらを合わせると 51.5%となり、半数の人が満足していないと回答しています。一方、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると 17.1%となり、2 割近くは満足しています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、満足（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合も、満足していない（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合もやや増加しています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも、満足（前述）の割合よりも不満（前述）の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では 20～50 歳代の働き盛り世代で、居住地区別では、玉緒地区、蒲生地区、愛東地区で不満（前述）の割合が高くなっています。



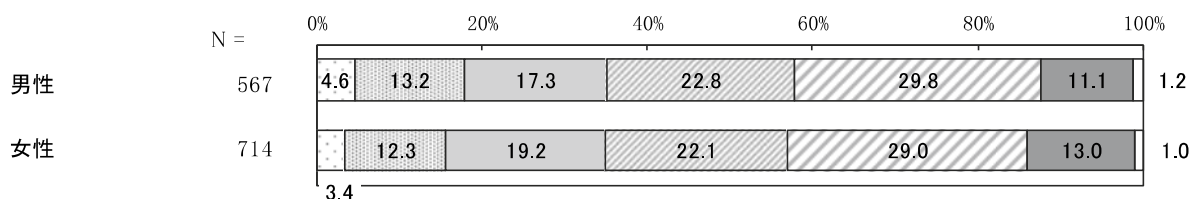
単位：％

	満足	不満	差
①今回調査(平成 30 年度)	17.1	51.5	-34.4
②市民意識調査(平成 29 年度)	18.7	52.9	-34.2
③市民意識調査(平成 28 年度)	16.7	49.7	-33.0
①－③	0.4	1.8	-1.4

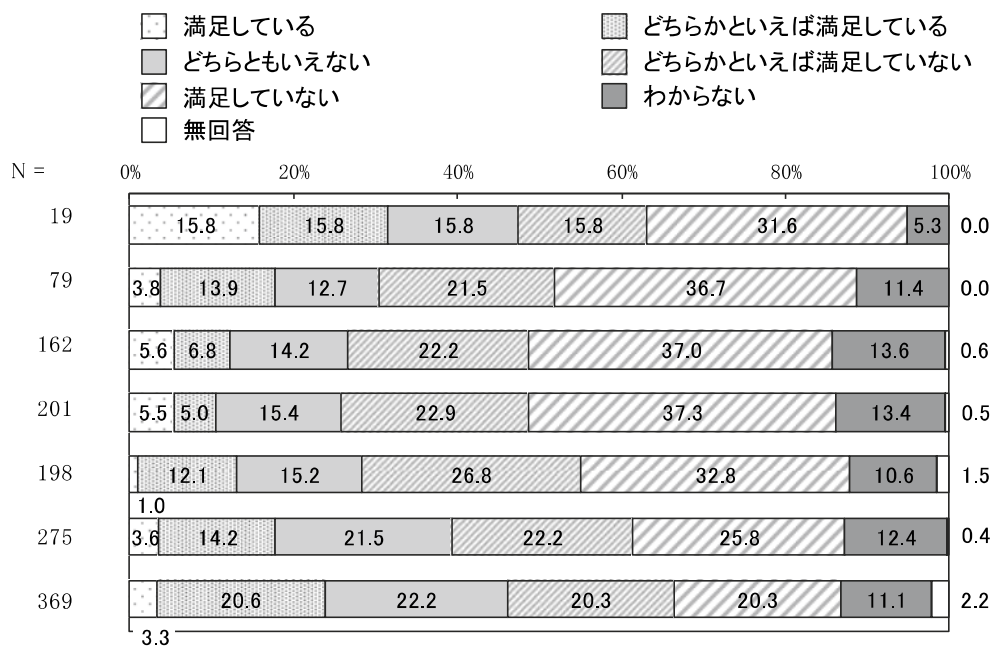
* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

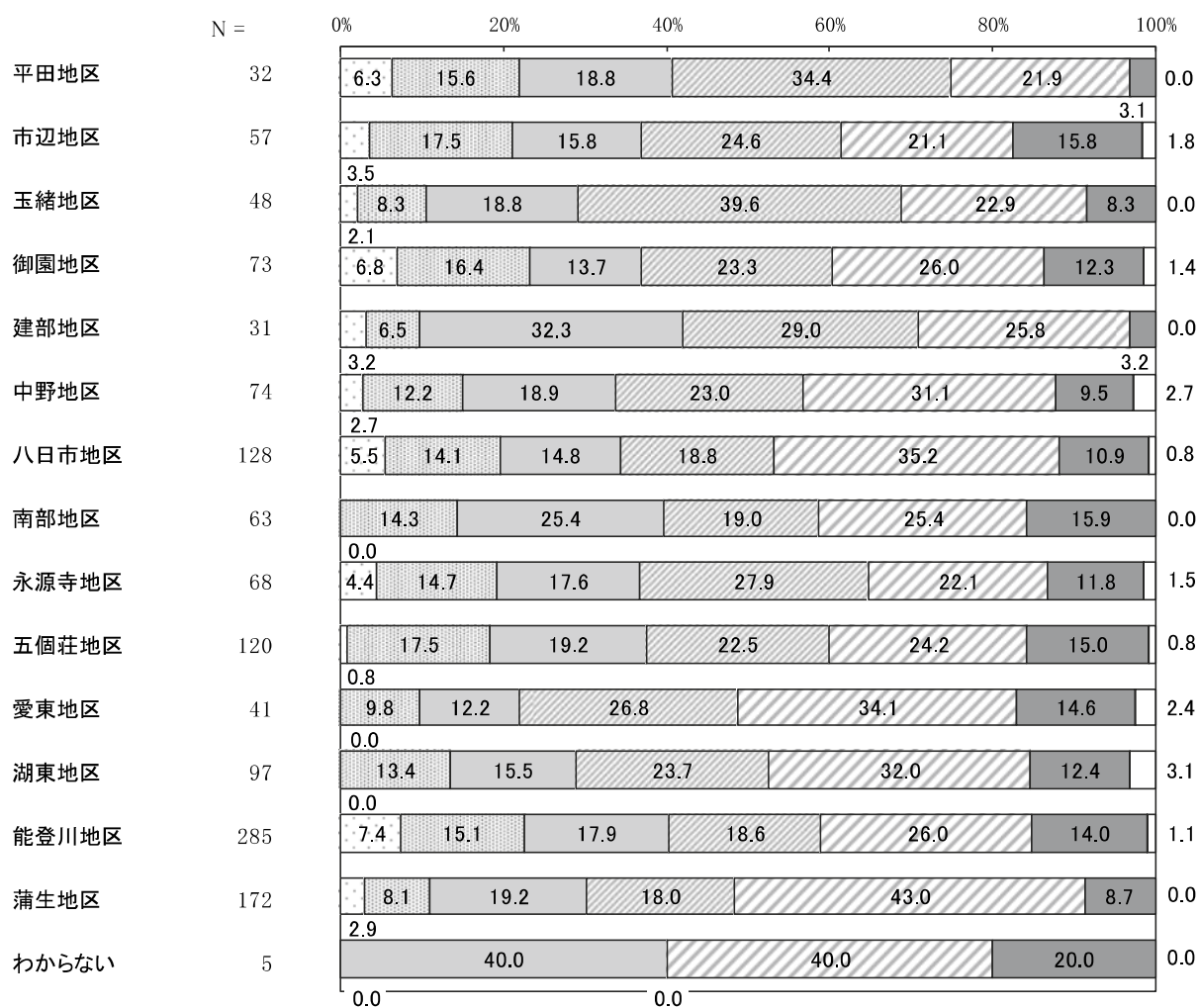
【性 別】



【年代別】



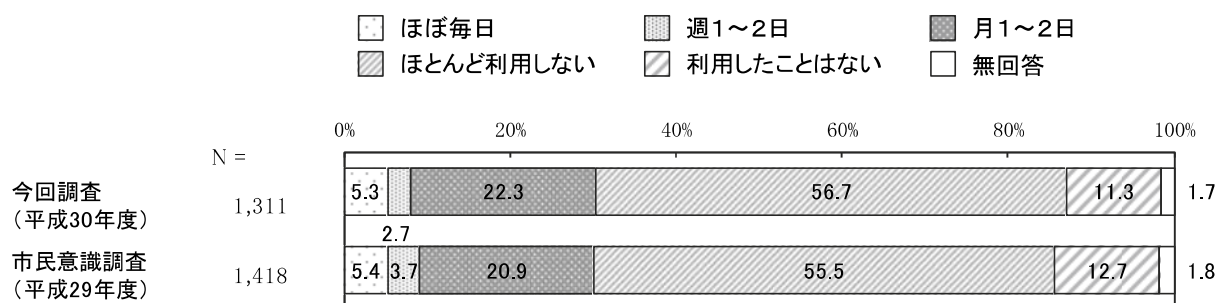
【居住地区別】



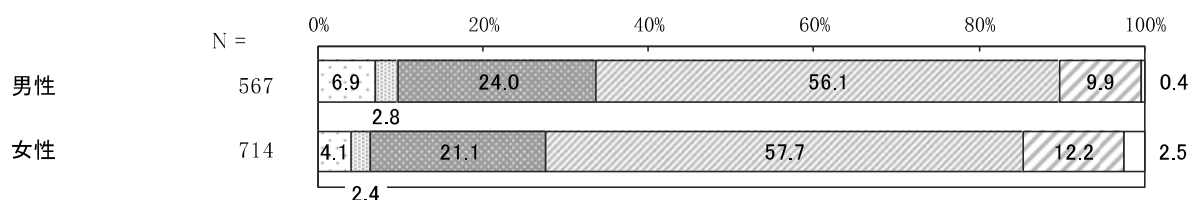
問 29 あなたは、ＪＲ琵琶湖線をどの程度利用しますか。《○１つ》

7割近くが利用していない

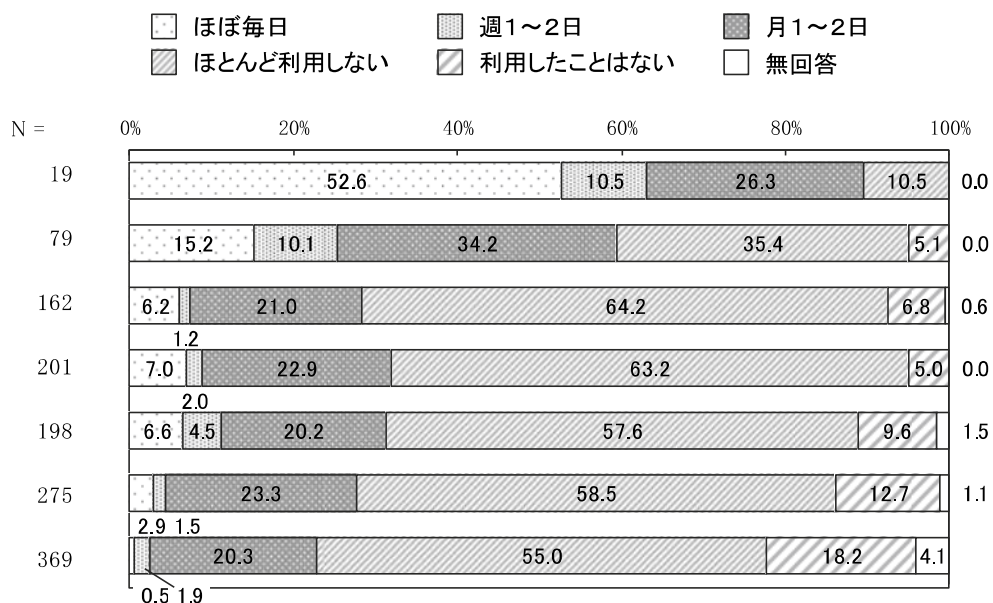
- ・ ＪＲ琵琶湖線の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が56.7%と最も多く、「利用したことはない」の11.3%を合わせると68.0%と、7割近くの人が利用していないと回答しています。一方、利用している人は30.3%で、その内訳は「月１～２日」が22.3%と最も多く、次いで、「ほぼ毎日」が5.3%、「週１～２日」が2.7%となっています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では10～20歳代で、ＪＲ琵琶湖線を利用している人が多くなっています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、能登川地区で「ほぼ毎日」利用している人が多くみられます。一方、永源寺地区で9割近く、御園地区で8割が利用していない（「ほとんど利用しない」と「利用したことはない」の合計）と回答しています。



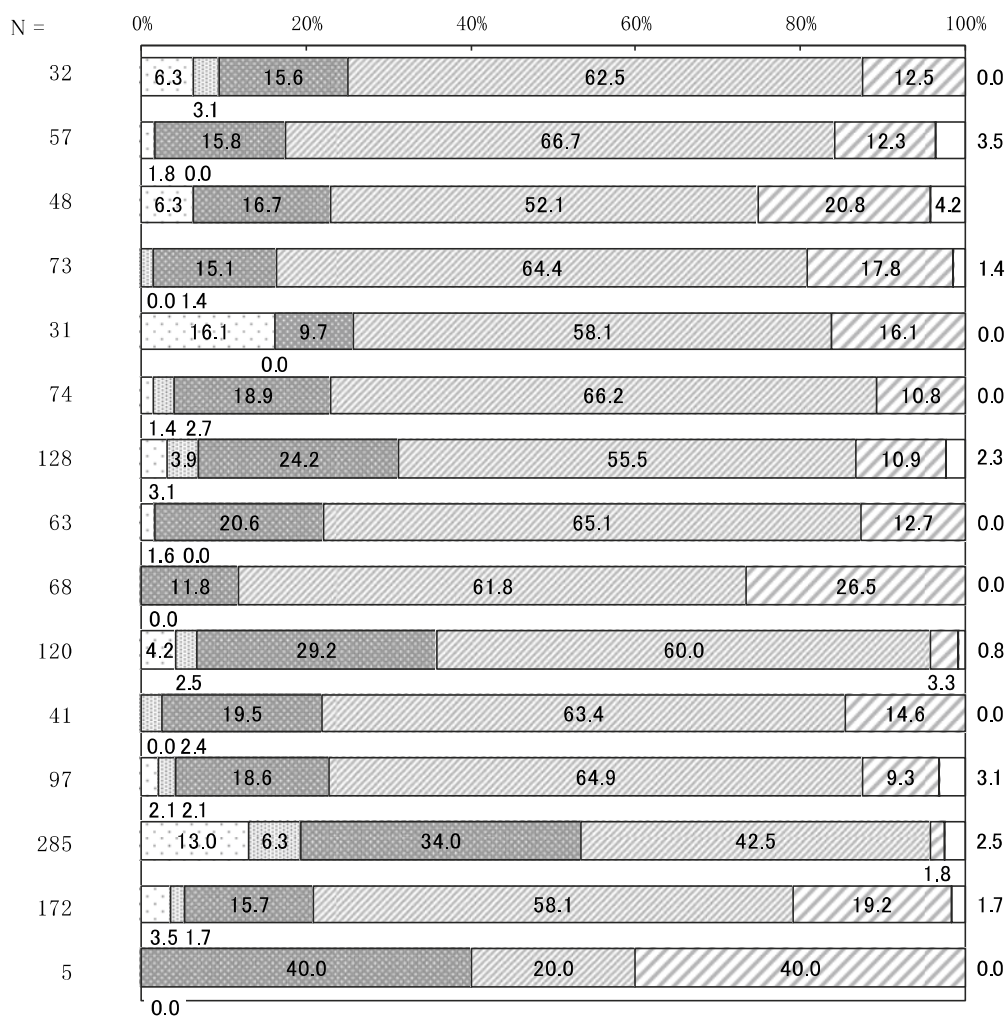
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

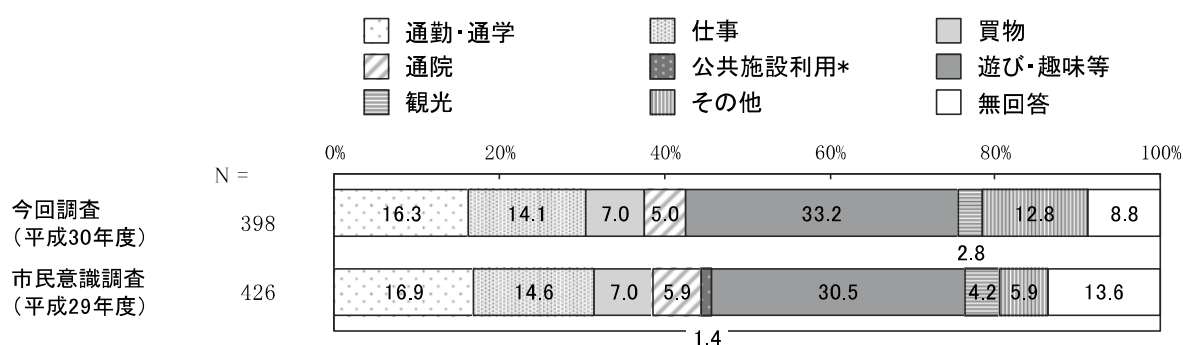


問 29-1 問 29 で「1. ほぼ毎日」「2. 週 1～2 日」「3. 月 1～2 日」とお答えの方におたずね
 します。

J R 琵琶湖線を利用する目的は何ですか。《○ 1 つ》

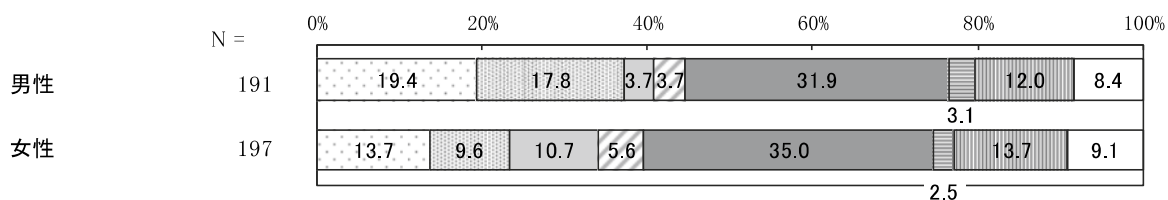
J R 琵琶湖線の利用目的は「遊び・趣味等」、「通勤・通学」、「仕事」

- ・ J R 琵琶湖線の利用目的については、「遊び・趣味等」が 33.2%と最も多く、次いで「通勤・通学」が 16.3%、「仕事」が 14.1%と続きます。
- ・ 性別では、男女ともに「遊び・趣味等」が最も多くなっていますが、男性は女性より「通勤・通学」や「仕事」での利用が、女性は男性より「買物」での利用が多くなっています。
- ・ 年代別では、10 歳代は「通勤・通学」が、ほかの年代は「遊び・趣味等」が最も多くなっています。30 歳代は「その他」も同様に最も多くあげられています。

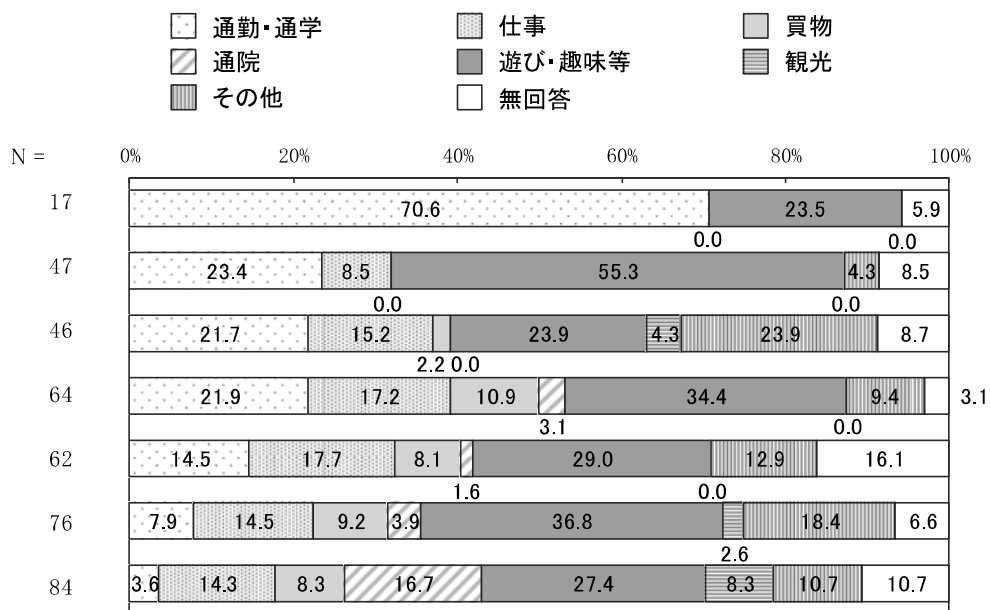


*平成 30 年度は「公共施設利用」の選択肢を削除

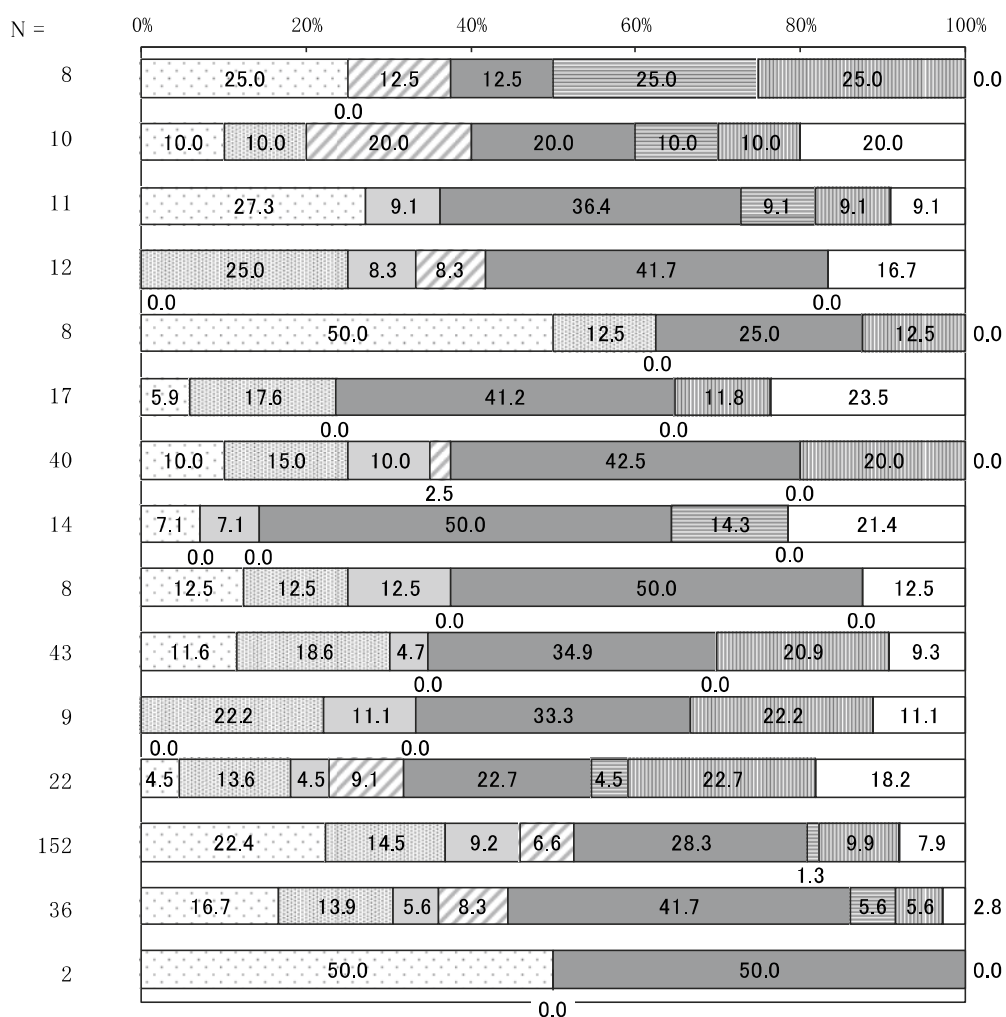
【性 別】



【年代別】



【居住地区別】



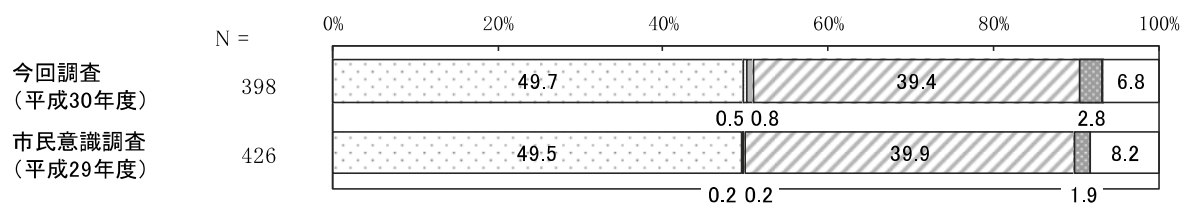
問 29-2 問 29 で「1. ほぼ毎日」「2. 週 1～2 日」「3. 月 1～2 日」とお答えの方におたずね
 します。

J R 琵琶湖線を利用するときの乗車駅は何駅ですか。《○ 1 つ》

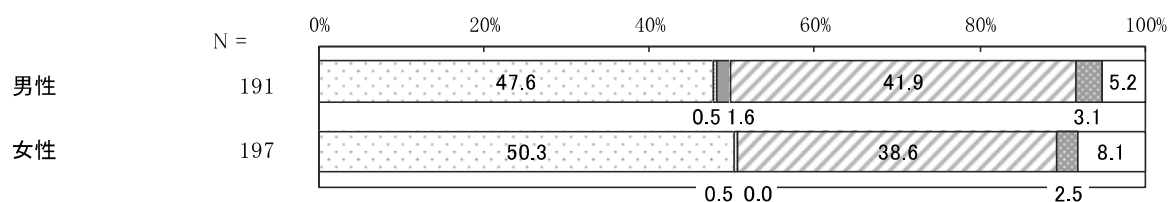
乗車駅は「能登川駅」と「近江八幡駅」が多い

- ・ J R 琵琶湖線を利用するときの乗車駅は、「能登川駅」が 49.7%と最も多く、次いで「近江八幡駅」が 39.4%となっています。これらを合わせると 89.1%となります。
- ・ 年代別では、30～40 歳代、60 歳以上は「能登川駅」、ほかの年代は「近江八幡駅」の利用が最も多くなっています。
- ・ 居住地区別では、能登川地区、五個荘地区、湖東地区、愛東地区は「能登川駅」、ほかの地区は「近江八幡駅」の利用が最も多くなっています。

☐ 能登川駅
 ☐ 稲枝駅
 ☐ 安土駅
 ☐ 近江八幡駅
 ☐ その他
 ☐ 無回答

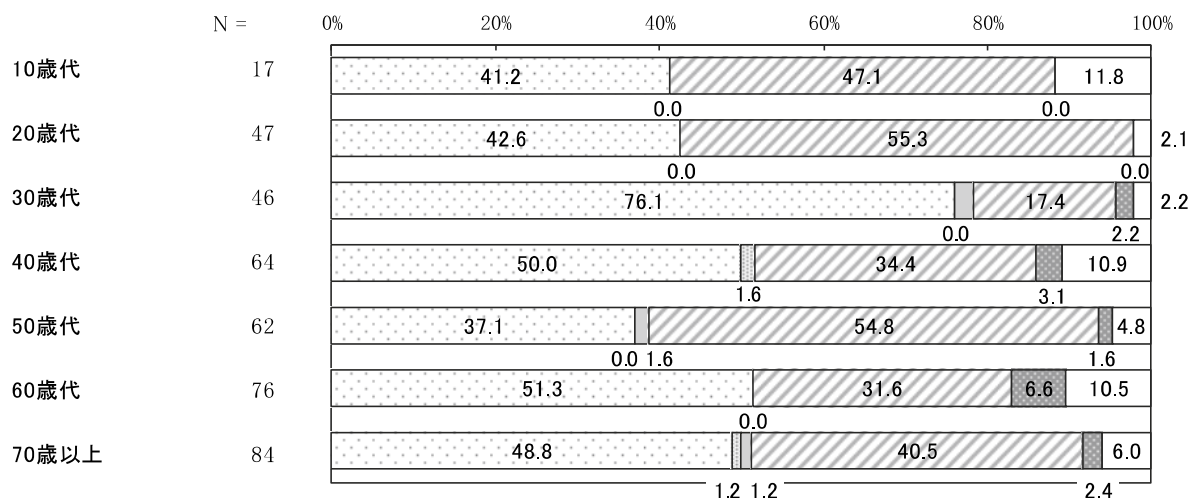


【性 別】

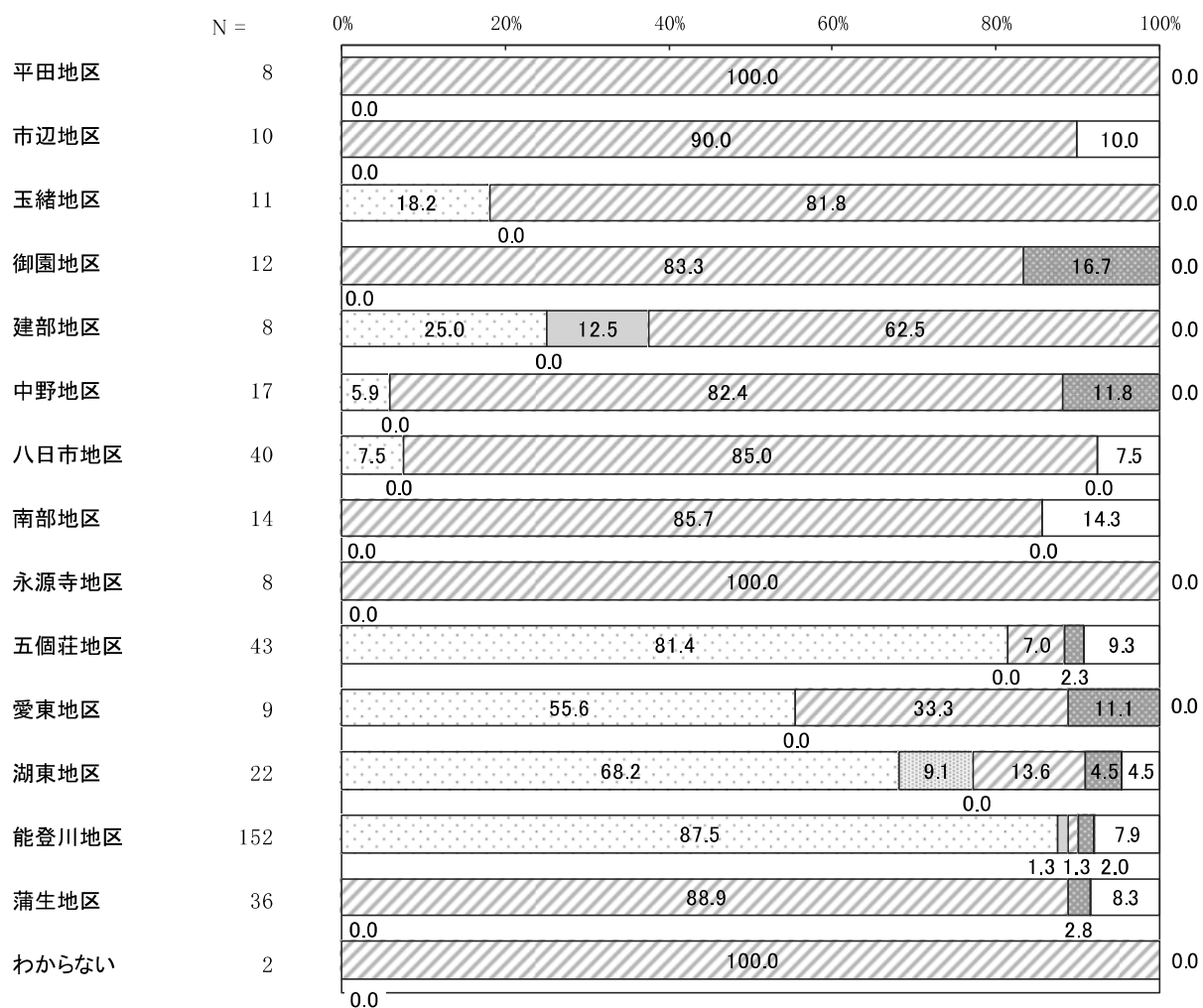


【年代別】

能登川駅
 稲枝駅
 安土駅
 近江八幡駅
 その他
 無回答



【居住地区別】

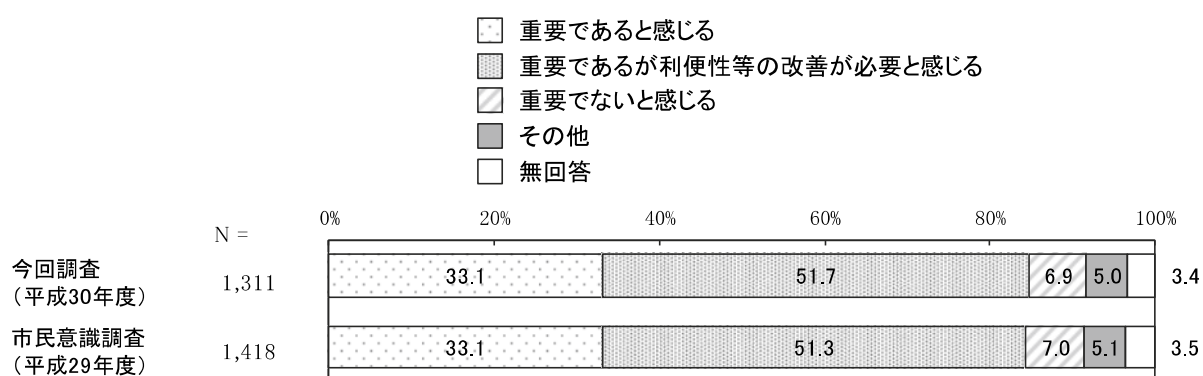


問 30 市内には近江鉄道の駅が13箇所あり、東近江市の活性化を進めていくうえで重要な公共交通機関であると考えています。

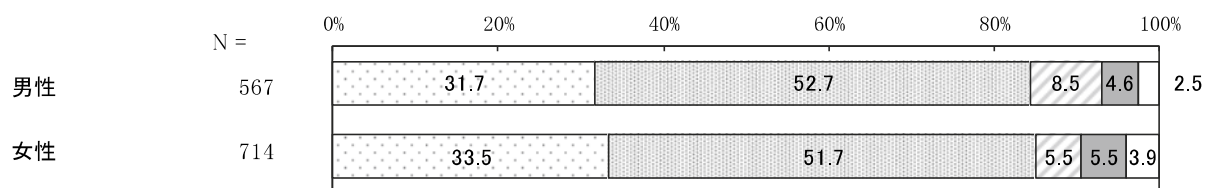
あなたは、近江鉄道についてどう感じていますか。《○1つ》

8割が重要と感じている、半数が改善を望む

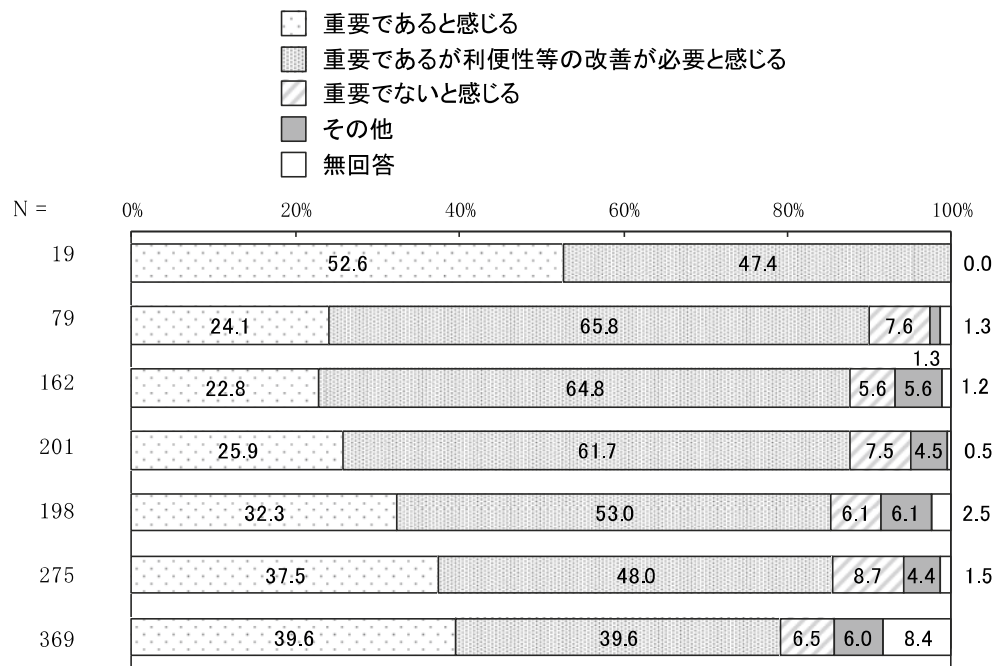
- ・ 近江鉄道については、「重要であるが利便性等の改善が必要と感じる」が51.7%と最も多く、次いで「重要であると感じる」が33.1%と続きます。これらを合わせると84.8%となり、8割の人が近江鉄道は重要であると考えています。
- ・ 年代別では年齢が若いほど、居住地区別では南部地区、中野地区、建部地区、八日市地区、愛東地区、御園地区、平田地区で、重要であると感じている人（「重要であると感じる」と「重要であるが利便性等の改善が必要と感じる」の合計）が多くみられます。



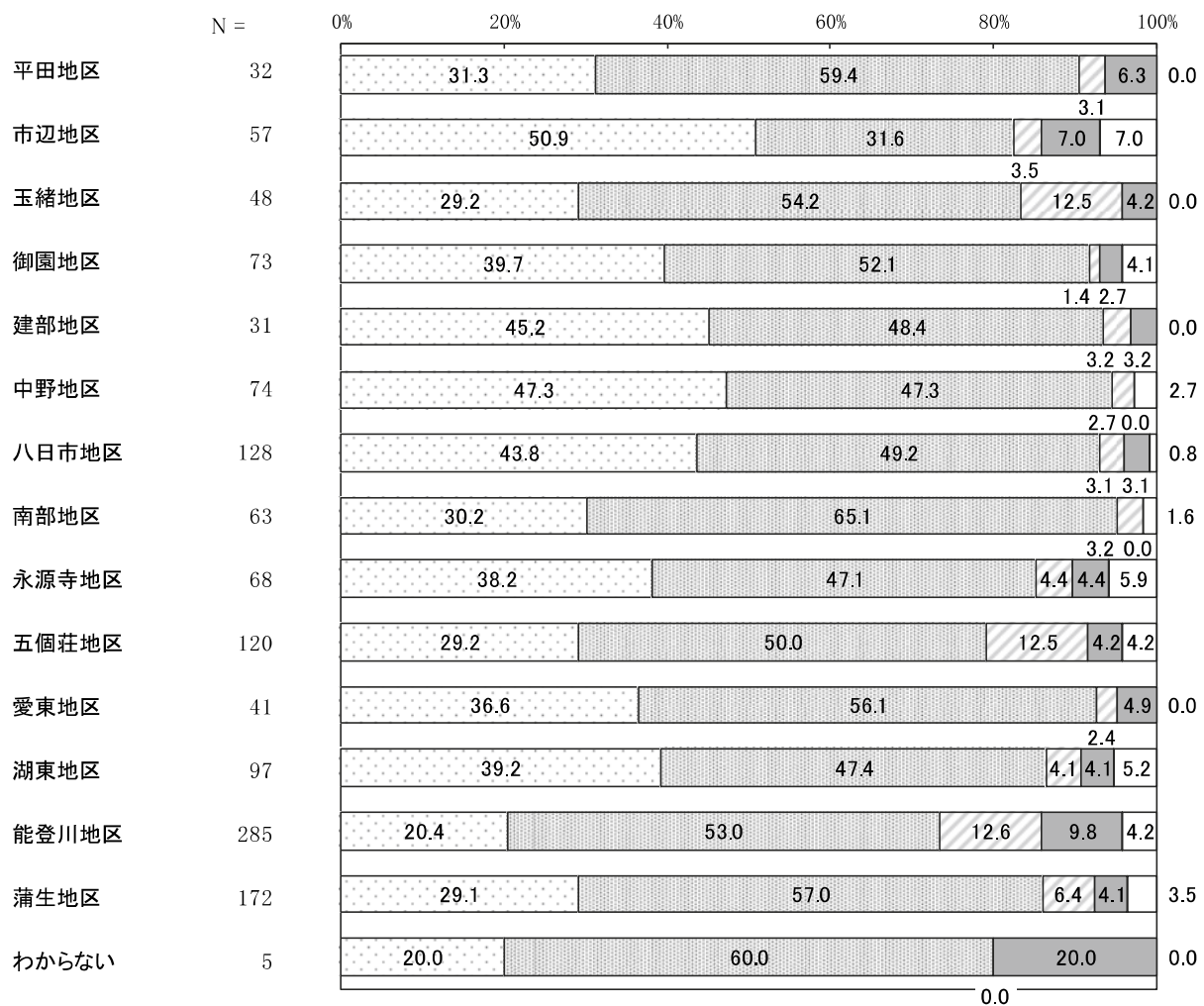
【性 別】



【年代別】



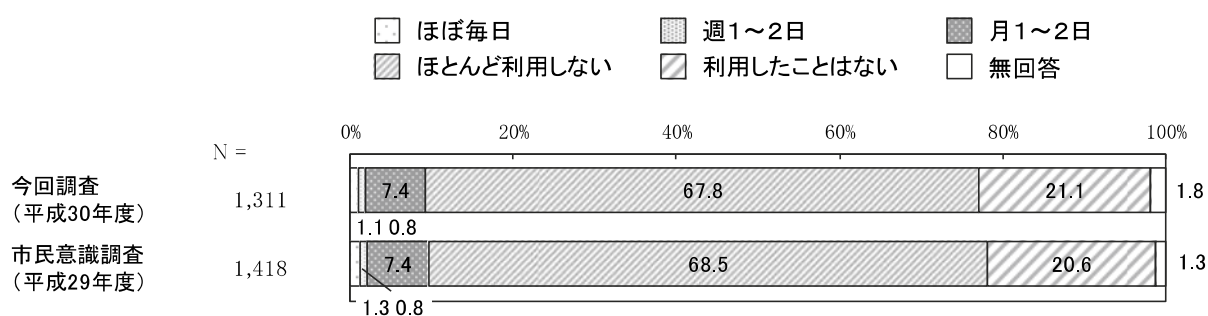
【居住地区別】



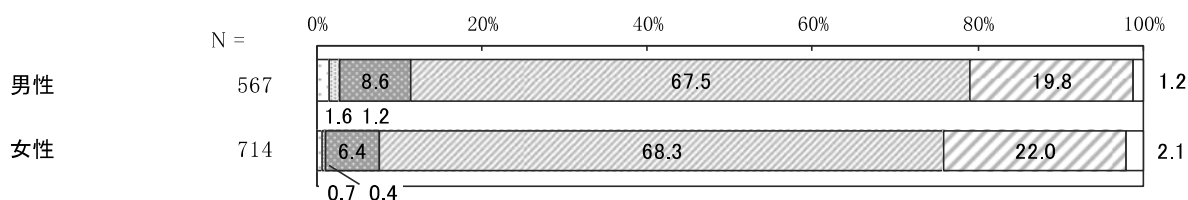
問 31 あなたは、近江鉄道をどの程度利用しますか。《○1つ》

9割近くが利用していない

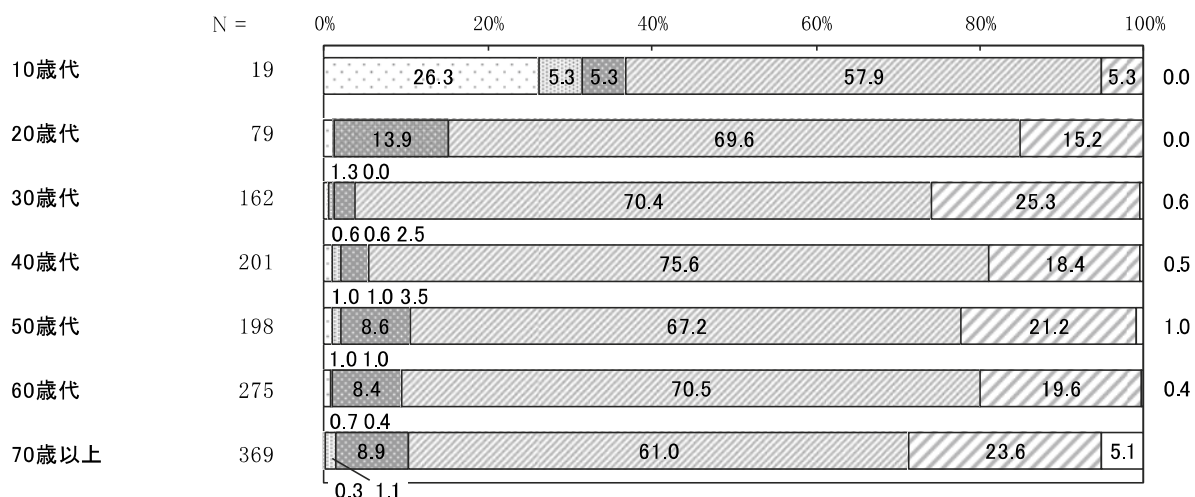
- ・ 近江鉄道の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が67.8%と最も多く、次の「利用したことはない」の21.1%を合わせると88.9%となり、9割近くの人が利用していないと回答しています。一方、利用している人は9.3%で、その内訳は「月1～2日」が7.4%と最も多く、次いで「ほぼ毎日」が1.1%、「週1～2日」が0.8%となっています
- ・ 年代別では10歳代で4割近く、居住地区別では建部地区、八日市地区で2割前後と比較的多く利用されています。



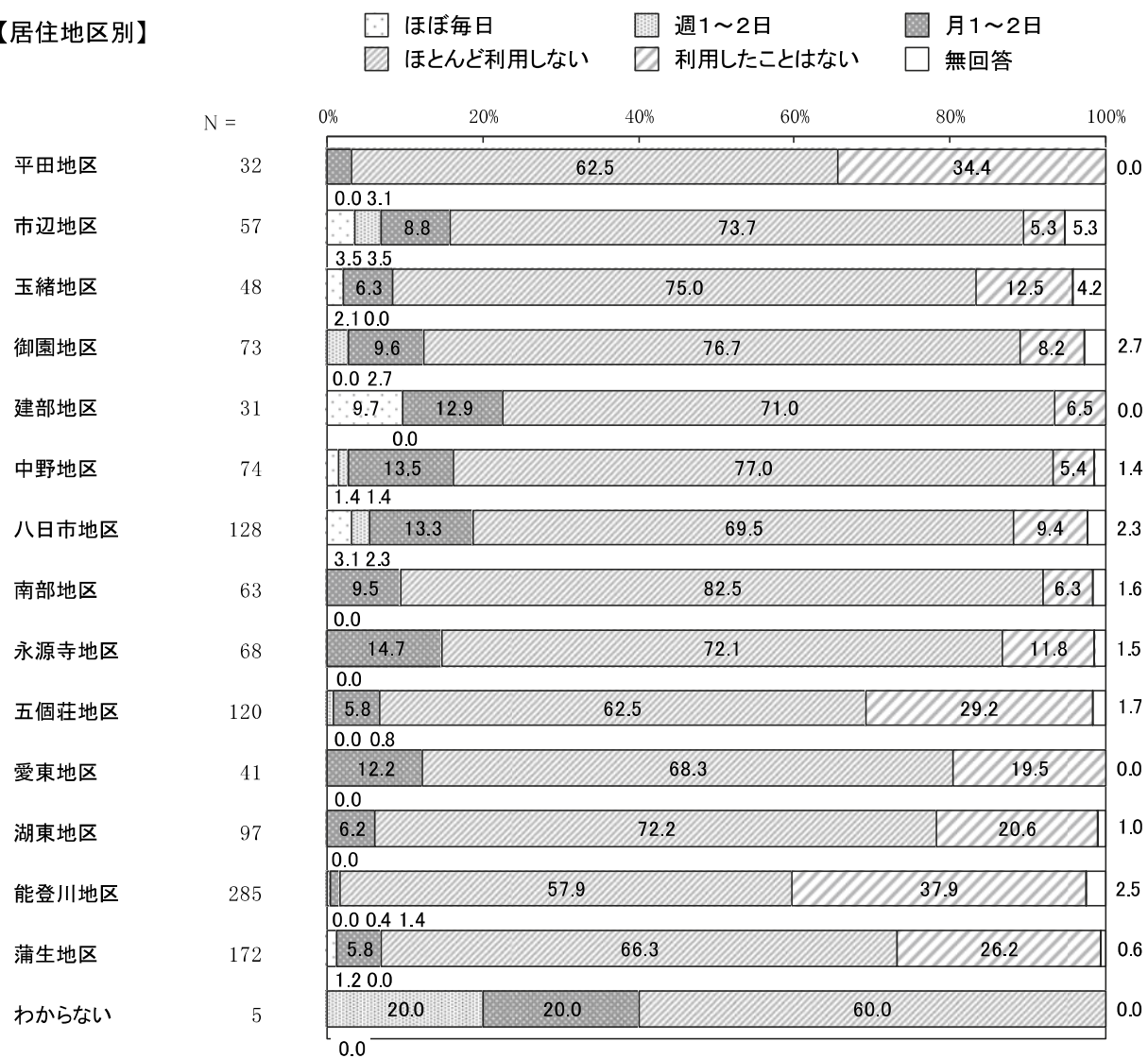
【性 別】



【年代別】



【居住地区別】

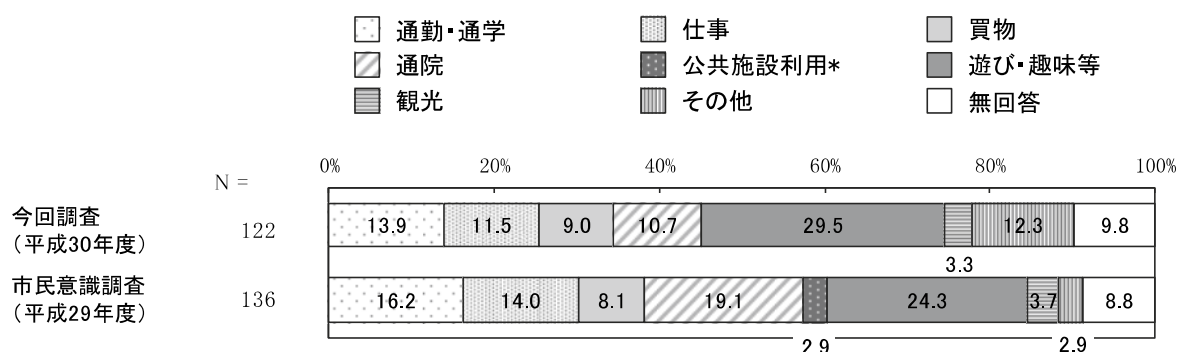


問 31-1 問 31 で「1. ほぼ毎日」「2. 週 1～2 日」「3. 月 1～2 日」とお答えの方におたずね
 します。

近江鉄道を利用する目的は何ですか。《○ 1 つ》

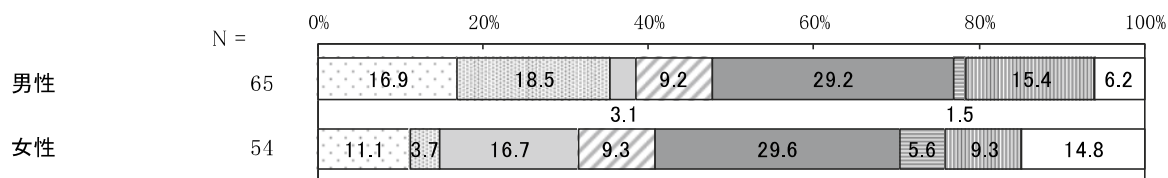
近江鉄道の利用目的は「遊び・趣味等」、「通勤・通学」、「仕事」

- ・ 近江鉄道の利用目的は、「遊び・趣味等」が 29.5%と最も多く、次いで「通勤・通学」が 13.9%、「その他」が 12.3%、「仕事」が 11.5%と続きます。
- ・ 平成 29 年度の調査より選択肢が 1 つ減ったため単純比較はできませんが、「通院」の割合が減少し、「遊び・趣味等」の割合が増加しています。
- ・ 性別では、男女ともに「遊び・趣味等」での利用が最も多くなっていますが、男性は女性より「仕事」や「通勤・通学」での利用が、女性は男性より「買物」での利用が多くみられます。

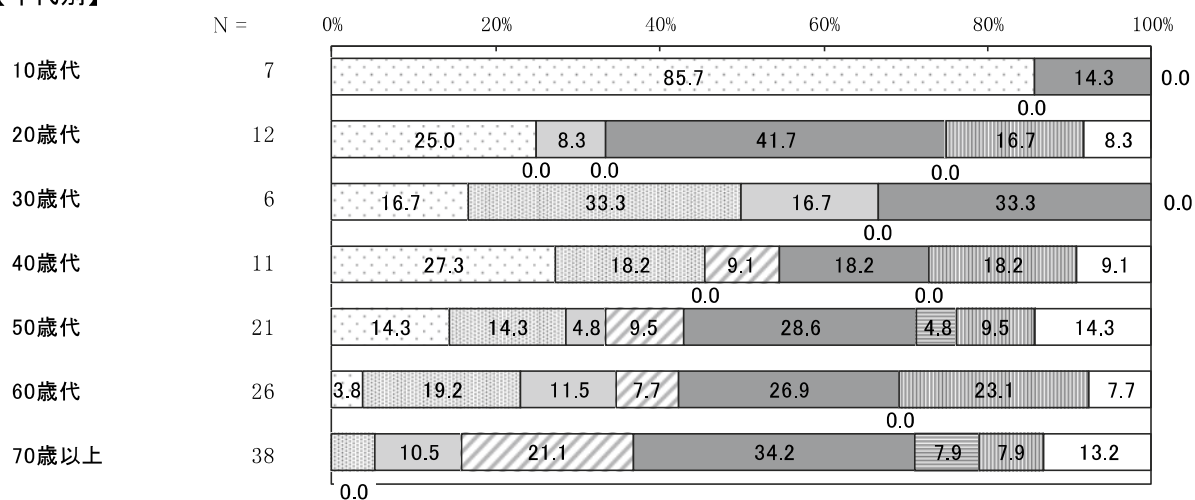


*平成 30 年度は「公共施設利用」の選択肢を削除

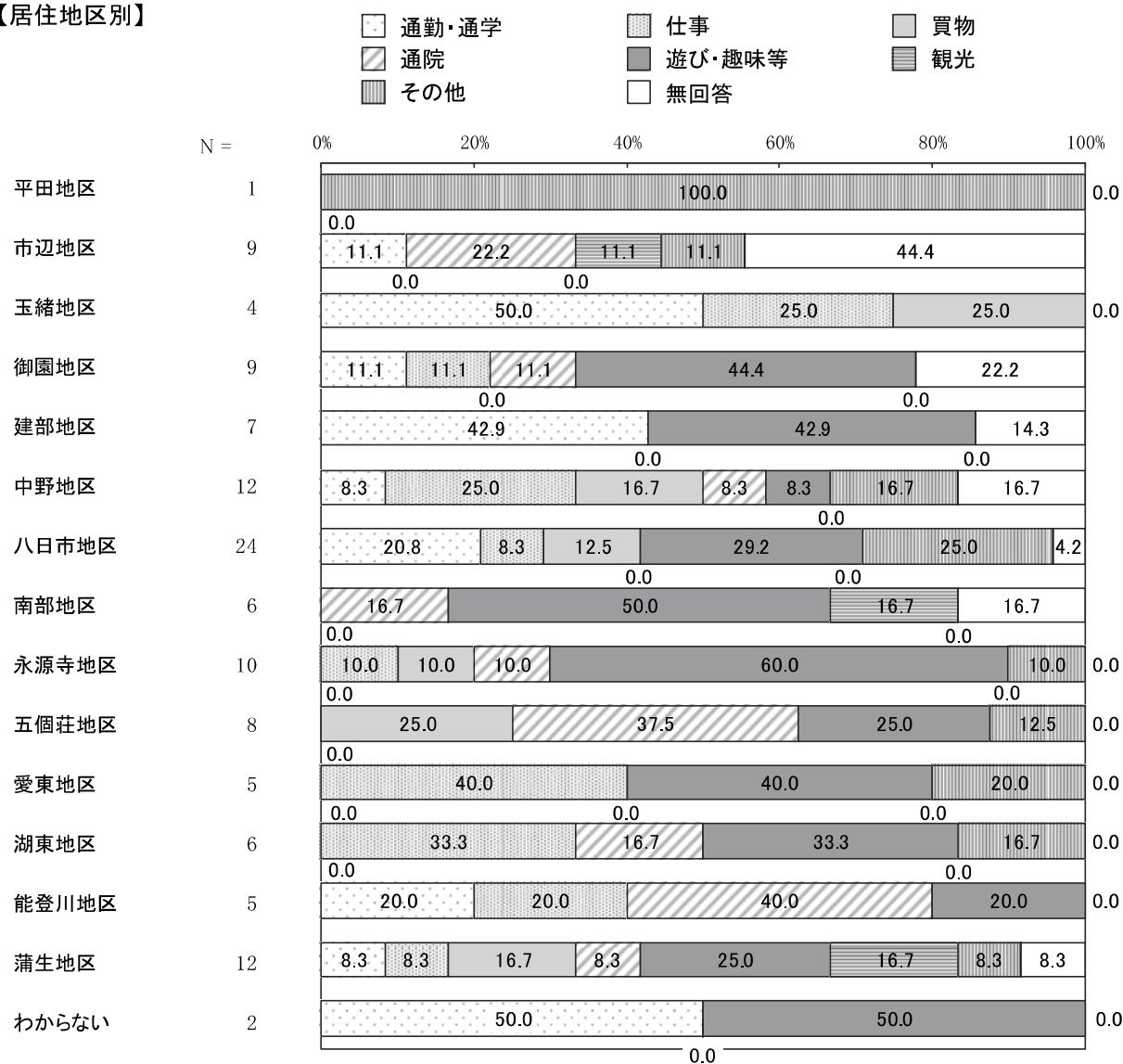
【性 別】



【年代別】



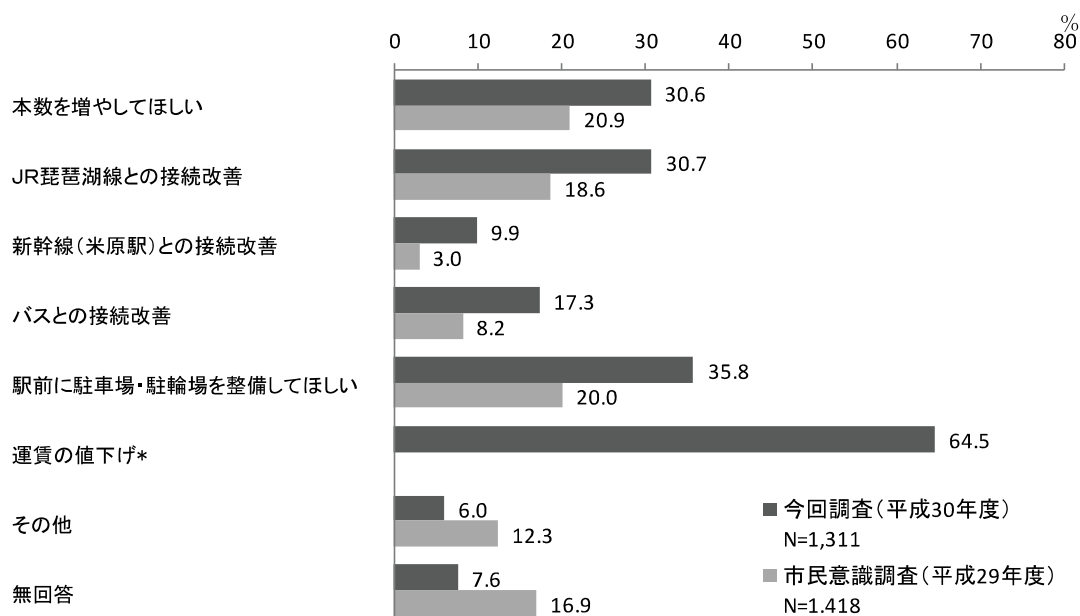
【居住地区別】



問 32 あなたは、近江鉄道を利用する場合、どのようなことを希望されますか。《あてはまるものすべてに○》

近江鉄道への希望は、運賃の値下げが6割

- ・ 近江鉄道を利用する場合の希望を聞いたところ、「運賃の値下げ」が64.5%と最も多く、次いで「駅前に駐車場・駐輪場を整備してほしい」が35.8%、「J R琵琶湖線との接続改善」が30.7%、「本数を増やしてほしい」が30.6%と続きます。
- ・ 年代別では、すべての年代で「運賃の値下げ」が最も多くなっていますが、30歳代までで本数の増加、40歳代まででJ R琵琶湖線との接続改善も多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で「運賃の値下げ」が最も多くなっていますが、建部地区、愛東地区、八日市地区で本数の増加、建部地区でJ R琵琶湖線との接続改善、愛東地区でバスとの接続改善、愛東地区、御園地区、玉緒地区、蒲生地区で駅前の駐車場・駐輪場の整備をあげる人がほかの地区より多くみられます。



*平成30年度から追加
注)平成29年度は1つ選択

【性 別】

区 分	有効回答数 (件)	本数を増やしてほしい	改善 J R 琵琶湖線との接続	新幹線(米原駅)との接続改善	バスとの接続改善	駅前に駐車場・駐輪場を整備してほしい	単位: %		
							運賃の値下げ	その他	無回答
男性	567	31.4	31.0	9.0	17.3	36.0	63.7	6.2	6.3
女性	714	30.3	30.7	10.6	17.5	35.4	65.7	5.9	8.4

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	本数を増やしてほしい	J R 琵琶湖線との接続改善	新幹線(米原駅)との接続改善	バスとの接続改善	駅前に駐車場・駐輪場を整備してほしい	運賃の値下げ	その他	無回答
10歳代	19	78.9	42.1	0.0	21.1	21.1	84.2	0.0	0.0
20歳代	79	54.4	43.0	10.1	17.7	32.9	74.7	6.3	1.3
30歳代	162	44.4	40.7	13.0	18.5	35.8	79.6	3.7	2.5
40歳代	201	37.8	43.3	9.5	16.9	39.8	78.6	9.0	0.5
50歳代	198	37.9	33.3	12.1	17.7	33.8	71.7	6.6	3.5
60歳代	275	20.4	22.2	11.3	14.9	40.4	68.0	6.2	5.5
70歳以上	369	17.1	21.4	7.3	18.2	32.8	40.7	5.4	19.0

【居住地区別】

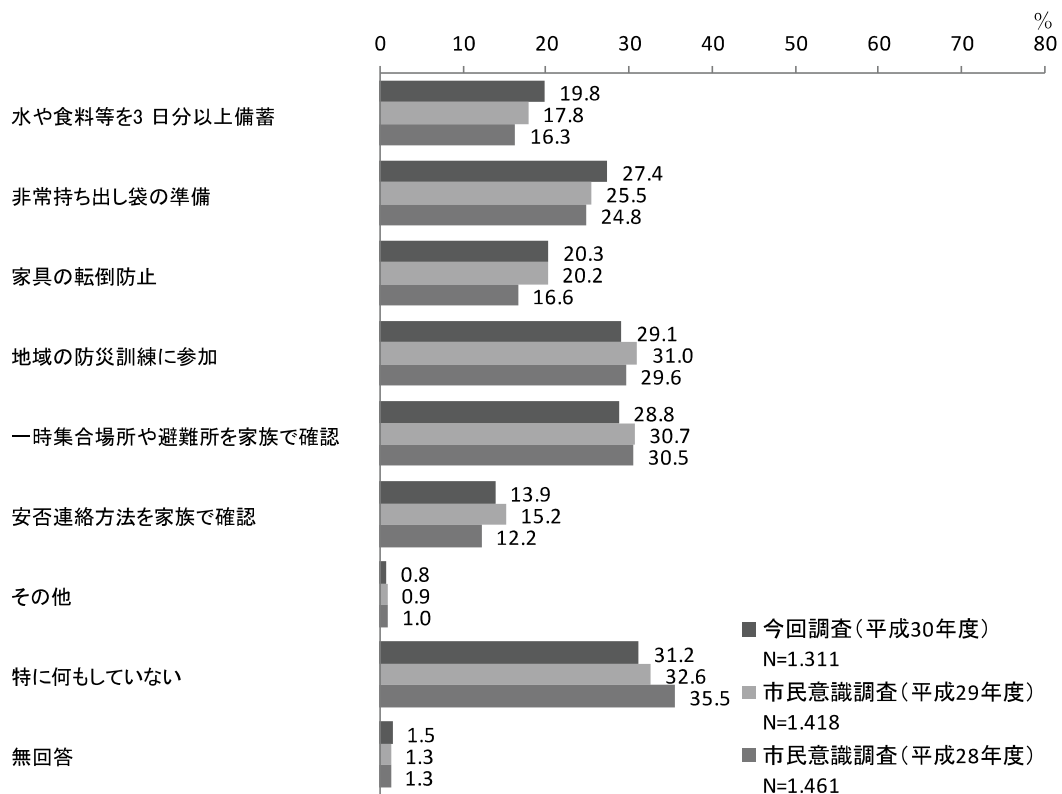
単位: %

区 分	有効回答数 (件)	本数を増やしてほしい	J R 琵琶湖線との接続改善	新幹線(米原駅)との接続改善	バスとの接続改善	駅前に駐車場・駐輪場を整備してほしい	運賃の値下げ	その他	無回答
平田地区	32	18.8	15.6	3.1	12.5	37.5	62.5	12.5	9.4
市辺地区	57	40.4	24.6	1.8	5.3	36.8	59.6	5.3	10.5
玉緒地区	48	29.2	31.3	18.8	16.7	52.1	77.1	4.2	4.2
御園地区	73	28.8	28.8	9.6	11.0	58.9	60.3	2.7	8.2
建部地区	31	45.2	48.4	12.9	3.2	25.8	74.2	6.5	0.0
中野地区	74	28.4	31.1	8.1	5.4	32.4	71.6	12.2	1.4
八日市地区	128	41.4	35.9	14.1	11.7	32.0	76.6	7.0	2.3
南部地区	63	30.2	36.5	11.1	6.3	41.3	60.3	1.6	7.9
永源寺地区	68	23.5	16.2	16.2	22.1	44.1	61.8	1.5	7.4
五個荘地区	120	26.7	29.2	7.5	20.8	26.7	62.5	5.8	9.2
愛東地区	41	41.5	31.7	12.2	34.1	61.0	63.4	7.3	7.3
湖東地区	97	28.9	27.8	9.3	24.7	39.2	54.6	1.0	11.3
能登川地区	285	22.1	37.2	6.3	19.3	16.8	63.5	9.8	10.2
蒲生地区	172	38.4	23.8	14.0	26.7	50.6	61.6	2.9	8.1
わからない	5	60.0	60.0	0.0	0.0	60.0	60.0	20.0	0.0

問 33 あなたは、地震等の災害に備えてどのような準備をしていますか。《あてはまるものすべてに○》

災害への備えをしている人は増加、3割が「特に何もしていない」

- ・ 災害への備えについては、「特に何もしていない」が31.2%と最も多く、次いで「地域の防災訓練に参加」が29.1%、「一時集合場所や避難所を家族で確認」が28.8%、「非常持ち出し袋の準備」が27.4%、「家具の転倒防止」が20.3%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、「非常持ち出し袋の準備」、「家具の転倒防止」、「水や食料等を3日分以上備蓄」などの割合が年々増加し、「特に何もしていない」の割合が年々減少しています。
- ・ 年代別では、50歳代までは「特に何もしていない」が、60歳代では「地域の防災訓練に参加」が、70歳以上では「非常持ち出し袋の準備」が最も多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、御園地区は「非常持ち出し袋の準備」が、愛東地区、湖東地区、南部地区、建部地区、能登川地区は「地域の防災訓練に参加」が、市辺地区、平田地区は「一時集合場所や避難所を家族で確認」が、五個荘地区は「地域の防災訓練に参加」と「一時集合場所や避難所を家族で確認」の両方が、ほかの地区は「特に何もしていない」が最も多くあげられています。なお、建部地区、平田地区、御園地区では「特に何もしていない」も同様に最も多くなっています。



【性 別】

単位: %

区 分	有効回答数（件）	水や食料等を3日分以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所を家族で確認	安否連絡方法を家族で確認	その他	特に何もしていない	無回答
男性	567	19.8	26.5	21.9	31.4	29.5	13.4	0.9	32.8	0.9
女性	714	19.5	28.9	18.5	27.3	28.0	14.1	0.8	30.5	2.0

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数（件）	水や食料等を3日分以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所を家族で確認	安否連絡方法を家族で確認	その他	特に何もしていない	無回答
10歳代	19	5.3	26.3	10.5	5.3	15.8	15.8	5.3	47.4	0.0
20歳代	79	11.4	17.7	12.7	6.3	15.2	10.1	0.0	53.2	0.0
30歳代	162	21.0	26.5	16.7	18.5	20.4	11.1	1.9	37.0	1.2
40歳代	201	14.4	25.9	20.4	23.9	26.9	16.9	1.5	31.8	0.5
50歳代	198	21.2	17.2	17.7	24.2	28.3	11.6	0.5	37.4	1.0
60歳代	275	22.5	28.0	21.5	43.3	37.1	17.5	0.7	24.0	1.5
70歳以上	369	22.2	36.0	24.7	35.0	31.2	13.0	0.3	24.4	3.0

【居住地区別】

単位: %

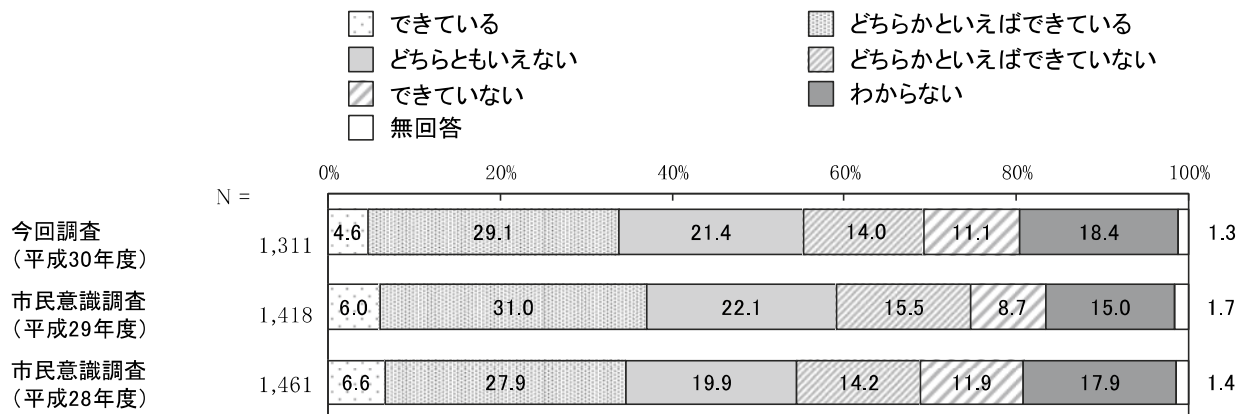
区 分	有効回答数（件）	水や食料等を3日分以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所を家族で確認	安否連絡方法を家族で確認	その他	特に何もしていない	無回答
平田地区	32	21.9	18.8	15.6	31.3	34.4	21.9	0.0	34.4	0.0
市辺地区	57	22.8	33.3	26.3	28.1	36.8	15.8	1.8	15.8	7.0
玉緒地区	48	8.3	20.8	22.9	14.6	31.3	20.8	0.0	35.4	0.0
御園地区	73	20.5	32.9	24.7	16.4	23.3	11.0	0.0	32.9	1.4
建部地区	31	22.6	19.4	16.1	35.5	19.4	9.7	3.2	35.5	0.0
中野地区	74	18.9	27.0	18.9	13.5	28.4	12.2	1.4	37.8	2.7
八日市地区	128	18.0	31.3	13.3	23.4	25.8	14.1	0.8	38.3	1.6
南部地区	63	25.4	28.6	25.4	38.1	27.0	17.5	0.0	28.6	1.6
永源寺地区	68	14.7	29.4	16.2	33.8	27.9	17.6	0.0	36.8	1.5
五個荘地区	120	20.0	29.2	30.0	36.7	36.7	15.8	0.8	25.8	0.0
愛東地区	41	19.5	36.6	14.6	41.5	24.4	14.6	2.4	26.8	0.0
湖東地区	97	16.5	22.7	17.5	41.2	30.9	13.4	1.0	26.8	3.1
能登川地区	285	22.8	27.0	21.4	30.9	30.2	13.0	1.1	27.0	1.8
蒲生地区	172	18.6	26.2	19.2	25.0	25.6	9.9	0.0	34.9	0.6
わからない	5	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	60.0	0.0

(5) 教育関連の取組について

問 34 あなたは、市内において児童・生徒の通学路の安全は確保できていると思いますか。《○1つ》

3割が通学路の安全は確保できている

- ・ 通学路の安全確保については、「できている」と「どちらかといえばできている」を合わせると33.7%となり、3割の人ができていると考えています。「どちらかといえばできていない」と「できていない」を合わせると25.1%であり、通学路の安全確保はできていると考えている人の割合が多くなっています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では30歳代で、通学路の安全確保ができていない（「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計）と考えている人が多くなっています。一方、10歳代と70歳以上で通学路の安全確保ができていない（「できている」と「どちらかといえばできている」の合計）と考えている人が多くなっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区、南部地区で安全確保の評価が高く、湖東地区で評価が低くなっています。



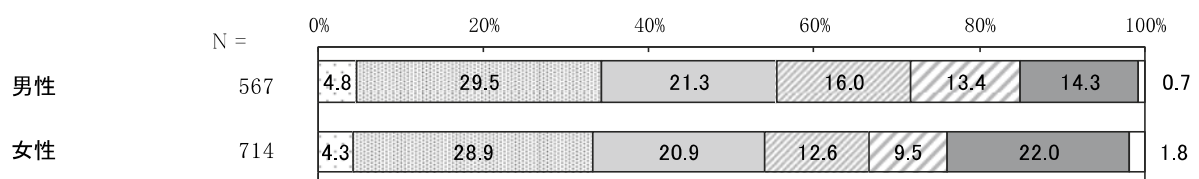
単位：％

	できている	できていない	差
①今回調査(平成30年度)	33.7	25.1	8.6
②市民意識調査(平成29年度)	37.0	24.2	12.8
③市民意識調査(平成28年度)	34.5	26.1	8.4
①－③	-0.8	-1.0	0.2

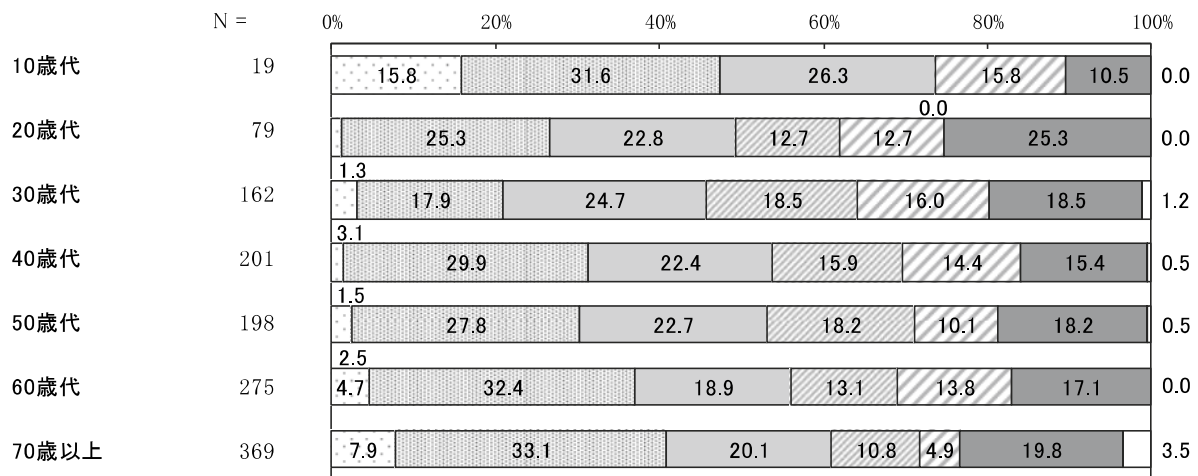
* できている:「できている」と「どちらかといえばできている」の合計

* できていない:「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計

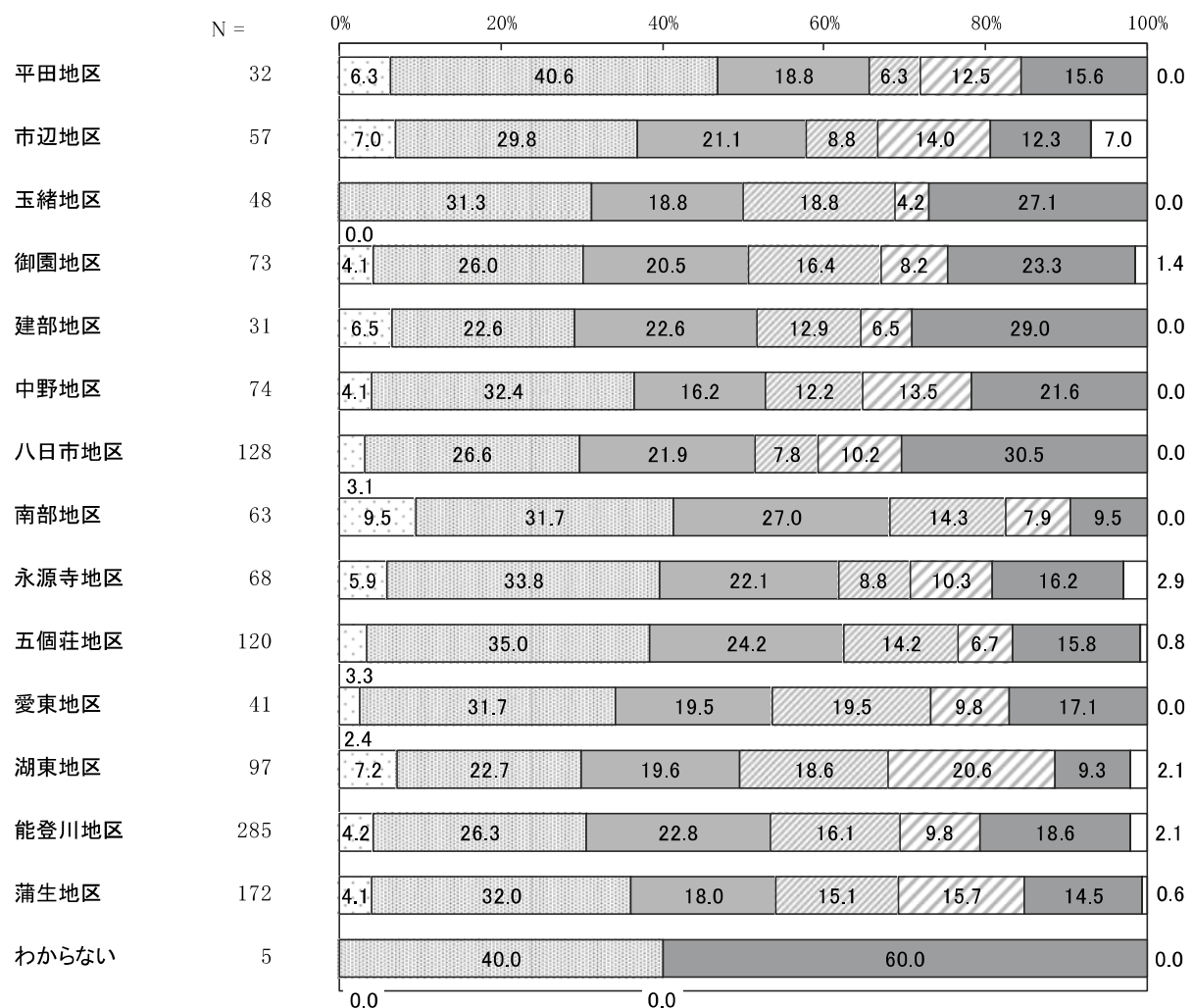
【性別】



【年代別】



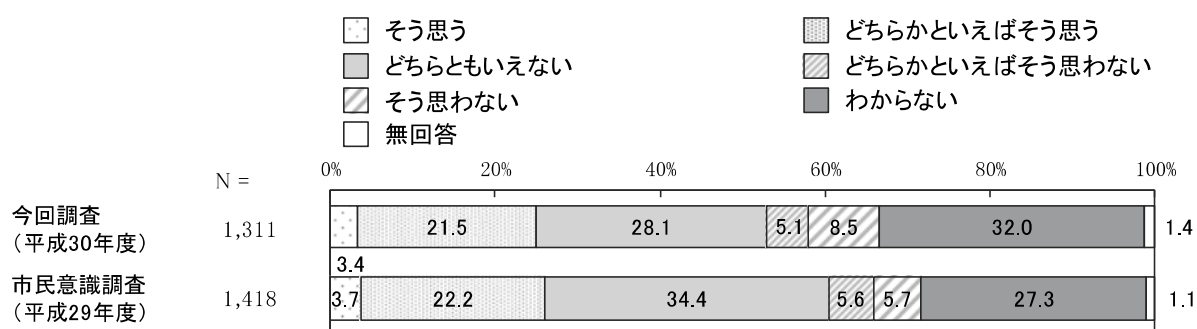
【居住地区別】



問 35 あなたは、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。《○1つ》

人権が尊重されるまちになっていると思う人は2割、3割が「わからない」

- ・ 東近江市は人権が尊重されるまちになっていると思う人（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合は24.9%で、そう思わない人（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合（13.6%）より高くなっています。
- ・ 一方、人権が尊重されるまちになっているか「わからない」と回答した人は、32.0%と最も多くなっています。
- ・ 平成29年度の調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が減少する一方で、「わからない」の割合が増加しています。
- ・ 年代別では10歳代で半数、70歳以上で4割近くが、居住地区別では平田地区で半数近くが、人権が尊重されるまちになっている（前述）と回答しています。

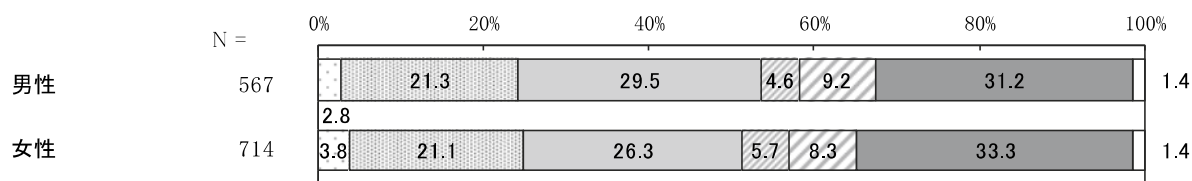


単位：％			
	そう思う	そう思わない	差
①今回調査(平成30年度)	24.9	13.6	11.3
②市民意識調査(平成29年度)	25.9	11.3	14.6
①－②	-1.0	2.3	-3.3

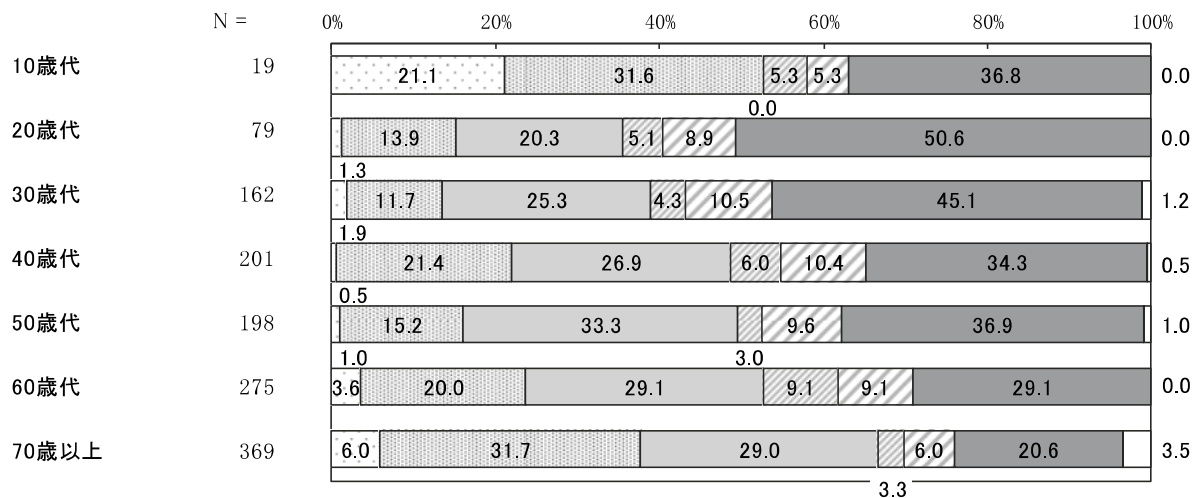
* そう思う:「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

* そう思わない:「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

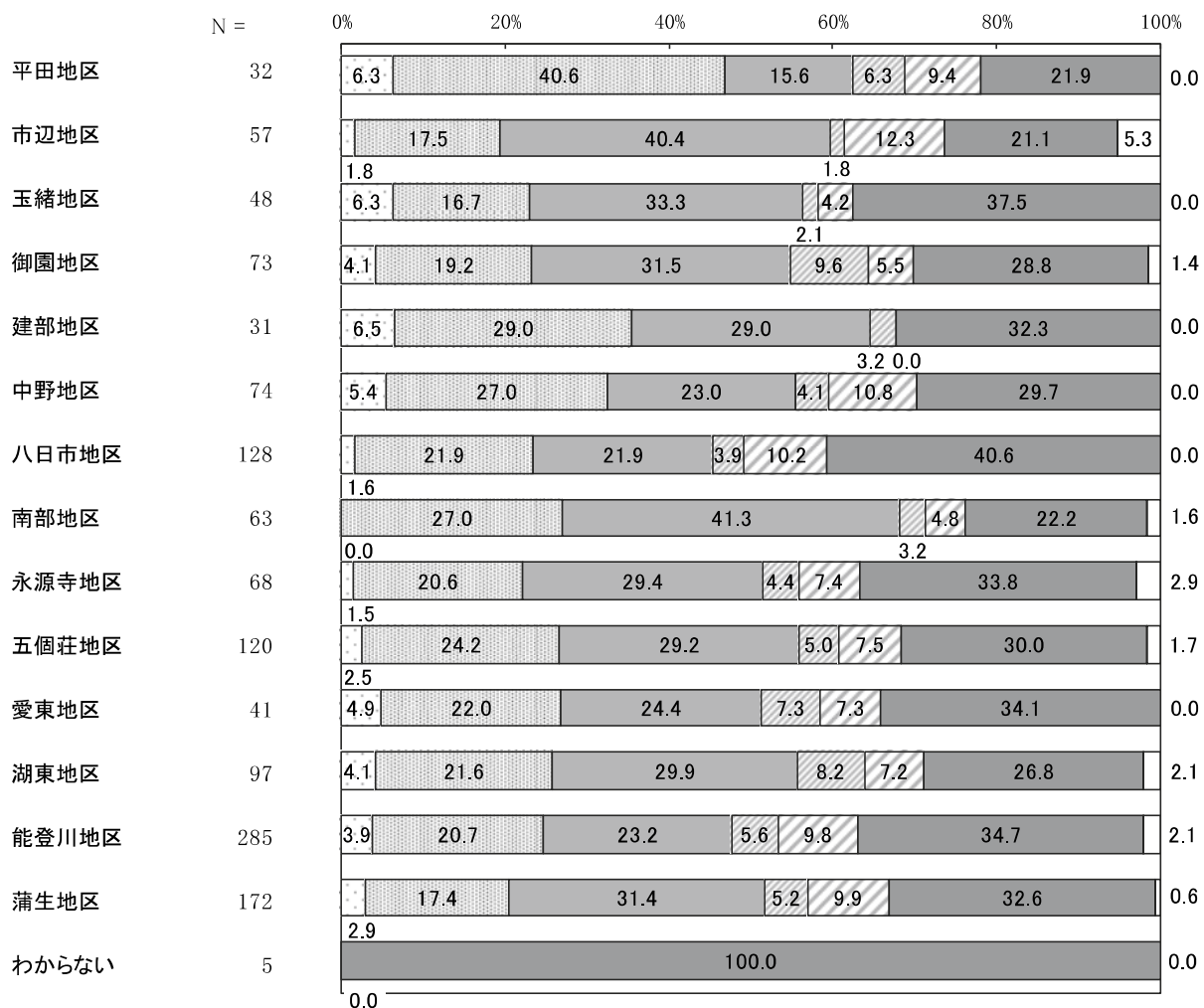
【性 別】



【年代別】



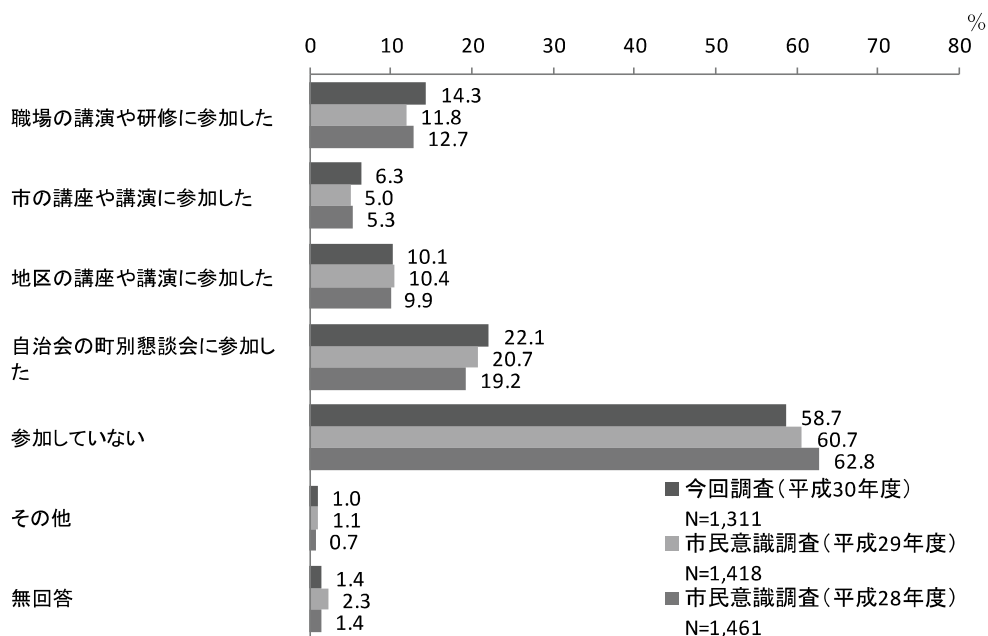
【居住地区別】



問 36 あなたは、この１年間に職場、市又は地区等が開催する人権に関する講座や講演、研修等に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

何らかの講座や講演、研修等に参加していない人が６割近く

- ・ この１年間に人権に関する講座や講演、研修等に参加したかどうかについては、「参加していない」が58.7%で、参加した人の割合は41.3%となります。参加した講座等の内容は、「自治会の町別懇談会」が22.1%と最も多く、次いで「職場の講演や研修」が14.3%、「地区の講座や講演」が10.1%、「市の講座や講演」が6.3%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、「参加していない」の割合が年々減少する一方で、自治会の町別懇談会に参加した人の割合が年々増加しています。
- ・ 性別では、女性より男性で人権に関する講座等に参加した人の割合が高く、自治会の町別懇談会、職場の講演や研修、地区の講座や講演への参加が多くみられます。
- ・ 年代別では、年齢があがるほど人権に関する講座等に参加した人の割合が高くなる傾向にあります。



【性 別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	加 職 した 場の 講 演 や 研 修 に 参 加	市 の 講 座 や 講 演 に 参 加	地 区 の 講 座 や 講 演 に 参 加	自 治 会 の 町 別 懇 談 会 に 参 加	参 加 し て い な い	そ の 他	無 回 答
男性	567	13.8	6.2	12.5	25.7	56.4	0.7	1.1
女性	714	12.3	6.3	8.3	18.9	60.8	1.3	1.8

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	加 職 した 場の 講 演 や 研 修 に 参 加	市 の 講 座 や 講 演 に 参 加	地 区 の 講 座 や 講 演 に 参 加	自 治 会 の 町 別 懇 談 会 に 参 加	参 加 し て い な い	そ の 他	無 回 答
10歳代	19	5.3	0.0	0.0	0.0	94.7	0.0	0.0
20歳代	79	12.7	2.5	0.0	1.3	84.8	0.0	0.0
30歳代	162	13.0	3.1	3.1	6.2	79.6	0.0	0.6
40歳代	201	22.9	5.5	5.5	12.4	62.2	0.0	0.0
50歳代	198	27.8	4.0	10.1	15.7	56.1	0.5	1.0
60歳代	275	8.7	9.5	14.5	32.0	48.4	1.1	0.4
70歳以上	369	3.0	8.4	15.2	36.3	48.8	2.4	4.1

【居住地区別】

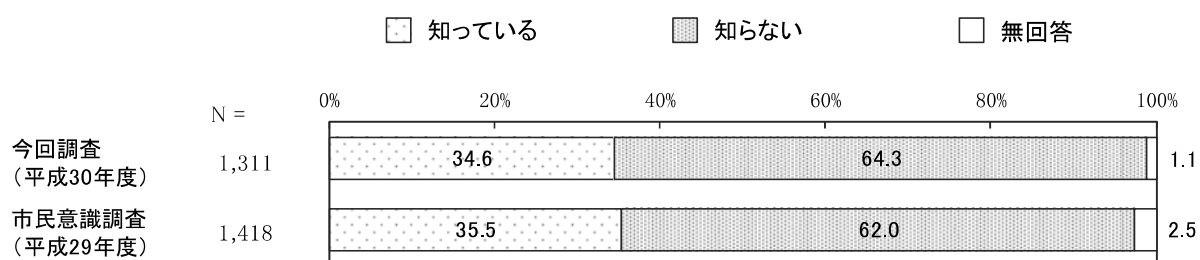
単位: %

区 分	有効回答数 (件)	加 職 した 場の 講 演 や 研 修 に 参 加	市 の 講 座 や 講 演 に 参 加	地 区 の 講 座 や 講 演 に 参 加	自 治 会 の 町 別 懇 談 会 に 参 加	参 加 し て い な い	そ の 他	無 回 答
平田地区	32	6.3	3.1	12.5	21.9	62.5	0.0	0.0
市辺地区	57	12.3	12.3	22.8	36.8	40.4	1.8	3.5
玉緒地区	48	8.3	0.0	10.4	16.7	70.8	0.0	0.0
御園地区	73	11.0	2.7	5.5	27.4	61.6	0.0	1.4
建部地区	31	9.7	0.0	16.1	41.9	48.4	0.0	0.0
中野地区	74	9.5	8.1	5.4	27.0	62.2	4.1	0.0
八日市地区	128	11.7	5.5	6.3	14.1	68.8	2.3	0.0
南部地区	63	20.6	12.7	14.3	22.2	50.8	0.0	1.6
永源寺地区	68	13.2	5.9	14.7	17.6	60.3	0.0	1.5
五個荘地区	120	15.8	8.3	8.3	20.0	57.5	0.8	1.7
愛東地区	41	17.1	4.9	19.5	34.1	41.5	0.0	0.0
湖東地区	97	12.4	5.2	15.5	33.0	46.4	0.0	4.1
能登川地区	285	13.3	4.9	6.7	20.7	61.8	1.4	2.1
蒲生地区	172	12.2	8.1	10.5	14.0	60.5	0.6	1.2
わからない	5	0.0	20.0	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0

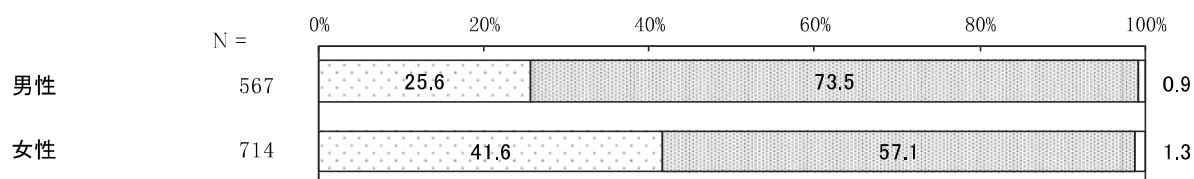
問 37 あなたは、オレンジリボンが児童虐待防止のシンボルマークであるを知っていますか。
《○1つ》

認知度は3割、6割が「知らない」

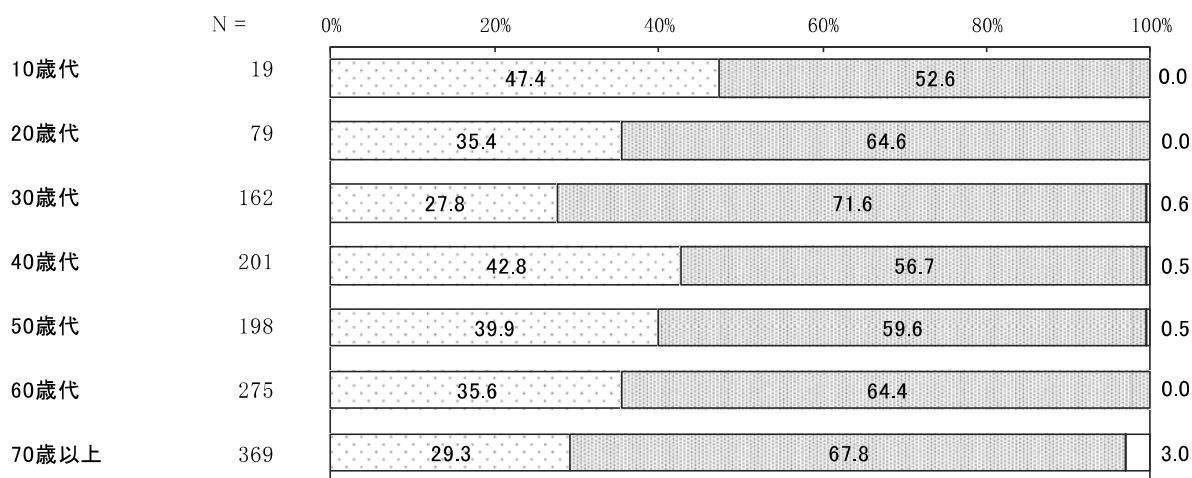
- ・ オレンジリボン（児童虐待防止のシンボルマーク）の認知度については、「知っている」が34.6%、「知らない」が64.3%と、知らない人が多くなっています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では10歳代と40～50歳代で、居住地区別では南部地区で、認知度が高くなっています。
- ・ 年代別では、子育て世代である30歳代の認知度が27.8%と最も低くなっています。



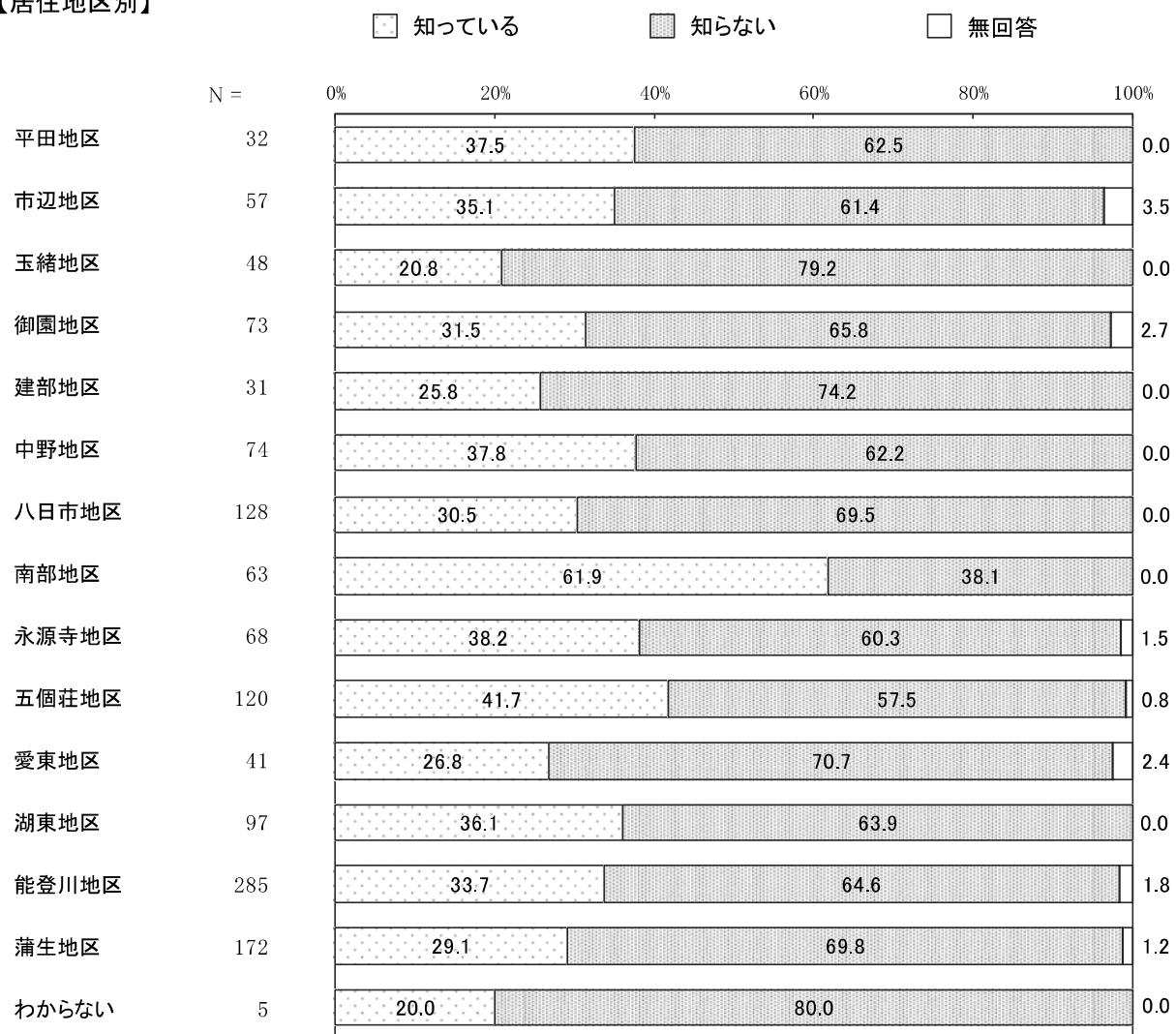
【性別】



【年代別】



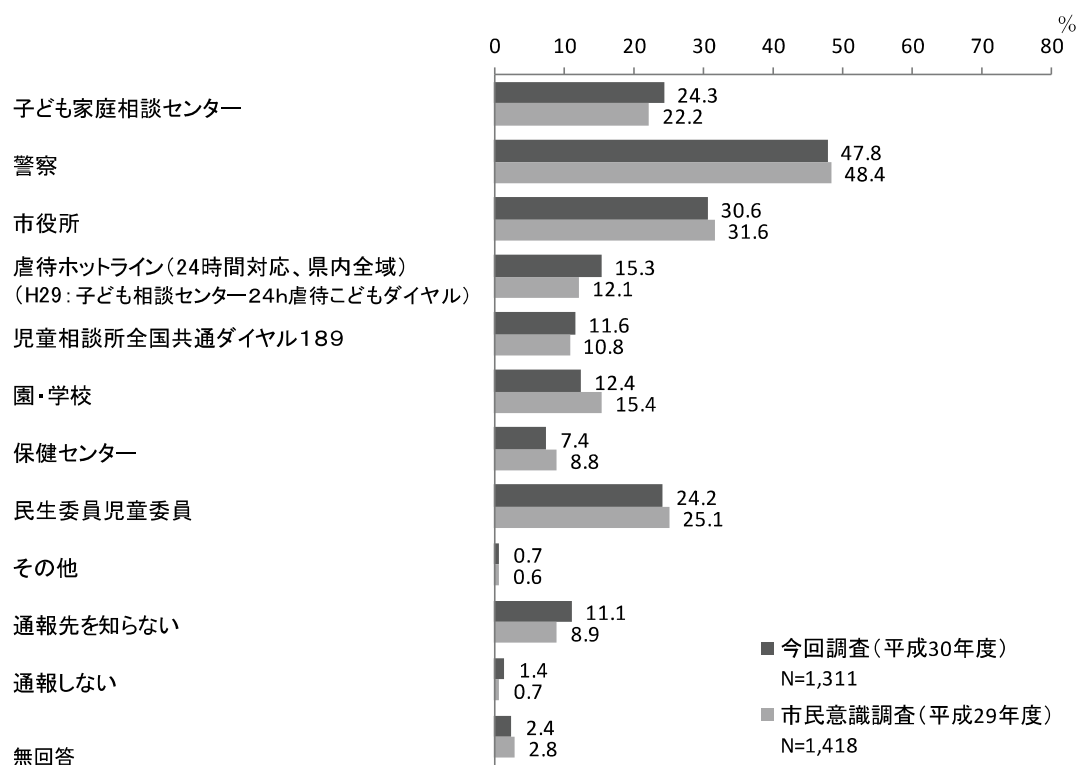
【居住地区別】



問 38 あなたは、児童虐待が疑われるときに、どこに通報しますか。《あてはまるものすべてに○》

通報先は、警察、市役所、子ども家庭相談センター、民生委員児童委員等

- ・ 児童虐待が疑われるときの通報先については、「警察」が47.8%と最も多く、次いで「市役所」が30.6%、「子ども家庭相談センター」が24.3%、「民生委員児童委員」が24.2%と続きます。一方、「通報先を知らない」は11.1%と1割程度、「通報しない」は1.4%となっています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別の永源寺地区を除いて、すべて「警察」が最も多くなっています。なお、永源寺地区では「市役所」が最も多くあげられています。
- ・ 性別では、男性は「警察」が女性より多く、女性は「子ども家庭相談センター」、「虐待ホットライン（24時間対応、県内全域）」が男性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、「子ども家庭相談センター」は10歳代で、「警察」は10～20歳代で、「保健センター」は30歳代で、「民生委員児童委員」は70歳以上でほかの年代より多くあげられています。また、10歳代は「通報先を知らない」もほかの年代より多くみられています。
- ・ 居住地区別では、「警察」は愛東地区、建部地区で6割みられ、また愛東地区では「民生委員児童委員」、「市役所」、「子ども家庭相談センター」もほかの地区より多くあげられています。



【性 別】

単位: %

区 分	有効回答数（件）	子ども家庭相談センター	警察	市役所	全域（虐待ホットライン24時間対応、県内）	児童相談所全国共通ダイヤル189	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
男性	567	21.2	52.7	31.9	11.8	9.9	9.9	5.3	24.0	0.9	11.8	1.6	2.3
女性	714	26.2	44.0	29.4	18.2	12.7	14.6	9.2	24.5	0.6	10.8	1.4	2.2

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数（件）	子ども家庭相談センター	警察	市役所	全域（虐待ホットライン24時間対応、県内）	児童相談所全国共通ダイヤル189	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
10歳代	19	36.8	63.2	10.5	10.5	15.8	10.5	10.5	0.0	0.0	26.3	0.0	0.0
20歳代	79	19.0	64.6	21.5	22.8	13.9	11.4	7.6	1.3	1.3	16.5	2.5	0.0
30歳代	162	22.8	45.1	27.8	16.0	11.7	13.6	17.3	3.7	0.6	13.0	1.2	0.0
40歳代	201	26.9	44.8	24.9	21.9	13.4	18.9	8.0	10.9	0.0	8.5	2.5	1.0
50歳代	198	28.3	46.5	31.8	21.2	15.7	9.6	5.6	19.2	0.5	12.1	2.0	1.5
60歳代	275	23.6	50.2	35.3	13.1	9.8	11.3	8.4	30.2	1.1	10.5	1.5	2.2
70歳以上	369	22.5	45.0	33.9	8.7	8.9	11.4	3.0	44.7	0.8	10.0	0.5	5.4

【居住地区別】

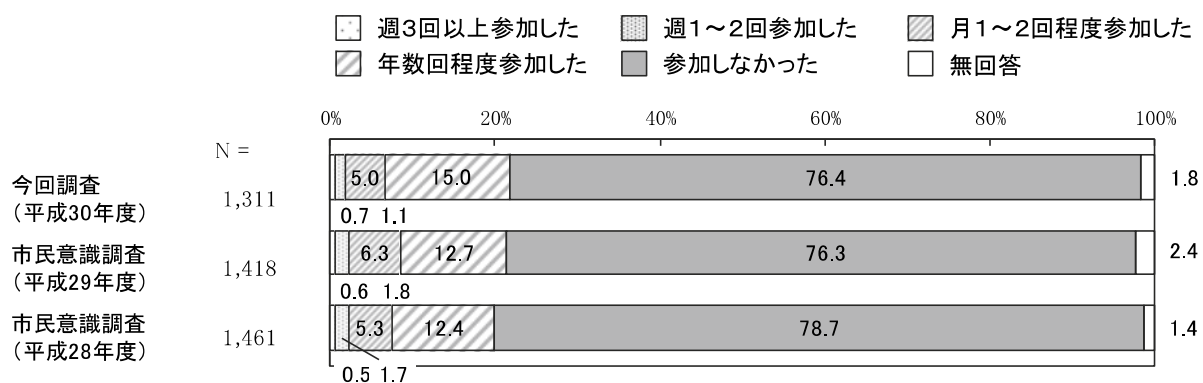
単位: %

区 分	有効回答数（件）	子ども家庭相談センター	警察	市役所	全域（虐待ホットライン24時間対応、県内）	児童相談所全国共通ダイヤル189	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
平田地区	32	21.9	53.1	28.1	6.3	3.1	18.8	3.1	21.9	0.0	12.5	3.1	0.0
市辺地区	57	29.8	49.1	33.3	14.0	12.3	12.3	1.8	21.1	0.0	1.8	0.0	7.0
玉緒地区	48	22.9	56.3	22.9	22.9	10.4	12.5	4.2	16.7	0.0	16.7	0.0	2.1
御園地区	73	27.4	49.3	34.2	19.2	16.4	5.5	8.2	21.9	1.4	11.0	1.4	1.4
建部地区	31	19.4	61.3	29.0	3.2	9.7	6.5	9.7	25.8	0.0	12.9	0.0	3.2
中野地区	74	24.3	56.8	35.1	17.6	12.2	13.5	9.5	28.4	0.0	8.1	2.7	0.0
八日市地区	128	21.1	56.3	27.3	20.3	7.8	3.9	5.5	14.1	0.0	10.9	1.6	1.6
南部地区	63	23.8	50.8	36.5	19.0	9.5	17.5	15.9	23.8	0.0	14.3	0.0	3.2
永源寺地区	68	25.0	33.8	42.6	14.7	11.8	16.2	2.9	25.0	0.0	10.3	1.5	4.4
五個荘地区	120	26.7	35.8	35.0	15.8	10.0	13.3	6.7	29.2	0.0	14.2	0.8	0.8
愛東地区	41	36.6	65.9	41.5	14.6	9.8	22.0	9.8	43.9	0.0	2.4	0.0	0.0
湖東地区	97	28.9	48.5	28.9	14.4	14.4	16.5	6.2	32.0	1.0	7.2	2.1	6.2
能登川地区	285	21.8	43.2	27.0	14.4	11.9	13.3	10.5	24.9	1.8	9.8	1.8	2.1
蒲生地区	172	22.7	45.3	26.2	12.8	14.0	12.2	4.7	20.9	1.2	15.7	2.3	2.3
わからない	5	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0

問 39 あなたは、この１年間にコミュニティセンター等で趣味的なもの（音楽・美術等）や教養的なもの（文学・歴史等）の活動に参加しましたか。《○１つ》

2割が「参加した」、8割近くが「参加しなかった」

- ・ この１年間に音楽・美術等や文学・歴史等の活動に参加したかについては、「参加しなかった」が76.4%と最も多くなっています。次いで「年数回程度参加した」が15.0%、「月１～２回程度参加した」が5.0%と続き、音楽・美術等や文学・歴史等の活動に参加した人は21.8%と、2割みられます。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、参加しなかった人の割合は減少し、参加した人の割合は年々増加しています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では50歳代までで、居住地区別では玉緒地区、八日市地区、御園地区で、「参加しなかった」人が多くみられます。

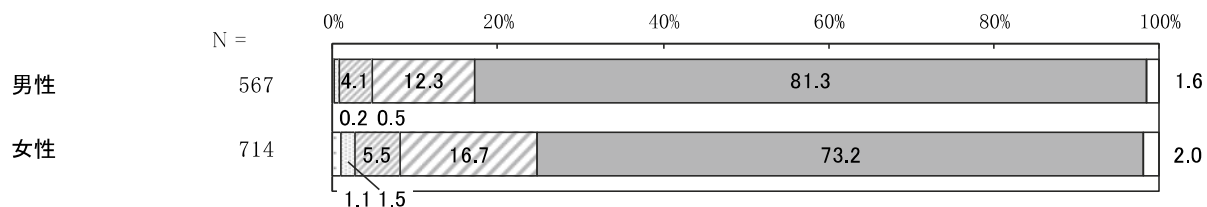


単位：％

	参加	参加しなかった	差
①今回調査(平成 30 年度)	21.8	76.4	-54.6
②市民意識調査(平成 29 年度)	21.4	76.3	-54.9
③市民意識調査(平成 28 年度)	19.9	78.7	-58.8
①－③	1.9	-2.3	4.2

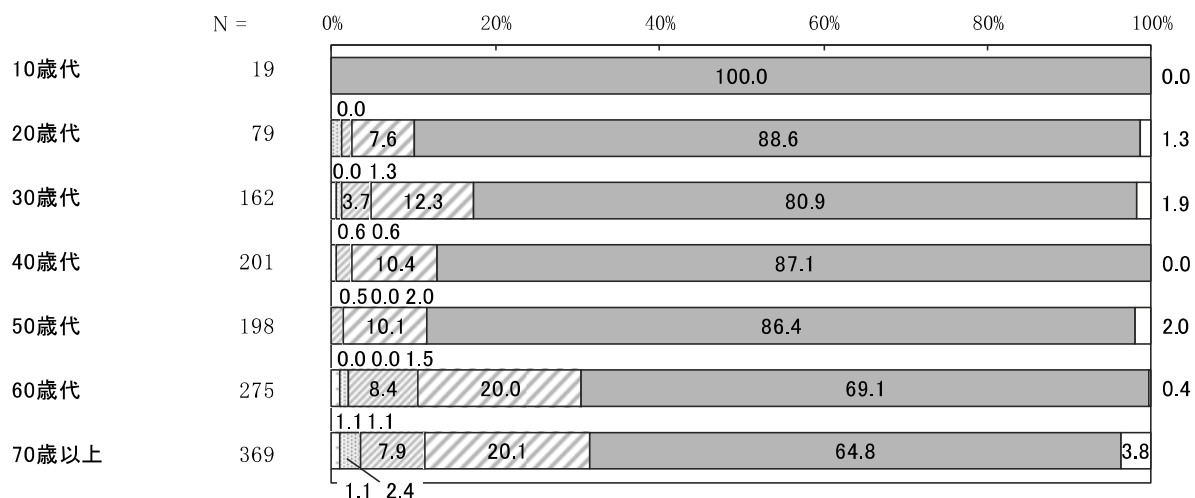
* 参加:「週3回以上参加した」「週1～2回参加した」「月1～2回程度参加した」「年数回程度参加した」の合計

【性 別】

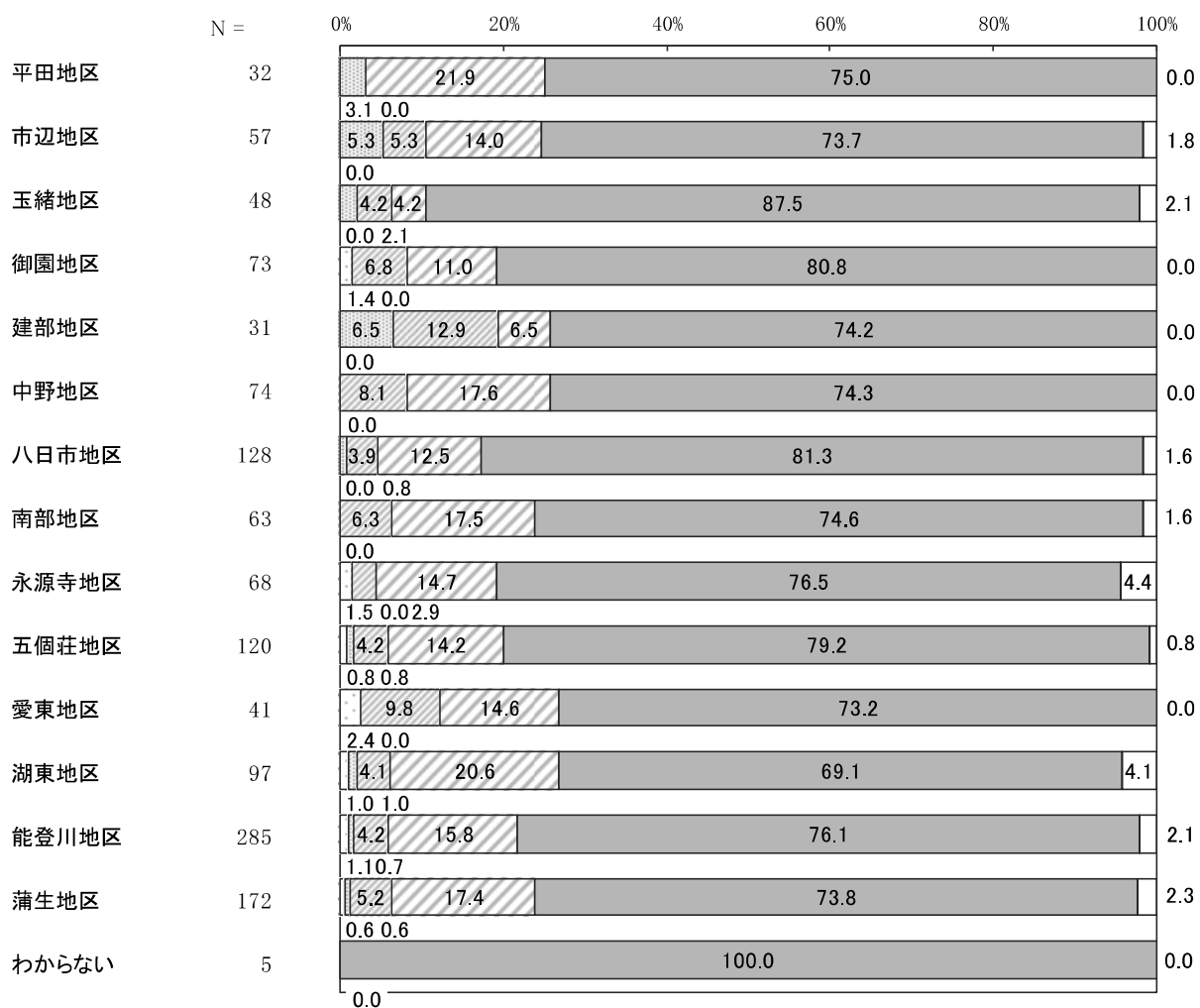


【年代別】

週3回以上参加した
 週1～2回参加した
 月1～2回程度参加した
 年数回程度参加した
 参加しなかった
 無回答



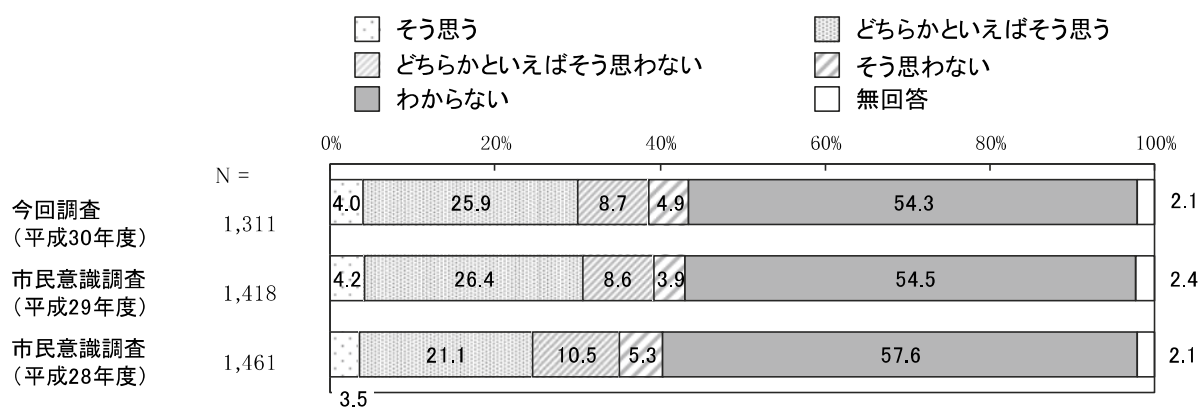
【居住地区別】



問 40 あなたは、東近江市において青少年健全育成の取組がなされていると思いますか。《○ 1 つ》

3 割近くが「取組がなされている」、半数が「わからない」

- ・ 青少年健全育成の取組がなされていると思うかについては、「わからない」が 54.3%と最も多くなっています。「そう思う」が 4.0%、「どちらかといえばそう思う」が 25.9%で、これらを合わせると 29.9%となり、取組がなされていると回答した人は 3 割近くみられます。一方、そう思わない人（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合は 13.6%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、青少年健全育成の取組がなされていると思う人（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合は増加し、そう思わない人（前述）の割合は減少しています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では 10 歳代と 60 歳以上で、居住地区別では市辺地区、愛東地区で、青少年の健全育成の取組がなされていると思う人（前述）が多くみられます。



単位：％

	そう思う	そう思わない	差
①今回調査(平成 30 年度)	29.9	13.6	16.3
②市民意識調査(平成 29 年度)	30.6	12.5	18.1
③市民意識調査(平成 28 年度)	24.6	15.8	8.8
①－③	5.3	-2.2	7.5

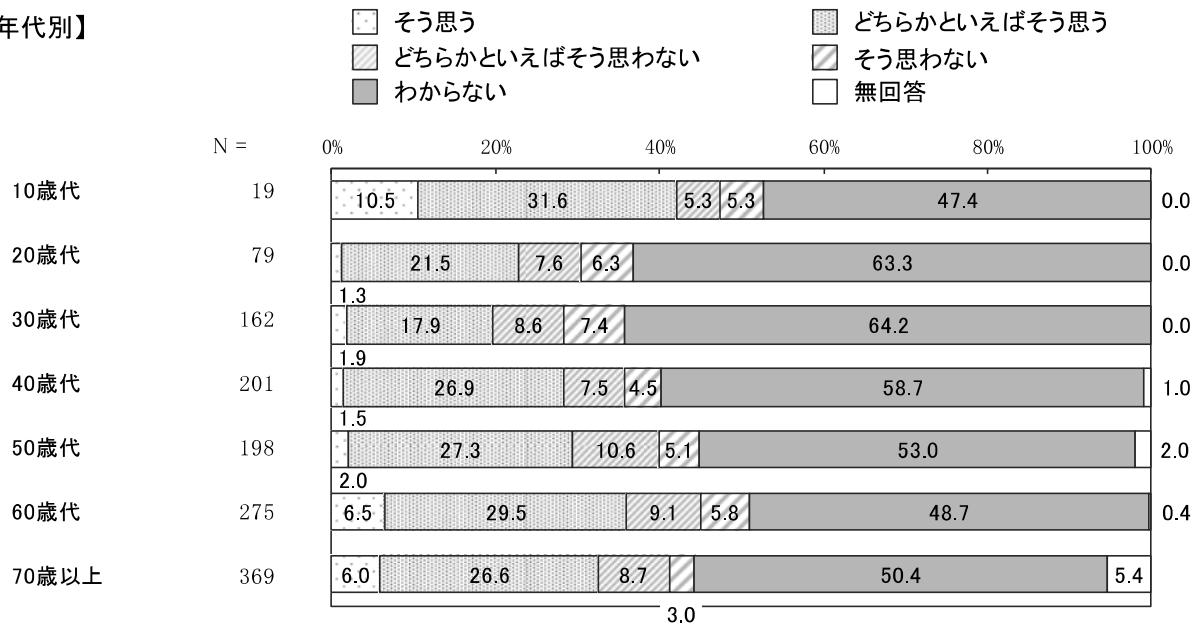
* そう思う:「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

* そう思わない:「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

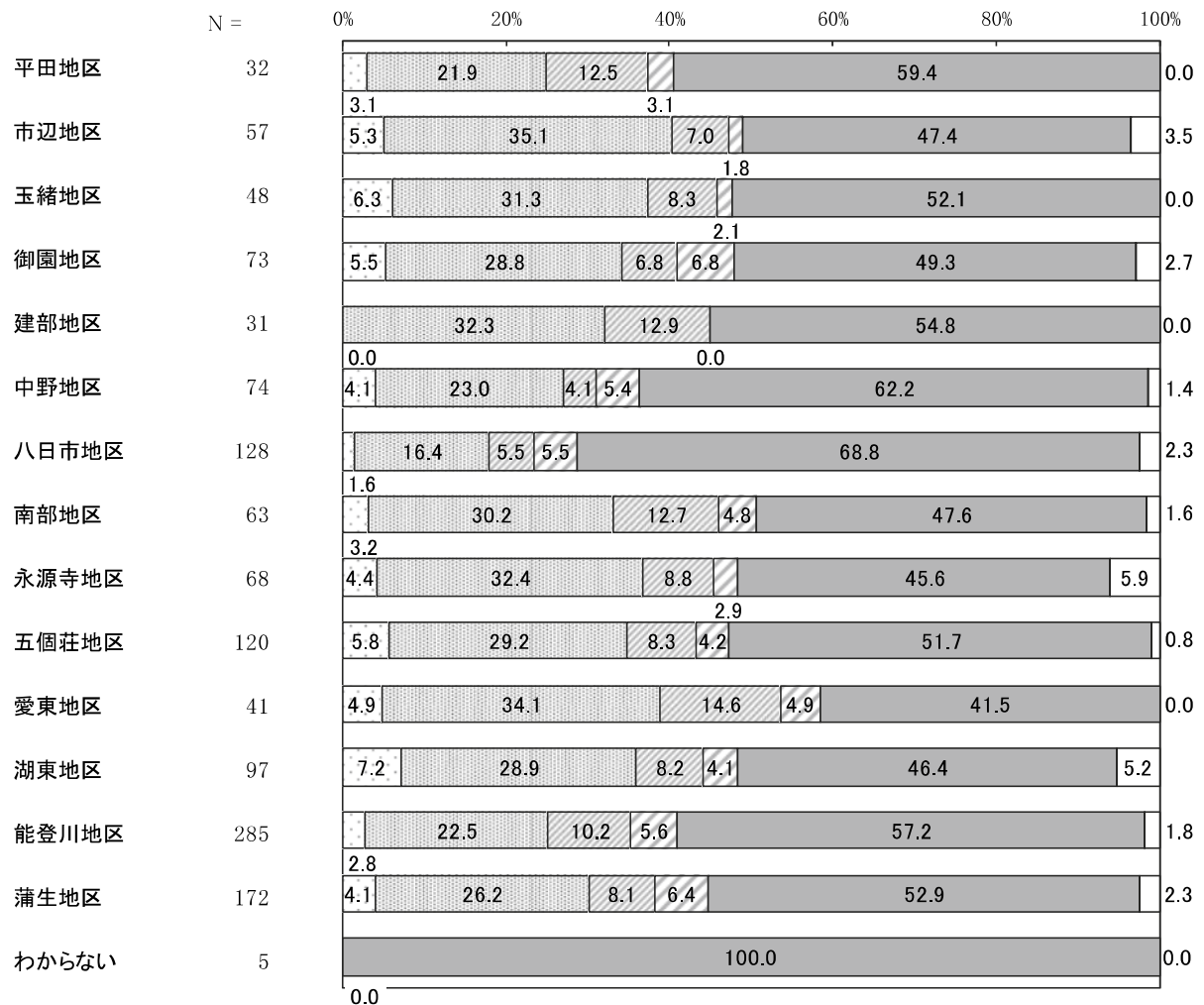
【性 別】



【年代別】



【居住地区別】

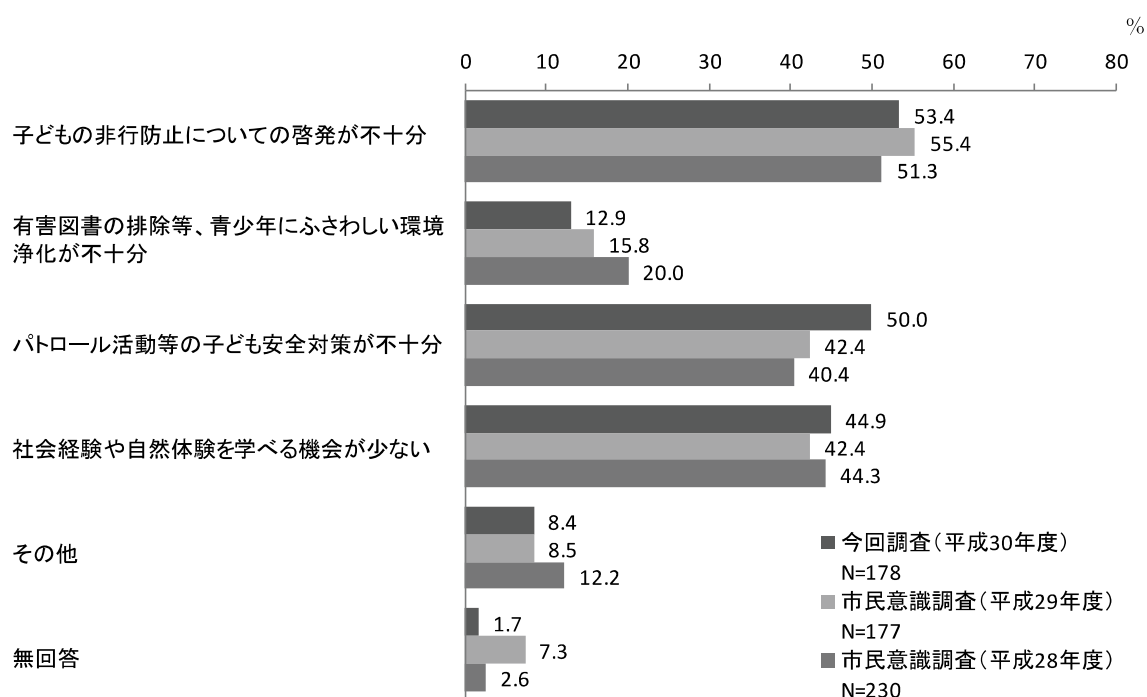


問 40-1 問 40 で「3. どちらかといえばそう思わない」「4. そう思わない」とお答えの方にお
たずねします。

その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

青少年健全育成の取組がなされていないと思う理由は「子どもの非行防止についての啓発が不十分」

- ・ 青少年健全育成の取組がなされていないと思う理由としては、「子どもの非行防止についての啓発が不十分」が 53.4%と最も多く、次いで「パトロール活動等の子ども安全対策が不十分」が 50.0%、「社会経験や自然体験を学べる機会が少ない」が 44.9%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、「パトロール活動等の子ども安全対策が不十分」の割合が年々増加する一方で、「有害図書の排除等、青少年にふさわしい環境浄化が不十分」の割合が年々減少しています。
- ・ 性別では、男性は「子どもの非行防止についての啓発が不十分」が、女性は「パトロール活動等の子ども安全対策が不十分」が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、30～40 歳代と 70 歳以上は「子どもの非行防止についての啓発が不十分」が、50～60 歳代は「パトロール活動等の子ども安全対策が不十分」が最も多くなっています。(20 歳代までは有効回答数が少ないため、比較できません。)



【性 別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	子どもの 非行防止に ついで の啓発が不 十分	有害図書 の排除等、 環境青 少年にふ さわしい 浄化が不 十分	パト ロール 活動等 の分子 ども安全 対策が不 十分	社会 経験や 自然体 験を 学べる 機会が 少ない	そ 他	無 回 答
男性	103	56.3	11.7	44.7	50.5	6.8	1.0
女性	71	50.7	15.5	57.7	39.4	9.9	1.4

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	子どもの 非行防止に ついで の啓発が不 十分	有害図書 の排除等、 環境青 少年にふ さわしい 浄化が不 十分	パト ロール 活動等 の分子 ども安全 対策が不 十分	社会 経験や 自然体 験を 学べる 機会が 少ない	そ 他	無 回 答
10歳代	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	11	27.3	18.2	54.5	54.5	0.0	0.0
30歳代	26	61.5	11.5	42.3	57.7	7.7	0.0
40歳代	24	62.5	12.5	50.0	33.3	12.5	0.0
50歳代	31	45.2	12.9	64.5	38.7	16.1	0.0
60歳代	41	43.9	9.8	51.2	41.5	12.2	2.4
70歳以上	43	65.1	16.3	41.9	51.2	0.0	4.7

【居住地区別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	子どもの 非行防止に ついで の啓発が不 十分	有害図書 の排除等、 環境青 少年にふ さわしい 浄化が不 十分	パト ロール 活動等 の分子 ども安全 対策が不 十分	社会 経験や 自然体 験を 学べる 機会が 少ない	そ 他	無 回 答
平田地区	5	60.0	40.0	20.0	80.0	0.0	0.0
市辺地区	5	60.0	40.0	60.0	20.0	0.0	0.0
玉緒地区	5	40.0	0.0	20.0	60.0	20.0	0.0
御園地区	10	60.0	10.0	40.0	30.0	10.0	0.0
建部地区	4	75.0	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0
中野地区	7	100.0	28.6	42.9	42.9	28.6	0.0
八日市地区	14	35.7	21.4	71.4	14.3	7.1	0.0
南部地区	11	72.7	18.2	36.4	54.5	0.0	0.0
永源寺地区	8	25.0	12.5	62.5	75.0	0.0	0.0
五個荘地区	15	73.3	13.3	40.0	46.7	0.0	6.7
愛東地区	8	75.0	25.0	37.5	25.0	12.5	0.0
湖東地区	12	58.3	0.0	41.7	41.7	0.0	8.3
能登川地区	45	51.1	2.2	51.1	51.1	13.3	0.0
蒲生地区	25	28.0	12.0	64.0	40.0	4.0	4.0
わからない	-	-	-	-	-	-	-

(6) 都市整備について

問 41 市内の都市基盤の整備に対する満足度をお答えください。《①～⑤それぞれの項目に○1つ》

総合評価は、主要幹線道路、雨水排水、河川、地域の生活道路、公園の順

- ・ 都市基盤の整備に対する満足度については、満足（「満足」と「どちらかといえば満足」の合計）の割合と、不満（「どちらかといえば不満」と「不満」の合計）の割合を比べると、⑤公園の整備を除いていずれも満足の割合が高くなっています。
- ・ 満足（前述）とする人が多い順に並べると、①主要幹線道路の整備、②地域の生活道路の整備、④雨水排水の整備、③河川の整備、⑤公園の整備となっています。一方、不満（前述）とする人が多い項目は②地域の生活道路の整備、⑤公園の整備、①主要幹線道路の整備となっています。
- ・ 満足と不満の両方からみた総合的な評価（加重平均）の高い順は、①主要幹線道路の整備、④雨水排水の整備、③河川の整備、②地域の生活道路の整備、⑤公園の整備となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動はあるものの、道路整備（②地域の生活道路と①主要幹線道路）と⑤公園の整備は評価が下がる一方で、河川・水路の整備（③河川と④雨水排水）は評価があがっています。

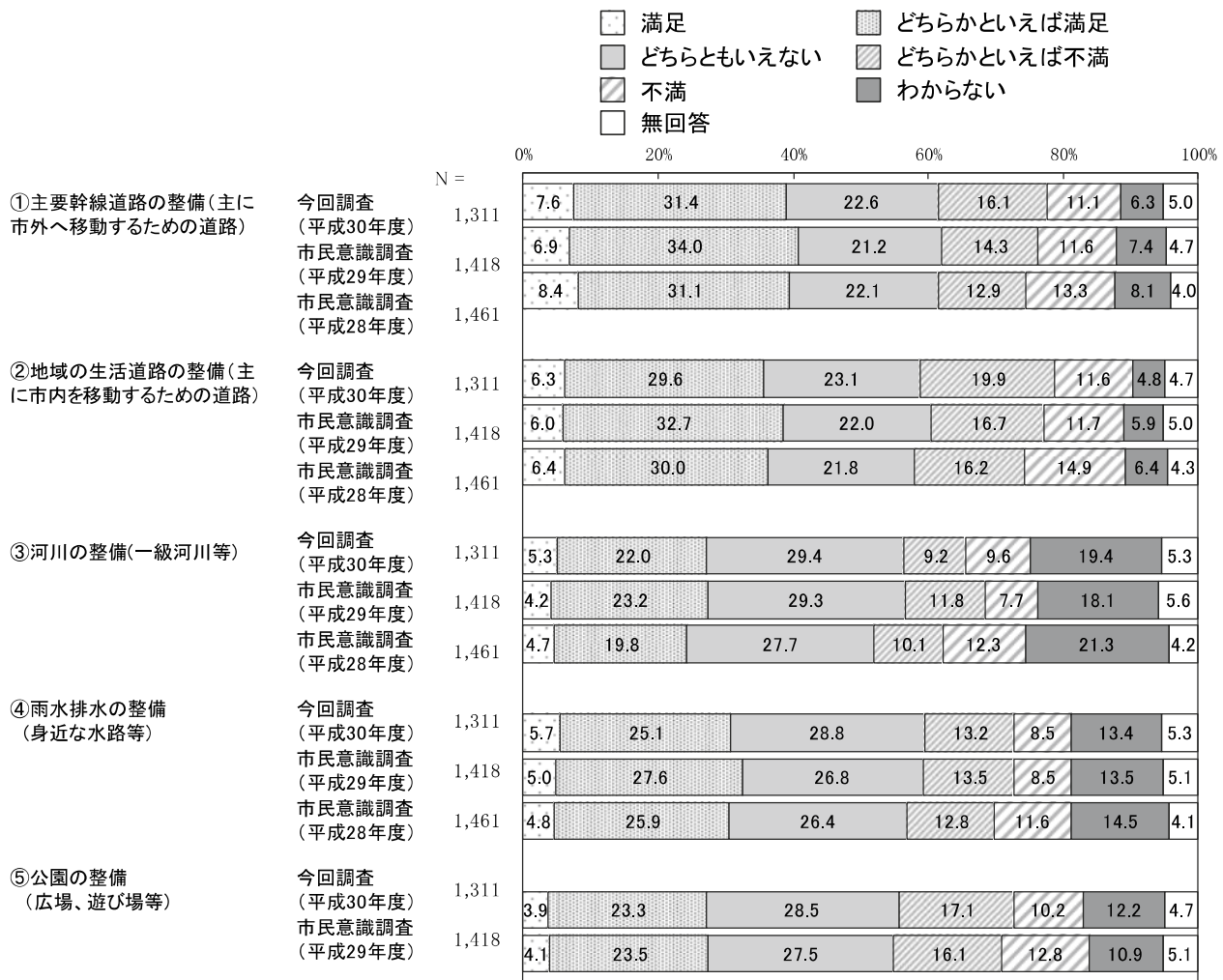
	満足	不満	加重平均
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)	39.0% (-1.9)	27.2% (+1.3)	0.085
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)	35.9% (-2.8)	31.5% (+3.1)	-0.010
③河川の整備(一級河川等)	27.3% (-0.1)	18.8% (-0.7)	0.041
④雨水排水の整備(身近な水路等)	30.8% (-1.8)	21.7% (-0.3)	0.064
⑤公園の整備(広場、遊び場等)	27.2% (-0.4)	27.3% (-1.6)	-0.064

* 満足:「満足」と「どちらかといえば満足」の合計

* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

* 加重平均:「満足」は+2点、「どちらかといえば満足」は+1点、「どちらかといえば不満」は-1点、「不満」は-2点、「どちらともいえない」と「わからない」は0点として加算し、その平均値を出したもの。値が大きいほど満足度が高く、値が小さいほど満足度が低いといえる。

* 満足と不満の()内の数値は平成29年度調査との差を示している。



①主要幹線道路の整備

- ・ 性別では、女性の満足度(加重平均による総合評価、以下同様)が男性より高くなっています(男性はマイナス評価)。
- ・ 年代別では、60歳代までで年齢があがるほど満足度が低くなっています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、永源寺地区、五個荘地区、御園地区で満足度が高く、市辺地区、建部地区、平田地区、湖東地区で満足度が低く(マイナス評価)なっています。

②地域の生活道路の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています(男性はマイナス評価)。
- ・ 年代別では、10歳代で満足度が高く、30～60歳代で満足度が低く(マイナス評価)なっています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区で満足度が高く、市辺地区、建部地区、湖東地区、能登川地区、平田地区、中野地区で満足度が低く(マイナス評価)なっています。

③河川の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています(男性はマイナス評価)。
- ・ 年代別では、10～40歳代で満足度が高く、60歳以上で満足度が低く(マイナス評価)なっています。

ます。

- ・ 居住地区別では、永源寺地区で満足度が高く、中野地区、平田地区、湖東地区で満足度が低く（マイナス評価）なっています。

④雨水排水の整備

- ・ 年代別では、40歳代までで年齢が若いほど満足度が高く、60歳代で満足度が低く（マイナス評価）なっています。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区、市辺地区で満足度が高く、中野地区、南部地区、建部地区で満足度が低く（マイナス評価）なっています。

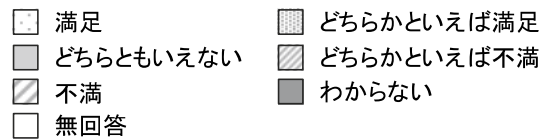
⑤公園の整備

- ・ 性別では、男女ともにマイナス評価ですが、男性の満足度が女性より低くなっています。
- ・ 年代別では、10歳代では満足度が高くなっていますが、そのほかの年代では満足度が低く（マイナス評価）なっています。
- ・ 居住地区別では、五個荘地区、市辺地区で満足度が高く、建部地区、中野地区、南部地区、蒲生地区で満足度が低くなっています（マイナス評価）。

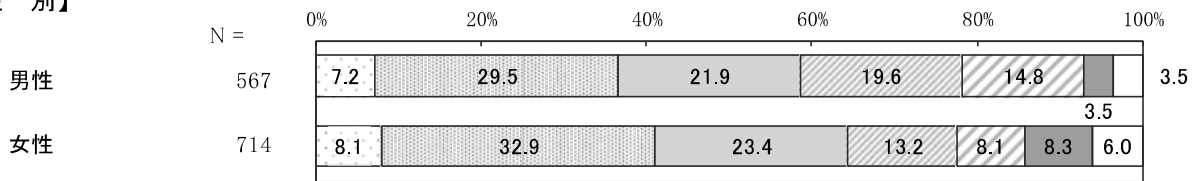
■性別・年代別・居住地区別の比較(加重平均)

	①主要幹線道路	②地域の生活道路	③河川	④雨水排水	⑤公園
全体	0.085	-0.010	0.041	0.064	-0.064
男性	-0.053	-0.175	-0.035	-0.007	-0.102
女性	0.197	0.130	0.112	0.126	-0.027
10歳代	0.368	0.526	0.737	0.789	0.421
20歳代	0.152	0.089	0.241	0.266	-0.089
30歳代	0.142	-0.012	0.198	0.117	-0.074
40歳代	0.065	-0.104	0.214	0.100	0.010
50歳代	0.015	-0.091	0.035	0.000	-0.086
60歳代	0.018	-0.105	-0.113	-0.058	-0.153
70歳以上	0.130	0.114	-0.084	0.068	-0.035
平田地区	-0.125	-0.156	-0.156	0.063	-0.094
市辺地区	-0.211	-0.333	0.070	0.193	0.211
玉緒地区	0.146	0.167	0.063	0.021	-0.104
御園地区	0.219	0.178	0.027	-0.014	-0.055
建部地区	-0.161	-0.226	0.000	-0.129	-0.581
中野地区	0.027	-0.027	-0.189	-0.176	-0.338
八日市地区	0.148	0.063	0.117	0.070	0.039
南部地区	0.048	0.111	0.095	-0.175	-0.302
永源寺地区	0.279	0.132	0.250	0.353	-0.044
五個荘地区	0.233	0.100	0.050	0.117	0.242
愛東地区	0.415	0.293	0.098	0.122	-0.024
湖東地区	-0.124	-0.196	-0.072	0.082	0.062
能登川地区	0.014	-0.172	0.035	0.123	-0.032
蒲生地区	0.203	0.116	0.058	0.035	-0.244

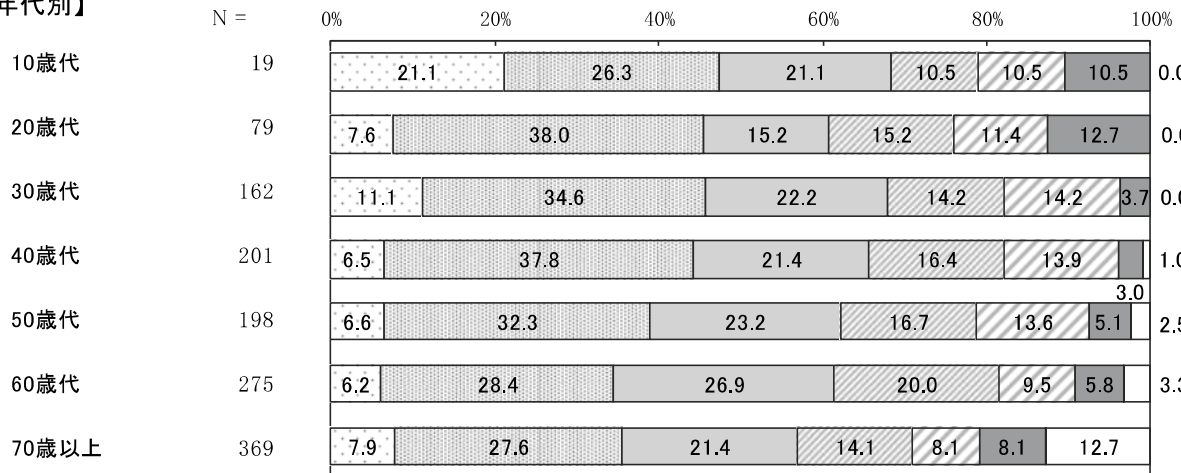
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)



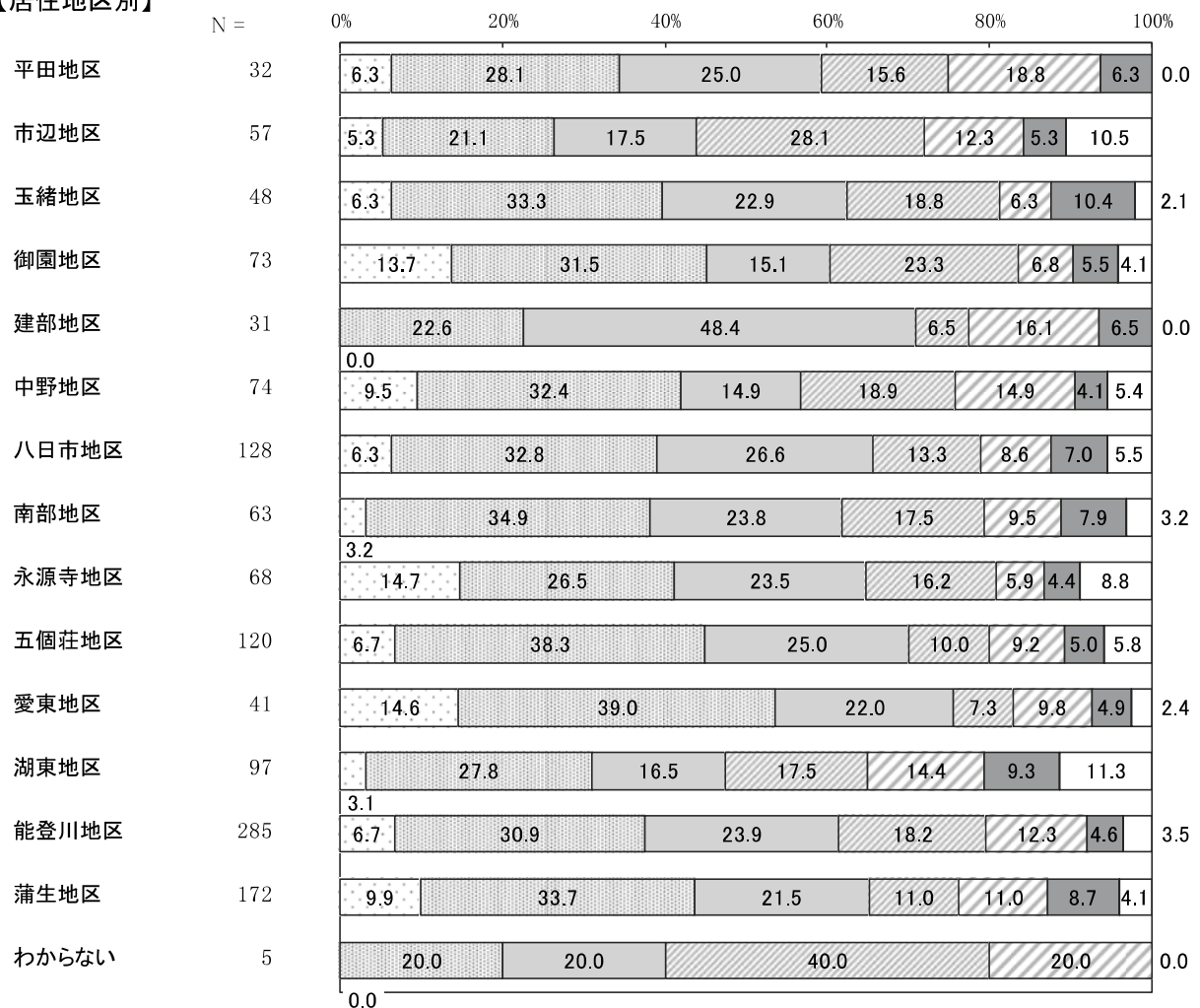
【性 別】



【年代別】

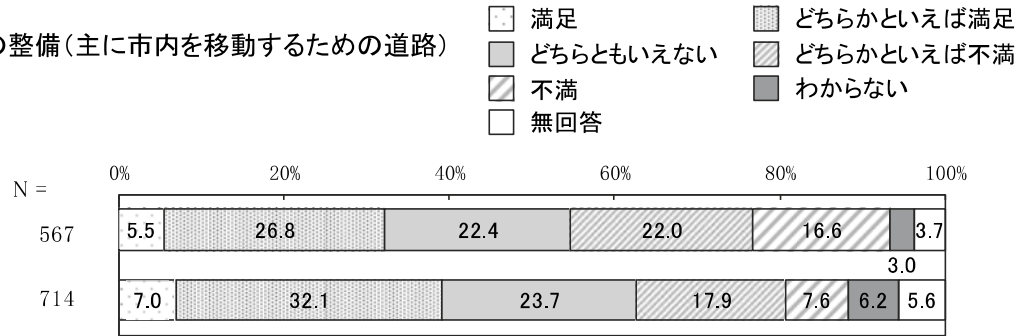


【居住地区別】

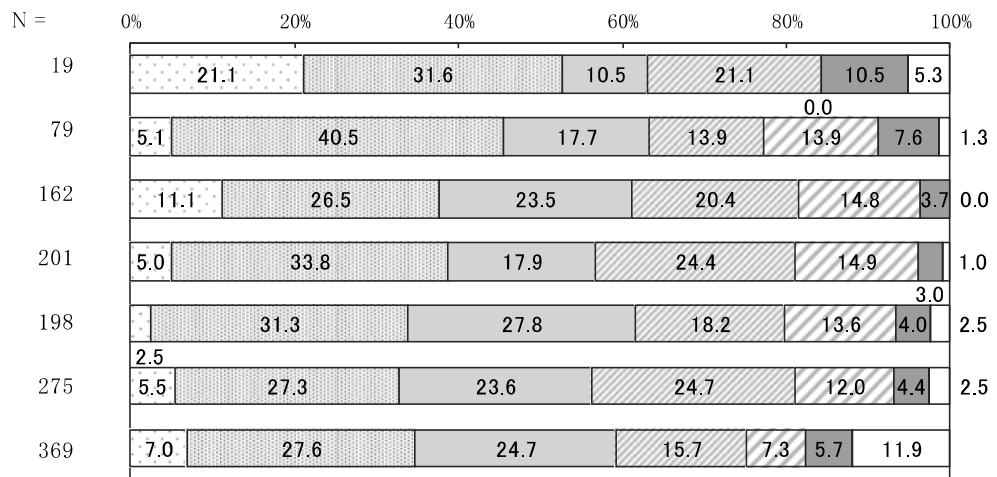


②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)

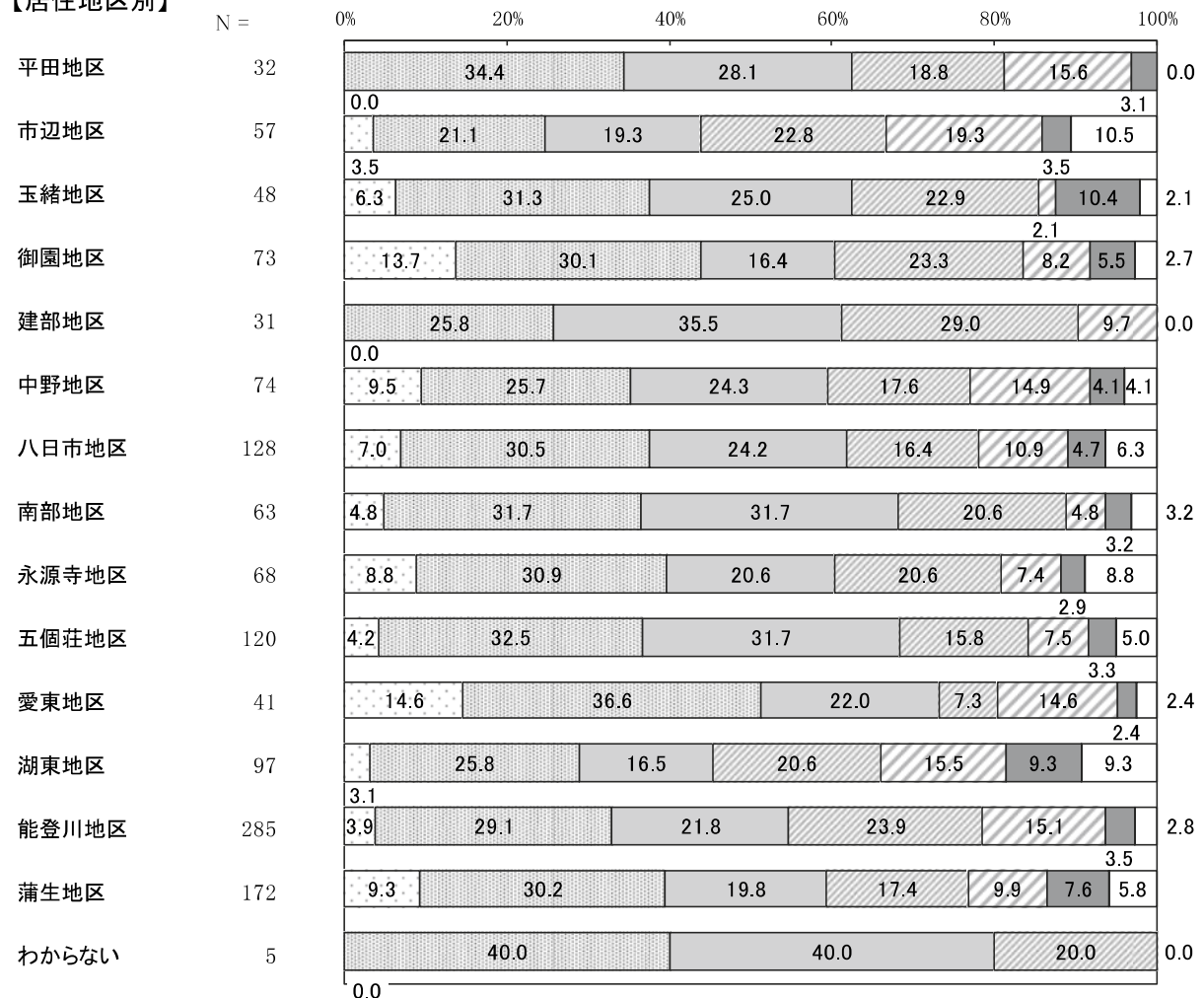
【性別】



【年代別】

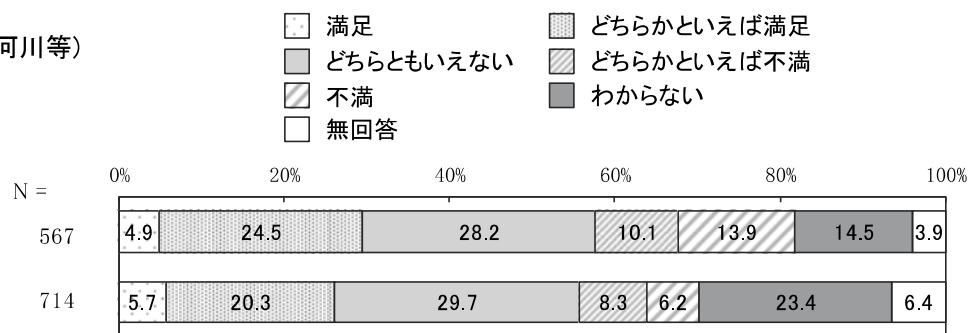


【居住地区別】

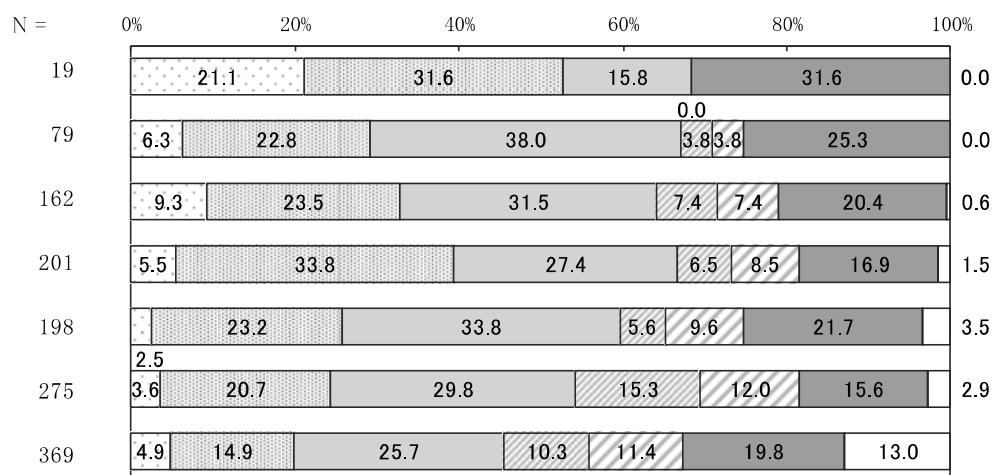


③河川の整備(一級河川等)

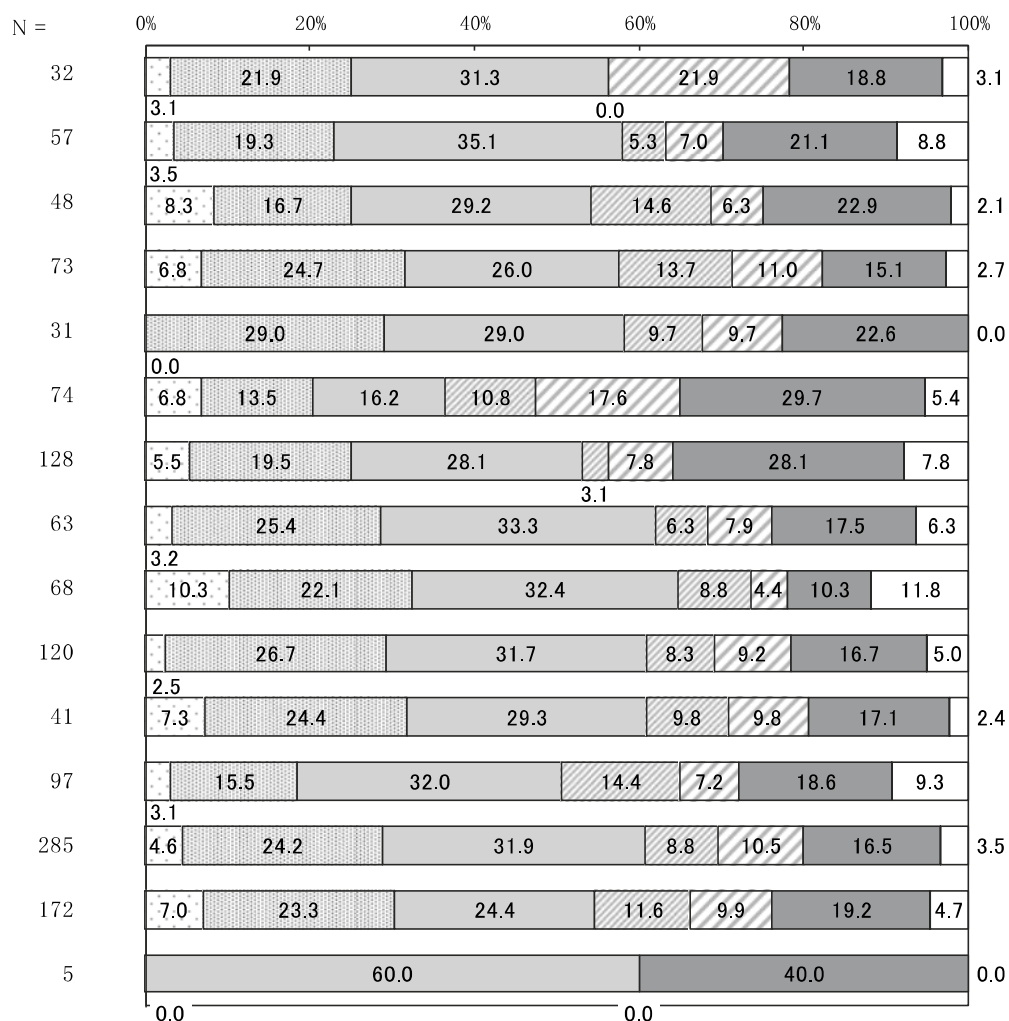
【性 別】



【年代別】

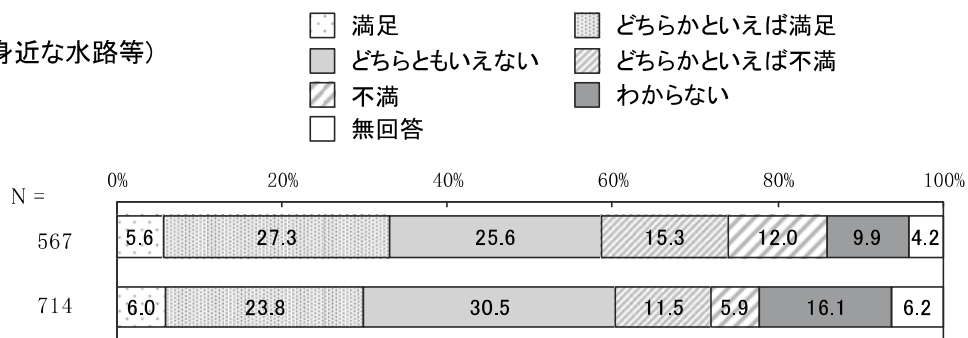


【居住地区別】

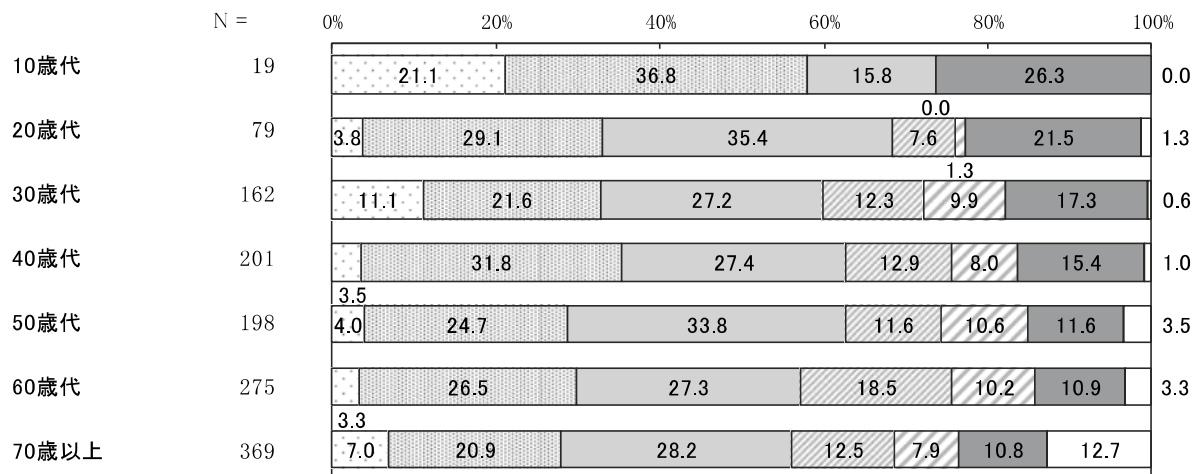


④雨水排水の整備(身近な水路等)

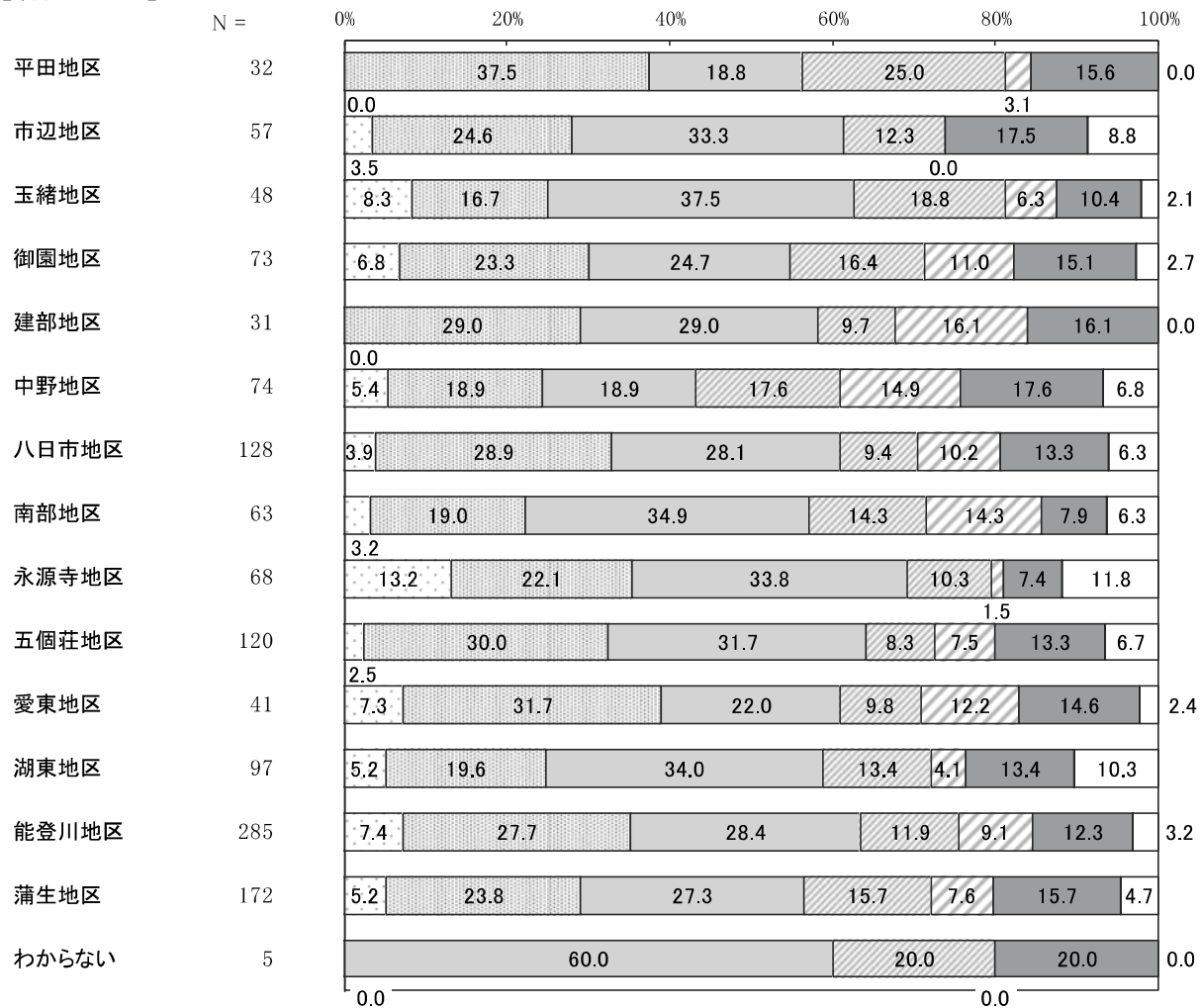
【性別】



【年代別】

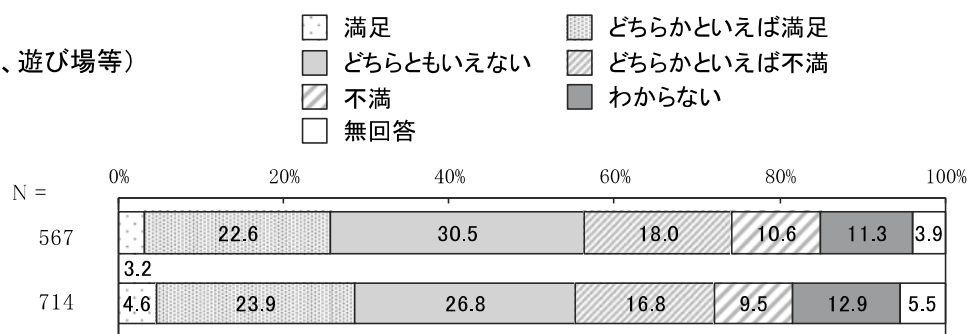


【居住地区別】

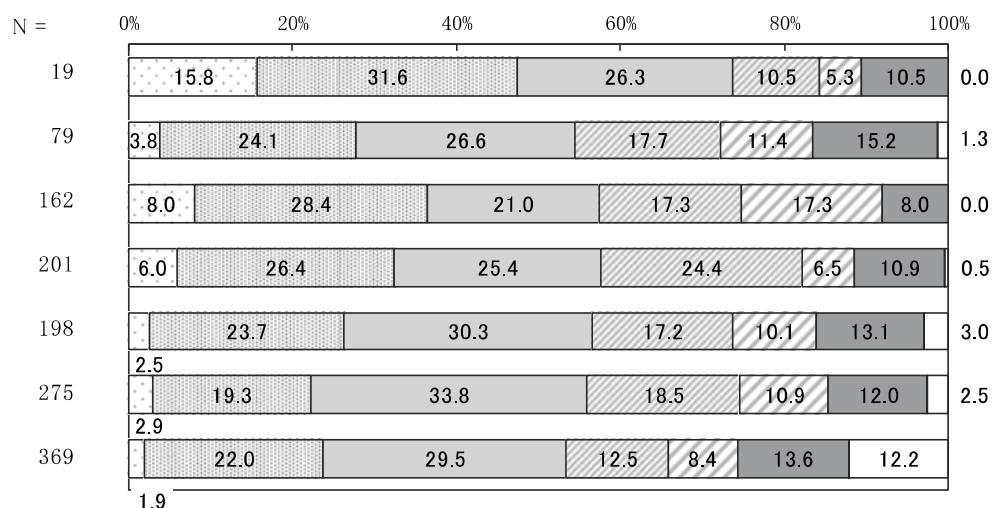


⑤公園の整備(広場、遊び場等)

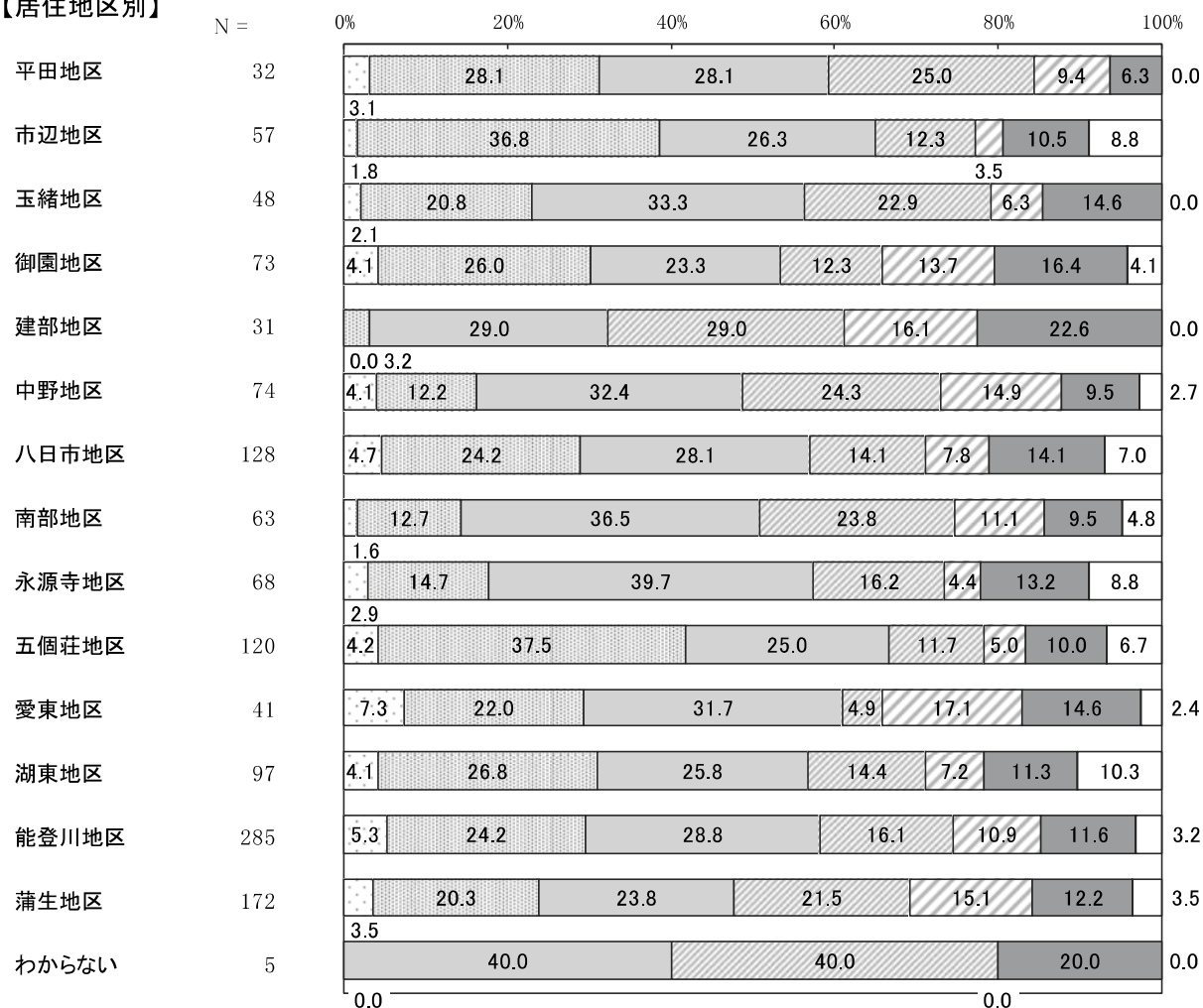
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

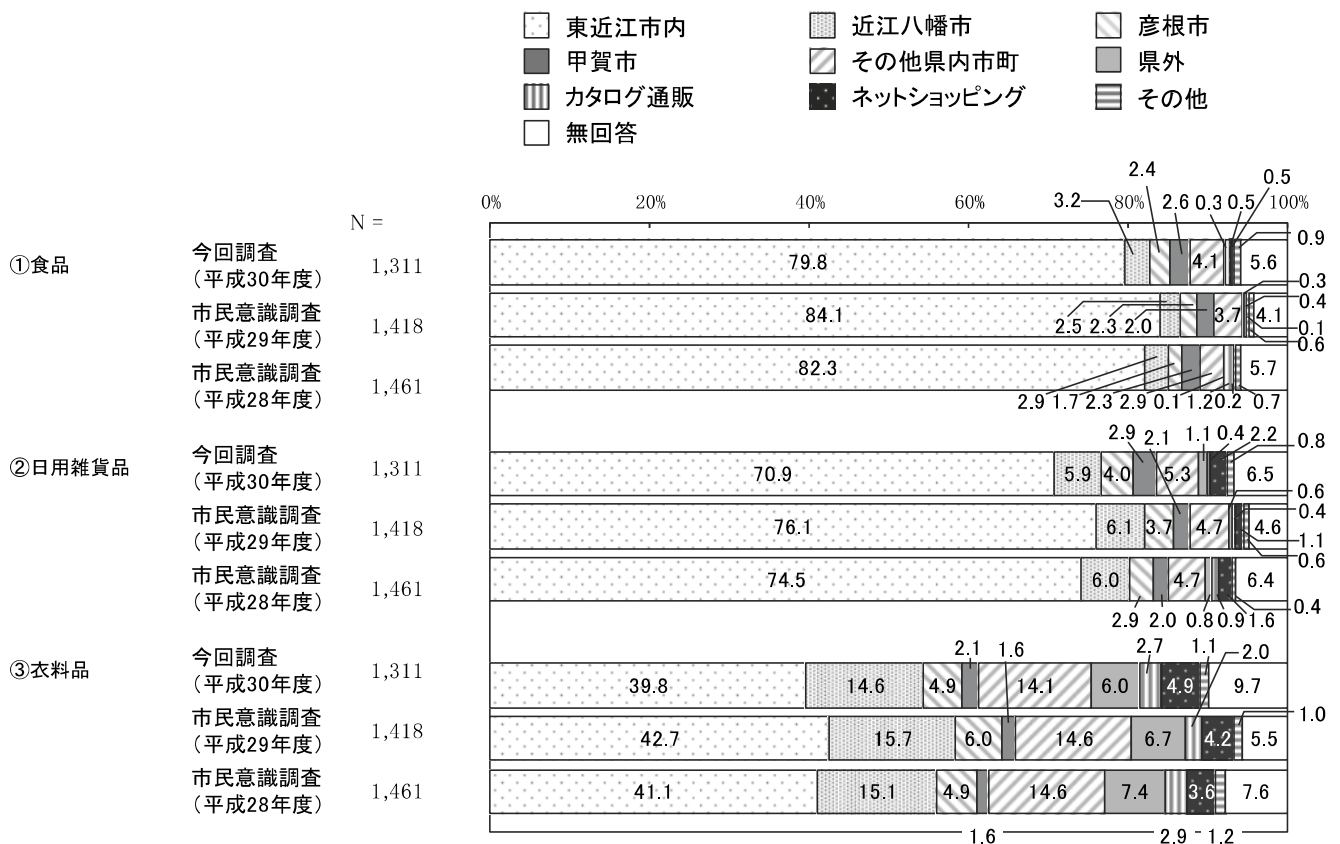


(7) 購買状況等について

問 42 あなたは、日頃、食品や日用雑貨品、衣料品を主にどこで購入しますか。《①～③それぞれの項目に○1つ》

食品は8割近く、日用雑貨品は7割が市内で購入、衣料品は4割が市外で購入

- 食品、日用雑貨品、衣料品の購入先は、主に「東近江市内」で購入している人が①食品は8割近く（79.8%）、②日用雑貨品は7割（70.9%）となっています。一方、③衣料品については、半数近く（41.7%）が市外（カタログ通販やネットショッピングを除く）で購入しており、その内訳としては「近江八幡市」が14.6%、「その他県内市町」が14.1%、「県外」が6.0%などとなっています。
- 過去の調査と比較すると、変動があるものの、それぞれ「市内」の割合が減少しています。



①食品

- 年代別では、10歳代は市内で購入している人が9割近くとなっています。
- 居住地区別では、平田地区のみ「近江八幡市」が最も多くなっています。ほかの地区は「市内」が最も多く、建部地区、御園地区、愛東地区、南部地区、中野地区で9割となっています。そのほか、蒲生地区では「甲賀市」が、五個荘地区と湖東地区では「その他県内市町」が、ほかの地区より多くみられます。

②日用雑貨品

- 性別では、女性は市内で購入している人が男性より多くみられます。
- 年代別では、すべての年代で「市内」が最も多く、60歳以上は8割近くとなっています。その

ほか、10 歳代で「近江八幡市」や「その他県内市町」がほかの年代より多くみられます。

- ・ 居住地区別では、すべての地区で「市内」が最も多く、建部地区、中野地区、御園地区で 9 割前後となっています。そのほか、平田地区で「近江八幡市」が、蒲生地区で「甲賀市」や「その他県内市町」が、ほかの地区より多くみられます。

③衣料品

- ・ 性別では、男性は市内で購入している人が女性より多くみられます。
- ・ 年代別では、10 歳代と 30 歳代は「その他県内市町」が、20 歳代と 40 歳代は「近江八幡市」が、50 歳以上は「市内」が最も多くなっています。年齢があがるほど市内の割合が高くなり、70 歳以上は 6 割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区のみ「近江八幡市」が最も多くなっています。ほかの地区は「市内」が最も多く、中野地区、建部地区、市辺地区で 6 割前後となっています。そのほか、湖東地区と能登川地区で「彦根市」が、蒲生地区で「甲賀市」が、永源寺地区で「その他県内市町」が、ほかの地区より多くみられます。

①食品

【性 別】

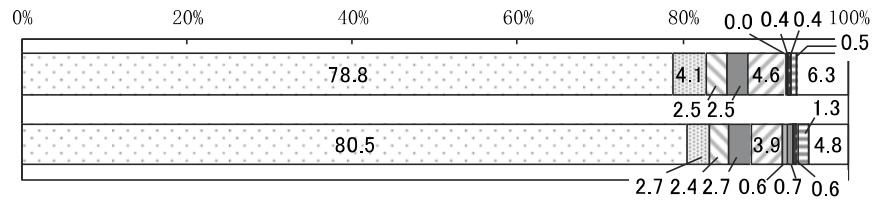
男性

N =

567

女性

714



【年代別】

10歳代

19

20歳代

79

30歳代

162

40歳代

201

50歳代

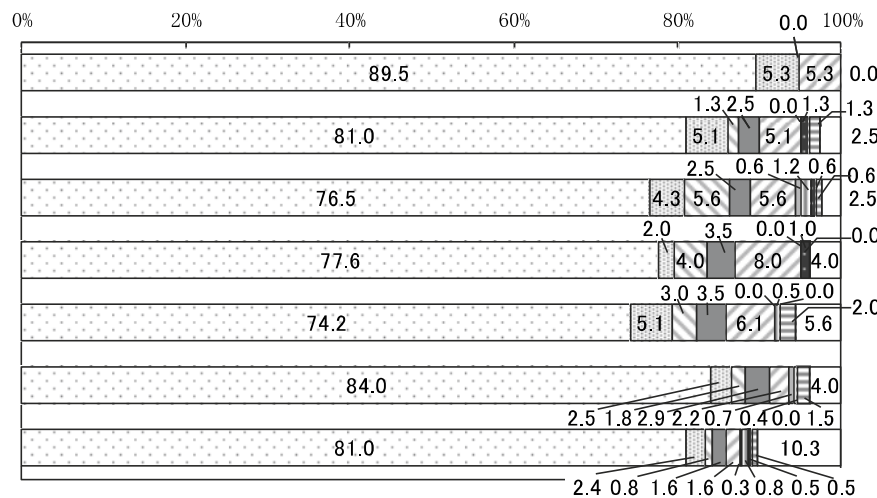
198

60歳代

275

70歳以上

369



【居住地区別】

平田地区

32

市辺地区

57

玉緒地区

48

御園地区

73

建部地区

31

中野地区

74

八日市地区

128

南部地区

63

永源寺地区

68

五個荘地区

120

愛東地区

41

湖東地区

97

能登川地区

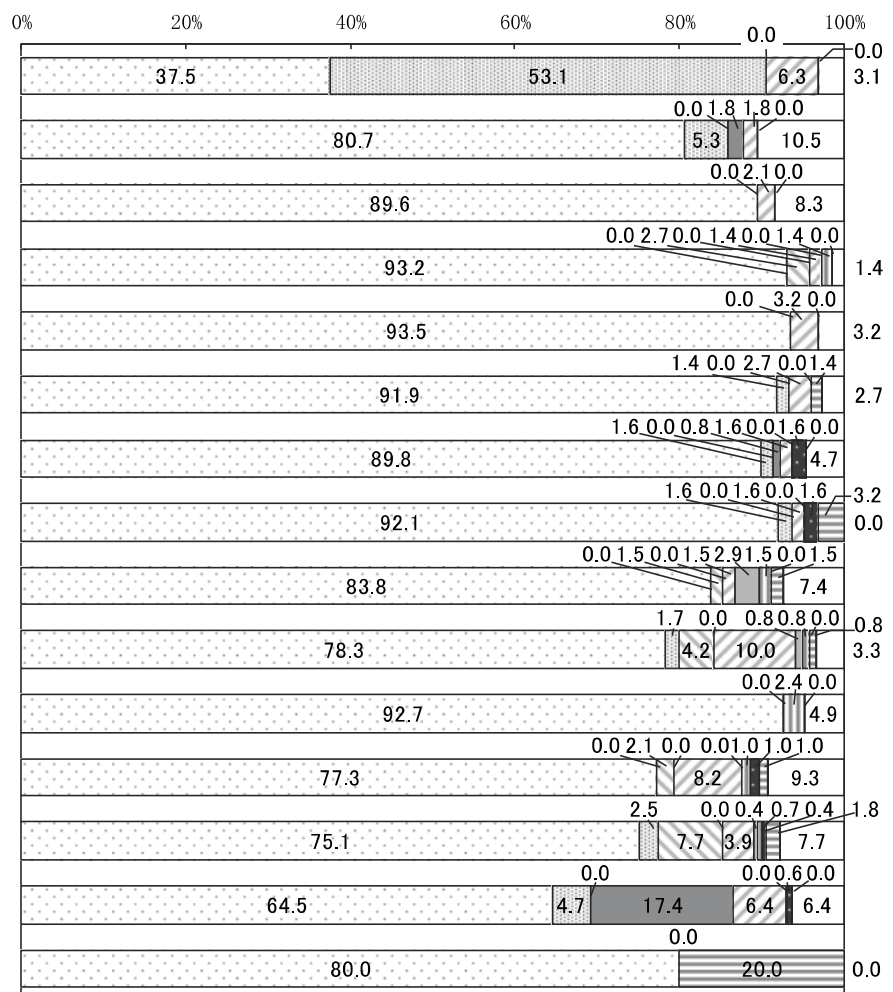
285

蒲生地区

172

わからない

5



②日用雑貨品

【性別】

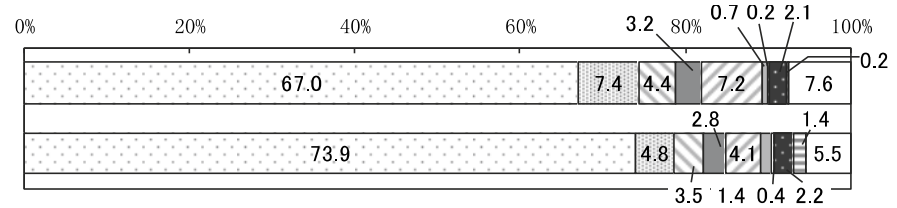
男性

N =

567

女性

714



【年代別】

10歳代

19

20歳代

79

30歳代

162

40歳代

201

50歳代

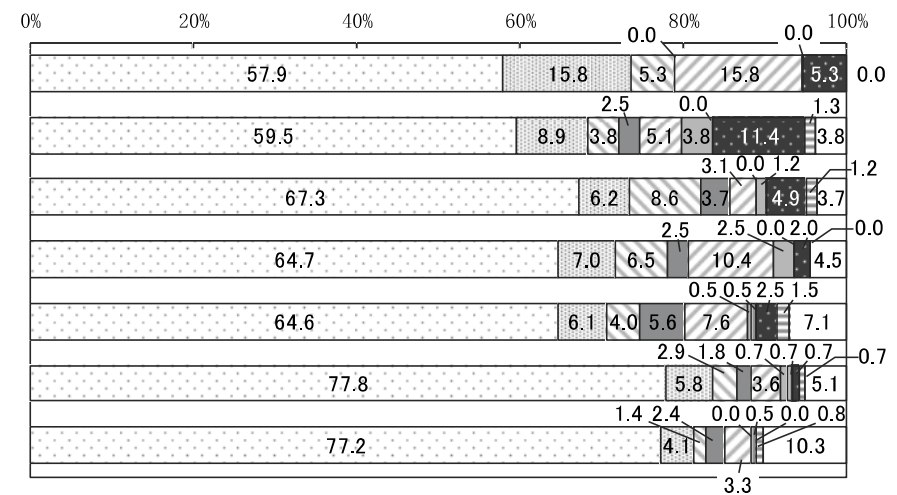
198

60歳代

275

70歳以上

369



【居住地区別】

平田地区

32

市辺地区

57

玉緒地区

48

御園地区

73

建部地区

31

中野地区

74

八日市地区

128

南部地区

63

永源寺地区

68

五個荘地区

120

愛東地区

41

湖東地区

97

能登川地区

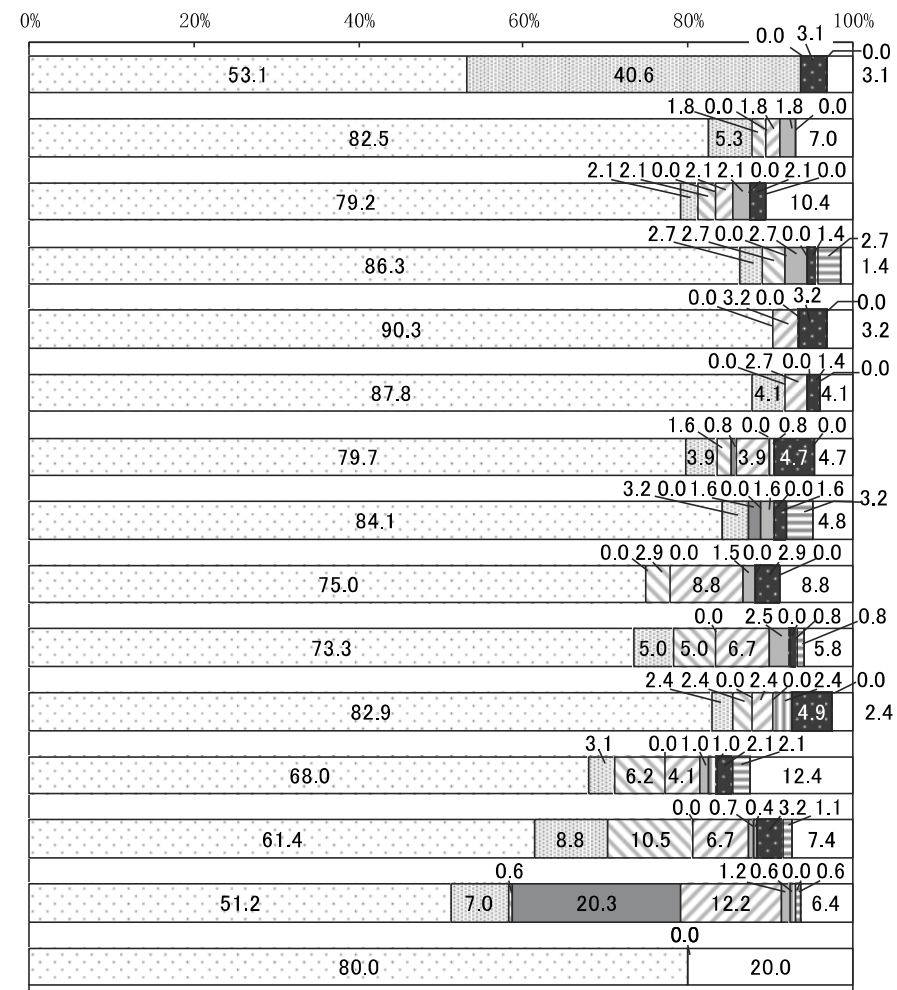
285

蒲生地区

172

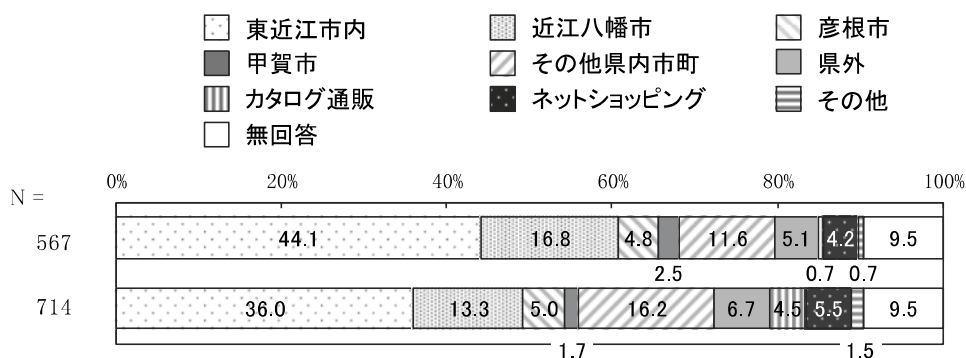
わからない

5

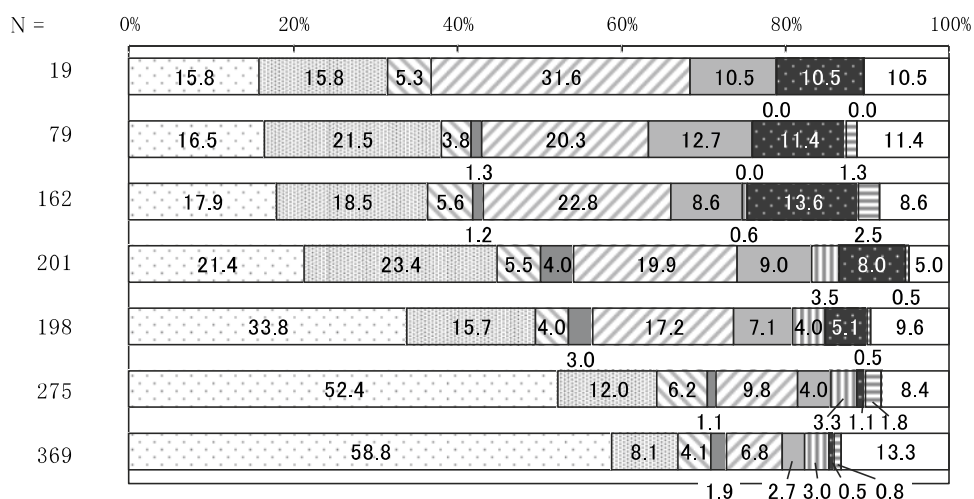


③衣料品

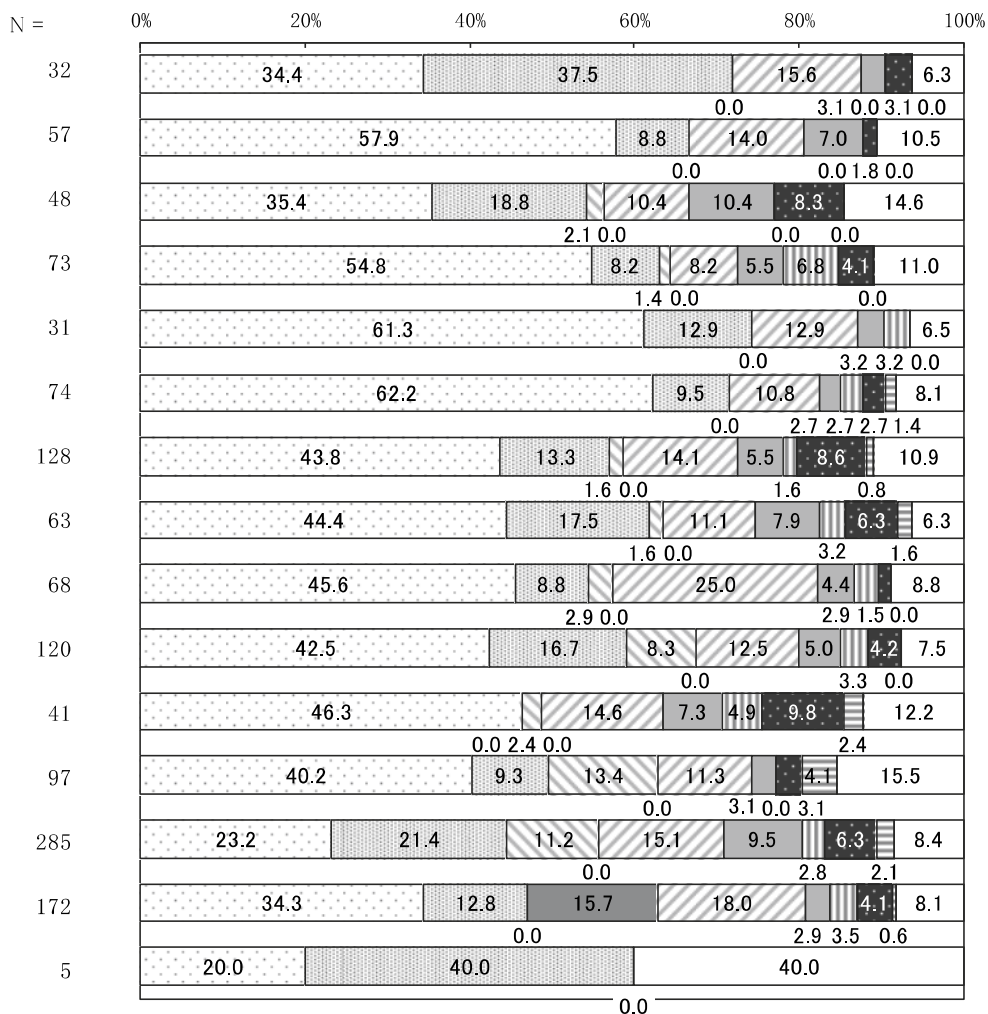
【性 別】



【年代別】



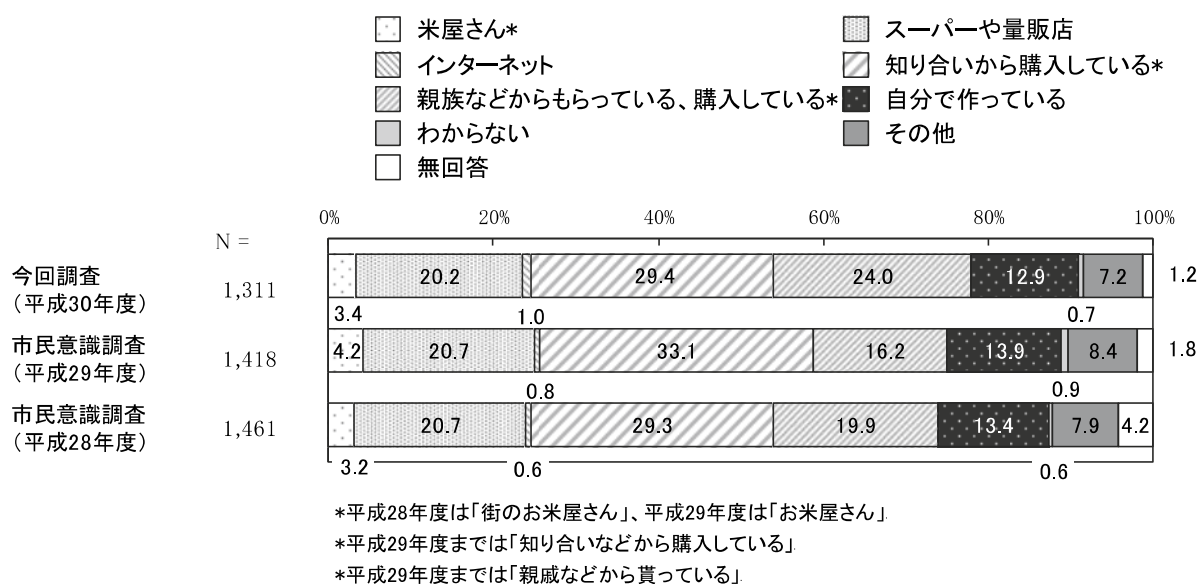
【居住地区別】



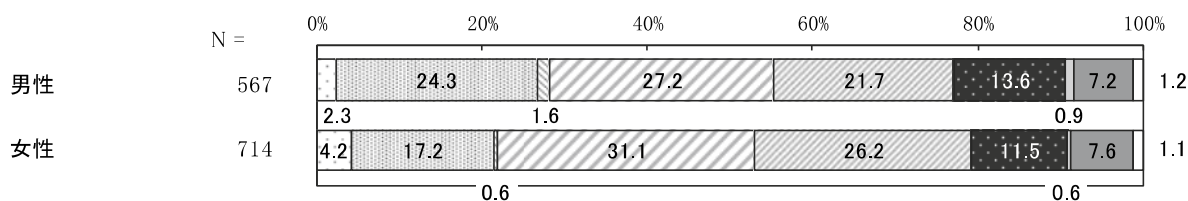
問 43 あなたの家庭では、お米を主にどこから購入等していますか。《○1つ》

米の購入先は、知り合い、親戚、スーパーや量販店の順

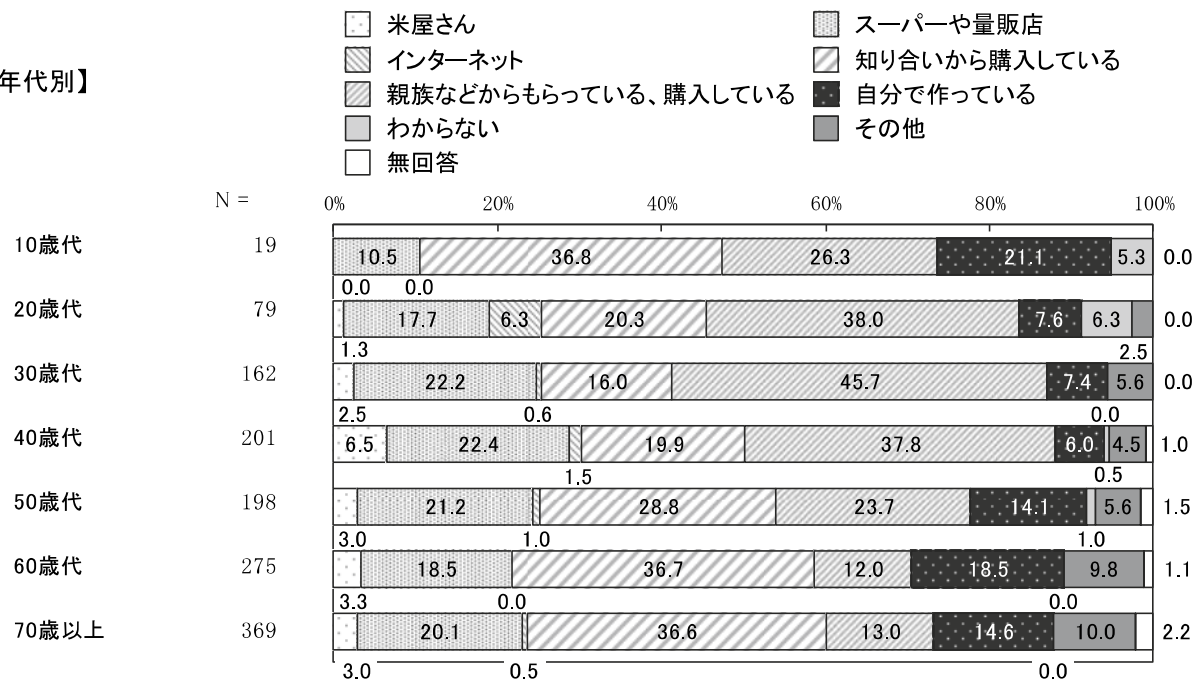
- ・ 米の購入先については、「知り合いから購入している」が29.4%で最も多く、次いで「親戚などからもらっている、購入している」が24.0%、「スーパーや量販店」が20.2%と続きます。「自分で作っている」は12.9%と1割程度です。
- ・ 性別では、男女ともに「知り合いから購入している」が最も多くあげられていますが、女性より男性で「スーパーや量販店」が多くみられます。
- ・ 年代別では、20～40歳代で「親戚などからもらっている、購入している」が、ほかの年代では「知り合いから購入している」が最も多くあげられています。また、30～50歳代で「スーパーや量販店」がほかの年代より多くみられます。
- ・ 居住地区別では、八日市地区で「スーパーや量販店」が、玉緒地区、中野地区、五個荘地区、能登川地区で「親戚などからもらっている、購入している」が、愛東地区で「自分で作っている」が、ほかの地区で「知り合いから購入している」が最も多くあげられています。



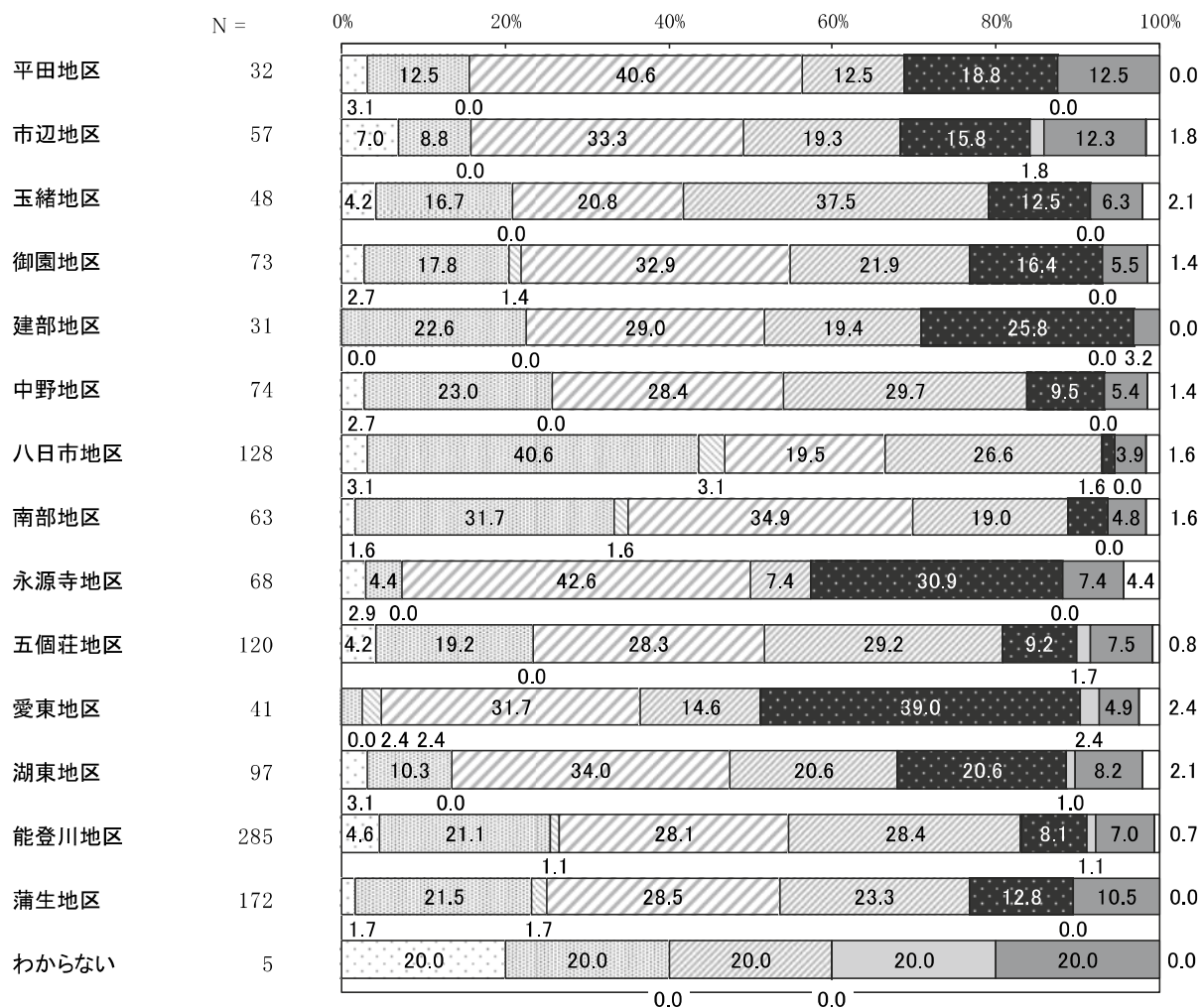
【性 別】



【年代別】



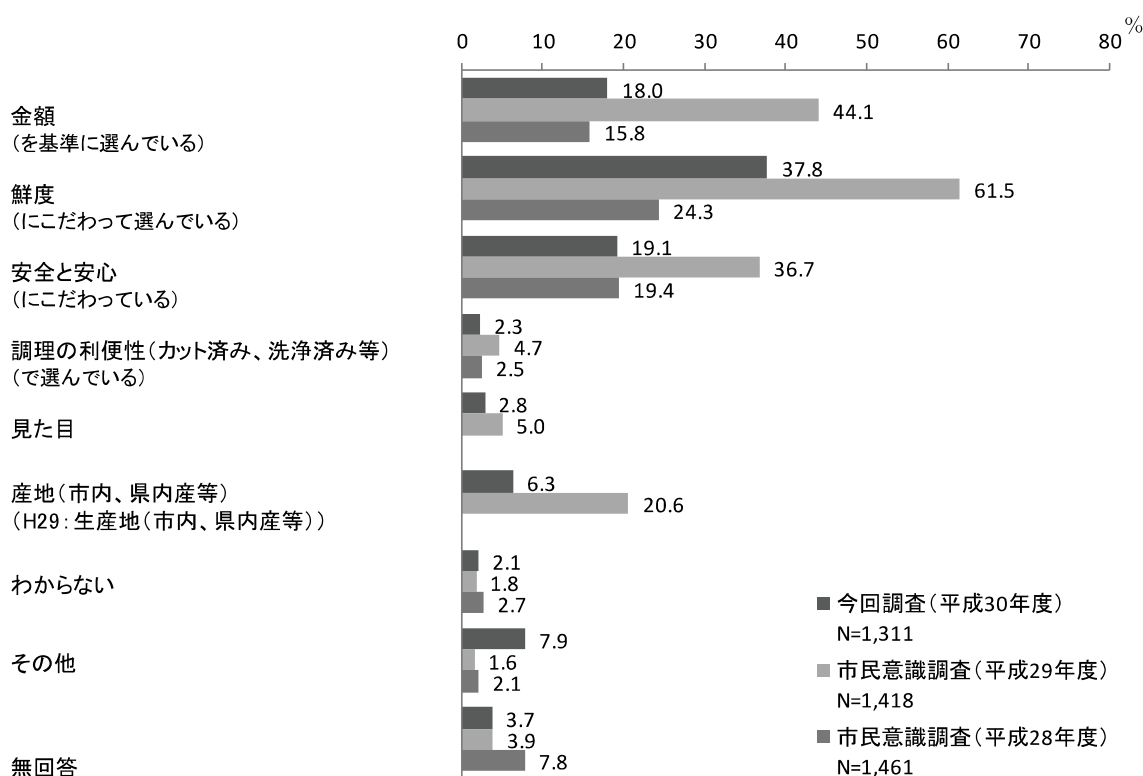
【居住地区別】



問 44 あなたの家庭では野菜等を購入するとき、主に何を基準に選んでいますか。（自作している方も不足する野菜を購入する場合）《○1つ》

野菜等を購入する際の基準は「鮮度」、「安全と安心」、「金額」

- ・ 野菜等を購入する際の基準としては、「鮮度」が 37.8%と最も多く、次いで「安全と安心」が 19.1%、「金額」が 18.0%と続きます。調理の利便性や見た目より、これらが重視されていることが分かります。
- ・ 過去の調査と比較すると、選択肢や選択数が増えているため単純比較はできませんが、平成 28 年度から上位 3 つは変わらないものの、第 1 位の「鮮度」の割合が増加しています。
- ・ 性別では、男女ともに「鮮度」が最も多くあげられています。男性より女性で多くなっています。
- ・ 年代別では、10 歳代では「安全と安心」が、20 歳代は「金額」が、ほかの年代は「鮮度」が最も多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で「鮮度」が最も多くなっていますが、八日市地区で「金額」が、玉緒地区と永源寺地区で「安全と安心」が、ほかの地区より多くあげられています。



* 平成29年度のみ2つ選択

* ()が平成28年度調査の選択肢。選択肢が類似のものだけ比較している。

【性 別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	金額	鮮度	安全と安心	調理の利便性(カット 済み、洗浄済み等)	見た目	産地(市内、県内産 等)	わからない	その他	無回答
男性	567	18.9	34.4	19.6	2.8	4.2	5.6	3.4	7.2	3.9
女性	714	17.9	40.6	18.3	1.8	1.7	6.9	1.1	8.3	3.4

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	金額	鮮度	安全と安心	調理の利便性(カット 済み、洗浄済み等)	見た目	産地(市内、県内産 等)	わからない	その他	無回答
10歳代	19	26.3	15.8	31.6	0.0	0.0	5.3	15.8	0.0	5.3
20歳代	79	32.9	29.1	10.1	5.1	1.3	5.1	5.1	10.1	1.3
30歳代	162	28.4	33.3	16.0	0.6	3.7	8.0	0.6	8.0	1.2
40歳代	201	28.9	29.9	18.4	1.5	1.0	6.5	2.0	9.5	2.5
50歳代	198	18.7	35.9	18.2	3.5	4.0	6.1	1.5	7.1	5.1
60歳代	275	13.5	42.9	19.6	2.2	3.3	4.0	1.5	9.1	4.0
70歳以上	369	7.0	43.9	22.5	2.4	3.0	7.3	2.2	6.5	5.1

【居住地区別】

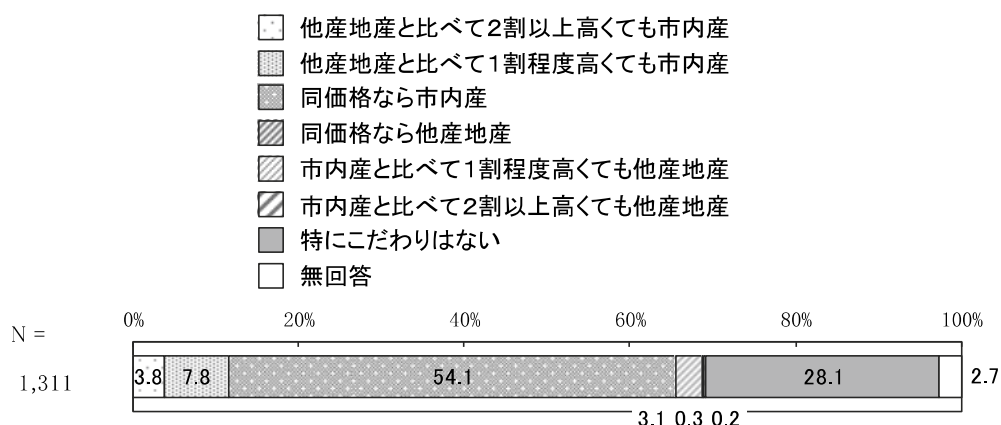
単位: %

区 分	有効回答数 (件)	金額	鮮度	安全と安心	調理の利便性(カット 済み、洗浄済み等)	見た目	産地(市内、県内産 等)	わからない	その他	無回答
平田地区	32	9.4	31.3	25.0	3.1	12.5	9.4	0.0	9.4	0.0
市辺地区	57	14.0	36.8	22.8	0.0	0.0	5.3	0.0	7.0	14.0
玉緒地区	48	20.8	33.3	31.3	2.1	0.0	4.2	0.0	6.3	2.1
御園地区	73	19.2	32.9	26.0	0.0	1.4	5.5	2.7	11.0	1.4
建部地区	31	19.4	51.6	9.7	3.2	6.5	3.2	0.0	6.5	0.0
中野地区	74	17.6	41.9	10.8	4.1	2.7	8.1	2.7	8.1	4.1
八日市地区	128	28.1	30.5	19.5	3.1	1.6	6.3	0.8	4.7	5.5
南部地区	63	11.1	38.1	20.6	3.2	3.2	11.1	3.2	6.3	3.2
永源寺地区	68	7.4	36.8	30.9	1.5	5.9	4.4	1.5	5.9	5.9
五個荘地区	120	17.5	45.8	19.2	0.8	2.5	3.3	2.5	5.8	2.5
愛東地区	41	12.2	31.7	12.2	2.4	2.4	9.8	4.9	22.0	2.4
湖東地区	97	19.6	39.2	18.6	3.1	3.1	1.0	3.1	9.3	3.1
能登川地区	285	21.1	33.3	18.2	2.1	3.2	9.5	1.4	7.0	4.2
蒲生地区	172	15.1	46.5	14.5	2.9	2.3	4.7	2.3	9.3	2.3
わからない	5	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0

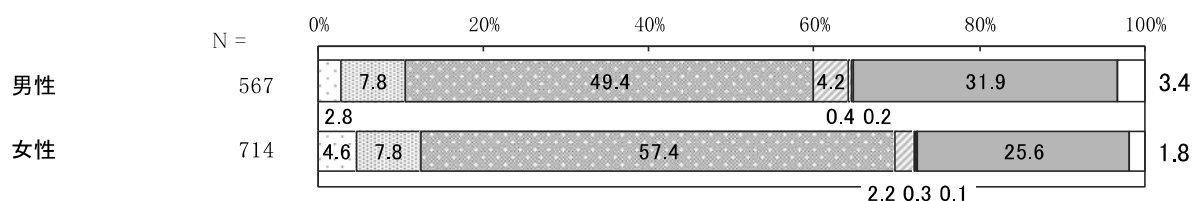
問 45 あなたは、スーパー等で品質が同程度の市内産野菜と他産地産野菜が並んでいた場合、どちらを選びますか。《○1つ》

半数が「同価格なら市内産」、7割近くが市内産を選択

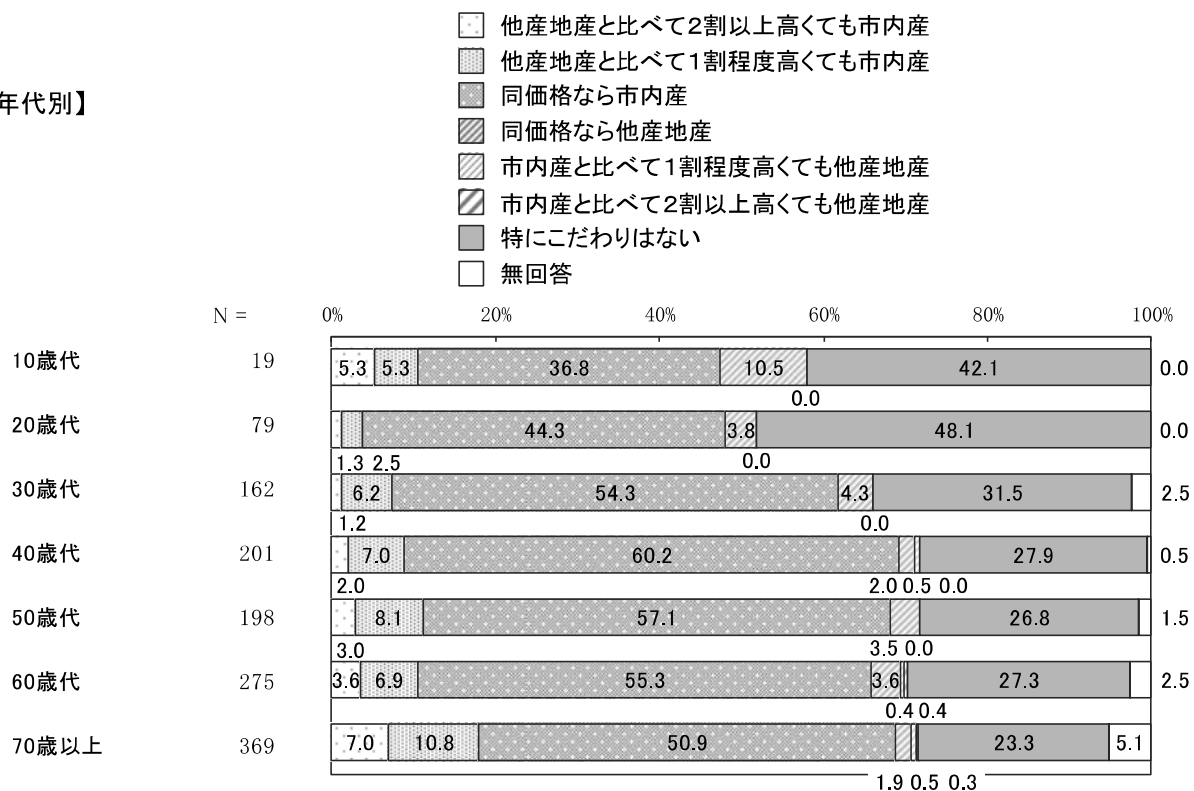
- ・ 市内産野菜と他産地産野菜の選択については、「同価格なら市内産」が54.1%と最も多く、半数を占めています。次いで、「特にこだわりはない」が28.1%と続きます。また、価格は別として市内産を選択すると回答した人は65.7%と7割近く、他産地産を選択すると回答した人はわずか3.6%となっています。
- ・ 性別では、男女ともに「同価格なら市内産」が最も多くあげられています。男性より女性で多く、一方、「特にこだわりはない」は女性より男性で多くなっています。
- ・ 年代別では、10～20歳代は「特にこだわりはない」が、30歳以上は「同価格なら市内産」が最も多くあげられています。また、40～50歳代、70歳以上では市内産を選択する人が7割近くみられます。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で「同価格なら市内産」が最も多くあげられています。平田地区、南部地区で6割となっています。また、市内産を選択する人は、御園地区で8割近く、永源寺地区、南部地区、五個荘地区で7割みられます。



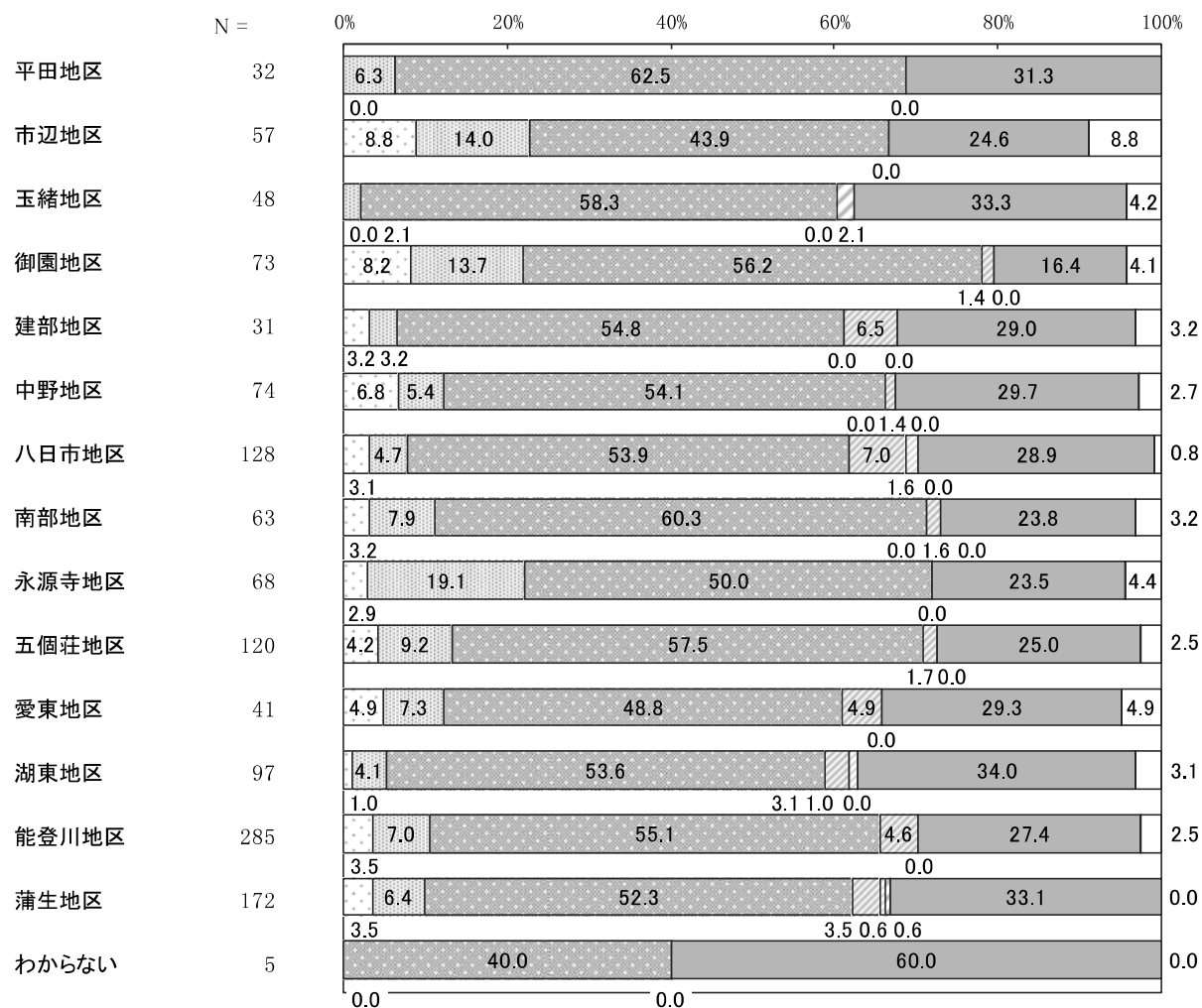
【性別】



【年代別】



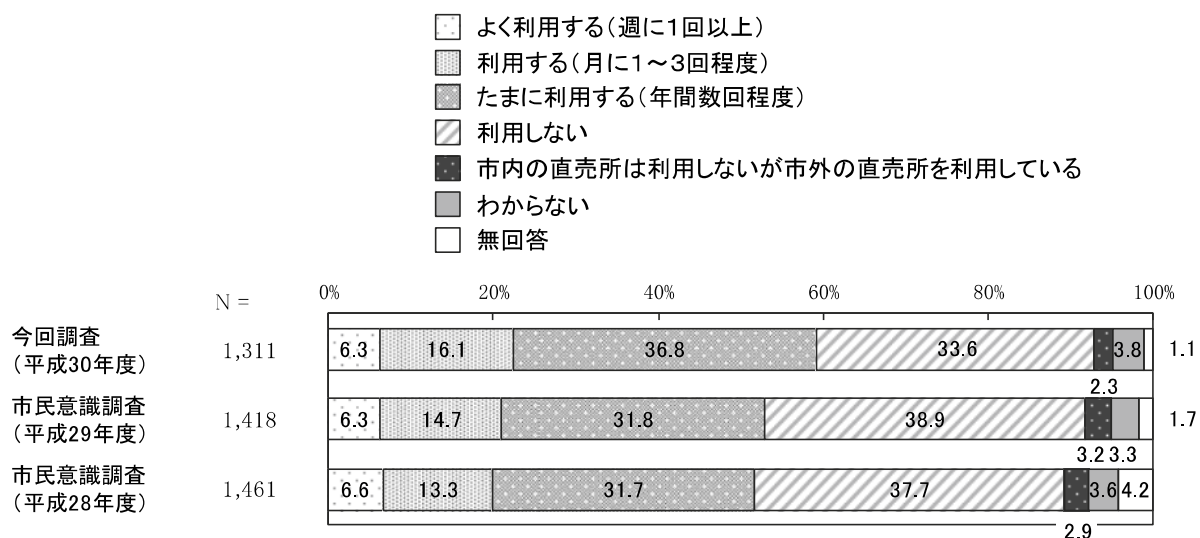
【居住地区別】



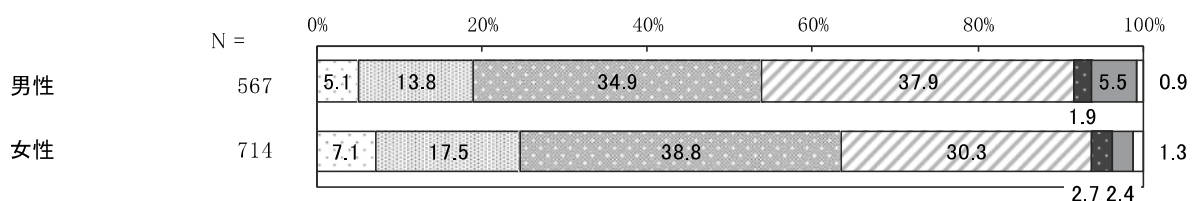
問 46 あなたの家庭では、市内の農産物直売所（青空市、無人販売所含む）を利用しますか。《○
1つ》

6割近くが市内の直売所を利用、年数回程度の利用が最も多い

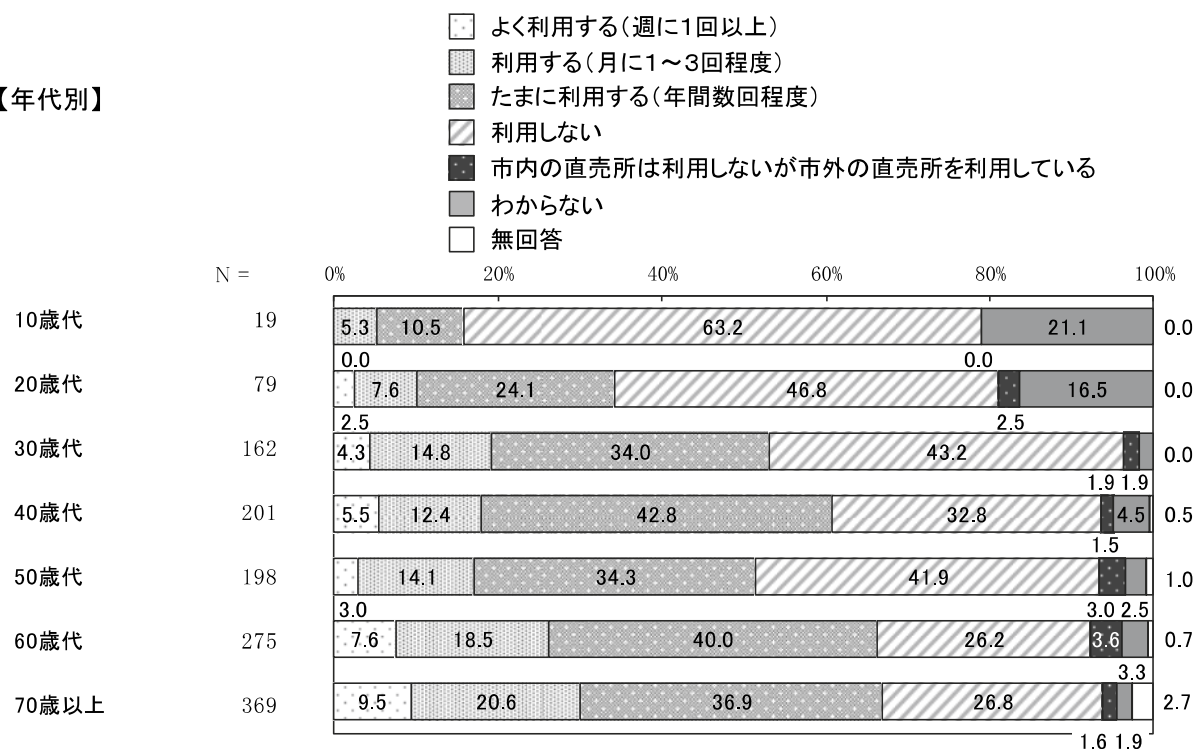
- ・ 市内の農産物直売所の利用状況については、「たまに利用する（年間数回程度）」が 36.8%と最も多く、次いで「利用しない」が 33.6%、「利用する（月に1～3回程度）」が 16.1%、「よく利用する（週に1回以上）」が 6.3%と続きます。利用している人の合計は 59.2%と6割近くみられ、市外も含めると農産物直売所の利用率は 61.5%になります。
- ・ 過去の調査と比較すると、市内の農産物直売所を利用している人の割合は年々増加しています。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では60歳以上で利用している人が多くみられます。一方、10～30歳代と50歳代で「利用しない」が最も多く、10歳代は6割となっています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、愛東地区で利用する人が7割前後となっています。一方、八日市地区、平田地区、能登川地区、湖東地区、御園地区で「利用しない」が最も多く、八日市地区、平田地区で4割となっています。



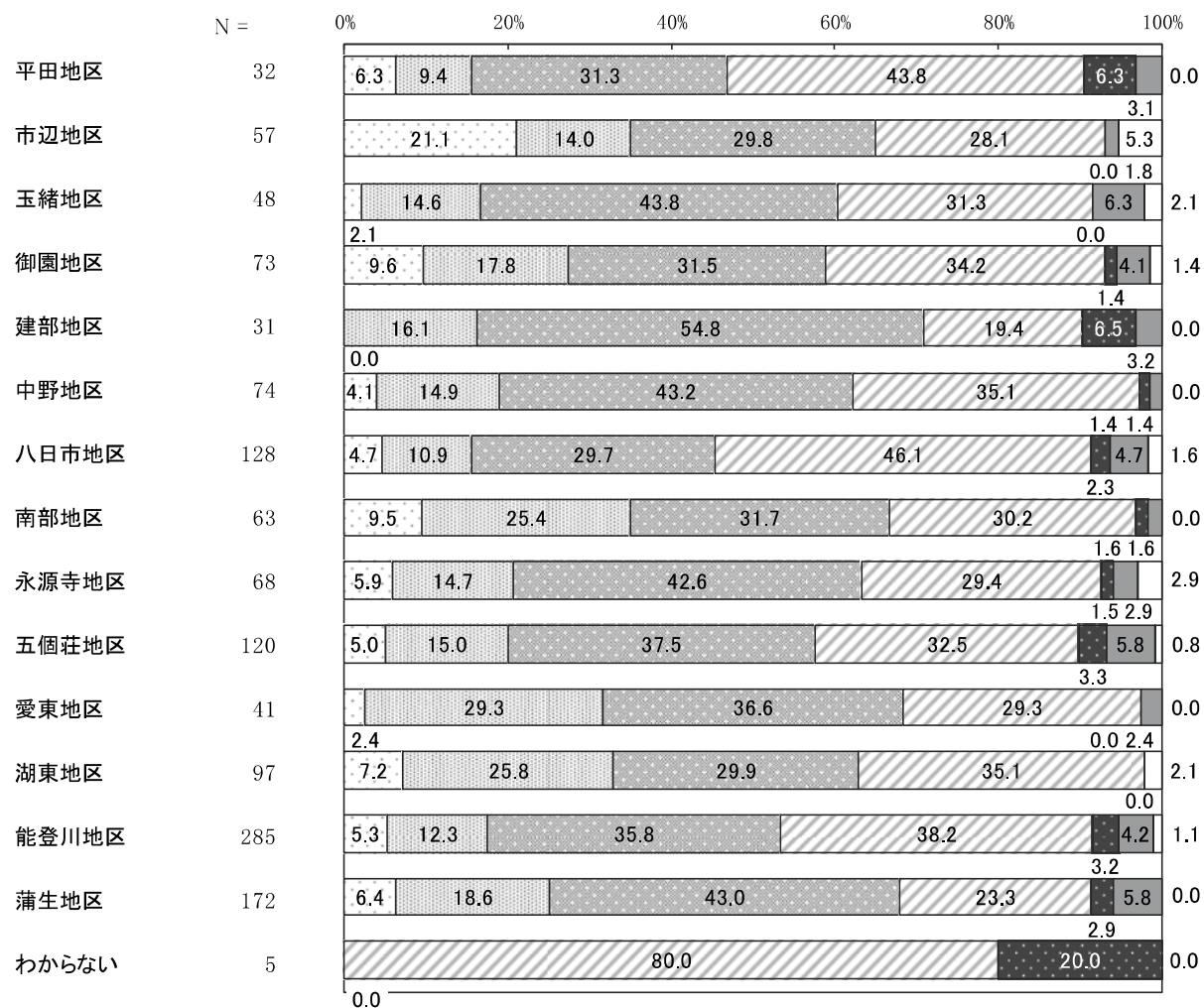
【性別】



【年代別】



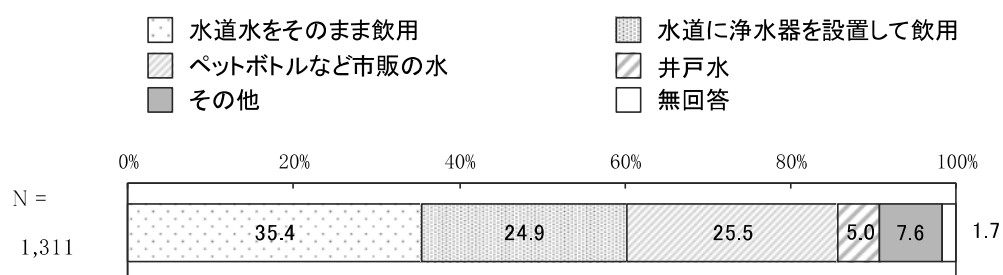
【居住地区別】



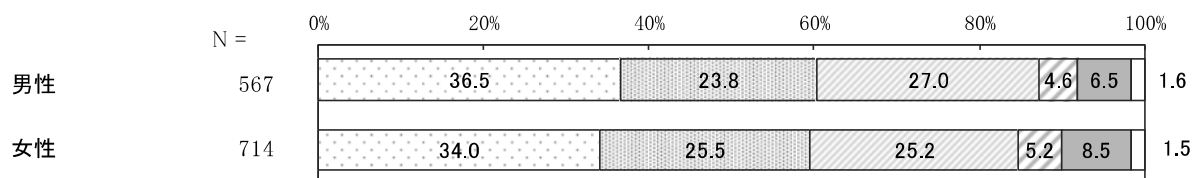
問 47 あなたは飲料水に使う水は主に何を使っていますか。《○1つ》

4 割近くが水道水をそのまま飲用

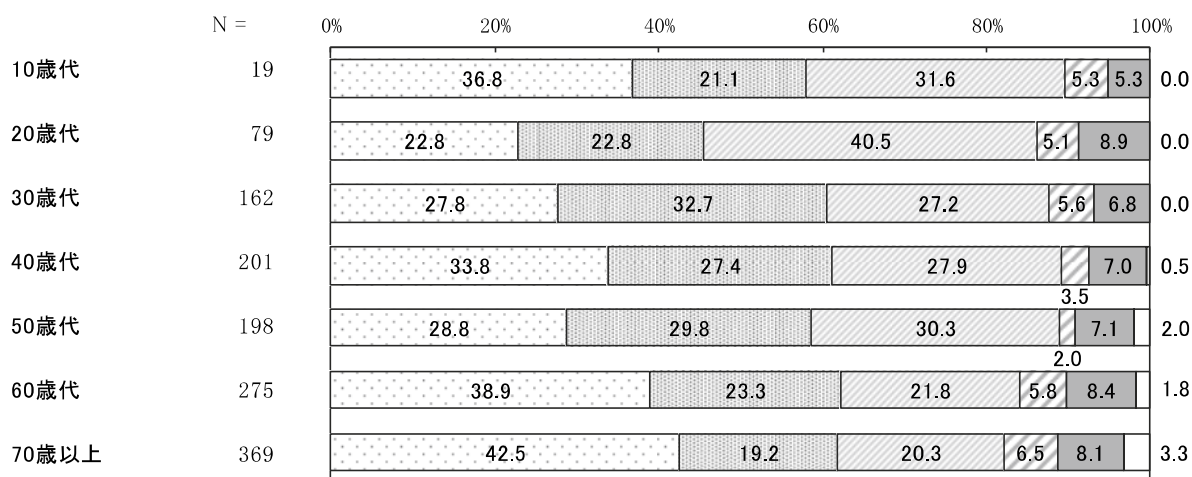
- ・ 飲料水に使う水は主に何を使っているかについては、「水道水をそのまま飲用」が 35.4%と最も多く、次いで「ペットボトルなど市販の水」が 25.5%、「水道に浄水器を設置して飲用」が 24.9%と続きます。
- ・ 年代別では、30 歳代は「水道に浄水器を設置して飲用」が、20 歳代と 50 歳代は「ペットボトルなど市販の水」が、ほかの年代は「水道水をそのまま飲用」が最も多くなっています。
- ・ 居住地区別では、玉緒地区は「ペットボトルなど市販の水」が、蒲生地区は「水道に浄水器を設置して飲用」が、ほかの地区は「水道水をそのまま飲用」が最も多くなっています。また、御園地区で「水道に浄水器を設置して飲用」が、能登川地区で「井戸水」が、ほかの地区より多くみられます。



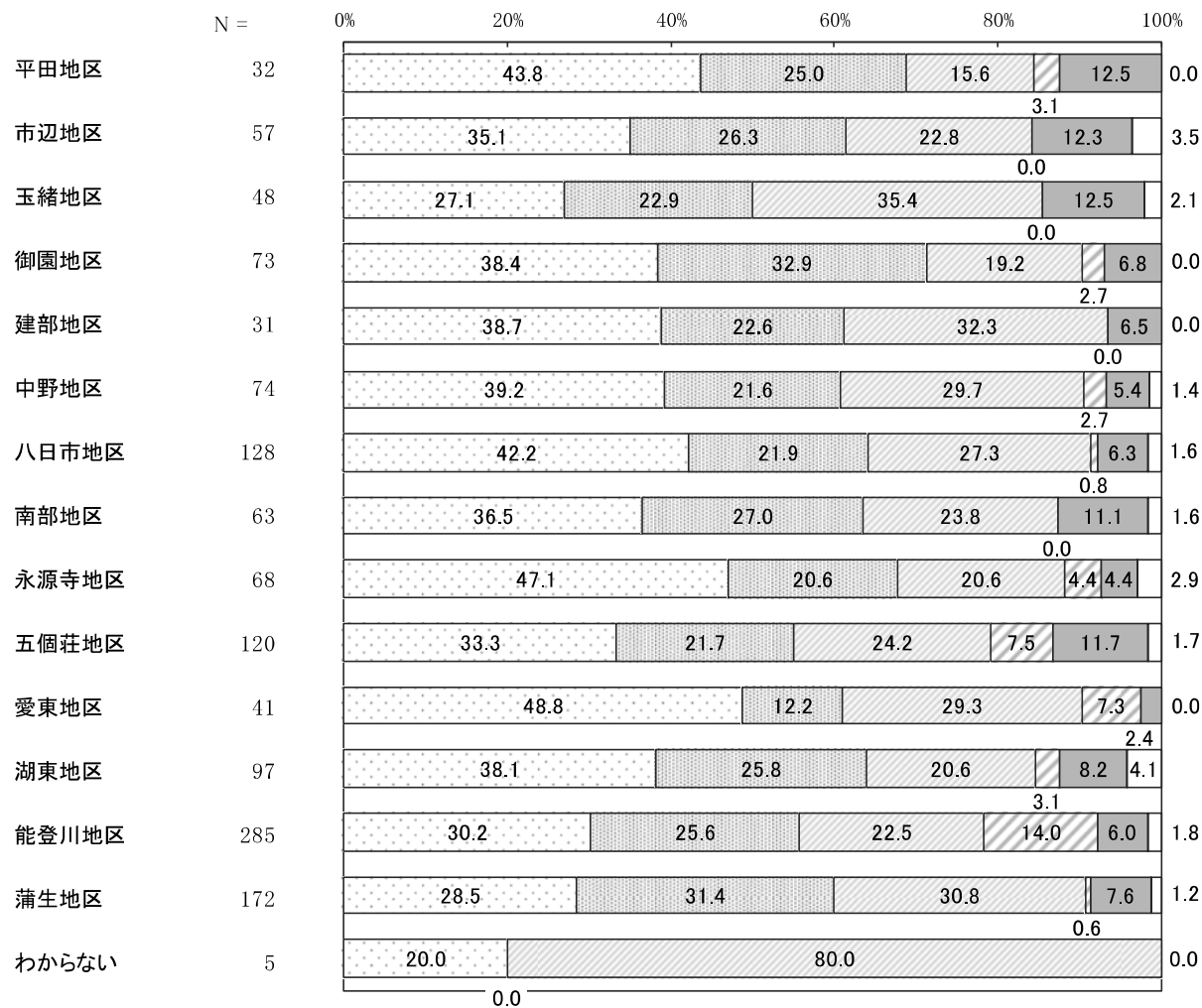
【性 別】



【年代別】



【居住地区別】

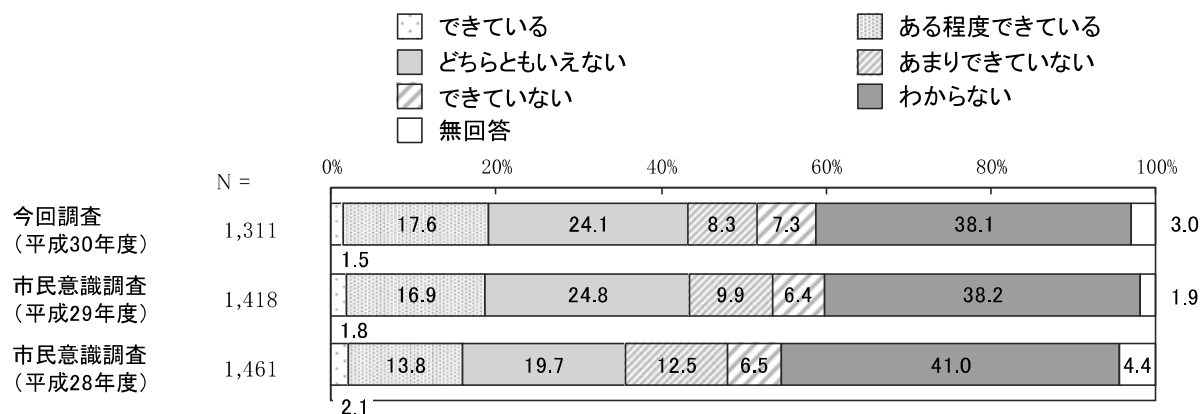


(8) 協働のまちづくりについて

問 48 あなたは、東近江市では市民、企業、行政等が共に考え、力を合わせた協働のまちづくりができていると思いますか。《○1つ》

できていると思う人の割合が増加、4割近くが「わからない」

- ・ 協働のまちづくりができていると思うかについては、「わからない」が38.1%と最も多くなっています。次いで、「どちらともいえない」が24.1%、「ある程度できている」が17.6%と続きます。できている（「できている」と「ある程度できている」の合計）の割合は19.1%で、できていない（「あまりできていない」と「できていない」の合計）の割合（15.6%）よりやや高くなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、できている（前述）の割合が増加し、できていない（前述）の割合が減少しており、評価は年々あがっています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも、すべて「わからない」が最も多くなっています。なお、居住地区別の市辺地区では「どちらともいえない」も同様に最も多くなっています。
- ・ 性別では、女性より男性が、できていない（前述）と思う人の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では、30～50歳代で、できていない（前述）と思う人ができている（前述）と思う人より多くなっています。一方、70歳以上はできている（前述）と思う人が3割近く、10歳代は「わからない」人が6割近くみられます。
- ・ 居住地区別では、平田地区と永源寺地区でできている（前述）と思う人が3割近くみられ、愛東地区、能登川地区ではできていない（前述）と思う人ができている（前述）と思う人より多くなっています。



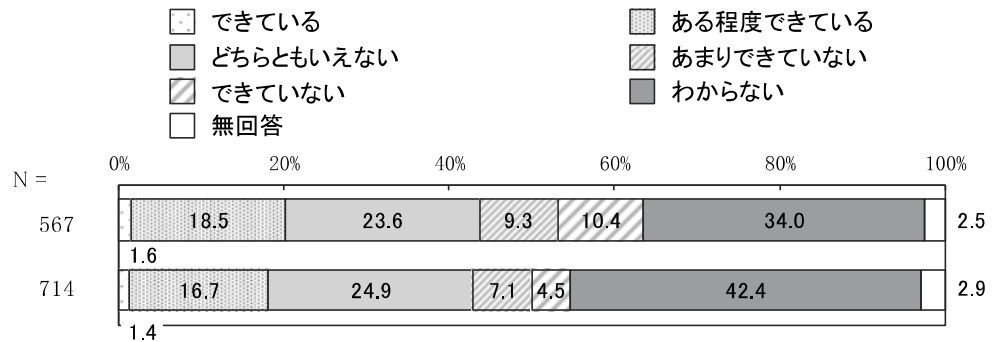
単位：％

	できている	できていない	差
①今回調査(平成30年度)	19.1	15.6	3.5
②市民意識調査(平成29年度)	18.7	16.4	2.3
③市民意識調査(平成28年度)	15.9	19.0	-3.1
①－③	3.2	-3.4	6.6

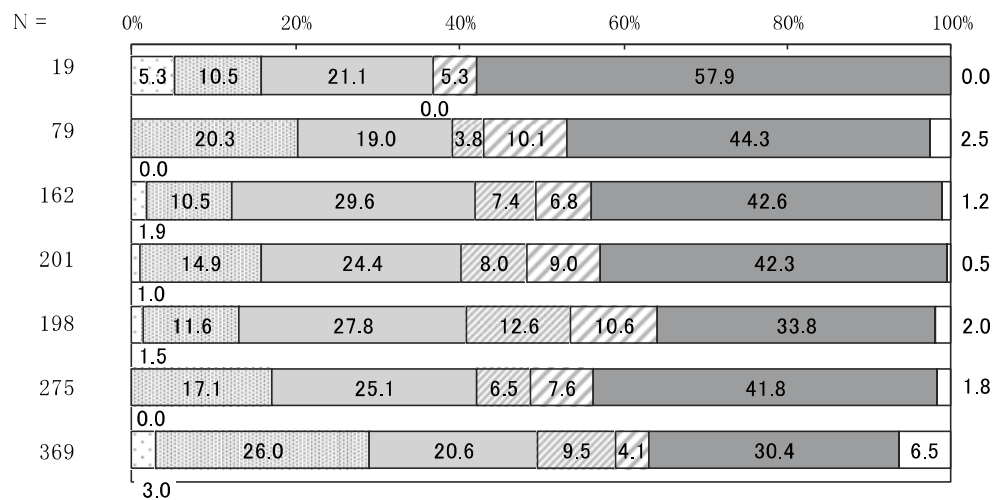
* できている:「できている」と「ある程度できている」の合計

* できていない:「あまりできていない」と「できていない」の合計

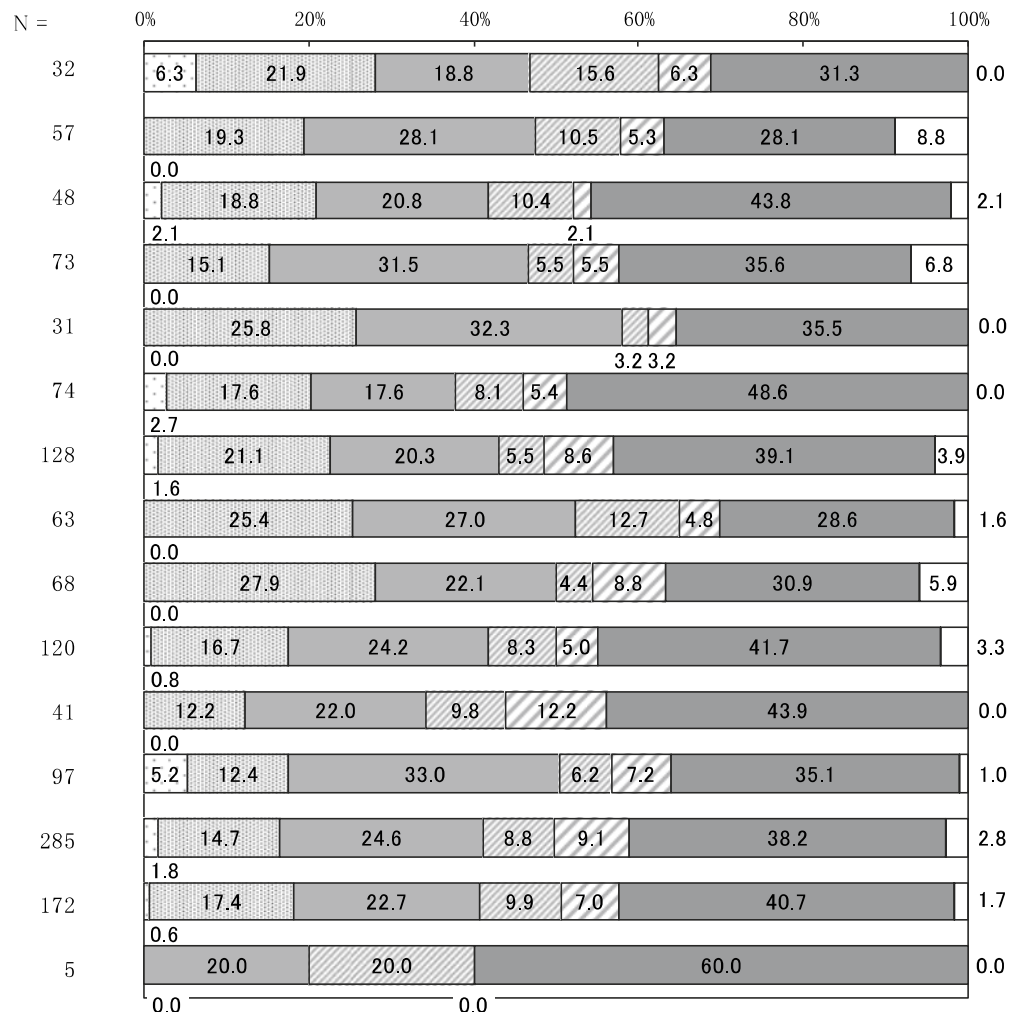
【性 別】



【年代別】



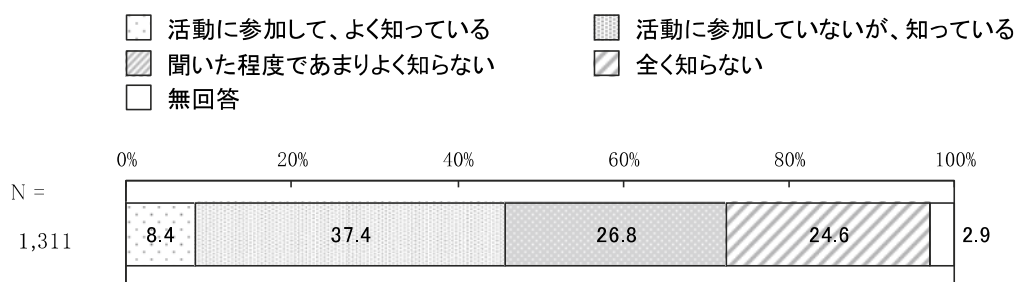
【居住地区別】



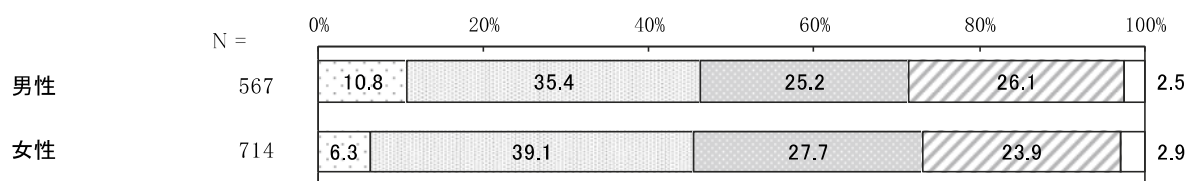
問 49 あなたは、市内 14 地区にまちづくり協議会が設置され、各地区で様々なまちづくり活動が行われていることを知っていますか。《○1つ》

活動に参加している人は 1 割未満だが、認知度は半数近く

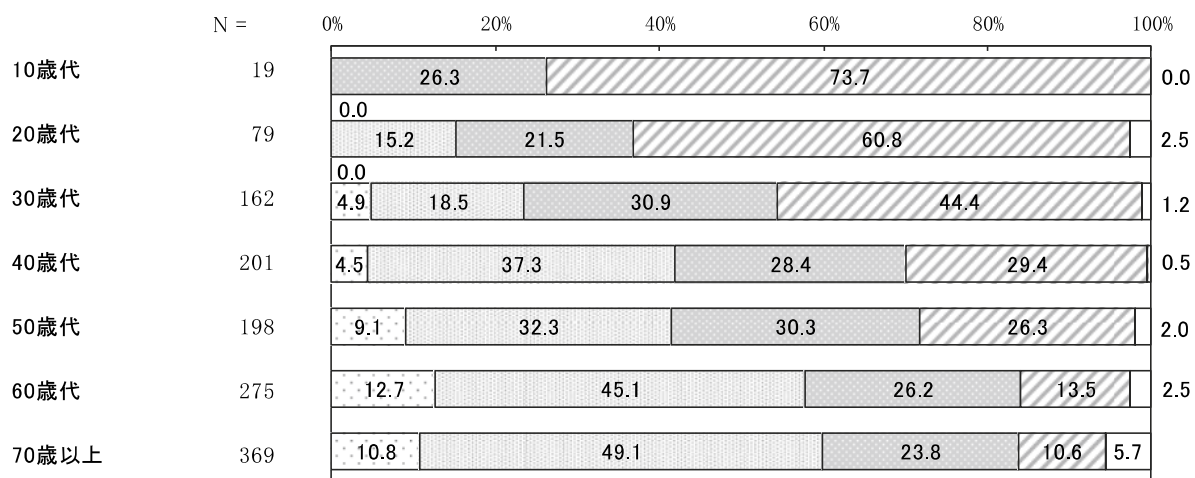
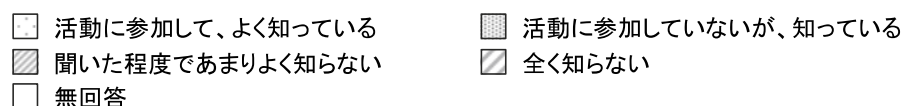
- ・ まちづくり協議会の活動については、「活動に参加していないが、知っている」が 37.4%と最も多く、次いで「聞いた程度でありよく知らない」が 26.8%、「全く知らない」が 24.6%と続きます。「活動に参加して、よく知っている」人は 8.4%と 1 割未満ですが、認知度（「活動に参加していないが、知っている」との合計）は 45.8%と半数近くとなっています。
- ・ 性別では、女性より男性が、活動への参加率が高く、認知度もやや高くなっています。
- ・ 年代別では、30 歳代までは「全く知らない」が、40 歳以上は「活動に参加していないが、知っている」が最も多くなっています。認知度は、10 歳代は 0%で、年齢があがるほど高くなる傾向がみられ、60 歳以上は 6 割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、八日市地区と能登川地区で「全く知らない」が、ほかの地区では「活動に参加していないが、知っている」が最も多くなっています。認知度は、建部地区、平田地区、南部地区で 6 割前後となっています。



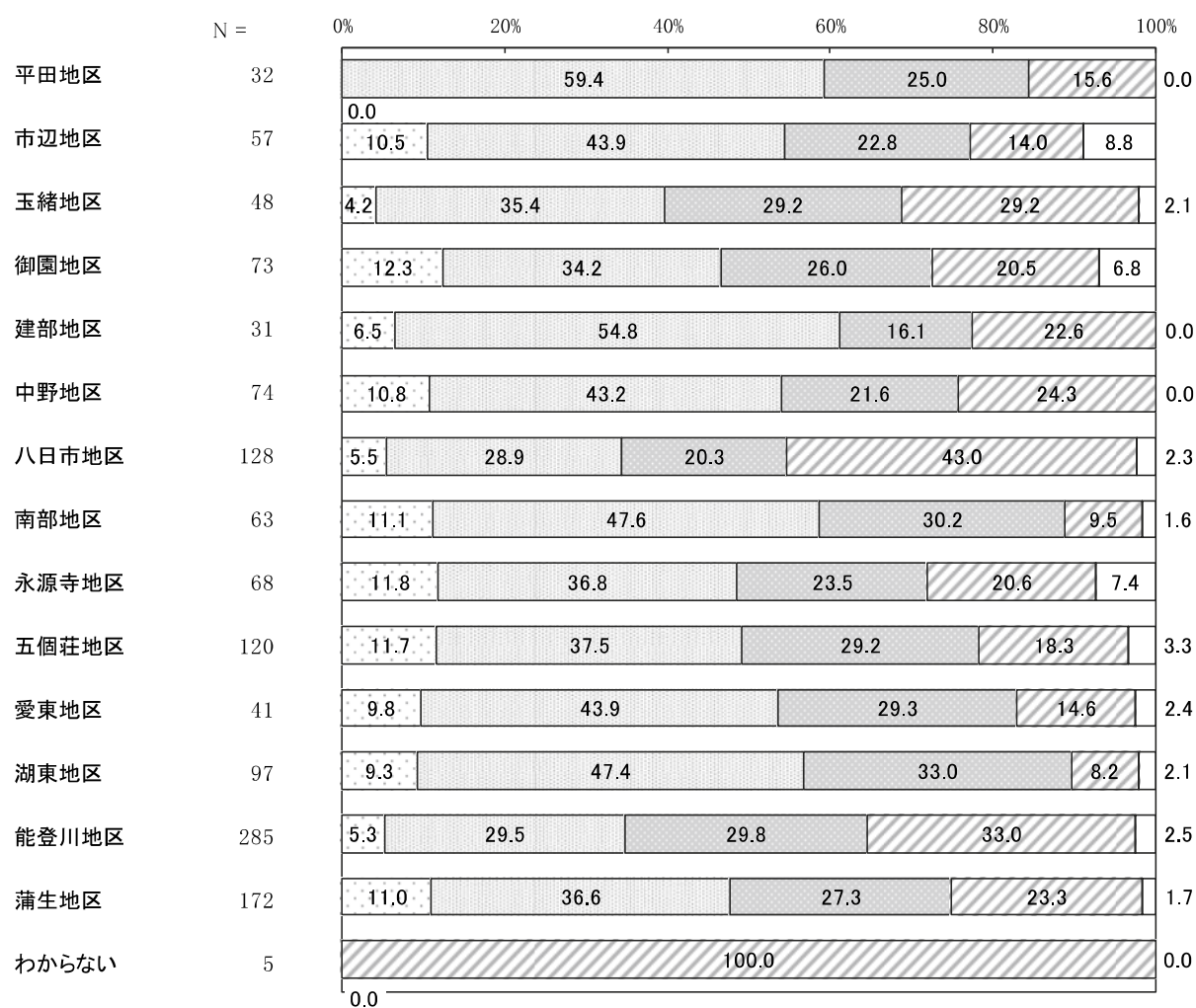
【性 別】



【年代別】



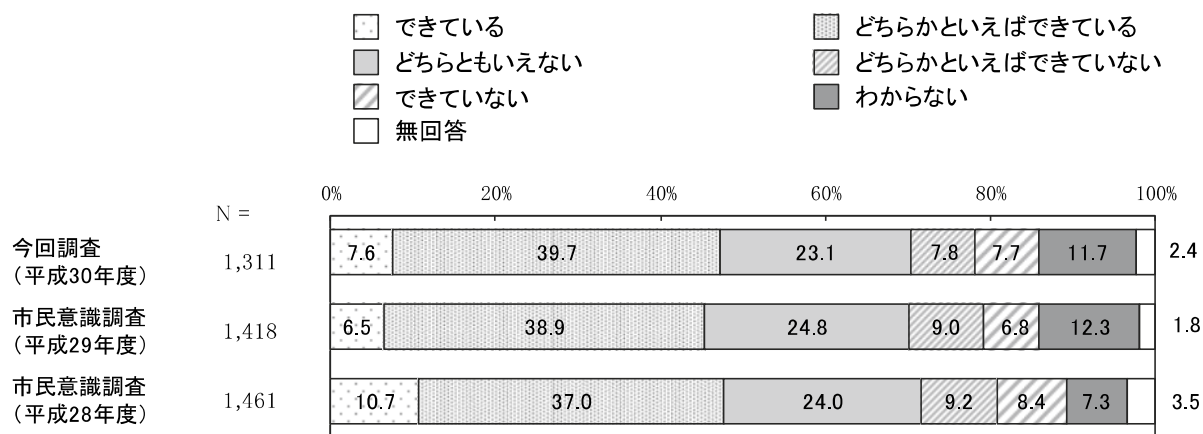
【居住地区別】



問 50 あなたの身近な地域で住民同士の助け合いができていますか。《○ 1 つ》

半数近くが住民同士の助け合いはできている

- ・ 地域での住民同士の助け合いができていると思うかについては、「どちらかといえばできている」が 39.7%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 23.1%、「わからない」が 11.7%と続きます。できている（「できている」と「どちらかといえばできている」の合計）の割合が 47.3%で、できていない（「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計）の割合（15.5%）より高くなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、できていない（前述）の割合が減少し、「わからない」の割合が増加しています。
- ・ 年代別では 10 歳代と 60 歳以上で、居住地区別では平田地区、愛東地区で、住民同士の助け合いができている（前述）と思う人が多くみられます。一方、年代別では 20～30 歳代、居住地区別では八日市地区と南部地区で、できていない（前述）と思う人が多くみられます。



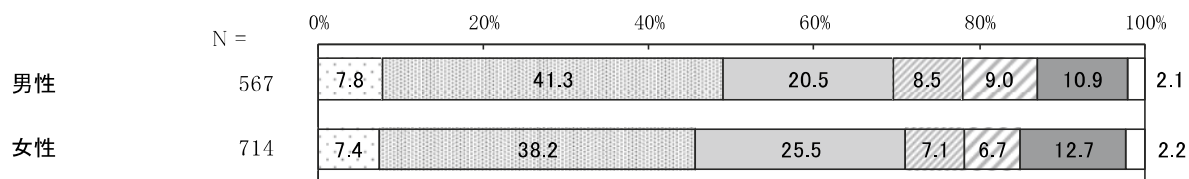
単位：％

	できている	できていない	差
①今回調査(平成 30 年度)	47.3	15.5	31.8
②市民意識調査(平成 29 年度)	45.4	15.8	29.6
③市民意識調査(平成 28 年度)	47.7	17.6	30.1
①－③	-0.4	-2.1	1.7

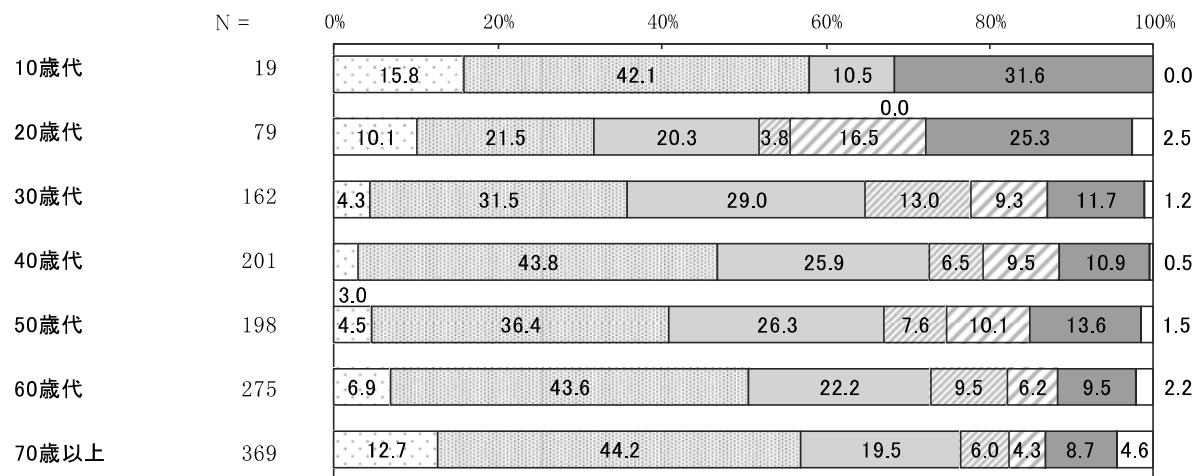
* できている:「できている」と「どちらかといえばできている」の合計

* できていない:「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計

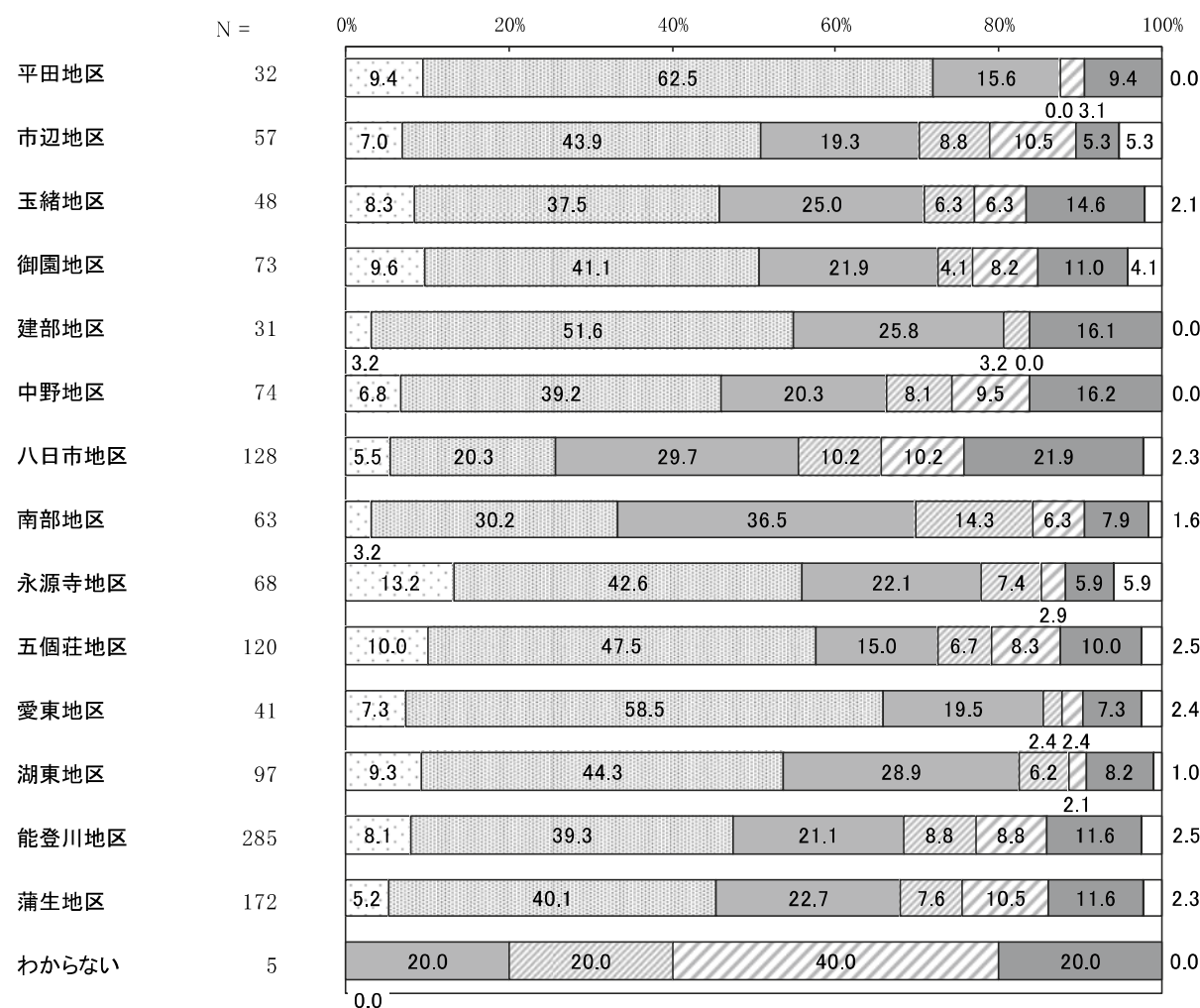
【性 別】



【年代別】



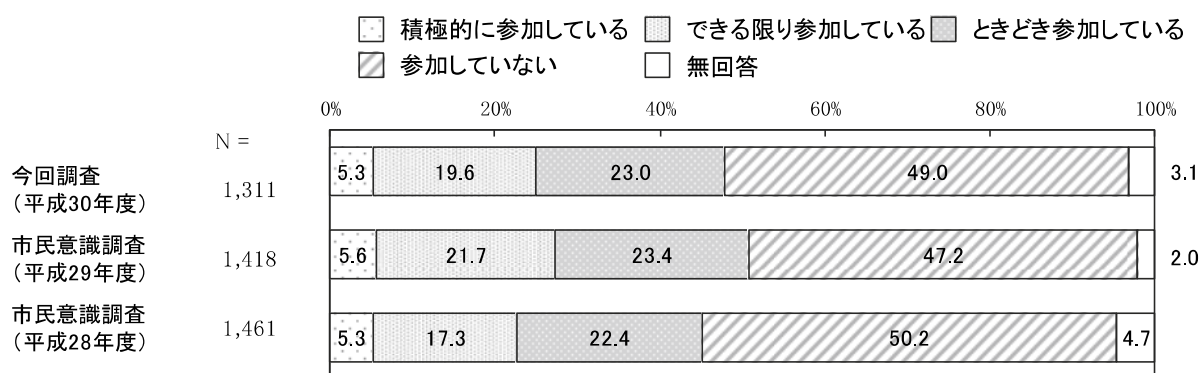
【居住地区別】



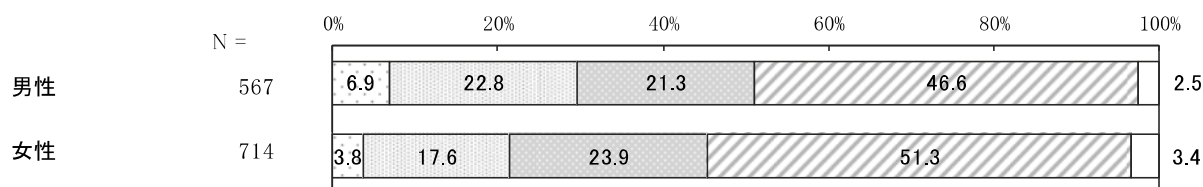
問 51 あなたは、自治会やまちづくり協議会等の地域活動又はNPOやボランティア等の活動にどの程度参加していますか。《○1つ》

半数近くが活動に参加している

- ・ 地域活動又はNPOやボランティア等の活動への参加頻度については、参加している人が47.9%と半数近くで、その内訳は、「ときどき参加している」が23.0%、「できる限り参加している」が19.6%、「積極的に参加している」が5.3%となっています。一方、「参加していない」は49.0%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、参加していない人が減少し、参加している人が増加しています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別の市辺地区を除いて、すべて「参加していない」が最も多くなっています。なお、市辺地区は「ときどき参加している」が最も多くなっています。
- ・ 性別では女性より男性が、年代別では70歳以上を除き年齢があがるほど、参加している人が多くみられます。
- ・ 居住地区別では、市辺地区、愛東地区で参加している人が6割、八日市地区で参加していない人が7割近くみられます。

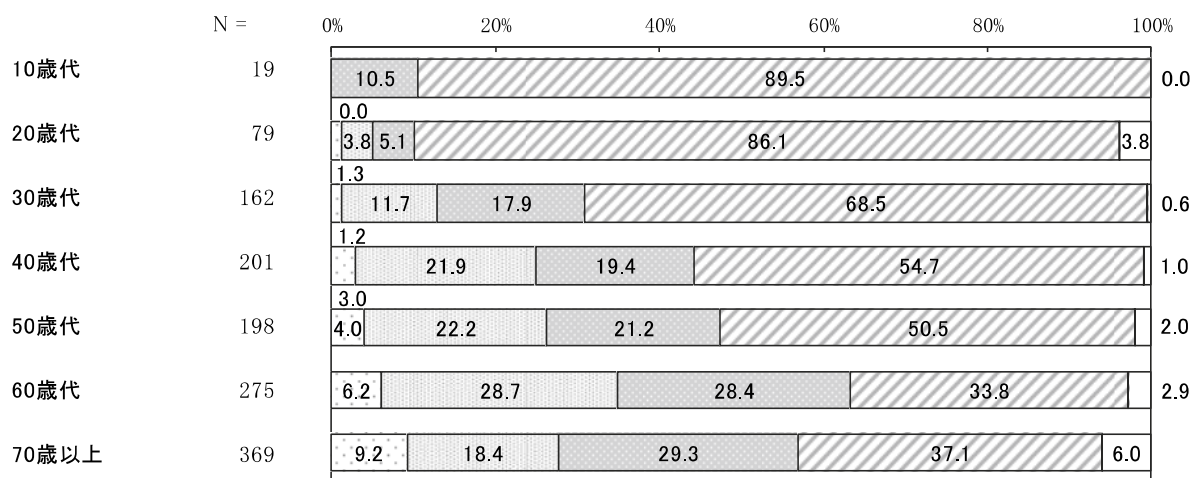


【性 別】

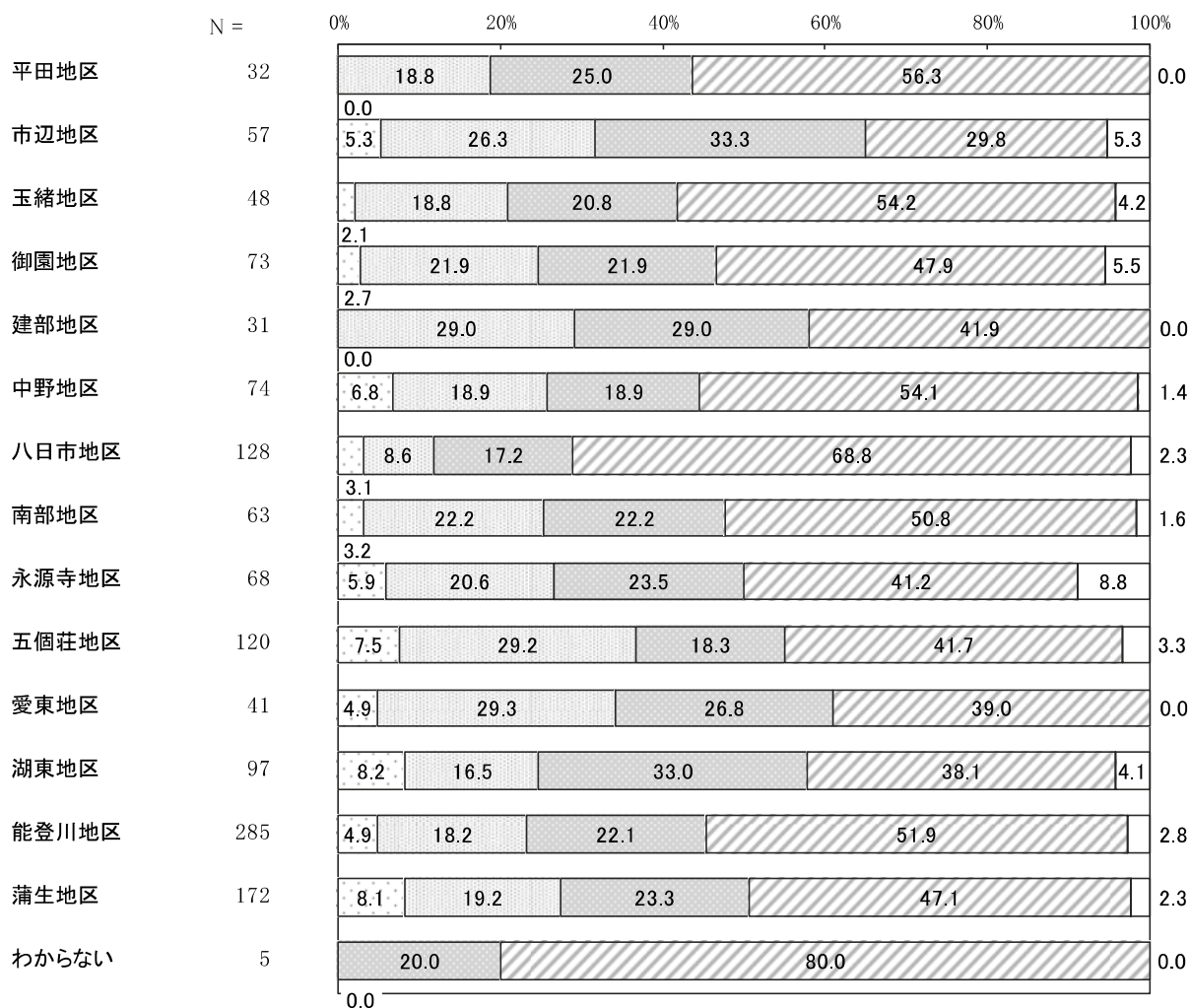


【年代別】

☐ 積極的に参加している
 ☐ できる限り参加している
 ☐ ときどき参加している
 ☐ 参加していない
 ☐ 無回答



【居住地区別】

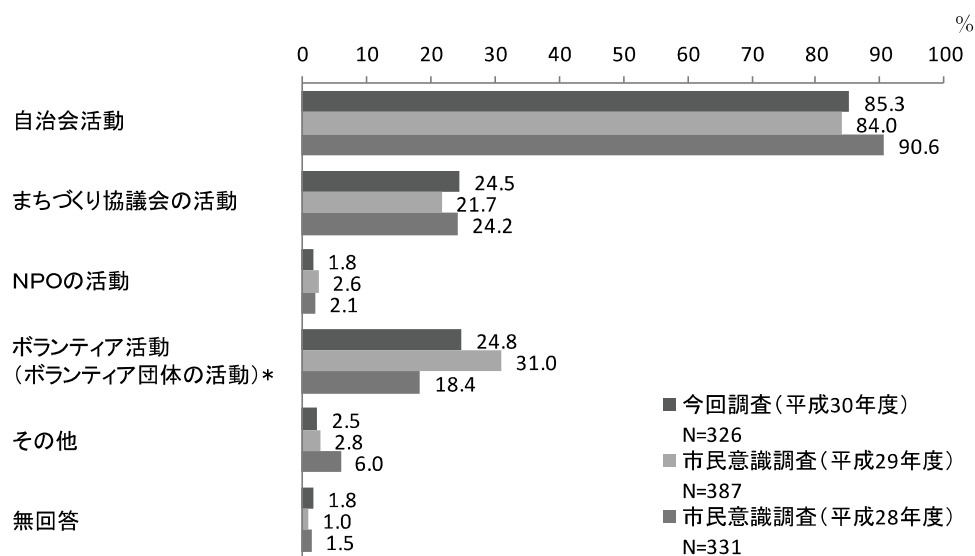


問 51-1 問 51 で「1. 積極的に参加している」「2. できる限り参加している」とお答えの方に
おたずねします。

この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

9割近くが「自治会活動」に参加、ボランティアやまちづくり協議会の活動への参加も2割

- ・ この1年間にどのような活動に参加したかについては、「自治会活動」が85.3%と最も多く、次いで「ボランティア活動」が24.8%、「まちづくり協議会の活動」が24.5%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、「自治会活動」の割合が減少し、「ボランティア活動」や「まちづくり協議会の活動」の割合が増加しています。
- ・ 性別では、男女ともに「自治会活動」が最も多くあげられていますが、男性は「自治会活動」や「まちづくり協議会の活動」が女性より多く、女性は「ボランティア活動」が男性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、30歳以上で「自治会活動」が最も多くあげられています。また、60歳以上では「ボランティア活動」が3割みられます。(20歳代は有効回答数が少ないので比較できません。)
- ・ 居住地区別では、すべての地区で「自治会活動」が最も多くあげられていますが、御園地区と市辺地区で「まちづくり協議会の活動」が、愛東地区で「ボランティア活動」がほかの地区より多くあげられています。



*()内は平成28年度の選択肢

【性 別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	自治会活動	動 まちづくり協議会の活	N P O の活動	ボランティア活動	その他	無回答
男性	168	89.9	28.6	1.8	19.6	3.6	1.2
女性	153	81.0	19.6	1.3	30.7	1.3	2.6

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	自治会活動	動 まちづくり協議会の活	N P O の活動	ボランティア活動	その他	無回答
10歳代	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	4	50.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0
30歳代	21	95.2	23.8	0.0	19.0	4.8	0.0
40歳代	50	94.0	14.0	0.0	14.0	0.0	2.0
50歳代	52	84.6	28.8	5.8	13.5	0.0	0.0
60歳代	96	86.5	20.8	0.0	30.2	2.1	3.1
70歳以上	102	79.4	32.4	2.9	31.4	3.9	2.0

【居住地区別】

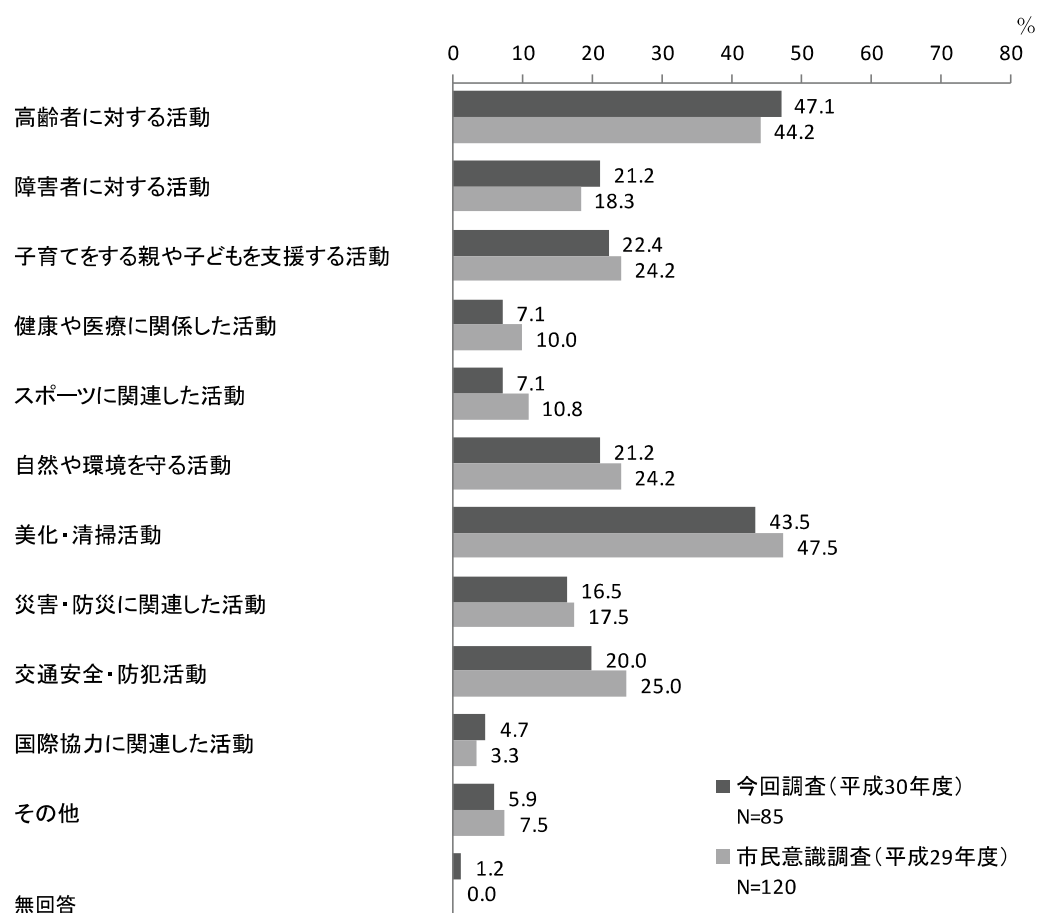
単位: %

区 分	有効回答数 (件)	自治会活動	動 まちづくり協議会の活	N P O の活動	ボランティア活動	その他	無回答
平田地区	6	83.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
市辺地区	18	88.9	38.9	5.6	22.2	0.0	5.6
玉緒地区	10	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
御園地区	18	88.9	50.0	5.6	27.8	0.0	5.6
建部地区	9	88.9	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0
中野地区	19	89.5	31.6	0.0	21.1	10.5	0.0
八日市地区	15	80.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
南部地区	16	87.5	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
永源寺地区	18	77.8	33.3	0.0	22.2	0.0	5.6
五個荘地区	44	84.1	22.7	2.3	22.7	2.3	0.0
愛東地区	14	85.7	14.3	0.0	35.7	0.0	0.0
湖東地区	24	95.8	20.8	0.0	29.2	0.0	0.0
能登川地区	66	84.8	18.2	1.5	28.8	6.1	0.0
蒲生地区	47	76.6	19.1	2.1	23.4	2.1	6.4
わからない	-	-	-	-	-	-	-

問 51-2 問 51-1 で「3. NPO活動」「4. ボランティア活動」とお答えの方におたずねします。
この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

「高齢者に対する活動」が半数近く、「美化・清掃活動」も4割

- ・ どのような活動に参加したかについては、「高齢者に対する活動」が47.1%と最も多く、次いで「美化・清掃活動」が43.5%と4割の人があげています。そのほか、「子育てをする親や子どもを支援する活動」が22.4%、「障害者に対する活動」や「自然や環境を守る活動」が21.2%「交通安全・防犯活動」が20.0%と2割の人があげています。
- ・ 平成29年度の調査と比較すると、「美化・清掃活動」の割合が減少し、「高齢者に対する活動」の割合が増加して、順序が逆になっています。
- ・ 性別では、男性は「自然や環境を守る活動」、「美化・清掃活動」、「災害・防災に関連した活動」が、女性は「高齢者に対する活動」が最も多くあげられています。ただし、「美化・清掃活動」は、男性より女性が多く、半数以上があげています。



*平成29年度は、「ボランティア活動」に参加している人のみ

【性 別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関係した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	災害・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
男性	36	27.8	19.4	19.4	5.6	8.3	33.3	33.3	33.3	22.2	5.6	5.6	2.8
女性	47	61.7	21.3	25.5	8.5	6.4	10.6	53.2	4.3	19.1	4.3	6.4	0.0

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関係した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	災害・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
10歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	4	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	7	14.3	14.3	57.1	0.0	0.0	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0	14.3	14.3
50歳代	9	11.1	44.4	33.3	0.0	0.0	22.2	22.2	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0
60歳代	29	55.2	10.3	13.8	10.3	3.4	20.7	51.7	13.8	20.7	0.0	3.4	0.0
70歳以上	34	61.8	29.4	20.6	8.8	8.8	26.5	44.1	11.8	23.5	8.8	5.9	0.0

【居住地区別】

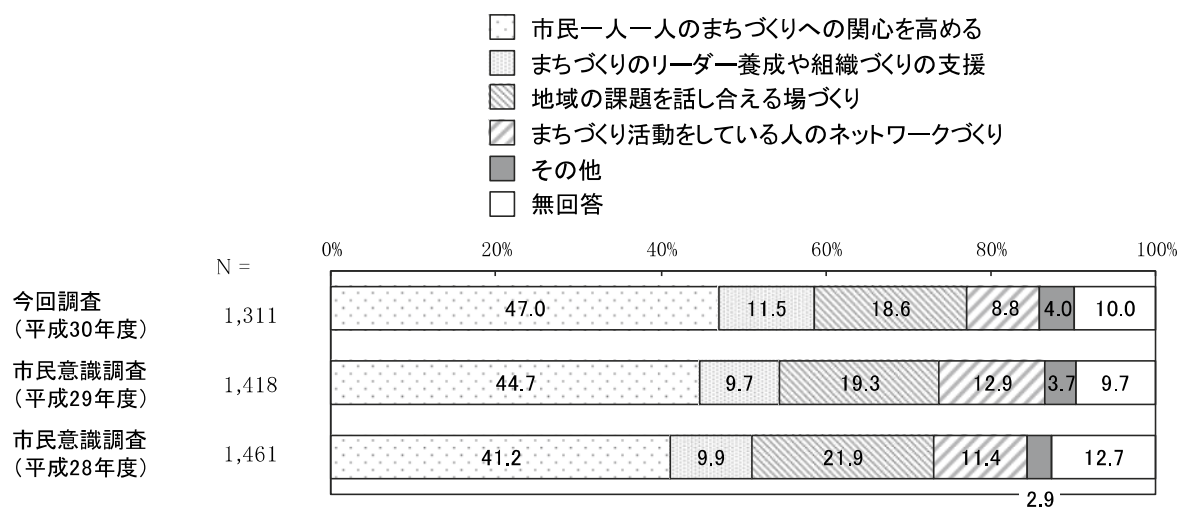
単位: %

区 分	有効回答数 (件)	高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関係した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	災害・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
平田地区	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
市辺地区	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
玉緒地区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
御園地区	5	40.0	20.0	60.0	20.0	20.0	20.0	80.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
建部地区	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中野地区	4	75.0	50.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
八日市地区	5	40.0	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
南部地区	4	75.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
永源寺地区	4	100.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
五個荘地区	11	36.4	18.2	18.2	0.0	0.0	54.5	27.3	36.4	0.0	9.1	0.0	0.0
愛東地区	5	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	100.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0
湖東地区	7	57.1	0.0	28.6	14.3	14.3	14.3	42.9	28.6	42.9	0.0	14.3	0.0
能登川地区	20	35.0	30.0	20.0	5.0	15.0	10.0	40.0	20.0	30.0	0.0	0.0	0.0
蒲生地区	12	41.7	8.3	25.0	16.7	8.3	16.7	41.7	8.3	0.0	8.3	8.3	8.3
わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

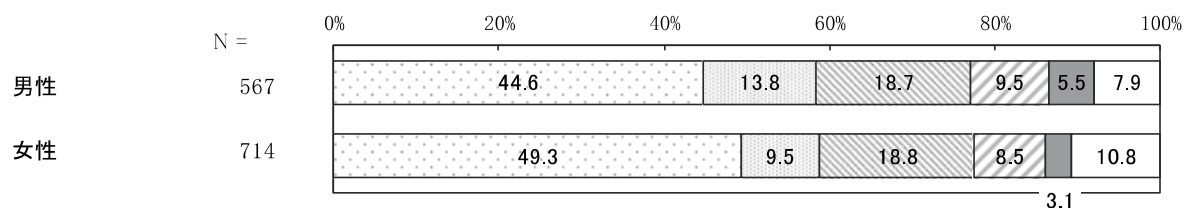
問 52 あなたは、協働のまちづくりを進めるためにはどのようなことが必要だと思いますか。
《○1つ》

協働のまちづくりを進めるためには、一人一人の意識改革が必要

- ・ 協働のまちづくりを進めるために必要なこととしては、「市民一人一人のまちづくりへの関心を高める」が47.0%と最も多く、次いで「地域の課題を話し合える場づくり」が18.6%、「まちづくりのリーダー養成や組織づくりの支援」が11.5%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、「市民一人一人のまちづくりへの関心を高める」の割合が増加する一方、「地域の課題を話し合える場づくり」の割合が減少しています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも「市民一人一人のまちづくりへの関心を高める」が最も多くあげられています。
- ・ 年代別では、10 歳代と 30 歳代で「市民一人一人のまちづくりへの関心を高める」が6割前後みられます。また、60 歳以上で「地域の課題を話し合える場づくり」が、ほかの年代より多くみられます。
- ・ 居住地区別では、能登川地区、永源寺地区、南部地区、五個荘地区で「市民一人一人のまちづくりへの関心を高める」が半数を超えています。また、平田地区で「地域の課題を話し合える場づくり」が、愛東地区で「まちづくりのリーダー養成や組織づくりの支援」が、ほかの地区より多くみられます。

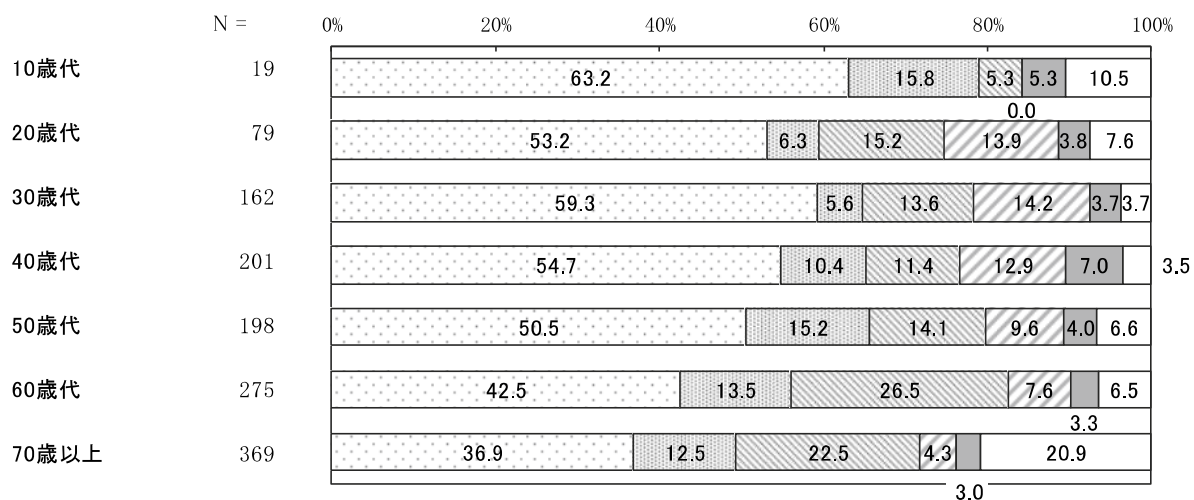


【性別】

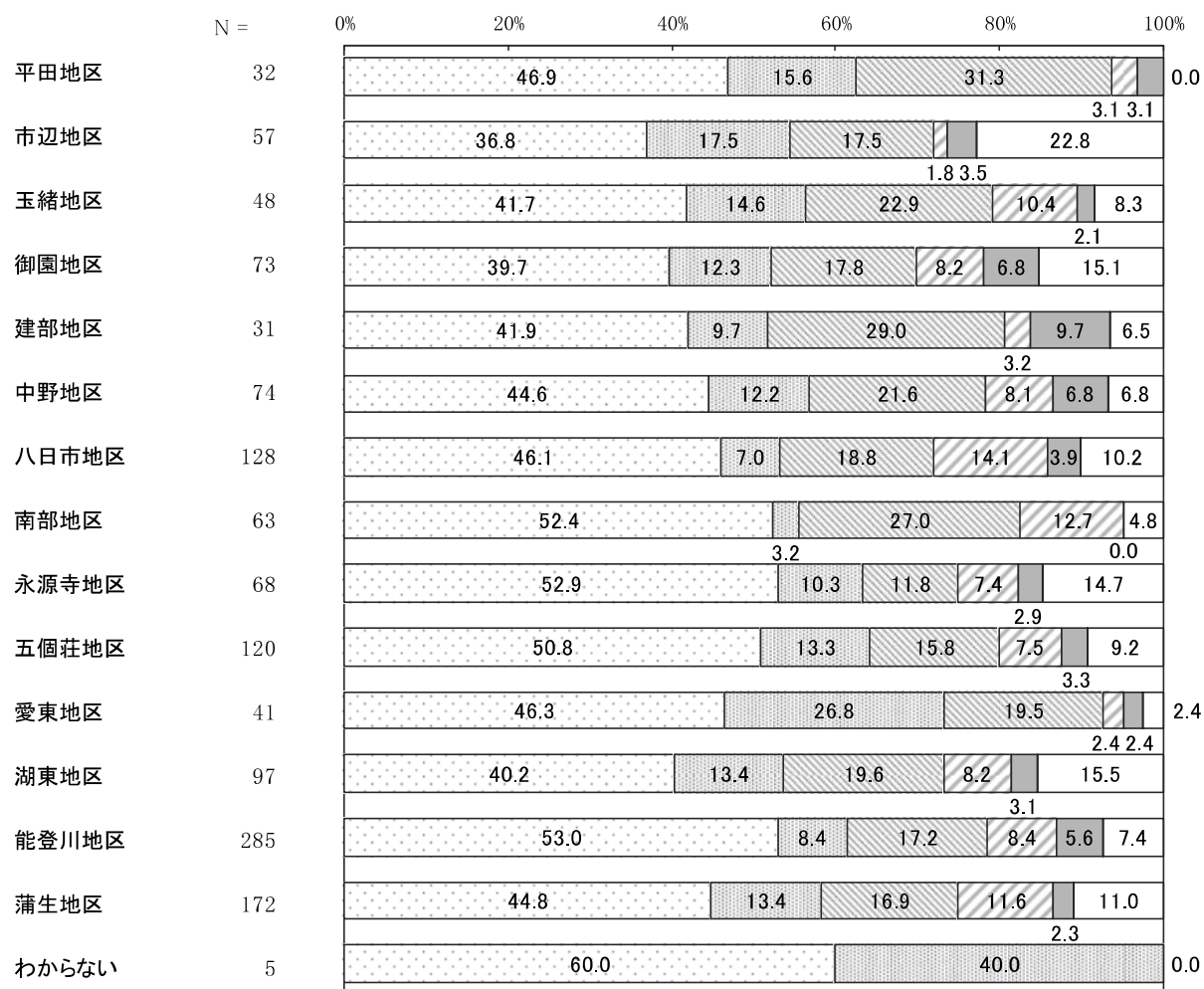


【年代別】

-  市民一人一人のまちづくりへの関心を高める
-  まちづくりのリーダー養成や組織づくりの支援
-  地域の課題を話し合える場づくり
-  まちづくり活動をしている人のネットワークづくり
-  その他
-  無回答



【居住地区別】

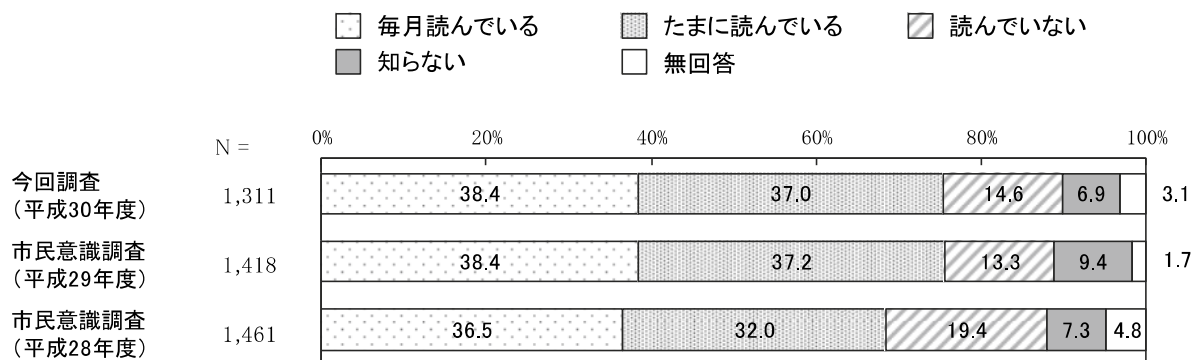


(9) 広報等の情報について

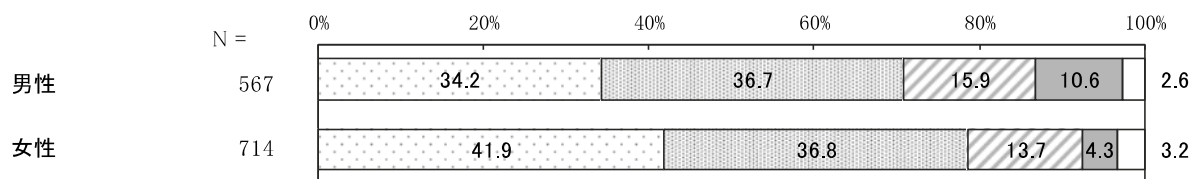
問 53 あなたは、市の広報紙「広報ひがしおうみ」を読んでいますか。《○1つ》

8割近くが広報紙を読んでおり、4割近くは「毎月読んでいる」

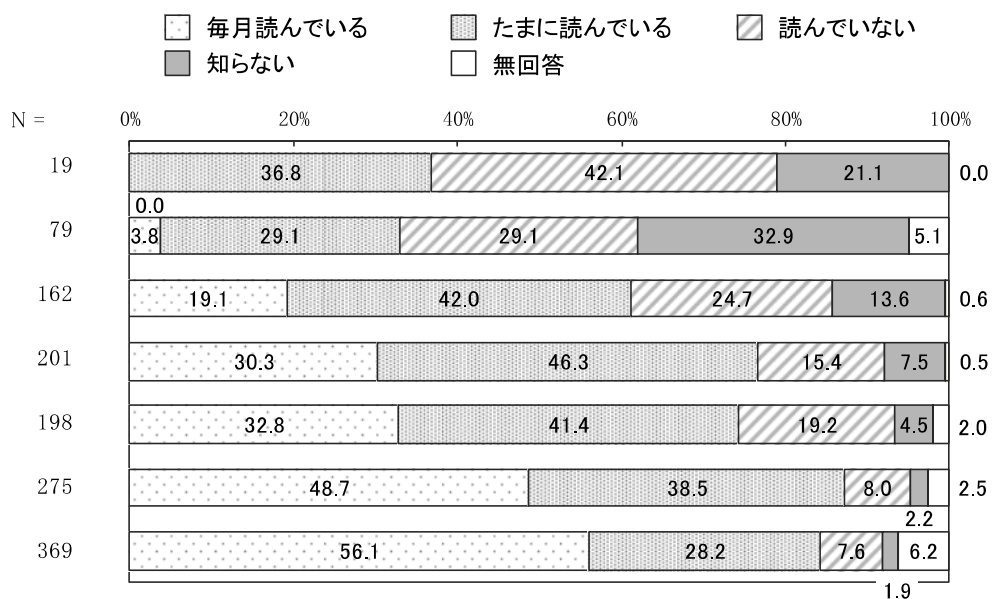
- ・ 「広報ひがしおうみ」については、「毎月読んでいる」が38.4%と最も多く、次の「たまに読んでいる」の37.0%と合わせると75.4%となり、8割近くの方が読んでいると回答しています。一方、「読んでいない」が14.6%、「知らない」が6.9%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、「読んでいない」と回答した人の割合が減少し、広報紙を読んでいる人（「毎月読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計）の割合が増加しています。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では年齢があがるほど、広報紙を「毎月読んでいる」人の割合が多くなっています。一方、10歳代は「読んでいない」が、20歳代は「知らない」が最も多くなっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区、湖東地区、建部地区で広報紙を読んでいる人（前述）が9割前後みられる一方、八日市地区、愛東地区、玉緒地区で読んでいない又は知らない人が多くみられます。



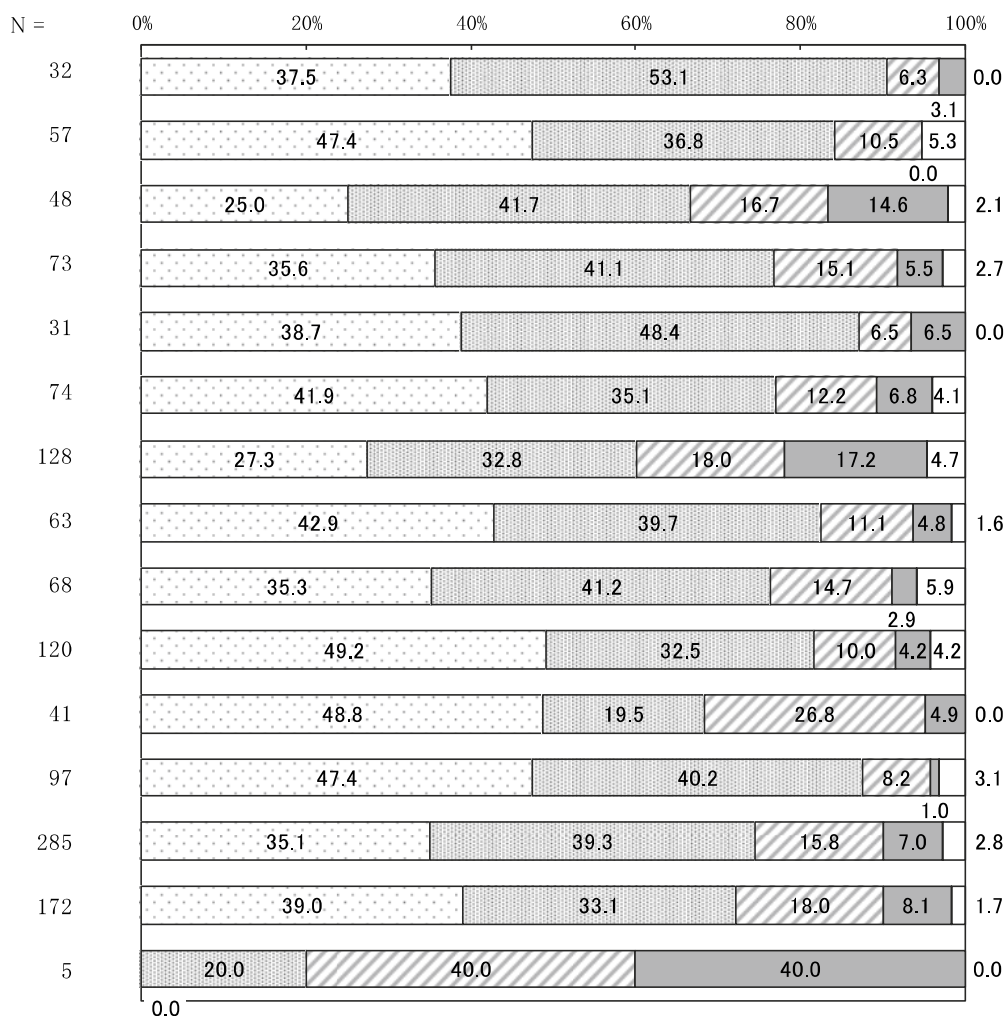
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

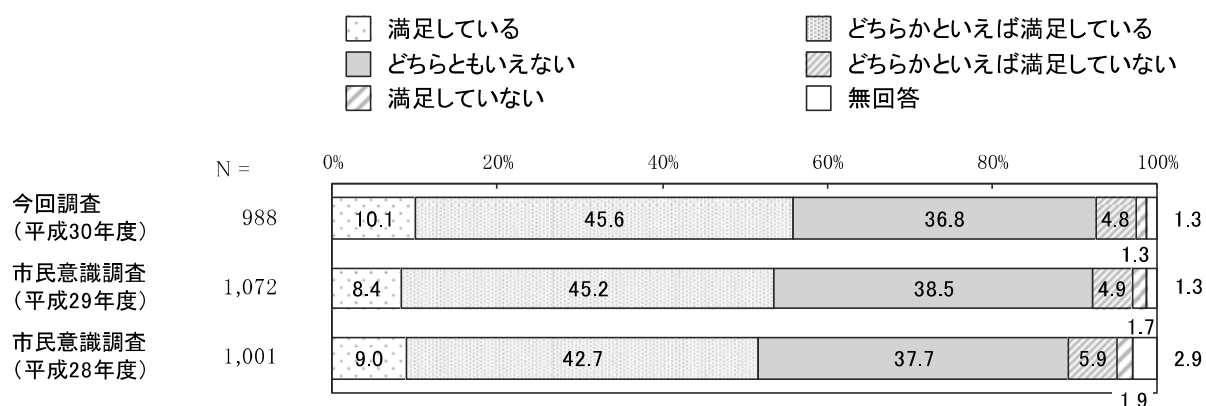


問 53-1 問 53 で「1. 毎月読んでいる」「2. たまに読んでいる」とお答えの方におたずねします。

あなたは、「広報ひがしおうみ」の内容について満足していますか。《○1つ》

6割近くが満足、4割近くが「どちらともいえない」

- ・ 「広報ひがしおうみ」の満足度について広報紙を読んでいる人に聞いたところ、「どちらかといえば満足している」が45.6%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が36.8%と続きます。満足している人（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）が55.7%に対し、満足していない（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合は6.1%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、満足（前述）の割合が増加する一方、不満（前述）の割合が減少し、評価は年々あがっています。
- ・ 年代別では、20歳代と60歳代で「どちらともいえない」が、ほかの年代で「どちらかといえば満足している」が最も多くあげられています。また、満足（前述）の割合は10歳代と70歳以上で高く、20歳代で低くなっています。
- ・ 居住地区別では、玉緒地区、五個荘地区、湖東地区で「どちらともいえない」が、ほかの地区で「どちらかといえば満足している」が最も多くあげられています。また、平田地区で満足（前述）の割合が高くなっています。



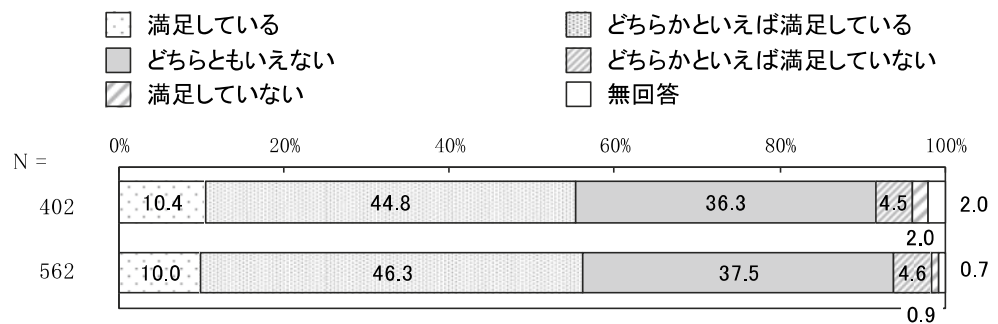
単位：％

	満足	不満	差
①今回調査(平成 30 年度)	55.7	6.1	49.6
②市民意識調査(平成 29 年度)	53.6	6.6	47.0
③市民意識調査(平成 28 年度)	51.7	7.8	43.9
①－③	4.0	-1.7	5.7

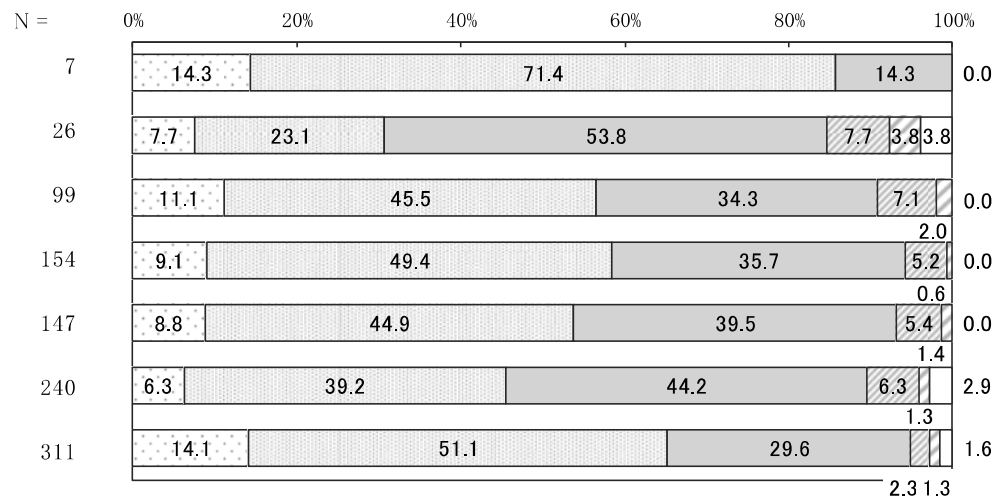
* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

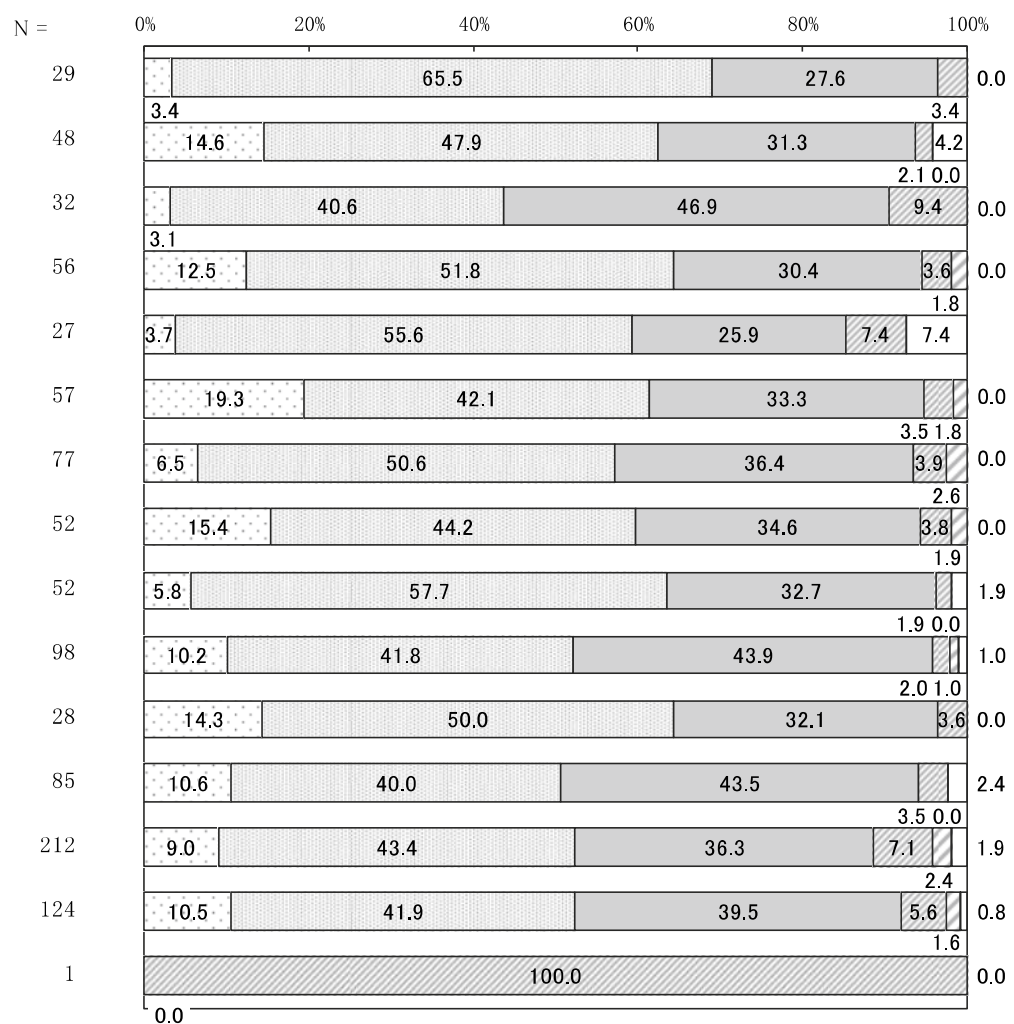
【性 別】



【年代別】



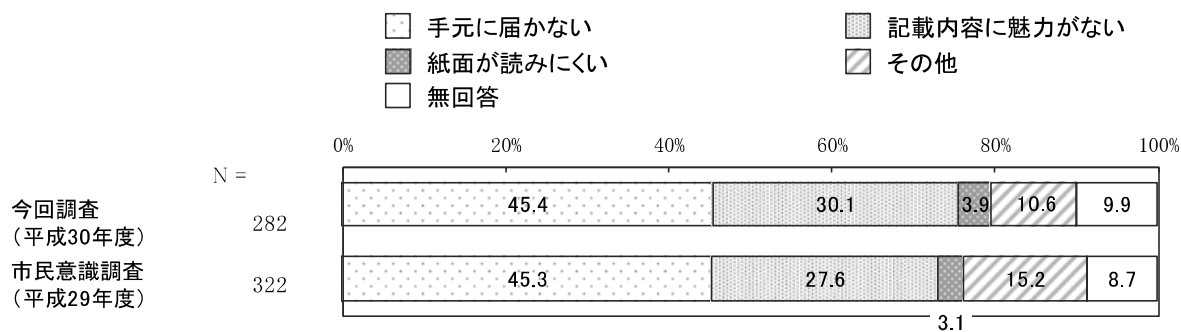
【居住地区別】



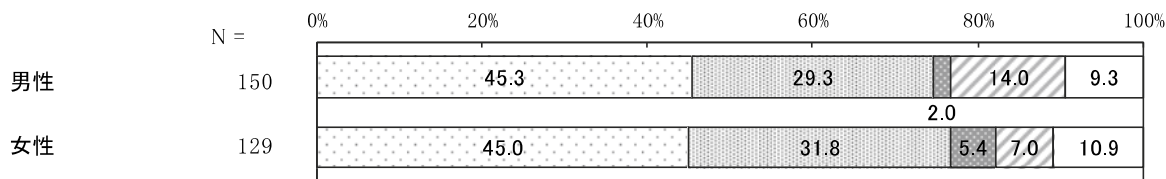
問 53-2 問 53 で「3. 読んでいない」「4. 知らない」とお答えの方におたずねします。
その理由は何ですか。《○1つ》

広報紙を読まない理由は「手元に届かない」が半数近く

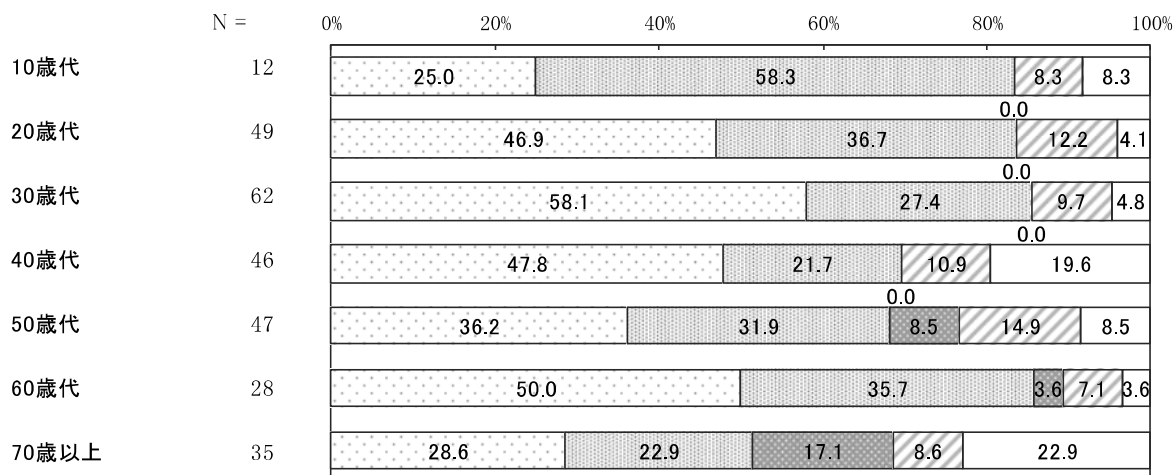
- ・ 「広報ひがしおうみ」を読んでいない人の理由としては、「手元に届かない」が 45.4%と最も多く、次いで「記載内容に魅力がない」が 30.1%と続きます。
- ・ 年代別では、10 歳代は「記載内容に魅力がない」が、ほかの年代は「手元に届かない」が最も多くあげられています。



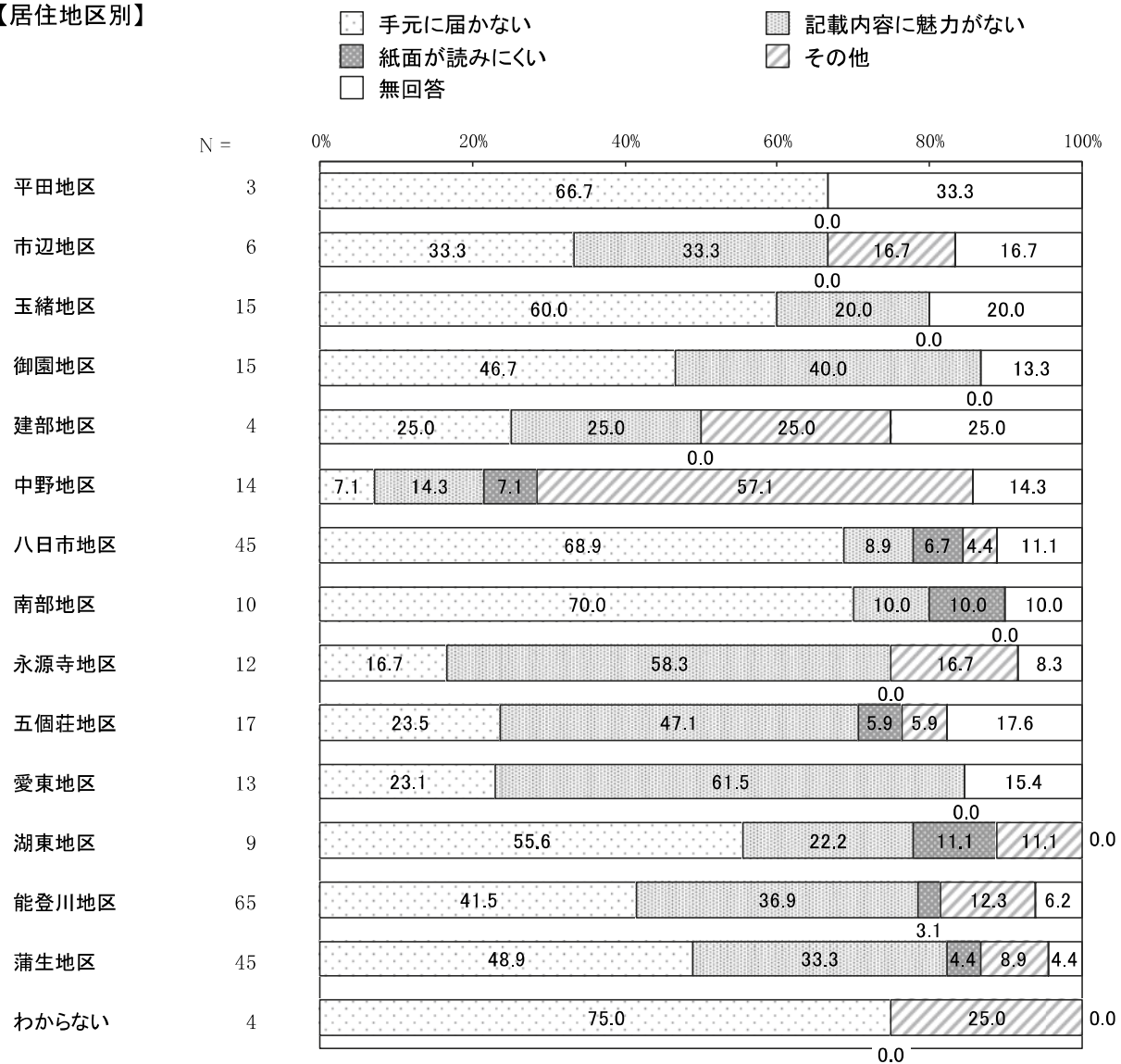
【性 別】



【年代別】



【居住地区別】

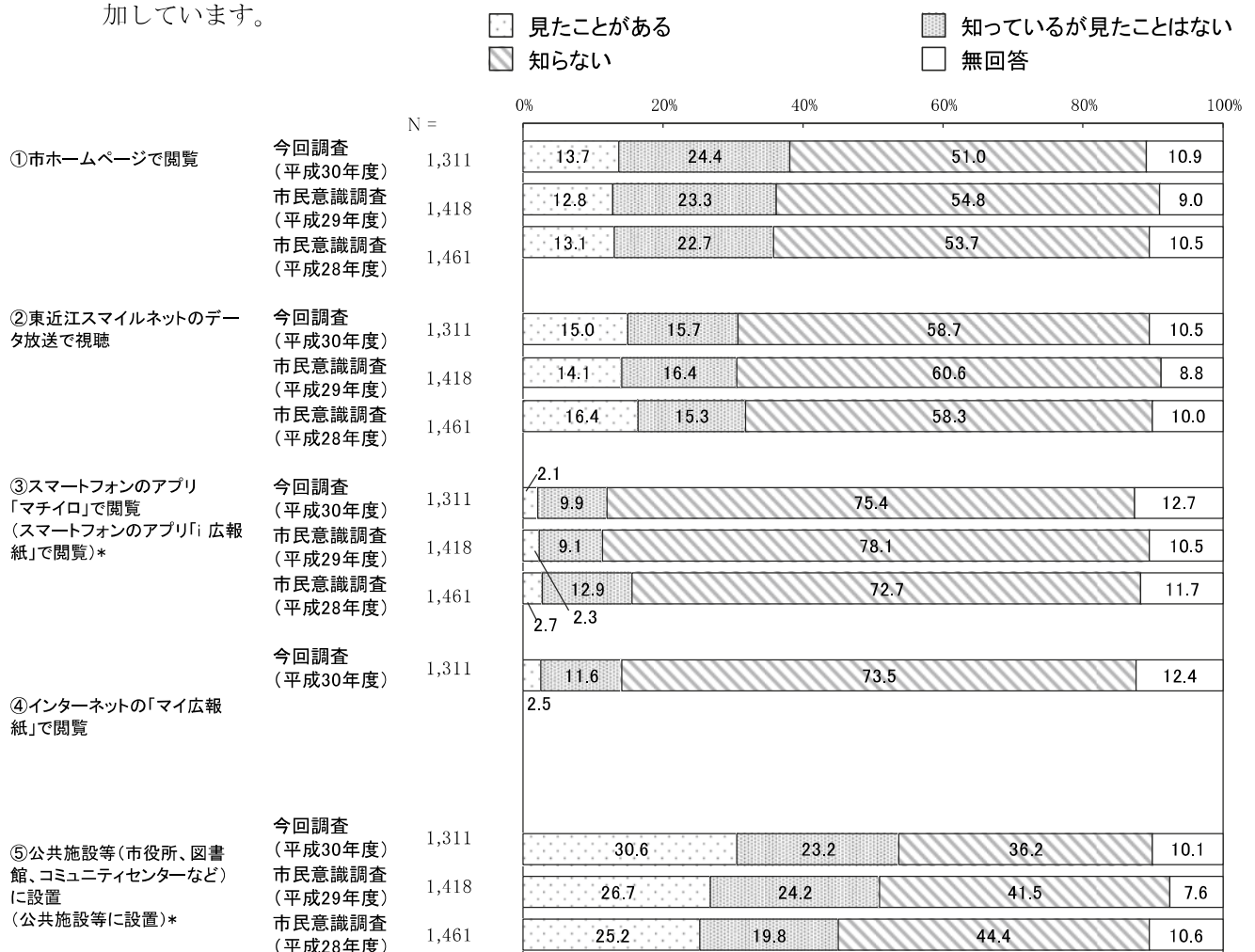


問 54 「広報ひがしおうみ」は毎月新聞折込みによる配布のほかに、次の方法で配信等を行っています。

あなたは、次の配信等の方法を知っていますか。《それぞれの項目に○1つ》

「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度は「公共施設に設置」が最も高い

- 「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度（「見たことがある」と「知っているが見たことはない」を合わせた割合）については、「⑤公共施設等に設置」が53.8%と最も多く、次いで「①市ホームページで閲覧」が38.1%、「②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴」が30.7%、「④インターネットの「マイ広報紙」で閲覧」が14.1%、「③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧」が12.0%となっています。実際に「見たことがある」人が多かったのは、「⑤公共施設等に設置」が30.6%、「②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴」が15.0%、「①市ホームページで閲覧」が13.7%、「④インターネットの「マイ広報紙」で閲覧」が2.5%、「③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧」が2.1%の順となり、市ホームページでの配信が知られているのに実際に見る人が少ないことが分かります。
- 過去の調査と比較すると、認知度は、変動があるものの「⑤公共施設等（市役所、図書館、コミュニティセンターなど）に設置」と「①市ホームページで閲覧」があがっている一方、「③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧」（平成28年度は「i 広報紙」）、「②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴」が低下しています。また、②と③の配信方法は「知らない」の割合が増加しています。



*()内は平成28年度調査の項目

単位：％

		認知度	知らない	差
①市ホームページで閲覧	今回調査(平成 30 年度)	38.1	51.0	-12.9
	市民意識調査(平成 29 年度)	36.1	54.8	-18.7
	市民意識調査(平成 28 年度)	35.8	53.7	-17.9
	差	2.3	-2.7	5.0
②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴	今回調査(平成 30 年度)	30.7	58.7	-28.0
	市民意識調査(平成 29 年度)	30.5	60.6	-30.1
	市民意識調査(平成 28 年度)	31.7	58.3	-26.6
	差	-1.0	0.4	-1.4
③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧 (平成 28 年度は「i 広報誌」)	今回調査(平成 30 年度)	12.0	75.4	-63.4
	市民意識調査(平成 29 年度)	11.4	78.1	-66.7
	市民意識調査(平成 28 年度)	15.6	72.7	-57.1
	差	-3.6	2.7	-6.3
④インターネットの「マイ広報紙」で閲覧	今回調査(平成 30 年度)	14.1	73.5	-59.4
⑤公共施設等に設置	今回調査(平成 30 年度)	53.8	36.2	17.6
	市民意識調査(平成 29 年度)	50.9	41.5	9.4
	市民意識調査(平成 28 年度)	45.0	44.4	0.6
	差	8.8	-8.2	17.0

* 認知度：「見たことがある」「知っているが見たことはない」の合計

①市ホームページで閲覧

- ・ 年代別では、70 歳以上を除き年齢があがるほど認知度が高く、60 歳代のみが、知っている人が知らない人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、湖東地区、南部地区、中野地区の順に認知度が高く、ほかの地区では知らない人が知っている人より多くなっています。

②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴

- ・ 性別では、男性の認知度が女性より高くなっています。
- ・ 年代別では、50 歳代を除いて年齢があがるほど認知度は高くなっていき、70 歳以上を除いて知らない人が知っている人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、永源寺地区、湖東地区で認知度が高く、ほかの地区では知らない人が知っている人より多く、八日市地区で認知度が低くなっています。

③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧

- ・ 年代別では、すべての年代で知らない人が知っている人より多くなっていますが、60 歳以上でほかの年代より認知度が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、いずれの地区でも知らない人が知っている人より多くなっていますが、永源寺地区でほかの地区より認知度が高くなっています。一方、平田地区と八日市地区の認知度は 5% 未満と非常に低くなっています。

④インターネットの「マイ広報紙」で閲覧

- ・ 年代別では、すべての年代で知らない人が知っている人より多くなっていますが、60 歳以上でほかの年代より認知度が高くなっています。

- ・ 居住地区別では、いずれの地区でも知らない人が知っている人より多くなっていますが、永源寺地区と蒲生地区ではほかの地区より認知度が高くなっています。一方、平田地区と八日市地区の認知度は6%程度と非常に低くなっています。

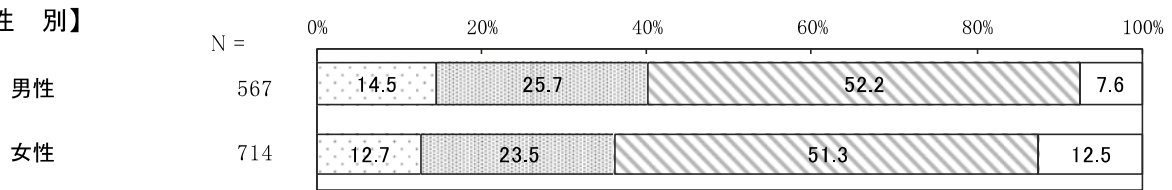
⑤公共施設等に設置

- ・ 性別では、女性の認知度が男性より高くなっています。
- ・ 年代別では、40歳代で認知度が6割と高く、10～20歳代では知らない人が知っている人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区で認知度が6割と高く、中野地区では知らない人が知っている人より多くなっています。

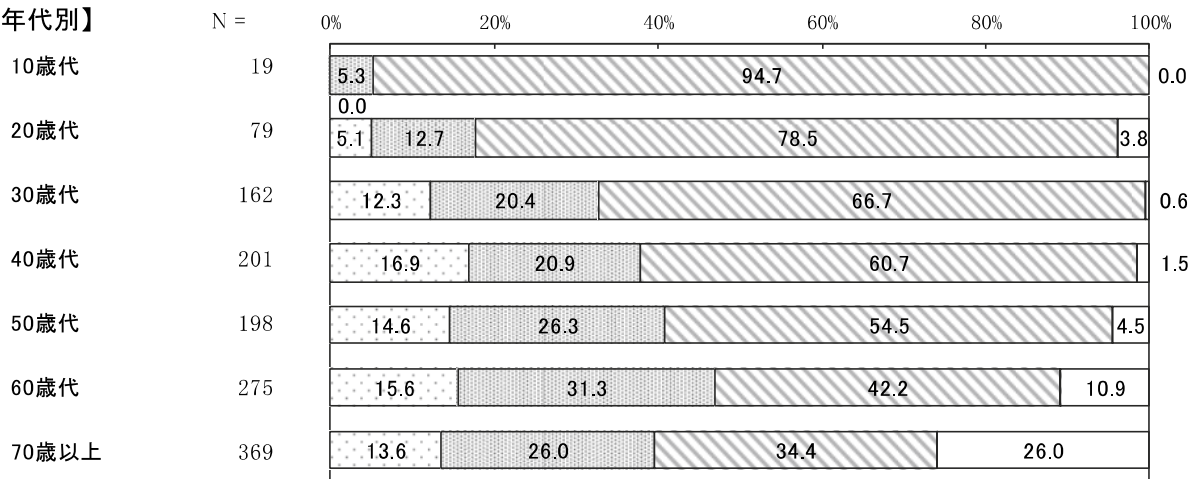
①市ホームページで閲覧

☐ 見たことがある ☒ 知っているが見たことはない
☒ 知らない ☐ 無回答

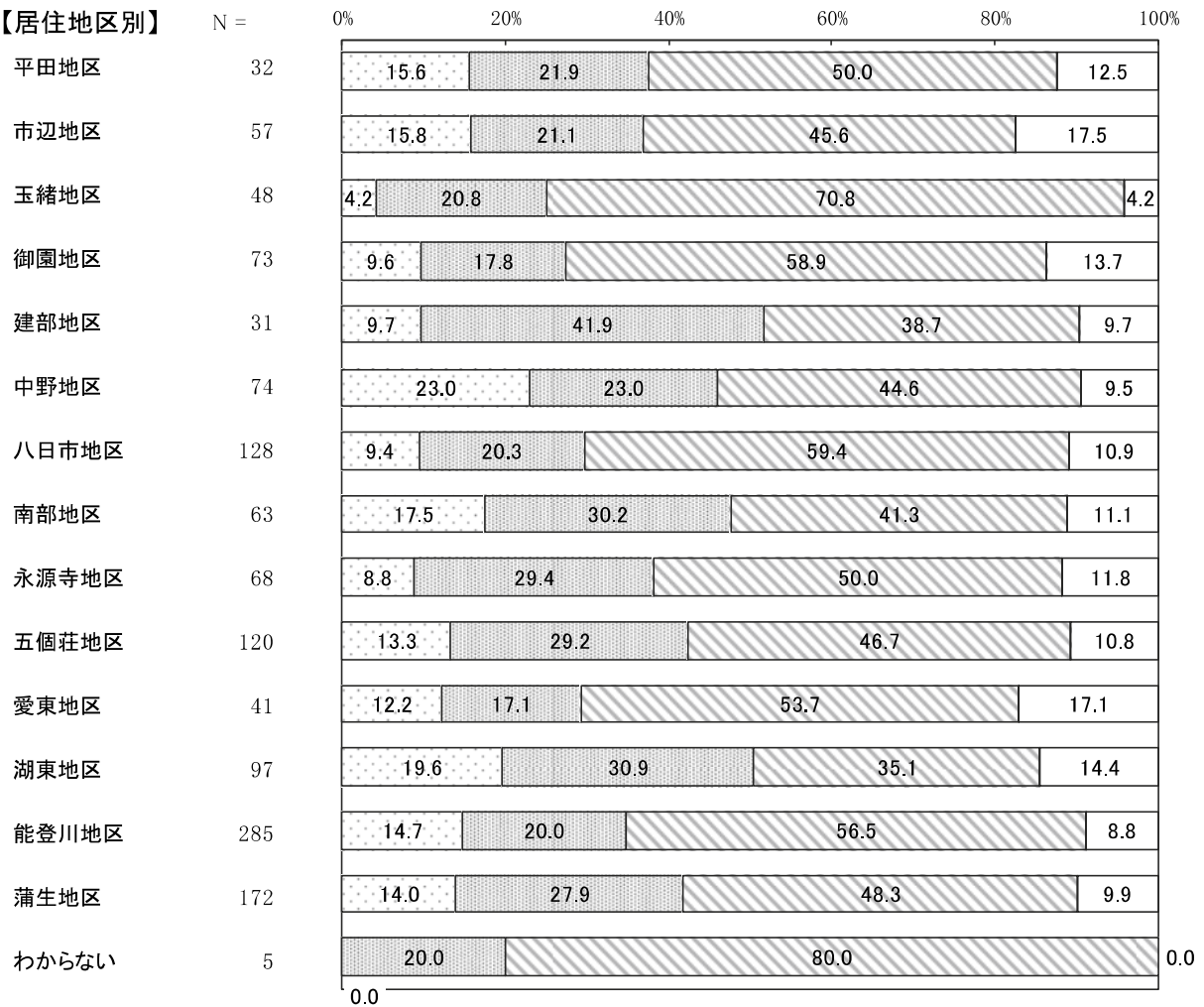
【性 別】



【年代別】



【居住地区別】

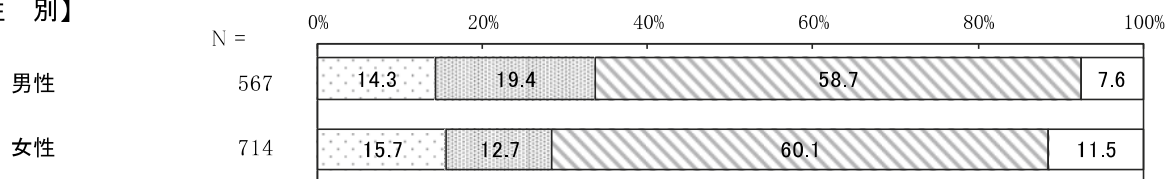


②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴

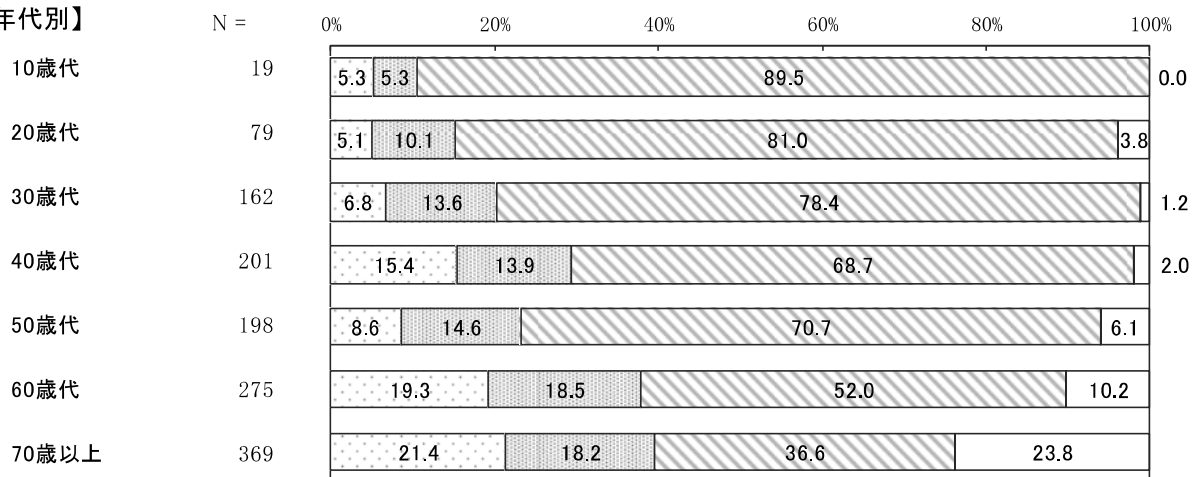
見たことがある
知らない

知っているが見たことはない
無回答

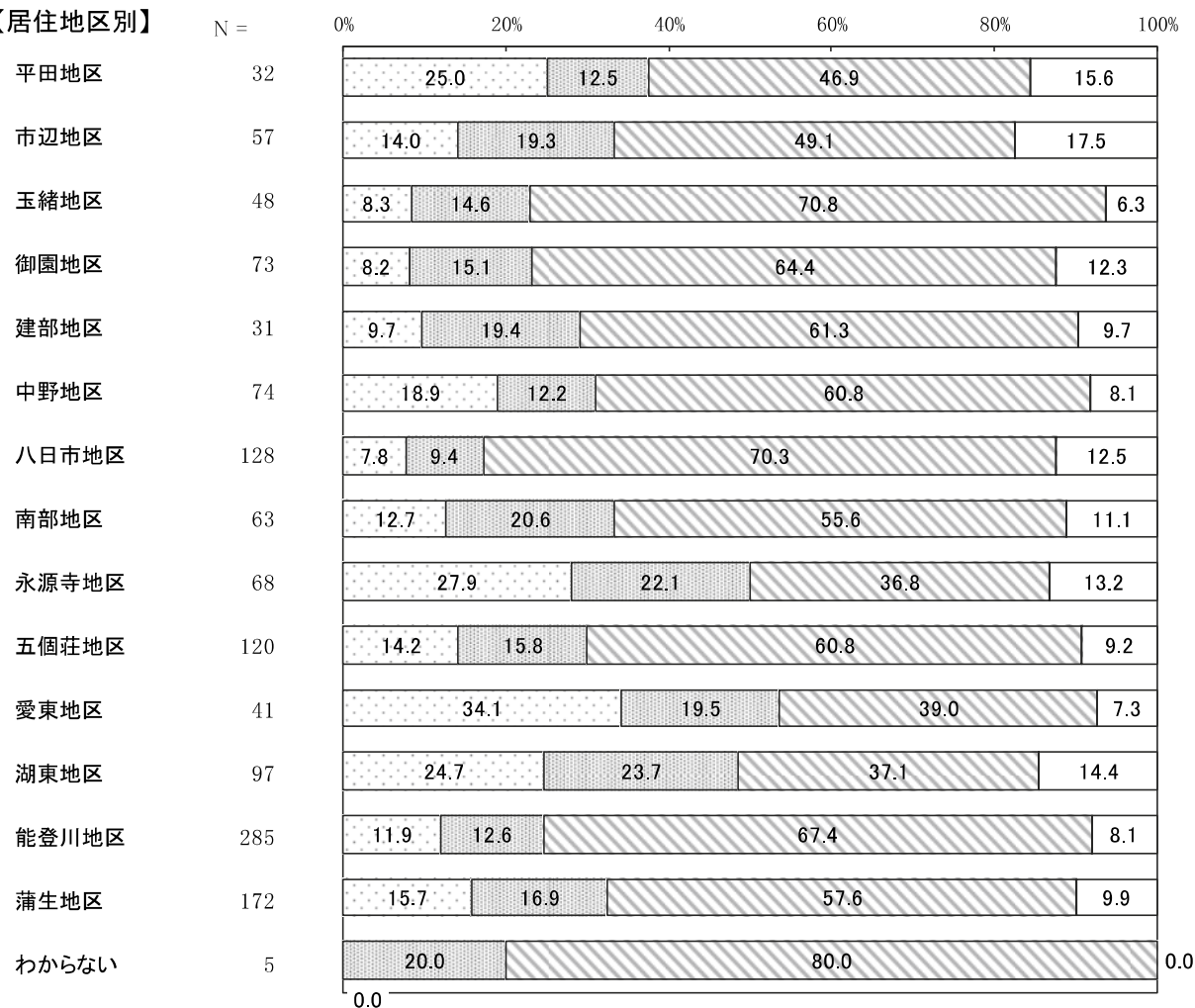
【性 別】



【年代別】



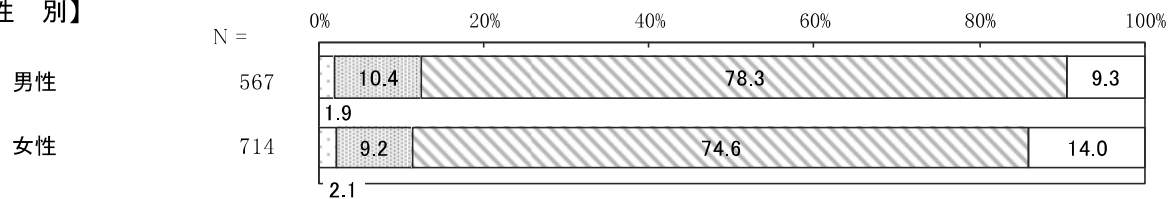
【居住地区別】



③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧

☐ 見たことがある ☐ 知っているが見たことはない
☐ 知らない ☐ 無回答

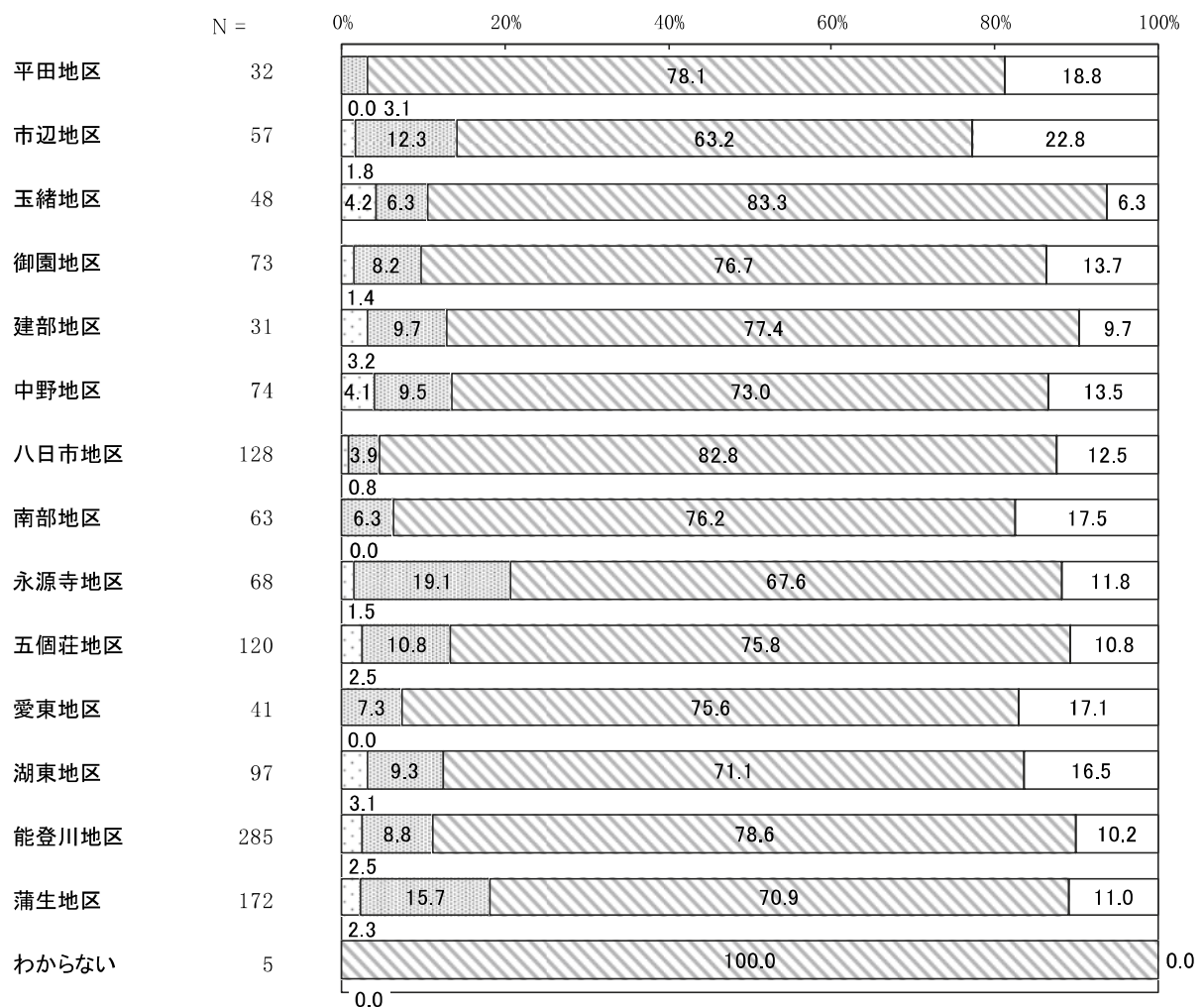
【性 別】



【年代別】



【居住地区別】

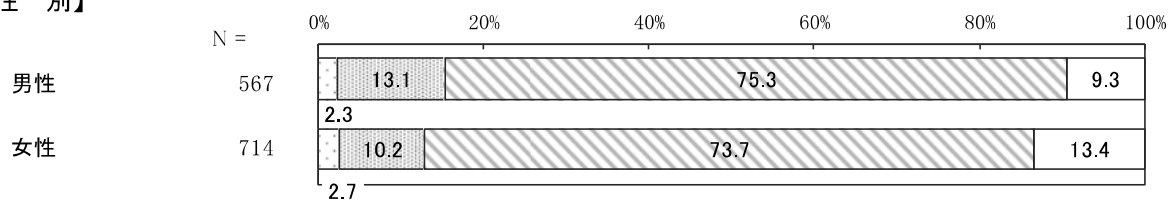


④インターネットの「マイ広報紙」で閲覧

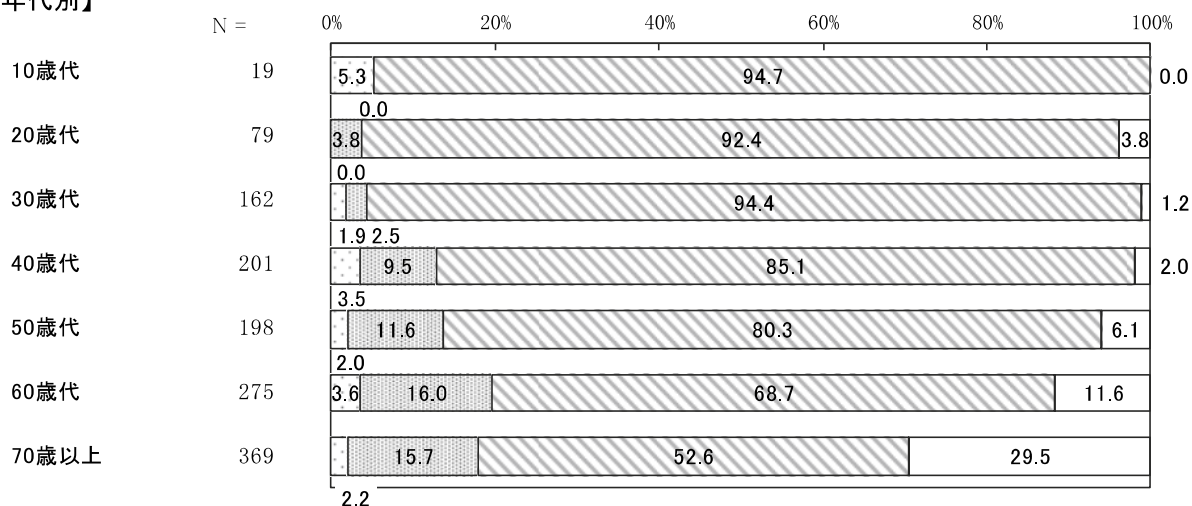
☐ 見たことがある
☐ 知らない

☐ 知っているが見たことはない
☐ 無回答

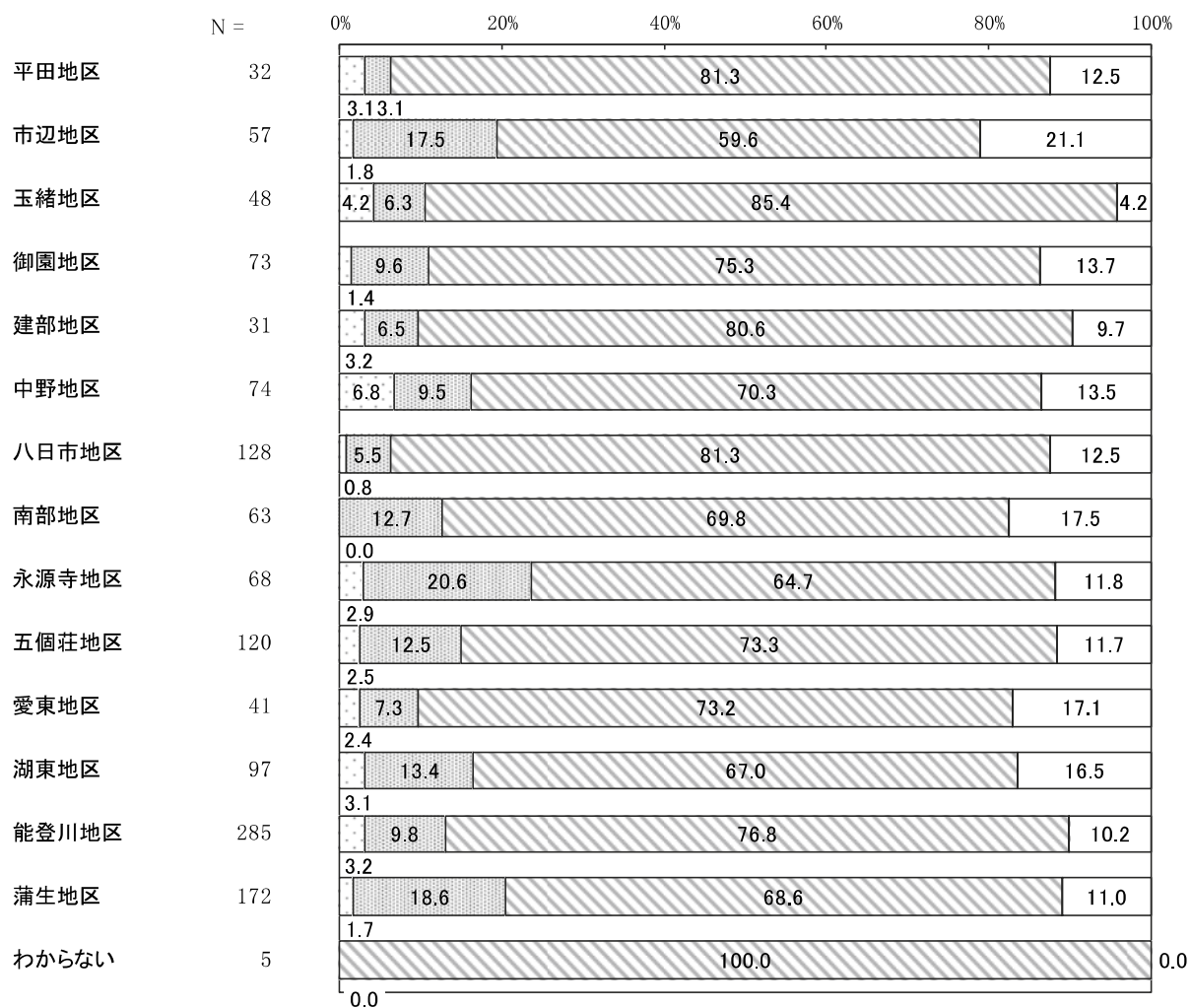
【性別】



【年代別】

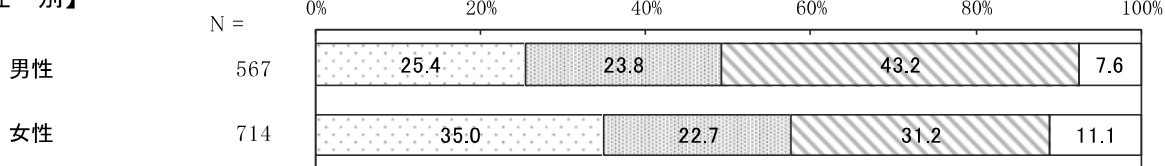


【居住地区別】

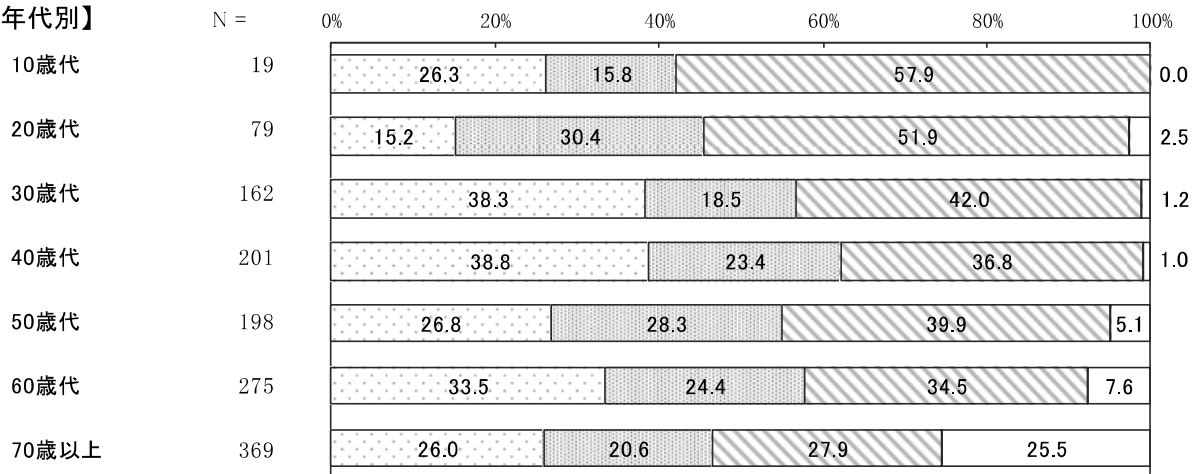


⑤公共施設等に設置

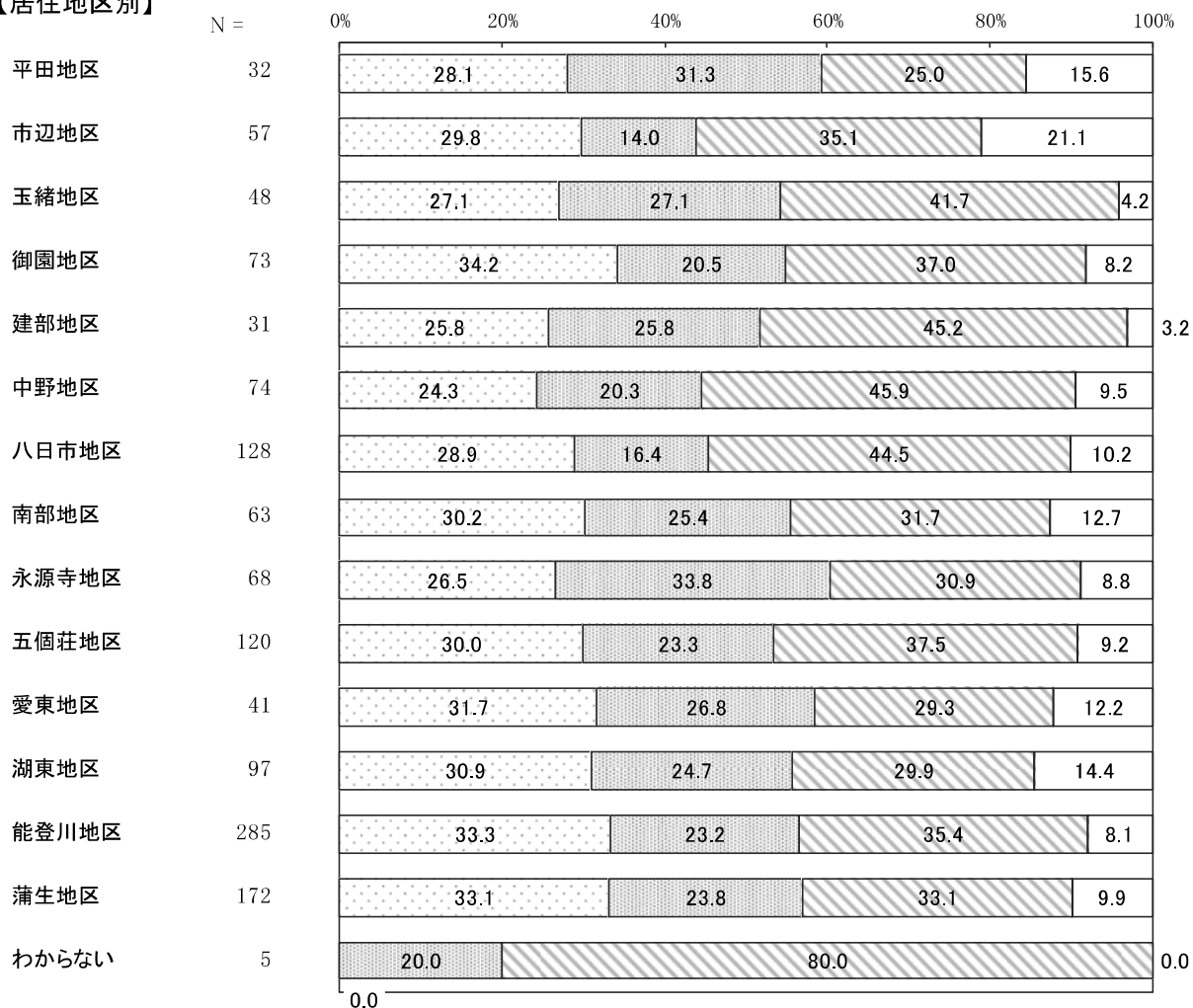
【性別】



【年代別】



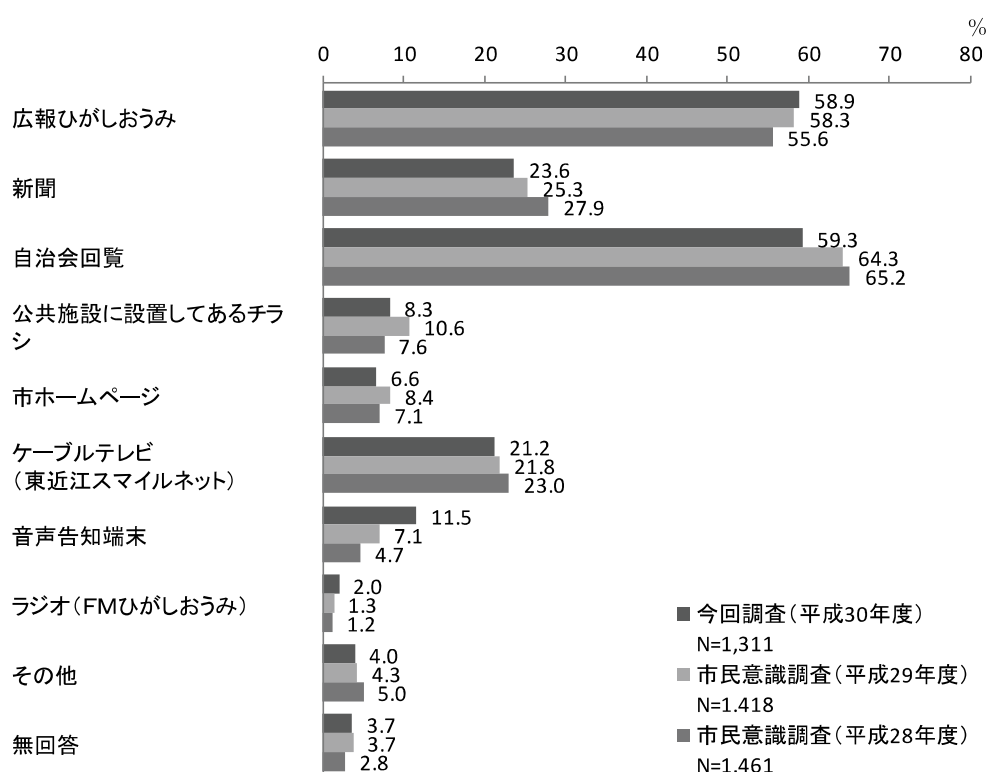
【居住地区別】



問 55 あなたは、市の情報（お知らせ）は主にどのような方法で取得していますか。《○3つまで》

6 割近くが「自治会回覧」や「広報ひがしおうみ」で市の情報を取得

- ・ 市の情報（お知らせ）の主な取得方法については、「自治会回覧」が 59.3%と最も多く、次いで「広報ひがしおうみ」が 58.9%、「新聞」が 23.6%、「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」が 21.2%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、紙媒体としては「自治会回覧」と「新聞」の割合が年々減少し、「広報ひがしおうみ」の割合が年々増加しています。そのほかの媒体としては「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」の割合が年々減少し、「音声告知端末」の割合が年々増加しています。
- ・ 性別では、男性は「自治会回覧」が、女性は「広報ひがしおうみ」が最も多くあげられています。
- ・ 年代別では、10 歳代と 50 歳以上は「広報ひがしおうみ」が、20～40 歳代は「自治会回覧」が最も多くあげられています。60 歳代はいずれも同じ割合で、20 歳以上はこれら 2 つのいずれかが上位 2 位にあげられています。第 3 位は、20 歳代が「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」、30 歳代が「公共施設に設置してあるチラシ」、40 歳以上が「新聞」となっています。
- ・ 居住地区別では、市辺地区、南部地区、建部地区、平田地区、中野地区、永源寺地区、愛東地区、湖東地区は「広報ひがしおうみ」が、ほかの地区では「自治会回覧」が最も多くあげられています。いずれの地区もこの 2 つのいずれかが上位 2 位にあげられており、第 3 位は、湖東地区、永源寺地区、中野地区、五個荘地区が「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」、愛東地区が「音声告知端末」、ほかの地区が「新聞」となっています。



【性 別】

単位: %

区 分	有効回答数（件）	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）	音声告知端末	ラジオ（FMひがしおうみ）	その他	無回答
男性	567	53.6	22.8	59.3	7.1	8.1	19.9	12.9	2.8	4.9	3.7
女性	714	62.7	24.2	59.7	9.4	5.3	22.4	10.5	1.4	3.2	3.6

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数（件）	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）	音声告知端末	ラジオ（FMひがしおうみ）	その他	無回答
10歳代	19	31.6	21.1	21.1	0.0	0.0	15.8	15.8	5.3	21.1	5.3
20歳代	79	20.3	13.9	26.6	12.7	13.9	19.0	12.7	3.8	15.2	10.1
30歳代	162	43.2	16.7	43.8	19.1	13.6	12.3	8.0	2.5	6.8	3.1
40歳代	201	53.7	19.4	60.2	6.5	11.4	17.4	12.4	2.0	5.0	1.5
50歳代	198	57.1	21.7	54.5	5.6	6.1	18.7	16.7	2.0	4.0	3.0
60歳代	275	70.2	26.9	70.2	8.0	4.0	24.0	12.7	1.5	0.7	2.5
70歳以上	369	71.3	29.8	69.4	5.7	2.2	27.4	8.4	1.6	1.1	4.6

【居住地区別】

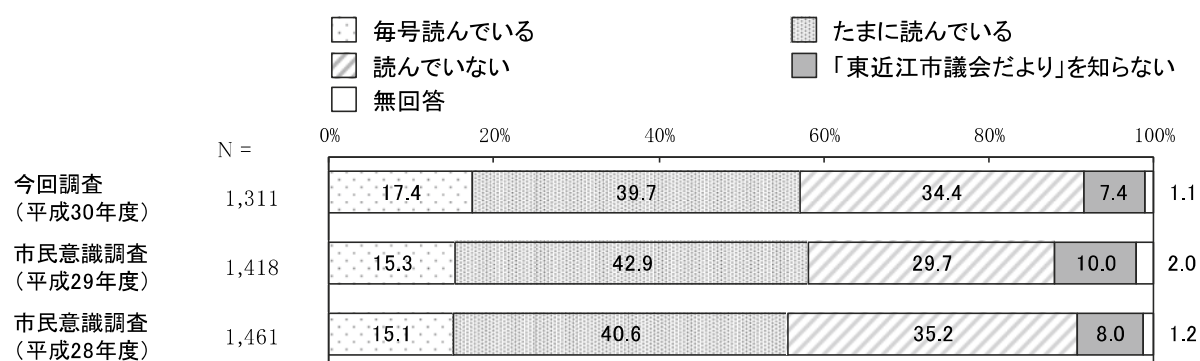
単位: %

区 分	有効回答数（件）	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）	音声告知端末	ラジオ（FMひがしおうみ）	その他	無回答
平田地区	32	65.6	37.5	59.4	15.6	3.1	25.0	12.5	0.0	6.3	0.0
市辺地区	57	73.7	31.6	71.9	7.0	7.0	15.8	8.8	0.0	3.5	0.0
玉緒地区	48	52.1	27.1	62.5	10.4	8.3	20.8	6.3	4.2	4.2	2.1
御園地区	73	58.9	23.3	68.5	6.8	5.5	17.8	6.8	4.1	1.4	6.8
建部地区	31	67.7	29.0	67.7	9.7	6.5	12.9	6.5	0.0	3.2	3.2
中野地区	74	64.9	18.9	64.9	8.1	6.8	24.3	6.8	0.0	6.8	5.4
八日市地区	128	41.4	25.8	46.1	9.4	13.3	10.2	13.3	3.1	5.5	3.9
南部地区	63	68.3	30.2	58.7	6.3	4.8	20.6	11.1	3.2	1.6	3.2
永源寺地区	68	64.7	26.5	52.9	2.9	4.4	36.8	23.5	1.5	1.5	2.9
五個荘地区	120	65.8	23.3	67.5	5.0	9.2	24.2	17.5	0.0	0.8	4.2
愛東地区	41	61.0	9.8	48.8	12.2	7.3	29.3	34.1	0.0	7.3	2.4
湖東地区	97	60.8	15.5	51.5	4.1	4.1	46.4	10.3	1.0	2.1	4.1
能登川地区	285	57.5	21.1	60.4	10.5	4.9	15.8	8.1	1.8	5.3	2.8
蒲生地区	172	57.0	26.2	60.5	8.1	6.4	18.0	9.3	4.7	2.9	4.7
わからない	5	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0

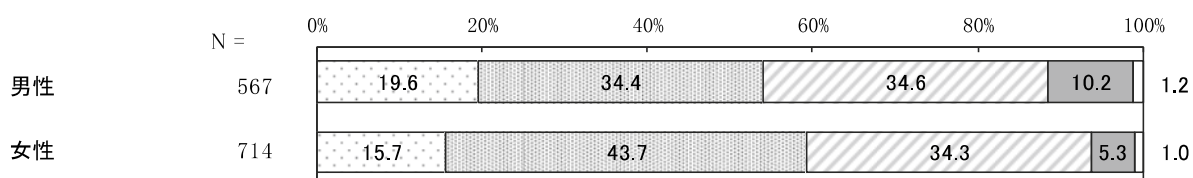
問 56 あなたは「東近江市議会だより」を読んでいますか。《○1つ》

6割近くが「東近江市議会だより」を読んでいる

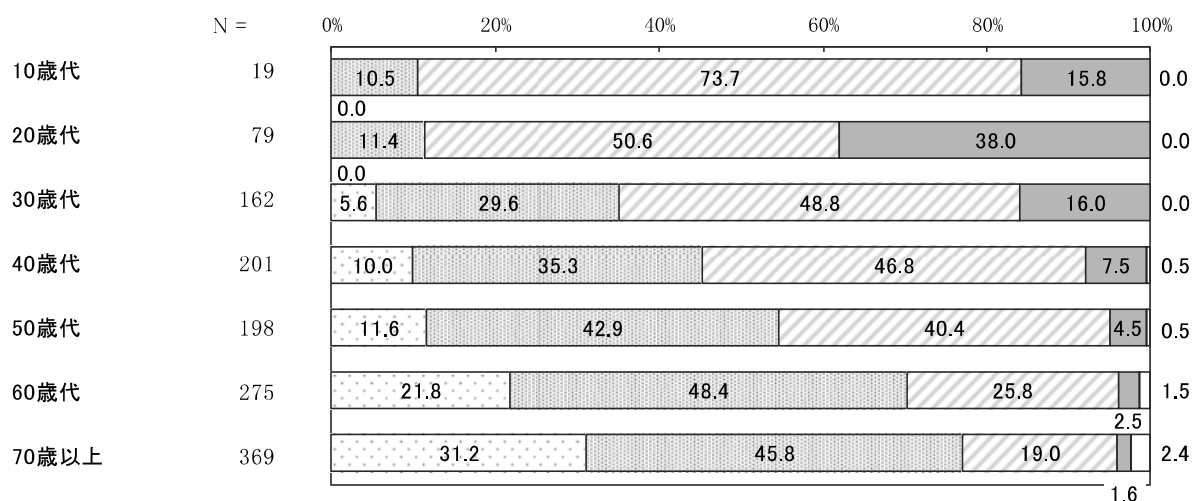
- ・ 「東近江市議会だより」については、「毎号読んでいる」が17.4%、「たまに読んでいる」が39.7%で、これらを合わせると57.1%となり、6割近くの人が読んでいると回答しています。一方、「読んでいない」が34.4%、「知らない」が7.4%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、「毎号読んでいる」の割合が年々増加しており、「読んでいない」の割合は変動があるものの減少しています。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では年齢が上がるほど、「東近江市議会だより」を読んでいる人（「毎号読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計）が多くみられます。また、10～40歳代では、読んでいない又は知らない人が、読んでいる（前述）より多くみられます。



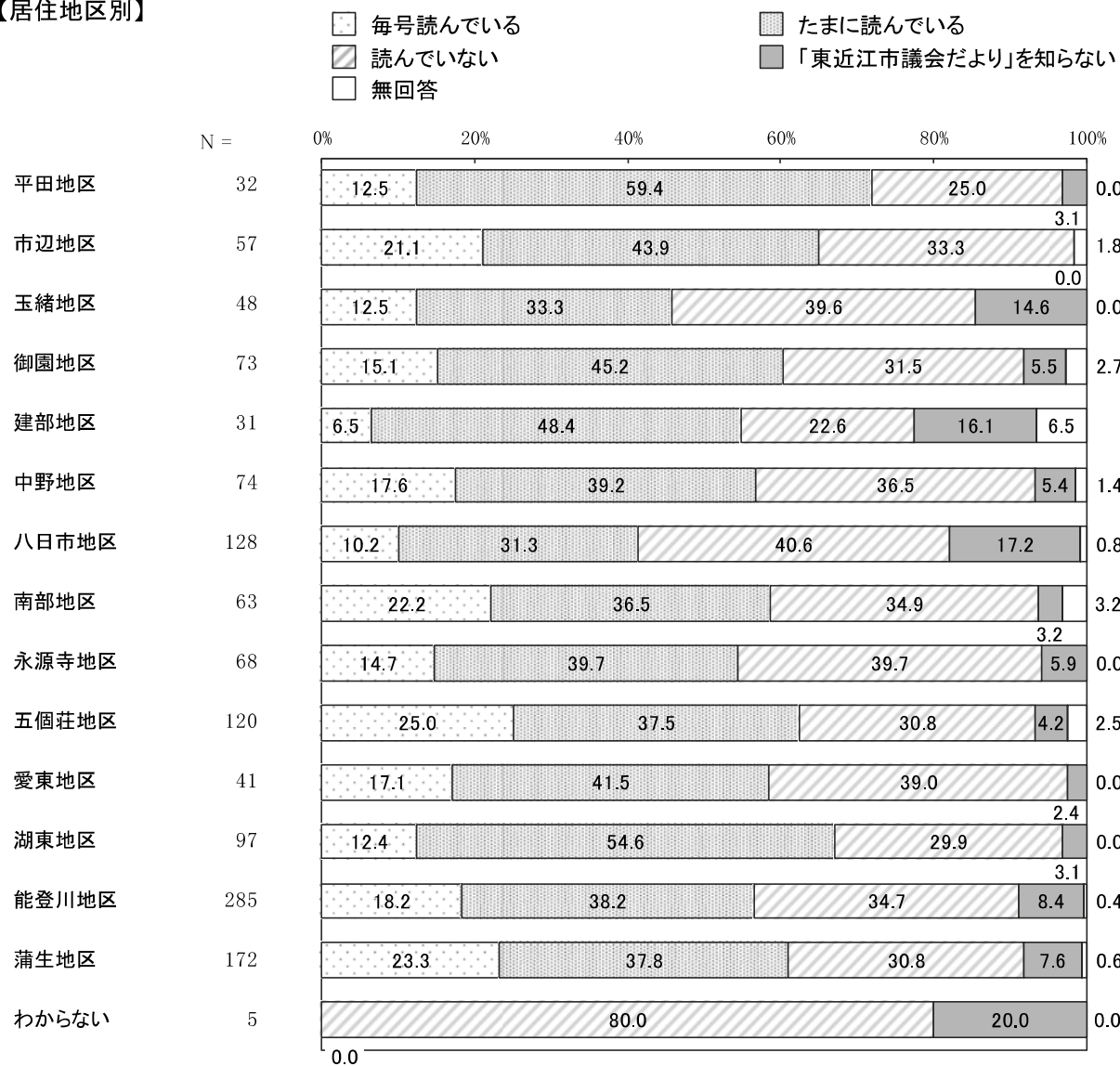
【性 別】



【年代別】



【居住地区別】

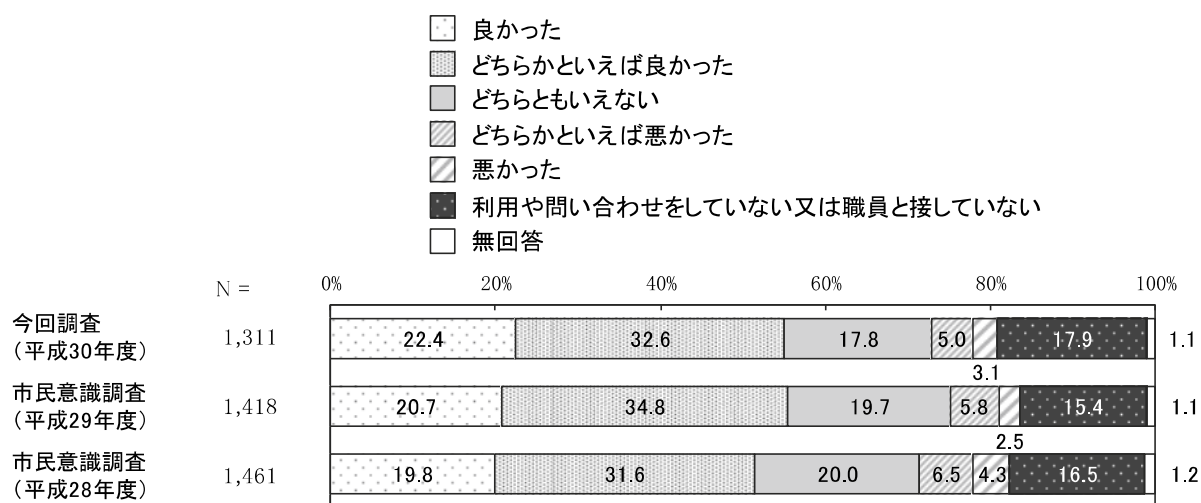


(10) 市役所のサービスに関して

問 57 この１年間に、市役所（支所・出張所を含む）の窓口利用や電話でのお問い合わせ、又は市役所外で職員に接した際の市役所職員の対応はどのように感じましたか。《○１つ》

6割近くが市役所職員の対応は良かった

- ・ 市役所職員の対応の印象については、「良かった」が22.4%、「どちらかといえば良かった」が32.6%で、これらを合わせると55.0%となり、6割近くが良かったと回答しています。一方、悪かった（「どちらかといえば悪かった」と「悪かった」の合計）の割合は8.1%と、1割未満となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、「良かった」の割合が増加し、悪かった（前述）の割合が減少しており、評価は年々あがっています。
- ・ 年代別では、10～20歳代は「利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない」が、30歳代は「どちらともいえない」が、40～60歳代は「どちらかといえば良かった」が、70歳以上は「良かった」が最も多く、年齢があがるほど評価が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区で「どちらともいえない」が、愛東地区で「良かった」が、ほかの地区で「どちらかといえば良かった」が最も多くなっています。また、御園地区、中野地区、平田地区、南部地区で良かった（「良かった」と「どちらかといえば良かった」の合計）の割合が6割で、愛東地区、永源寺地区で悪かった（前述）の割合がほかの地区より高くなっています。



単位：％

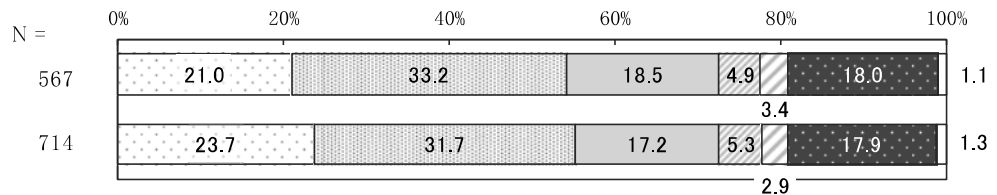
	良かった	悪かった	差
①今回調査(平成30年度)	55.0	8.1	46.9
②市民意識調査(平成29年度)	55.5	8.3	47.2
③市民意識調査(平成28年度)	51.4	10.8	40.6
①－③	3.6	-2.7	6.3

* 良かった:「良かった」と「どちらかといえば良かった」の合計

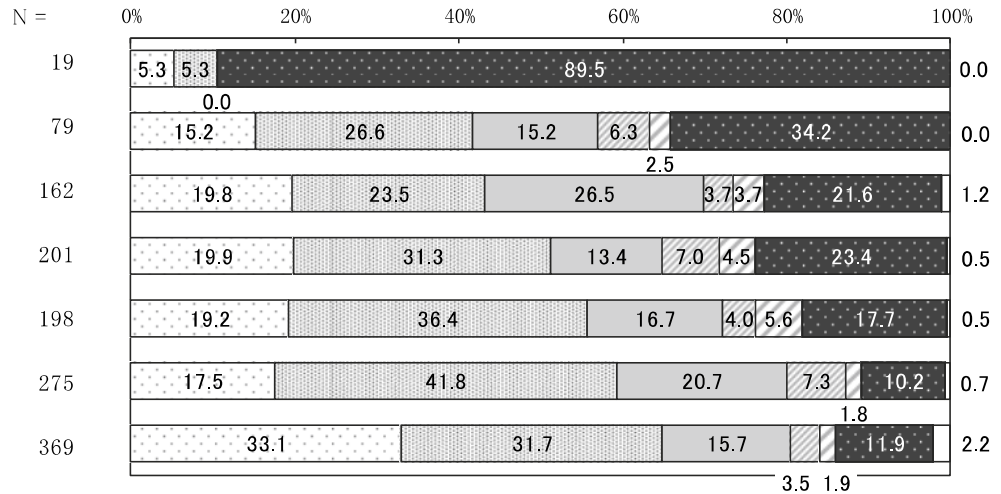
* 悪かった:「どちらかといえば悪かった」と「悪かった」の合計

- 良かった
- ▨ どちらかといえば良かった
- どちらともいえない
- ▨ どちらかといえば悪かった
- ▨ 悪かった
- 利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない
- 無回答

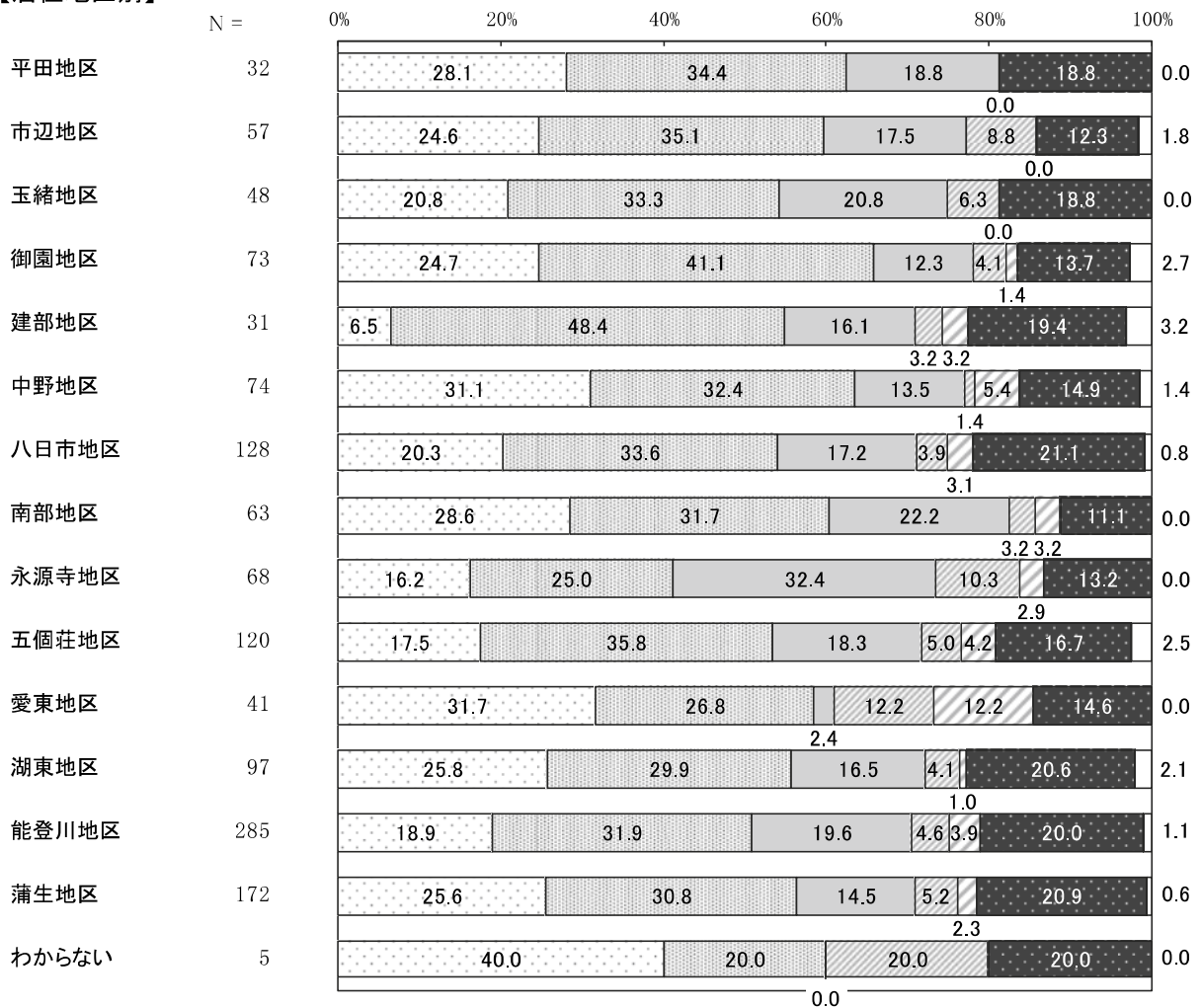
【性 別】



【年代別】



【居住地区別】



(11) まちづくりに対する意見等について

問 58 東近江市のまちづくりについて、御意見や御提案等がありましたらご記入ください。

- ・ 有効回収数 1,311 件のうち、自由記述への記入件数は 371 件（28.3％）でした。これらの意見を概ね本意識調査票の調査項目ごとに分類した件数は、次のとおりです。
- ・ なお、同じ人が複数の項目の意見を書かれているものも多いため、調査項目ごとに分類した件数の合計件数は 371 件以上となっています。

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
住みごこちや愛着等について	52 件	・ 市内の各地域・地区には、いい所・いい物・いい味等があるので、個々ではなく東近江市として県内外へ情報発信・アピールをし、集客・活性化して欲しい。（能登川地区 60 代男性） ・ 八日市中心のことが多い。東近江市は広いので各町（昔の町）ごとに取組が必要。東近江市〇〇町と言われてもどこか分からないから昔の町名に戻してほしい。そうすると親近感が沸くのではないか。（能登川地区 40 代女性） ・ 本町の通りや八日市駅周辺の活性化を望む。（八日市地区 50 代女性）
健康や福祉について	18 件	・ 夜間、休日の医療体制を充実してほしい。生活圏でないと医院の場所も分からない。特に小児科。待ち時間も長い。（永源寺地区 30 代女性） ・ 高齢者がいきいきとした活動ができる施策を期待したい。（五個荘地区 70 代男性） ・ 障害者についても、入りやすい店や施設があればいいのと日々思う。（八日市地区 20 代女性）
環境や暮らしについて	51 件	・ 商店や病院が近くにない地域の人、特に高齢者がちょっとバスでもう少し便利に行きたい所に行けるようにして欲しい。もっと自由に利用できるよう。（能登川地区 70 代男性） ・ 近江鉄道などの公共交通機関の利便性を良くして高齢者にやさしいまちづくりを促進してください。（蒲生地区 50 代男性） ・ 災害・水害に対する取組を充実させてほしい。避難所の開設。（八日市地区 50 代女性）
子育てや教育について	26 件	・ 子どもたちが市内で遊べる場所が少ないように思える。特に、自然とふれ合える施設が増えたらいいなと思う。（平田地区 20 代女性） ・ 子どもの通学路の安全を考えてほしい。（危ないところがあるので）警察と学校と協力して、不審者にもあわないように、情報を多くほしい。（能登川地区 30 代女性） ・ 子育てに優しい町になる事を希望する。子供がとて多くて良いと思うので、子供を活用すれば、自然と家族と一緒に集まるという点では、近江八幡や彦根の方が利用しやすい。（能登川地区 30 代男性）

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
都市整備について	35 件	・安心・安全な通行ができる道路整備。（市辺地区 60 代男性） ・もっと歩道を増やして欲しい（安心して歩けるから）（中野地区 70 代女性） ・公園で子供が楽しく遊べる環境がほしい。（建部地区 30 代男性） ・能登川駅の東側、隧道の改善を早く進めて欲しい。こんなにごちゃごちゃした町は全国的に少ないのでは。（能登川地区 40 代男性）
商業やにぎわいの創出について	18 件	・旧八日市市内に、大きなホームセンターや大規模なショッピングセンターがないため、日用品や衣類を買うにはどうしても市外に出ないといけないため、不便。（市辺地区 20 代女性） ・八日市の本町通りと、ときわ通りはなんとも言えない、人通りもなくさみしい感じがする。グルメ、おいしい食事ができる、色々なおいしい食道街ができるとみんな楽しみだと思う。多くの人でにぎやかになる事を願っている。（中野地区 70 代女性）
協働のまちづくりについて	35 件	・まちづくりの取組は、各町、各自治会により意識の差、取組の差があるように思う。子どもたちの世代がより住みやすいまちになるように、自分たちの世代でできることを真剣に考えていきたい。歴史、文化を大切にしながらも、今の時代、社会に合った方法を見つけていくことが必要だと思う。（五個荘地区 30 代女性） ・東近江市を良くするには、市民、若者、商工会の皆さんがまちづくりにもっともっと深く関わらなければならない。（平田地区 60 代不明） ・参加したいという意識があるが参加のしかたがわからず、特別に調べないといけない。もっと気軽なツールで“まちづくり”の参加を促してほしい。（能登川地区 40 代女性）
広報等の情報について	22 件	・広報ひがしおうみは新聞をとっていないから読むことがない。回覧としてまわしてほしい。（市辺地区 50 代男性） ・緊急放送（時間外の放送）が、要領を得ず聞きづらい。（永源寺地区 60 代女性） ・他府県から来たのであまり東近江の事を知らない。役所に手続きに来た人に、東近江市の事をアピールするものを配れば良いと思う。市が積極的にしないと市民は動かない。（湖東地区 20 代男性）
市役所のサービスについて	39 件	・10 数年前に市町村合併が実施され、元郡部の町は効率化がされたためか、サービスの低下の傾向にあるように思う。特に支所の職員さんは兼務が多く対応する人数が少なく負担が大きくなっているのでは…。（五個荘地区 60 代女性） ・行政サービスの地域間格差の是正に取り組んで頂きたい。（平田地区 70 代男性）
まちづくり全般について	72 件	・今後、高齢化が進むが、安心して過ごせる東近江市、町に期待したい。（御園地区 50 代男性） ・人口減、高齢化の中で市の将来像をどこに置くのか、それに対応する施策が必要に感じる。（70 代男性）

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
まちづくり全般について （つづき）		・道路の整備等八日市ばかり整備され、他の所はほとんど整備されてない。もう少し平等に税金を使用するべきでは。同じ市なのだから。（蒲生地区 30 代男性） ・「東近江市」でひとくくりにしてしまうのは無理があると思う。永源寺や愛東の山あいと能登川の町中を並べて比べても意味がない。隣人との関わり方も多分全く違う。各地域地区毎にすすめていくべきだと思う。（能登川地区 60 代女性）
アンケートについて	13 件	・東近江市のまちづくりにこの市民意識調査がどれ位活用されるのか?調査の結果からの進捗状況は、どこでどのようにすれば分かるか?この調査にも費用がかかっているはず。費用対効果はどれ位か?（能登川地区 40 代男性）
その他	33 件	・特になし（8 件） ・その他（25 件）

3 総括

1. 回答者属性

- ・男女比は4対5となっています。
- ・60歳以上がほぼ半数を占めています。
- ・居住地区は、2割が能登川地区、1割が蒲生地区、八日市地区、五個荘地区。旧八日市市8地区が4割近く。

2. 住みごこちや愛着等について

- ・8割近くが住みごこちが良く、また6割が東近江市に対して愛着があると回答しています。
- ・東近江市を自慢できるかについては、4割近くが自慢できるとする一方、4割が「どちらともいえない」としています。
- ・「鈴鹿10座」の認知度は2割近くに増えたものの、8割が「知らない」と回答しています。
- ・東近江市を訪れた友人・知人の案内先は、4割が市外、3割が市内・市外いずれも案内すると回答しており、友人・知人を案内する観光地には、6割近くが「美しい自然環境が楽しめる観光地」をあげています。
- ・近江鉄道八日市駅周辺（市役所周辺を含む。）への来訪頻度は、3割近くが「週に1回以上」と回答しており、八日市駅周辺の中心市街地が活性化するためには、駐車場の整備、空き店舗の解消が必要とされています。

3. 健康や福祉について

- ・かかりつけ医は、6割が市内の病院又は診療所にいると回答しています。
- ・病院や緊急時の医療体制は半数が満足している一方、3割近くが満足していません。
- ・健康づくりの取組は4割が取り組んでおり（取り組みたいを合わせると9割近く）、その内容としては、運動、食事、睡眠、定期健診の受診、規則正しい生活などが多くあげられています。
- ・朝食を毎日食べている人は9割近くですが、運動は「ほとんどしていない」人が半数で、週1回以上の運動実施率は3割近くとなっています。
- ・6割が悩み等を相談できる人がいると回答しています。
- ・東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思うかについては、理解が進んでいないと思う人は減少していますが、「わからない」が3割と最も多く、今後力を入れるべき取組は、バリアフリーのまちづくりや施設整備における配慮などが多くあげられています。

4. 環境や暮らしについて

- ・自然環境の保全の取組への満足度は、2割が満足、「どちらともいえない」又は「わからない」が6割ですが、半数近くの人が日々の営みの中では自然環境との関わりを感じています。
- ・環境にやさしい取組は9割近くが実践しており、再生可能エネルギー・省エネ設備については設置（予定も含む。）が2割で、設置したいも含めると7割近くになります。また、ごみと資源の分別はほとんどの人が実践しています。
- ・住宅等の新築・改築時の市内産木材の活用については、6割が活用したいと回答しています。
- ・「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、6割が共感しないと回答しています。

- ・市役所内に消費生活センターがあることの認知度は半数ありますが、市役所内の市民生活相談室で法律相談や登記相談等が受けられることは、半数の人に知られていません。
- ・公共交通の満足度は低く、半数が満足していません。
- ・ＪＲ琵琶湖線の利用目的は遊び・趣味等、通勤・通学、仕事が多く、主な乗車駅は能登川駅と近江八幡駅となっています。一方、７割近くが利用していないと回答しています。
- ・近江鉄道は８割が重要と感じているものの、９割近くが利用していないと回答しています。また、半数が改善を望んでおり、運賃の値下げ、駐車場等の整備、ＪＲ琵琶湖線との接続改善、本数の増加などを求める声が多くなっています。
- ・災害への備えをしている人は増加していますが、３割が特に何もしていません。

5. 教育関連の取組について

- ・３割が通学路の安全確保ができていると回答しています。
- ・人権が尊重されたまちになっていると思う人は２割ですが、３割が「わからない」と回答しています。また、何らかの人権に関する講座や講演、研修等に参加していない人は６割近くとなっています。
- ・オレンジリボン（児童虐待防止のシンボルマーク）の認知度は３割。児童虐待が疑われるときの通報先は、警察、市役所、子ども家庭相談センター、民生委員児童委員が多くあげられています。
- ・趣味や教養活動については、２割が「参加した」と回答しています。
- ・青少年健全育成の取組は、３割近くが「取組がなされている」と評価していますが、半数が「わからない」としています。

6. 都市整備について

- ・都市基盤整備に対する満足度の総合評価(加重平均)は、主要幹線道路、雨水排水、河川、地域の生活道路、公園の順となっています。
- ・過去の調査と比べ、道路整備、公園整備の評価が下がる一方で、河川・水路の整備の評価があがっています。

7. 購買状況等について

- ・食品は８割近く、日用雑貨品は７割が市内で購入していますが、衣料品は４割が市外で購入しています。
- ・米の購入先は、知り合い、親戚など、スーパーや量販店の順となっています。
- ・野菜を購入する際の基準は、鮮度、安全と安心、金額が多くあげられています。また、半数が「同価格なら市内産」で、７割近くが市内産を選択すると回答しています。
- ・農産物直売所は、６割近くが市内の直売所を利用しており、年数回程度の利用が最も多くなっています。
- ・飲料水は、４割近くが水道水をそのまま飲用しており、市販の水、浄水器の設置がそれぞれ２割となっています。

8. 協働のまちづくりについて

- ・協働のまちづくりができているかについては、4割近くが「わからない」としていますが、評価は年々あがっています。また、協働のまちづくりを進めるためには、一人一人の意識改革が必要との回答が最も多くなっています。
- ・地域での住民同士の助け合いは、半数近くができていると評価しています。
- ・地域活動又はNPOやボランティア等の活動は、半数近くが参加していると回答しています。その内容としては、9割近くが自治会活動で、ボランティア活動やまちづくり協議会の活動も2割となっています。
- ・まちづくり協議会の活動に参加している人は1割未満ですが、認知度は半数近くあります。

9. 広報等の情報について

- ・「広報ひがしおうみ」は8割近くが読んでおり、うち4割近くが毎月読んでいます。また、6割近くがその内容に満足しています。
- ・「広報ひがしおうみ」の配信方法は、「公共施設に設置」が最もよく知られており、スマートフォンのアプリやインターネットの「マイ広報紙」での閲覧はほとんど知られていません。
- ・市の情報の取得方法は、6割近くが「自治会回覧」や「広報ひがしおうみ」をあげています。
- ・「東近江市議会だより」は6割近くが読んでいます。

10. 市役所のサービスについて

- ・市役所職員の対応については、6割近くが良かったと回答しており、年々評価があがっています。

4 調査票

平成30年度 東近江市 市民意識調査

◆アンケート調査へのご協力をお願い◆

皆さまには、日頃から東近江市政に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、東近江市では「うるおいとにぎわいのまち東近江市」を目指し、平成28年度に策定いたしました「第2次東近江市総合計画」に基づき、まちづくりを進めております。

住みよいまちづくりを実現するため、皆さまの意識や生活スタイルなどの幅広い項目について御意見をお聞かせいただきたく、市内にお住まいの18歳以上の市民の皆さまから約3,000名を無作為に抽出し、アンケート調査を毎年実施させていただいております。

皆さまには何かと御多用のこととは存じますが、本調査の趣旨を御理解いただき、御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、今回お答えいただきました内容につきましては統計的に処理し、東近江市個人情報保護条例に基づき適切に取り扱います。

平成30年8月

東近江市長 小椋 正清

アンケートの御記入・返信について

- ・調査の回答は、封筒あて名の御本人が記入してください。なお、御本人による回答（記入）が難しい場合は、御家族の方が御本人の意思を反映して、御記入くださいますようお願いいたします。
- ・お答えは、質問にしたがって、あてはまる番号に○をつけてください。
- ・選択肢の中で「その他」に回答された場合は、（ ）内に具体的な内容を記入してください。
- ・記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、平成30年9月7日（金）までに郵便ポストに投函してください。切手は不要です。

アンケートに関する問い合わせ

東近江市 企画部 企画課

〒527-8527 東近江市八日市緑町10番5号

IP電話：050-5801-5610 電話：0748-24-5610

FAX：0748-24-1457

Eメール：kikaku@city.higashiomi.lg.jp

※宛先は、平成30年8月1日現在の住民基本台帳から抽出しました。



平成30年度 東近江市 市民意識調査 調査票

1 あなた自身のことについておたずねします。

問1 性別《○1つ》	1. 男性	2. 女性		
問2 年齢《○1つ》	1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代
	5. 50歳代	6. 60歳代	7. 70歳以上	
問3 居住地区 《○1つ》	1. 平田地区	2. 市辺地区	3. 玉緒地区	
	4. 御園地区	5. 建部地区	6. 中野地区	
	7. 八日市地区	8. 南部地区	9. 永源寺地区	
	10. 五個荘地区	11. 愛東地区	12. 湖東地区	
	13. 能登川地区	14. 蒲生地区	15. わからない(町・丁目名)	

2 住みごちや愛着等についておたずねします。

問4 あなたは、東近江市の住みごちをどう思いますか。《○1つ》

1. 良い	2. どちらかといえば良い	3. どちらかといえば悪い
4. 悪い	5. わからない	

問5 あなたは、東近江市に対して愛着がありますか。《○1つ》

1. とても愛着がある	2. やや愛着がある	3. どちらともいえない
4. あまり愛着がない	5. 愛着がない	

問6 あなたは、東近江市を自慢できますか。《○1つ》

1. とても自慢できる	2. やや自慢できる	3. どちらともいえない
4. あまり自慢できない	5. 自慢できない	

問7 東近江市では、平成27年度に鈴鹿の山峰から「鈴鹿10座」を認定し、鈴鹿山脈の素晴らしさと存在意義を広く周知するとともに、東近江市の知名度アップにもつなげていきたいと考えています。

あなたは、「鈴鹿10座」を知っていますか。《○1つ》

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問8 あなたは、東近江市に訪れた友人・知人を観光案内する場合に、どちらを案内しますか。《○1つ》

1. 市内	2. 市外	3. いずれも
-------	-------	---------

問 9 あなたは、友人・知人を観光案内する場合に、どのような観光地を案内しますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1. 美しい自然環境が楽しめる観光地 | 2. 町なみ景観が楽しめる観光地 |
| 3. 歴史・文化が楽しめる観光地 | 4. 食事や買い物が楽しめる観光地 |
| 5. 祭りやイベントが楽しめる観光地 | 6. 日帰り観光がしやすい観光地 |
| 7. 宿泊観光がしやすい観光地 | 8. ものづくり産業を生かした観光地 |
| 9. 農林業や伝統工芸などの体験ができる観光地 | 10. スポーツが楽しめる場や子どもの遊び場が充実した観光地 |
| 11. その他() | |

問 10 あなたは、この1年間で近江鉄道八日市駅周辺(市役所周辺を含む。)にどの程度訪れましたか。《○1つ》

- | | | |
|-----------|-----------|-------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に1回程度 | 3. 週に2～3回程度 |
| 4. 月に数回程度 | 5. 年に数回程度 | 6. 訪れていない |

問 11 あなたは、八日市駅周辺の中心市街地が活性化するには、どのようなお店や施設、イベントなどの開催が必要だと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1. 空き店舗に新しい店が入る | 2. おしゃれな雑貨店が増える |
| 3. 駅前や歩道等の空間をオープンカフェなどに活用する | 4. 魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする |
| 5. マルシェなどのイベントを定期的 to 開催する | 6. イベントホールやテナントが入るビルをつくる |
| 7. 自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる | 8. 観光客が地元の名産品を買えるようにする |
| 9. 延命公園や清水川などの自然を生かして癒しの空間にする | 10. その他() |

3 健康や福祉についておたずねします。

問 12 あなたには、日常的な診療や健康の管理をしてくれるお医者さん(かかりつけ医)はいますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|-------------------|-------------|
| 1. 市内の病院にいる | 2. 市内の診療所(開業医)にいる | 3. 市外の病院にいる |
| 4. 市外の診療所(開業医)にいる | 5. いない | |

問 13 あなたは、病院や救急時の医療体制に満足していますか。《○1つ》

- | | | |
|------------|-------------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している | 3. どちらかといえば満足していない |
| 4. 満足していない | 5. わからない | |

問 14 あなたは、自分の健康づくりのために何か取り組んでいますか。《○1つ》

- | | | |
|---------------|-----------------|-----------|
| 1. 取り組んでいる | 2. 取り組みたいと思っている | →問 14-1 へ |
| 3. 取り組むつもりはない | →問 14-2 へ | |

問 14-1 問 14 で「1. 取り組んでいる」「2. 取り組みたいと思っている」とお答えの方におたずねします。
具体的にどのような取組をしていますか、又は取り組みたいと思っていますか。

《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 運動をする | 2. 趣味(運動以外)の時間をつくる |
| 3. 休養を十分にとる | 4. 食事の量や質に注意する |
| 5. 睡眠を十分にとる | 6. 定期的に健康診査やがん検診を受ける |
| 7. 規則正しい生活をする | 8. たばこを控える又はやめる |
| 9. アルコールを控える又はやめる | 10. その他() |

問 14-2 問 14 で「3. 取り組むつもりはない」とお答えの方におたずねします。
その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. どのように取り組んだらよいのかわからない | 2. 自分の健康づくりに興味、関心がない |
| 3. 取り組んでも効果が期待できない | 4. その他() |

問 15 あなたは、朝食を食べていますか。《○1つ》

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 毎日食べる | 2. 週4～5日食べる |
| 3. 週2～3日食べる | 4. ほとんど食べない |

問 16 あなたは、スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っていますか。《○1つ》

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 週3回以上 | 2. 週1～2回 |
| 3. 月1～2回程度 | 4. ほとんどしていない |

問 17 あなたは、身近な地域で日ごろの心配ごとや悩みを話したり相談したりする人がいますか。《○1つ》

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問 18 あなたは、東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|--------------|--------------|
| 1. かなり進んできた | 2. ある程度進んできた | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり進んでいるとは思わない | 5. 進んでいない | 6. わからない |

問 19 あなたは、障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. スポーツや文化活動で地域交流を深める | 2. 「ふれあいの集い」などのイベントを充実する |
| 3. 市民対象の福祉講座や講演会を開催する | 4. 福祉施設を地域に開放し交流を図る |
| 5. グループホームを地域の中につくる | 6. 子どもたちへの人権・福祉教育を充実する |
| 7. 障害者団体や関係グループの活動をPRする | 8. ボランティアの育成を図る |
| 9. 障害者も使いやすい施設をつくる | 10. 障害者がまちに出かけやすい整備を進める |
| 11. わからない | 12. その他() |

4 環境や暮らしについておたずねします。

問 20 あなたは、東近江市の自然環境保全の取組について満足していますか。《○1つ》

- | | | |
|--------------------|-------------------|--------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば満足していない | 5. 満足していない | 6. わからない |

問 21 あなたは、暮らしや仕事等日々の営みの中で自然環境との関わりを感じていますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. 感じている | 2. どちらかといえば感じている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば感じていない | 5. 感じていない | 6. わからない |

問 22 あなたは、次の低炭素・資源循環型の取組を行っていますか。

①あなたは、環境にやさしい取組を行っていますか。(使用していない電気の消灯、マイバックの持参、省エネ機器の選択、自転車や公共交通機関の利用等)《○1つ》

- | | | |
|---------------|----------------|-------------|
| 1. 常に取り組んでいる | 2. ときどき取り組んでいる | 3. 取り組んでいない |
| 4. 取り組もうと思わない | 5. わからない | |

②あなたは、自宅に再生可能エネルギー・省エネ設備を設置していますか。(太陽光発電や雨水貯留施設、太陽熱温水器、エネファーム、蓄電システムの設置等)《○1つ》

※エネファーム…家庭においてガス等を使って発電し、発電時の排熱を給湯等に利用するシステム

- | | | |
|---------------|--------------|----------------|
| 1. 既に設置している | 2. 設置する予定である | 3. 設置したいが予定はない |
| 4. 設置したいと思わない | 5. わからない | |

問 23 あなたは、ごみと資源の分別をしていますか。《○1つ》

- | | | |
|----------|-----------------|------------------|
| 1. している | 2. どちらかといえばしている | 3. どちらかといえばしていない |
| 4. していない | 5. 分別方法がわからない | |

問 24 市内の土地の約56%が森林であり、鈴鹿山系の山間部では木材の生産が行われています。

あなたは、住宅等の新築・改築時に市内産木材を活用したいと思いますか。《○1つ》

- | | | |
|----------|-----------|------------|
| 1. 活用したい | →問 24-1 へ | 2. 活用したくない |
|----------|-----------|------------|

問 24-1 問 24 で「1. 活用したい」とお答えの方におたずねします。

具体的に住宅等のどの部分で活用したいですか。《あてはまるものすべてに○》

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| 1. 構造材(柱) | 2. 天井材 | 3. 壁面材 |
| 4. 床材 | 5. わからない | 6. その他() |

問 25 あなたは、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。《○1つ》

- | | | |
|----------|-----------------|------------------|
| 1. 共感する | 2. どちらかといえば共感する | 3. どちらかといえば共感しない |
| 4. 共感しない | 5. わからない | |

問 26 あなたは、消費者トラブルに巻きこまれた時や、多重債務に陥った時の相談窓口として、市役所内に消費生活センターがあることを知っていますか。《○1つ》

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 27 あなたは、市役所内の市民生活相談室で、暮らしの困りごとに関して法律相談や登記相談等を受けられることを知っていますか。《○1つ》

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 28 あなたは、市内の鉄道やバス等の公共交通に対して満足していますか。《○1つ》

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば満足していない |
| 5. 満足していない | 6. わからない |

問 29 あなたは、JR琵琶湖線をどの程度利用しますか。《○1つ》

- | | | | |
|--------------|--------------|----------|-------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週1～2日 | 3. 月1～2日 | →問 29-1、2 へ |
| 4. ほとんど利用しない | 5. 利用したことはない | | |

問 29-1 問 29 で「1. ほぼ毎日」「2. 週1～2日」「3. 月1～2日」とお答えの方におたずねします。
JR琵琶湖線を利用する目的は何ですか。《○1つ》

- | | | | |
|-----------|-------|-----------|-------|
| 1. 通勤・通学 | 2. 仕事 | 3. 買物 | 4. 通院 |
| 5. 遊び・趣味等 | 6. 観光 | 7. その他() | |

問 29-2 問 29 で「1. ほぼ毎日」「2. 週1～2日」「3. 月1～2日」とお答えの方におたずねします。
JR琵琶湖線を利用するときの乗車駅は何駅ですか。《○1つ》

- | | | | |
|------------|--------|--------|----------|
| 1. 能登川駅 | 2. 稲枝駅 | 3. 安土駅 | 4. 近江八幡駅 |
| 5. その他(駅) | | | |

問 30 市内には近江鉄道の駅が13箇所あり、東近江市の活性化を進めていくうえで重要な公共交通機関であると考えています。

あなたは、近江鉄道についてどう感じていますか。《○1つ》

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. 重要であると感じる | 2. 重要でないと感じる |
| 3. 重要であるが利便性等の改善が必要と感じる | 4. その他() |

問 31 あなたは、近江鉄道をどの程度利用しますか。《○1つ》

- | | | | |
|--------------|--------------|----------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週1～2日 | 3. 月1～2日 | →問 31-1 へ |
| 4. ほとんど利用しない | 5. 利用したことはない | | |

問 31-1 問 31 で「1. ほぼ毎日」「2. 週1～2日」「3. 月1～2日」とお答えの方におたずねします。
近江鉄道を利用する目的は何ですか。《○1つ》

- | | | | |
|-----------|-------|-----------|-------|
| 1. 通勤・通学 | 2. 仕事 | 3. 買物 | 4. 通院 |
| 5. 遊び・趣味等 | 6. 観光 | 7. その他() | |

問 32 あなたは、近江鉄道を利用する場合、どのようなことを希望されますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 本数を増やしてほしい | 2. JR琵琶湖線との接続改善 |
| 3. 新幹線(米原駅)との接続改善 | 4. バスとの接続改善 |
| 5. 駅前に駐車場・駐輪場を整備してほしい | 6. 運賃の値下げ |
| 7. その他() | |

問 33 あなたは、地震等の災害に備えてどのような準備をしていますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 水や食料等を3日以上備蓄 | 2. 非常持ち出し袋の準備 |
| 3. 家具の転倒防止 | 4. 地域の防災訓練に参加 |
| 5. 一時集合場所や避難所を家族で確認 | 6. 安否連絡方法を家族で確認 |
| 7. その他() | 8. 特に何もしていない |

5 教育関連の取組についておたずねします。

問 34 あなたは、市内において児童・生徒の通学路の安全は確保できていると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. できている | 2. どちらかといえばできている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばできていない | 5. できていない | 6. わからない |

問 35 あなたは、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|-----------------|--------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばそう思わない | 5. そう思わない | 6. わからない |

問 36 あなたは、この1年間に職場、市又は地区等が開催する人権に関する講座や講演、研修等に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 職場の講演や研修に参加した | 2. 市の講座や講演に参加した |
| 3. 地区の講座や講演に参加した | 4. 自治会の町別懇談会に参加した |
| 5. 参加していない | 6. その他() |

問 37 あなたは、オレンジリボンが児童虐待防止のシンボルマークであるを知っていますか。《○1つ》

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 38 あなたは、児童虐待が疑われるときに、どこに通報しますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1. 子ども家庭相談センター | 2. 警察 |
| 3. 市役所 | 4. 虐待ホットライン(24 時間対応、県内全域) |
| 5. 児童相談所全国共通ダイヤル189 | 6. 園・学校 |
| 7. 保健センター | 8. 民生委員児童委員 |
| 9. その他() | 10. 通報先を知らない |
| 11. 通報しない | |

問 39 あなたは、この1年間にコミュニティセンター等で趣味的なもの(音楽・美術等)や教養的なもの(文学・歴史等)の活動に参加しましたか。《○1つ》

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1. 週3回以上参加した | 2. 週1～2回参加した | 3. 月1～2回程度参加した |
| 4. 年数回程度参加した | 5. 参加しなかった | |

問 40 あなたは、東近江市において青少年健全育成の取組がなされていると思いますか。《○1つ》

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 4. そう思わない |
| →問 40-1 へ | |
| 5. わからない | |

問 40-1 問 40 で「3. どちらかといえばそう思わない」「4. そう思わない」とお答えの方におたずねします。
その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

- | |
|-------------------------------|
| 1. 子どもの非行防止についての啓発が不十分 |
| 2. 有害図書の排除等、青少年にふさわしい環境浄化が不十分 |
| 3. パトロール活動等の子ども安全対策が不十分 |
| 4. 社会経験や自然体験を学べる機会が少ない |
| 5. その他() |

6 都市整備についておたずねします。

問 41 市内の都市基盤の整備に対する満足度をお答えください。《①～⑤それぞれの項目に○1つ》

	満足	どちらかといえは満足	どちらともいえない	どちらかといえは不満	不満	わからない
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)	1	2	3	4	5	6
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)	1	2	3	4	5	6
③河川の整備(一級河川等)	1	2	3	4	5	6
④雨水排水の整備(身近な水路等)	1	2	3	4	5	6
⑤公園の整備(広場、遊び場等)	1	2	3	4	5	6

7 購買状況等についておたずねします。

問 42 あなたは、日頃、食品や日用雑貨品、衣料品を主にどこで購入しますか。《①～③それぞれの項目に○1つ》

	東 近 江 市 内	近 江 八 幡 市	彦 根 市	甲 賀 市	県 内 市 町 その他	県 外	通 販 カ タ ロ グ	シ ョ ッ ピ ン グ ネ ッ ト	そ の 他
①食品	1	2	3	4	5	6	7	8	9
②日用雑貨品	1	2	3	4	5	6	7	8	9
③衣料品	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問 43 あなたの家庭では、お米を主にどこから購入等していますか。《○1つ》

1. 米屋さん	2. スーパーや量販店	3. インターネット
4. 知り合いから購入している	5. 親族などからもらっている、購入している	6. 自分で作っている
7. わからない	8. その他()	

問 44 あなたの家庭では野菜等を購入するとき、主に何を基準に選んでいますか。(自作している方も不足する野菜を購入する場合)《○1つ》

1. 金 額	2. 鮮 度	3. 安全と安心
4. 調理の利便性(カット済み、洗浄済み等)	5. 見た目	6. 産地(市内、県内産等)
7. わからない	8. その他()	

問 45 あなたは、スーパー等で品質が同程度の市内産野菜と他産地産野菜が並んでいた場合、どちらを選びますか。《○1つ》

1. 他産地産と比べて2割以上高くても市内産	2. 他産地産と比べて1割程度高くても市内産
3. 同価格なら市内産	4. 同価格なら他産地産
5. 市内産と比べて1割程度高くても他産地産	6. 市内産と比べて2割以上高くても他産地産
7. 特にこだわりはない	

問 46 あなたの家庭では、市内の農産物直売所(青空市、無人販売所含む)を利用しますか。《○1つ》

1. よく利用する(週に1回以上)	2. 利用する(月に1～3回程度)
3. たまに利用する(年間数回程度)	4. 利用しない
5. 市内の直売所は利用しないが市外の直売所を利用している	6. わからない

問 47 あなたは飲料水に使う水は主に何を使っていますか。《○1つ》

1. 水道水をそのまま飲用	2. 水道に浄水器を設置して飲用
3. ペットボトルなど市販の水	4. 井戸水
5. その他()	

8 協働のまちづくりについておたずねします。

問 48 あなたは、東近江市では市民、企業、行政等が共に考え、力を合わせた協働のまちづくりができていますか。《○1つ》

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. できている | 2. ある程度できている | 3. どちらともいえない |
| 4. あまりできていない | 5. できていない | 6. わからない |

問 49 あなたは、市内14地区にまちづくり協議会が設置され、各地区で様々なまちづくり活動が行われていることを知っていますか。《○1つ》

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 活動に参加して、よく知っている | 2. 活動に参加していないが、知っている |
| 3. 聞いた程度でありよく知らない | 4. 全く知らない |

問 50 あなたの身近な地域で住民同士の助け合いができていますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. できている | 2. どちらかといえばできている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばできていない | 5. できていない | 6. わからない |

問 51 あなたは、自治会やまちづくり協議会等の地域活動又はNPOやボランティア等の活動にどの程度参加していますか。《○1つ》

- | | | |
|---------------|----------------|-----------|
| 1. 積極的に参加している | 2. できる限り参加している | →問 51-1 へ |
| 3. ときどき参加している | 4. 参加していない | |

問 51-1 問 51 で「1. 積極的に参加している」「2. できる限り参加している」とお答えの方におたずねします。
この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-----------|----------------|
| 1. 自治会活動 | 2. まちづくり協議会の活動 |
| 3. NPOの活動 | 4. ボランティア活動 |
| 5. その他() | |
- 問 51-2 へ

問 51-2 問 51-1 で「3. NPO 活動」「4. ボランティア活動」とお答えの方におたずねします。
この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 高齢者に対する活動 | 2. 障害者に対する活動 |
| 3. 子育てをする親や子どもを支援する活動 | 4. 健康や医療に関係した活動 |
| 5. スポーツに関連した活動 | 6. 自然や環境を守る活動 |
| 7. 美化・清掃活動 | 8. 災害・防災に関連した活動 |
| 9. 交通安全・防犯活動 | 10. 国際協力に関連した活動 |
| 11. その他() | |

問 52 あなたは、協働のまちづくりを進めるためにはどのようなことが必要だと思いますか。《○1つ》

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1. 市民一人一人のまちづくりへの関心を高める | 2. まちづくりのリーダー養成や組織づくりの支援 |
| 3. 地域の課題を話し合える場づくり | 4. まちづくり活動をしている人のネットワークづくり |
| 5. その他() | |

9 広報等の情報についておたずねします。

問 53 あなたは、市の広報紙「広報ひがしおうみ」を読んでいますか。《○1つ》

- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| 1. 毎月読んでいる | 2. たまに読んでいる | →問 53-1 へ |
| 3. 読んでいない | 4. 知らない | →問 53-2 へ |

問 53-1 問 53 で「1. 毎月読んでいる」「2. たまに読んでいる」とお答えの方におたずねします。
あなたは、「広報ひがしおうみ」の内容について満足していますか。《○1つ》

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば満足していない |
| 5. 満足していない | |

問 53-2 問 53 で「3. 読んでいない」「4. 知らない」とお答えの方におたずねします。
その理由は何ですか。《○1つ》

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 手元に届かない | 2. 記載内容に魅力がない |
| 3. 紙面が読みにくい | 4. その他() |

問 54 「広報ひがしおうみ」は毎月新聞折込みによる配布の他に、次の方法で配信等を行っています。
あなたは、次の配信等の方法を知っていますか。《それぞれの項目に○1つ》

	見たことがある	知っているが 見たことはない	知らない
①市ホームページで閲覧	1	2	3
②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴	1	2	3
③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧	1	2	3
④インターネットの「マイ広報紙」で閲覧	1	2	3
⑤公共施設等(市役所、図書館、コミュニティセンターなど)に設置	1	2	3

問 55 あなたは、市の情報(お知らせ)は主にどのような方法で取得していますか。《○3つまで》

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1. 広報ひがしおうみ | 2. 新聞 |
| 3. 自治会回覧 | 4. 公共施設に設置してあるチラシ |
| 5. 市ホームページ | 6. ケーブルテレビ(東近江スマイルネット) |
| 7. 音声告知端末 | 8. ラジオ(FMひがしおうみ) |
| 9. その他(|) |

問 56 あなたは「東近江市議会だより」を読んでいますか。《○1つ》

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. 毎号読んでいる | 2. たまに読んでいる |
| 3. 読んでいない | 4. 「東近江市議会だより」を知らない |

10 市役所のサービスに関しておたずねします。

問 57 この1年間に、市役所(支所・出張所を含む)の窓口利用や電話でのお問い合わせ、又は市役所外で職員に接した際の市役所職員の対応はどのように感じましたか。《○1つ》

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 1. 良かった | 2. どちらかといえば良かった |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば悪かった |
| 5. 悪かった | 6. 利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない |

11 まちづくりに対する御意見等についておたずねします。

問 58 東近江市のまちづくりについて、御意見や御提案等がありましたらご記入ください。

調査に御協力いただき、ありがとうございました。
調査票を返信用封筒に入れ、9月7日(金)までにポストに御投函ください。

平成30年度 市民意識調査結果報告書

発行年月 平成30年12月

発行 東近江市 企画部 企画課

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町10番5号

IP電話:050-5801-5610 電話:0748-24-5610